

# 男女共同参画についての 市民意識調査

調査結果報告書

令和7年●月  
春日井市



## - 目次 -

I. 調査概要	3
1 調査の目的	3
2 調査対象及び調査方法	3
3 回収結果	3
4 報告書の見方	4
II. 調査結果まとめ	7
1 男女の平等意識について	7
2 家庭生活について	9
3 女性の職業生活について	13
4 ワーク・ライフ・バランスについて	15
5 地域活動について	19
6 子どもの教育について	21
7 人権の尊重について	24
8 市の男女共同参画の取り組みについて	27
III. 調査結果	31
1 一般市民調査	31
1 回答者ご自身について	31
2 男女の平等意識について	38
3 家庭生活について	49
4 女性の職業生活について	67
5 ワーク・ライフ・バランスについて	71
6 地域活動について	83
7 子どもの教育について	88
8 人権の尊重について	94
9 市の男女共同参画の取り組みについて	120
2 中学生・高校生調査結果	136
1 回答者のことについて	136
2 男女平等について	137
3 日常生活について	141
4 教育について	156
5 将来の生活について	157
6 男女の人権について	164



## I. 調査概要

---



## I. 調査概要

### 1 調査の目的

本調査は、新たな男女共同参画プランを策定するにあたり、市民の男女共同参画に対する考えや実情などを幅広く把握し、今後の施策を検討する上での基礎資料とすることを目的として実施しました。

### 2 調査対象及び調査方法

	一 般	中 学 生	高 校 生
調査対象者	春日井市在住の満20歳以上の方	春日井市内の学校に通学する中学2年生	春日井市内の学校に通学する高校2年生
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	市内の中学校の2年生のクラスを抽出	市内の高等学校の2年生のクラスを抽出
標 本 数	2,000 件	575 件	536 件
調査期間	令和7年7月1日から22日		
調査方法	郵送配布 郵送・WEB回収	学校配布、WEB回収	

### 3 回収結果

	一 般	中 学 生	高 校 生
配布数 (A)	2,000 件	575 件	536 件
回収数	郵送	530 件	382 件
	WEB		
	合計		
有効回収数 (B)	郵送	530 件	382 件
	WEB		
	合計		
有効回収率 (B/A)	34.5%	92.2%	71.3%

## 4 報告書の見方

---

- ・ グラフ・表中の「n」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- ・ グラフ・表中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問（いくつでも○をつけるものなど）の場合は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、無回答が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、選択肢の文章を簡略化してある場合もあります。
- ・ 性別、年代別等で示しているグラフ・表の「n」を合わせた数は、性別や年代等の無回答を除いた数であるため、全体の「n」と一致しない場合があります。
- ・ クロス集計表で着目している数値は、必ずしも最も高い値ではありません。全体の値を基準に数値の開きが大きいものを選択して検証しています。
- ・ クロス集計分析において、件数が10件未満の層については、比率の誤差が大きいと考えられるため、比率についてのコメントを控えています。

## Ⅱ. 調査結果まとめ

---



## II. 調査結果まとめ

### 1 男女の平等意識について

男女の地位の平等感について、令和2年の調査と比較すると、“男性優遇<sup>※1</sup>”は減少傾向となっている一方、「平等である」は増加傾向となっており、特に『職場』でその傾向がみられます。「平等である」が半数を超えているのは『学校教育の場』のみであり、未だ男性優遇感が強く、男女平等が進んでいるとは言い難い状況が続いています。

中学生・高校生調査では、『家庭生活』で「平等になっている」と回答した割合が高く、一般市民調査との意識の差がみられます。

子どもたちが社会に出たときに、性別で区別されることのないよう、社会全体における男女平等意識の醸成が必要であるとともに、子どもの教育だけでなく、大人への意識啓発を進める必要があります。

※1 男性優遇：「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」  
 ※2 女性優遇：「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

#### ◆ 男女の地位の平等感は、男性優遇感が未だ強い。

男女の地位の平等感については、『学校教育の場』『地域活動の場』『法律や制度』を除く項目で、“男性優遇”が5割以上を占めており、なかでも、『政治の場』では約8割と最も高くなっています。また、令和2年の調査と比較すると、『法律や制度』『社会通念、慣習・しきたりなど』を除く項目で、“男性優遇”はわずかながらも減少しています。（図表1）

『学校教育の場』以外の項目では、「平等である」が4割未満となっています。令和2年の調査と比較すると、『職場』以外の項目では、ほぼ横ばいとなっています。（図表2）

#### ◆ 中学生・高校生調査では、ほとんどの項目で「平等になっている」が最も高くなっている。

中学生・高校生調査では、中学生・高校生ともに、『家庭生活』『学校生活』で「平等になっている」が6割前後と最も高くなっています。また、中学生・高校生ともに、『学校生活』『社会全体』で“女性優遇<sup>※2</sup>”が2割台半ばと、『家庭生活』より高い割合となっています。（図表3）

II. 調査結果まとめ / 1 男女の平等意識について

図表 1 分野別の男女の地位における“男性優遇”の割合（過去調査との比較）

(単位：%)

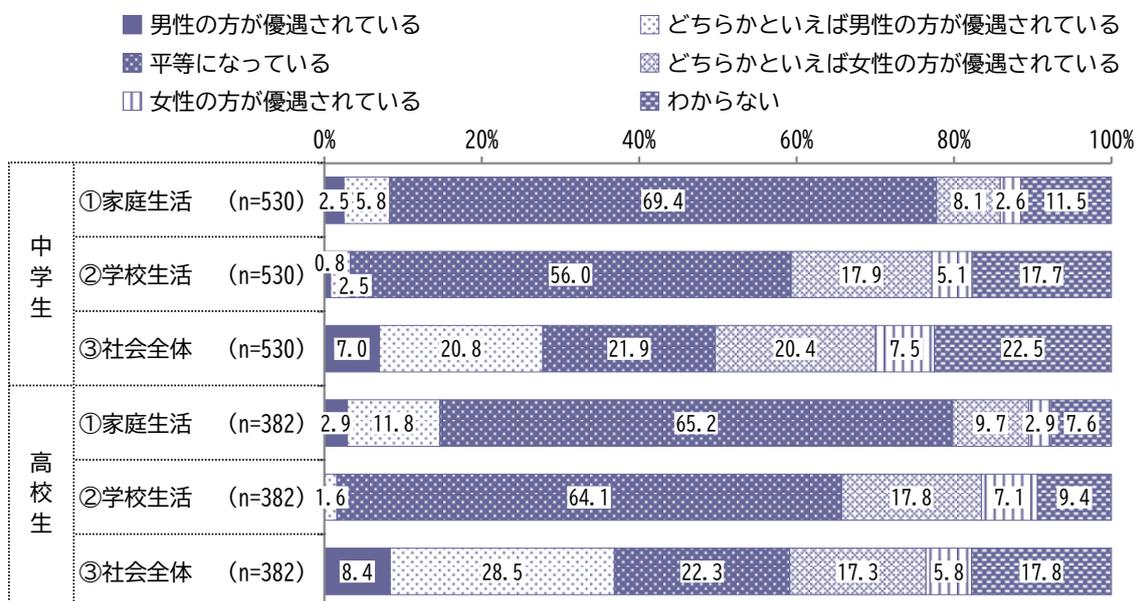
		① 家庭生活	② 職場	③ 学校の教育	④ 政治の場	⑤ 地域の活動	⑥ 法律や制度	⑦ 慣習・通念、たりなど	⑧ 社会全体
全体	令和7年	58.3	59.6	17.9	81.8	38.1	48.9	77.2	71.3
	令和2年	59.7	67.7	20.9	83.9	41.7	46.3	76.5	74.7
	差	-1.4	-8.1	-3.0	-2.1	-3.6	2.6	0.7	-3.4
男性	令和7年	44.4	53.1	13.4	75.4	29.9	36.9	68.9	61.1
	令和2年	40.4	61.3	15.5	78.3	33.6	34.3	69.9	65.3
	差	4.0	-8.2	-2.1	-2.9	-3.7	2.6	-1.0	-4.2
女性	令和7年	68.1	64.8	21.8	86.9	44.7	57.8	83.8	79.1
	令和2年	70.6	70.8	23.6	87.1	46.4	53.4	80.5	80.0
	差	-2.5	-6.0	-1.8	-0.2	-1.7	4.4	3.3	-0.9

図表 2 分野別の男女の地位における「平等である」の割合（過去調査との比較）

(単位：%)

		① 家庭生活	② 職場	③ 学校の教育	④ 政治の場	⑤ 地域の活動	⑥ 法律や制度	⑦ 慣習・通念、たりなど	⑧ 社会全体
全体	令和7年	24.8	25.1	52.8	7.4	36.5	28.6	11.6	15.8
	令和2年	25.3	16.7	52.0	6.7	34.2	30.5	11.5	14.1
	差	-0.5	8.4	0.8	0.7	2.3	-1.9	0.1	1.7
男性	令和7年	34.3	26.7	57.8	13.0	48.0	37.5	17.0	24.2
	令和2年	39.8	19.8	57.3	11.5	41.3	40.1	16.9	22.1
	差	-5.5	6.9	0.5	1.5	6.7	-2.6	0.1	2.1
女性	令和7年	18.3	23.7	49.4	3.3	28.5	21.9	7.5	9.8
	令和2年	16.6	15.3	49.0	3.9	29.8	24.6	8.3	9.5
	差	1.7	8.4	0.4	-0.6	-1.3	-2.7	-0.8	0.3

図表 3 分野別の男女の地位（中学生・高校生調査）



## 2 家庭生活について

「夫は仕事、妻は家庭」という考え方について、“概ね反対<sup>※1</sup>”が6割を超えており、中学生・高校生調査をみても、将来結婚した場合の理想の生活として「自分とパートナーともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が7割を超えていることから、固定的な性別役割分担意識は解消傾向にあるといえます。

一方、家庭内の仕事の分担をみると、理想としてはすべての項目で「男女で協力」が8割前後を占めているものの、現実では1～3割未満にとどまっており、主として女性が担っている状況となっています。家庭内の仕事は、男女で協力して受けもつことを理想としていても、現実との間には大きな乖離がみられます。

女性の社会進出が進む中、女性だけに負担が偏らないよう、仕事も家庭も両立できるような環境整備を進めるとともに、男性が家事・育児・介護に積極的に参加できるような環境づくりや意識の醸成が必要です。

※1 概ね反対：「反対」+「どちらかという反対」

### ◆ 「夫は仕事、妻は家庭」という固定的性別役割分担意識は解消傾向にある。

「夫は仕事、妻は家庭」という考え方については、“概ね反対”が65.1%と、過去の調査のなかでも最も高くなっている一方、“概ね賛成<sup>※2</sup>”は26.2%で、過去の調査の中で最も低くなっています。（図表4）

※2 概ね賛成：「賛成」+「どちらかという賛成」

### ◆ 中学生・高校生調査では、将来結婚した場合の理想の生活として「自分とパートナーともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が7割を超えている。

将来結婚した場合の理想の生活については、中学生・高校生ともに「自分とパートナーともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が7割台半ばと、最も高くなっています。（図表5）

### ◆ 現状は、家庭内のほとんどの仕事を女性が担っている。

家庭内での仕事の分担については、「すべて女性」の割合は『食事のしたく』と『洗濯』で3割台後半、『食事の後片付け、食器洗い』と『掃除』で2割台後半となっています。また、「主に女性」の割合は、『看護・介護』以外の項目で3割以上となっています。（図表6）

II. 調査結果まとめ／2 家庭生活について

◆ 『食事のしたく』では「すべて女性」が担っている家庭が約4割となっている。

『食事のしたく』の分担については、「すべて女性」、「主に女性」がそれぞれ約4割となっており、“主として女性※3”が約8割を占めています。（図表6）

年代別では、20歳代以外の年代で「すべて女性」が4割前後となっており、10歳代と40歳代では「主に女性」が5割前後となっています。（図表7）

共働き状況別では、すべての状況で“主として女性”が8割を超えているものの、「すべて女性」は『共働き家庭』が最も低くなっています。（図表8）

※3 主として女性：「すべて女性」+「主に女性」

◆ 家事分担の理想は「男女で協力」だが、現実には“主として女性”が担っている。

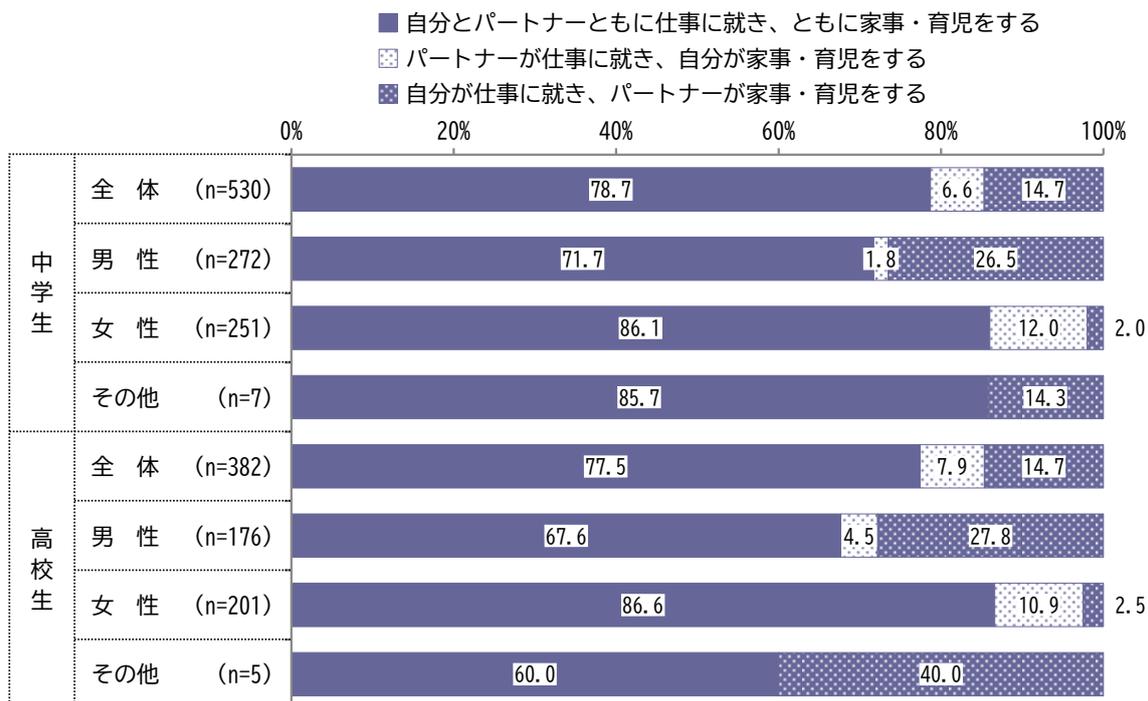
家庭内での仕事の分担について理想と現実を比較すると、いずれの項目も、理想は「男女で協力」が最も高くなっているものの、現実では“主として女性”が最も高くなっています。「男女で協力」の理想と現実の差をみると、すべての項目で理想が現実より60ポイント前後と、大幅に高くなっています。（図表9）

図表4 固定的性別役割分担意識について〈過去調査との比較〉

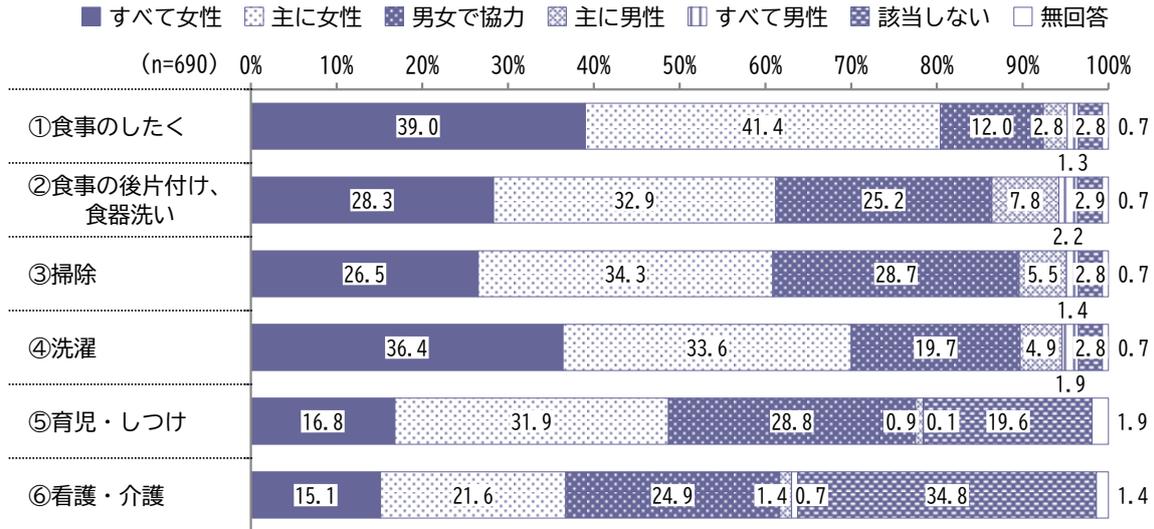
(単位：%)

	概ね賛成	賛成	賛とど成いちうらとか	概ね反対	反とど対いちうらとか	反対	いわからな	無回答
令和7年	26.2	3.9	22.3	65.1	31.0	34.1	7.8	0.9
令和2年	34.0	4.2	29.8	53.6	27.2	26.4	11.2	1.2
平成28年	37.4	4.5	32.9	48.3	26.3	22.0	13.5	-
平成22年	38.8	6.2	32.6	49.0	28.3	20.7	11.2	-
平成18年	37.6	7.3	30.3	51.1	24.9	26.2	9.7	-

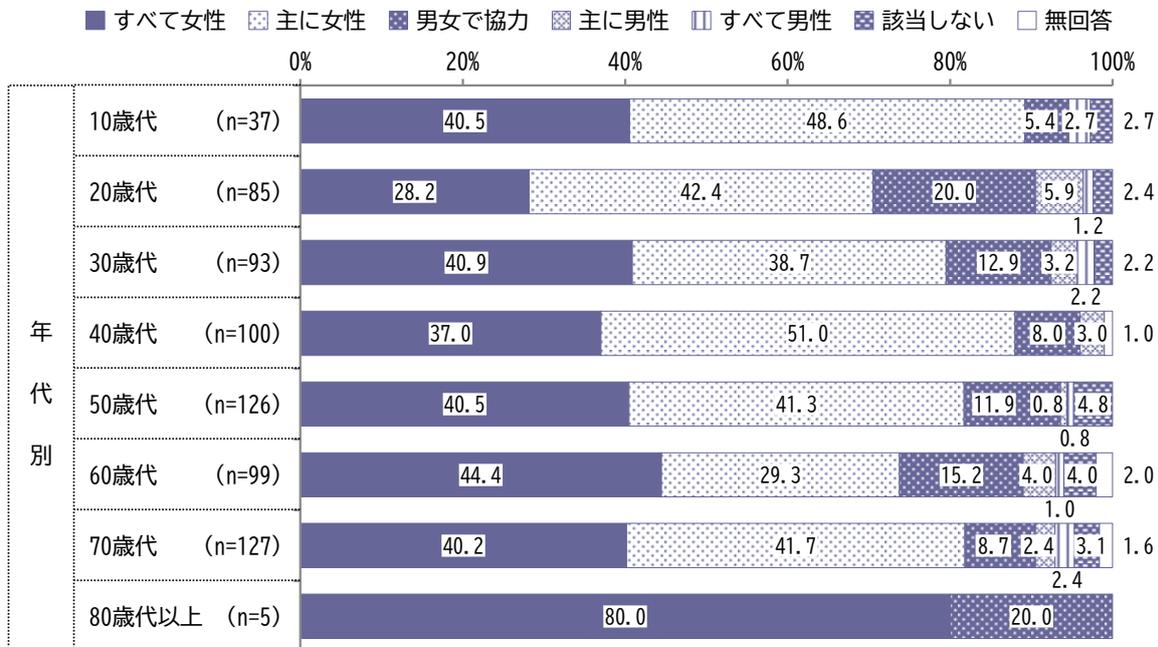
図表5 結婚後の理想の生活〈中学生・高校生調査〉（性別）



図表 6 【現実】家庭内での仕事の分担



図表 7 【現実】食事のしたく（年代別）



図表 8 【現実】食事のしたく（共働き状況別）

(単位：%)

現実	件数 (件)	女主として	すべて女性	主に女性	男女で協力	男主として	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	80.4	39.0	41.4	12.0	4.1	2.8	1.3	2.8	0.7
共働き家庭	124	81.5	31.5	50.0	14.5	4.0	3.2	0.8	-	-
準共働き家庭	158	82.9	38.6	44.3	13.3	3.2	3.2	-	0.6	-
非共働き家庭	106	84.0	43.4	40.6	13.2	2.8	1.9	0.9	-	-
その他	91	84.7	46.2	38.5	11.0	3.3	2.2	1.1	-	1.1

※ 共働き状況の定義は、P.52 に掲載

II. 調査結果まとめ／2 家庭生活について

図表 9 家庭内での仕事の分担〈理想と現実の比較〉

(単位：%)

	①食事のしたく			②食事の後片付け、食器洗い			③掃除		
	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として
理想	24.1	73.5	0.3	9.8	85.1	2.9	10.3	85.7	2.2
現実	80.4	12.0	4.1	61.2	25.2	10.0	60.8	28.7	6.9
差	-56.3	61.5	-3.8	-51.4	59.9	-7.1	-50.5	57.0	-4.7

	④洗濯			⑤育児・しつけ			⑥看護・介護		
	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として
理想	21.7	75.4	1.2	12.7	83.8	0.6	9.7	86.4	0.4
現実	70.0	19.7	6.8	48.7	28.8	1.0	36.7	24.9	2.1
差	-48.3	55.7	-5.6	-36.0	55.0	-0.4	-27.0	61.5	-1.7

### 3 女性の職業生活について

女性の職業生活において障壁となっているものとして、「家庭内の支援不足」、「職場の労働条件」、「支援制度の不足」が挙げられています。

また、各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由として、女性は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」の割合が男性より高い一方、男性では「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」の割合が女性より高くなっており、男女間での認識の差がみられます。

女性の社会進出を進めるためには、家庭と仕事の両立支援が重要となっています。そのためには、保育・介護支援などの公的サービスの更なる充実に加え、男性の家庭への参画に対する意識の醸成、固定的性別役割分担意識の解消を進め、男女がともに個性と能力を発揮して、職業生活を送ることができるよう支援していく必要があります。

- ◆ 女性の職業生活で障壁となっているものは、「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」の割合が最も高くなっている。

女性が職業に就いたり、職業生活を続けたりする上で、障壁となっているものについては、「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」が最も高く、次いで「職場の労働条件の問題（賃金、労働時間、休暇制度など）」、「支援制度の問題（子育て・介護家庭支援、再就職支援など）」の順となっています。

性別では、女性で「家庭内の問題（家族の協力や理解、育児や介護など）」が男性より 16.3 ポイント高くなっている一方、男性では「職場の人間関係の問題（上司や同僚の無理解、セクシュアルハラスメントなど）」が女性より 8.6 ポイント高くなっています。（図表 10）

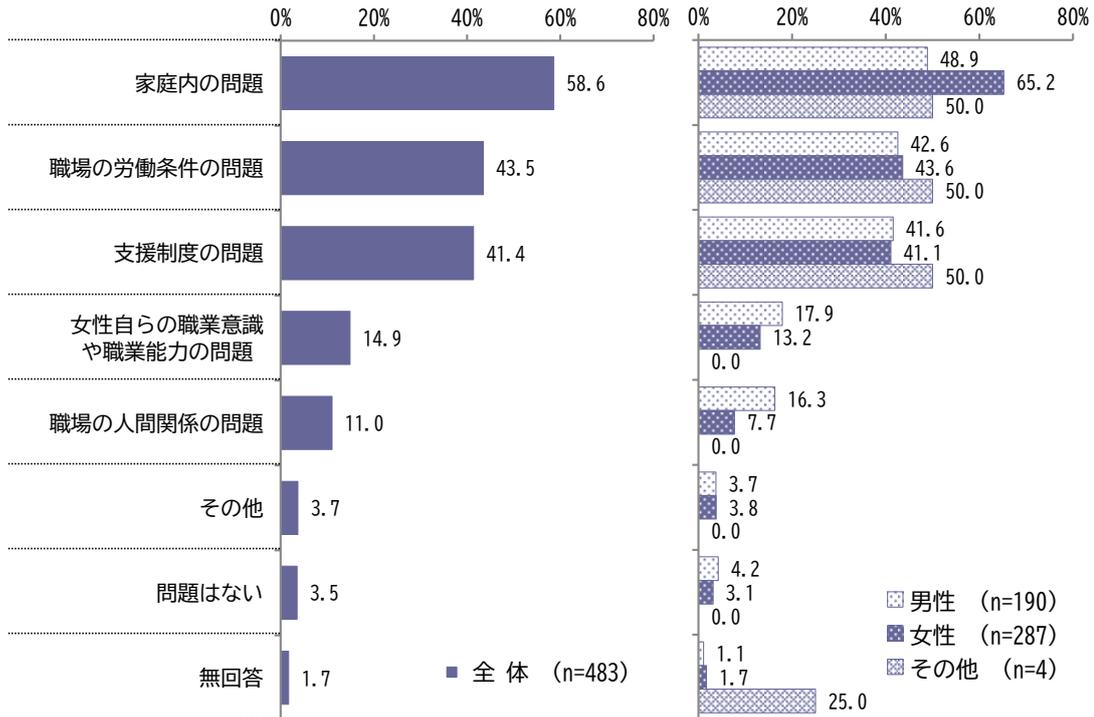
- ◆ 各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由は、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が最も高くなっている。

政治・経済・地域などの各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由については、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」の順となっています。

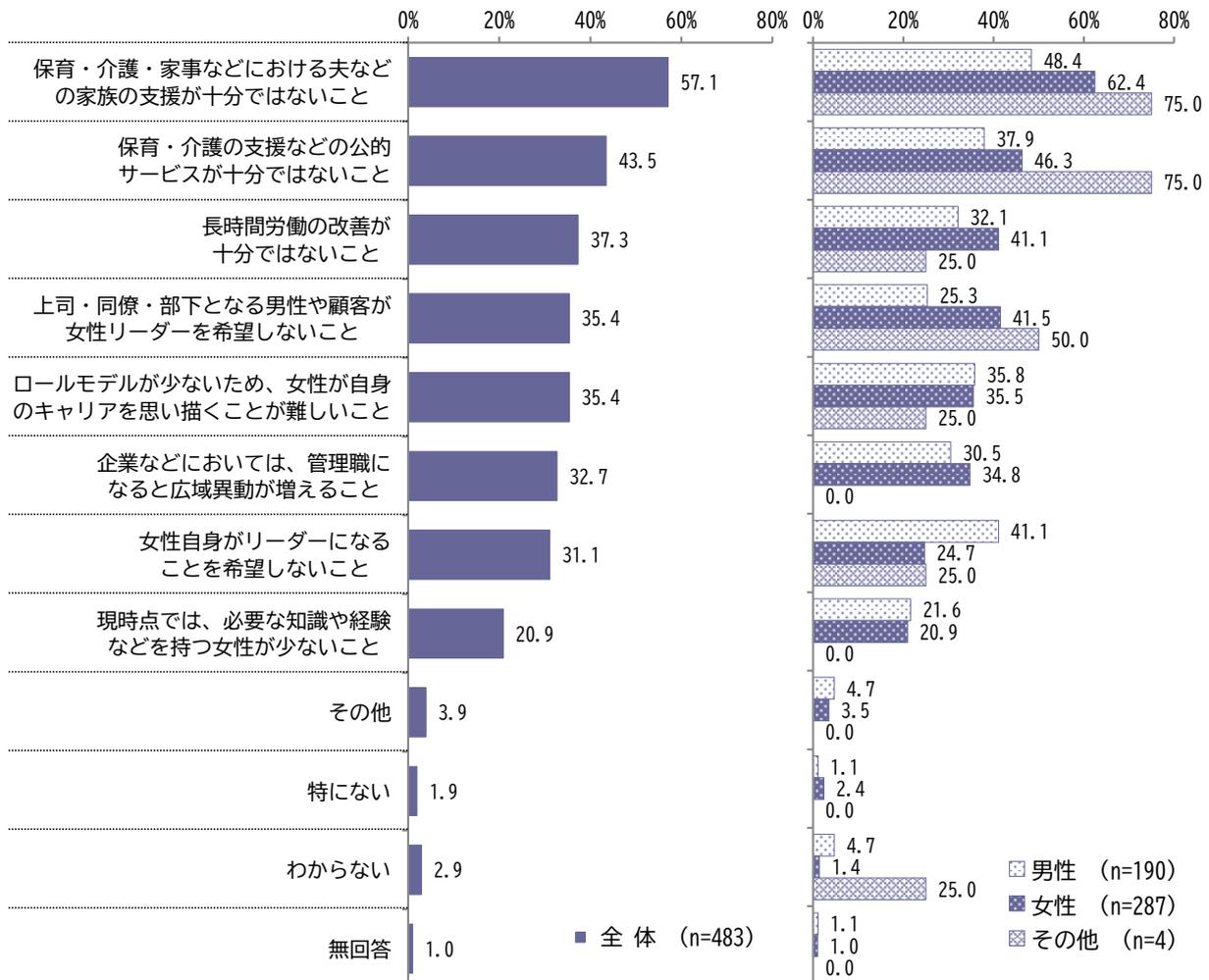
性別では、女性で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が男性より 16.2 ポイント高くなっている一方、男性では「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」が女性より 16.4 ポイント高くなっています。（図表 11）。

II. 調査結果まとめ / 3 女性の職業生活について

図表 10 女性の就労上の障壁（性別）



図表 11 女性リーダーの登用が進んでいない理由（性別）



## 4 ワーク・ライフ・バランスについて

男女が働き続けるために必要なことでは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」などの子育て支援の充実に加えて、「家事・育児・介護などを担うことへの男性自身の意識改革」など、周囲の環境や意識の変革が求められています。

自己都合による退職・転職の経験については、男性は「ない」が半数以上である一方、女性は「ある」が7割を超えています。その理由についてみると、男性は「雇用形態や労働環境への不満」、「他にやりたいこと・職業があった」の割合が高くなっているのに対し、女性では「出産・育児」、「結婚」の割合が高くなっています。

また、生活で優先することとして、希望として「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高くなっているものの、現実としては「『仕事』を優先している」が最も高く、特に男性は「『仕事』を優先している」が約5割と、理想と現実との間には大きな乖離がみられます。

男性は、仕事だけでなく家庭生活も優先したいとは思っているものの、現実としてはできていない人が多いと考えられ、男性が家庭へ参画しやすい職場環境づくりや周囲の理解促進が必要です。

- ◆ 男女が働き続けるために必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が最も高くなっている。

男女が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことについては、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高く、次いで「家事・育児・介護などを担うことへの男性自身の意識改革」、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」の順となっています。

性別では、女性で「家事・育児・介護などを担うことへの男性自身の意識改革」が20.7ポイント、「男性が家事・育児・介護などを担うことへの周囲の理解・意識改革」が13.5ポイント、それぞれ男性より高くなっています。（図表12）

- ◆ 約7割の女性が自己都合による離職・転職経験があり、その理由は「出産・育児」が4割を超えている。

自己都合での離職・転職経験については、「ある」が60.7%、「ない」が37.7%となっています。

性別では、男性は「ない」が53.8%、女性は「ある」が71.0%で多数派となっています。（図表13）

離職・転職の理由について性別にみると、女性は「出産・育児」が最も高く、次いで「結婚」となっている一方、男性は「雇用形態や労働環境への不満」が最も高く、次いで「他にやりたいこと・職業があった」と、男女で理由が異なっています。（図表14）

II. 調査結果まとめ / 4 ワーク・ライフ・バランスについて

- ◆ 生活の優先度は、希望として「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高いものの、現実には「『仕事』を優先している」が最も高くなっている。

生活の優先度については、希望としては「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高くなっている一方、現実としては「『仕事』を優先している」が最も高くなっています。

(図表 15)

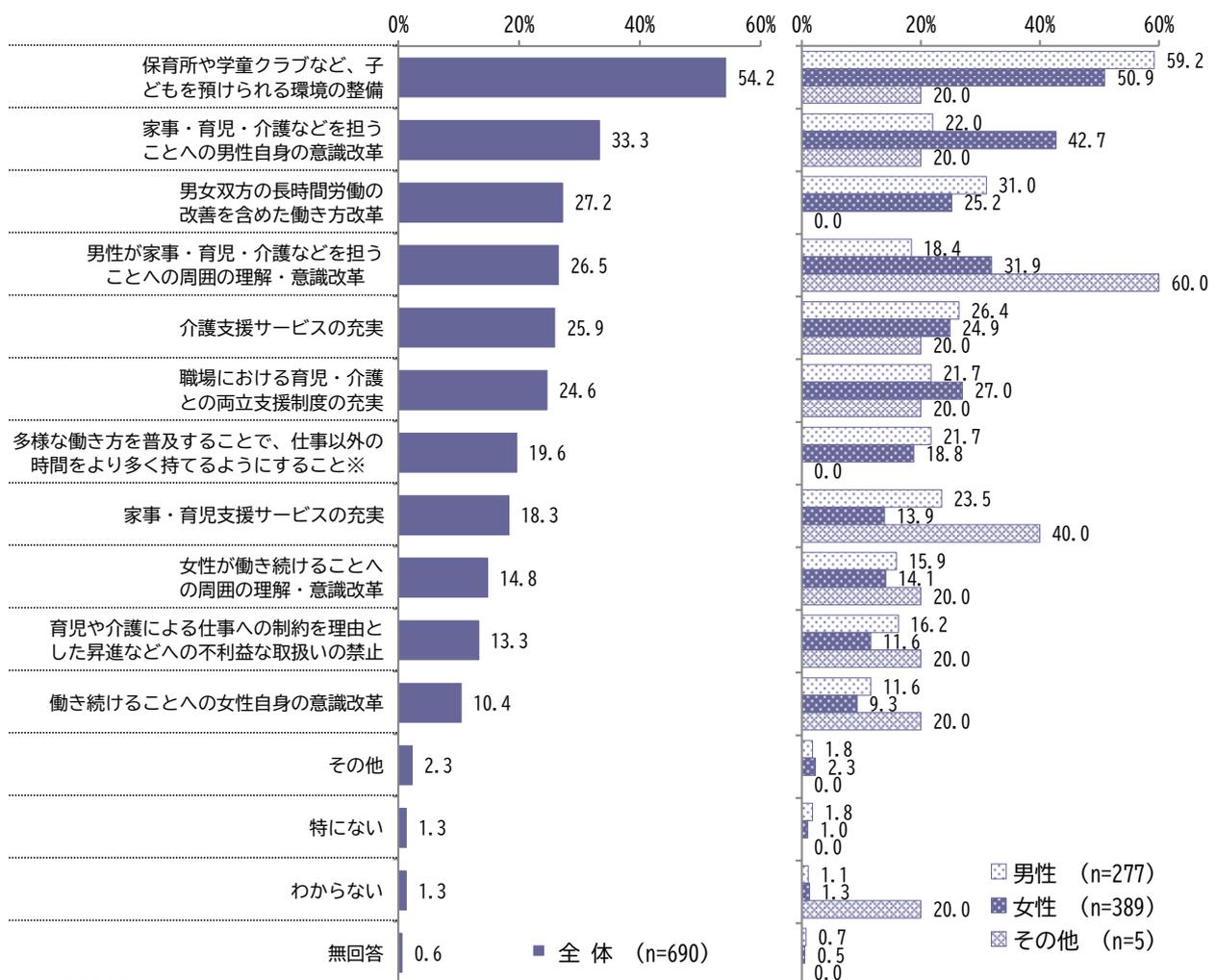
性別では、女性で「『家庭生活』を優先している」が 18.4 ポイント、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が 10.6 ポイント、それぞれ男性より高くなっている一方、男性では「『仕事』を優先している」が、女性より 26.3 ポイント高くなっています。(図表 16・図表 17)

- ◆ 中学生・高校生調査では、将来の暮らしの中での生活の優先度は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高くなっている。

将来の暮らしの中での生活の優先度については、中学生・高校生ともに「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が最も高くなっています。

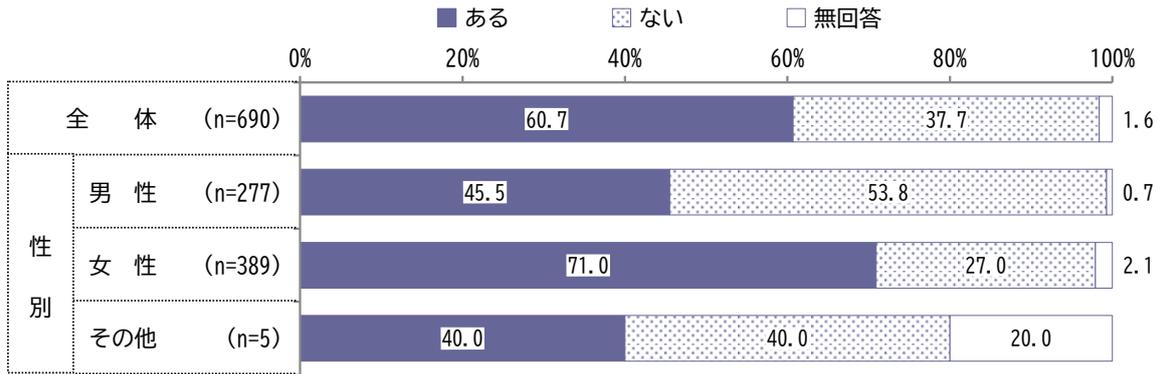
性別では、中学生・高校生ともに、女性で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」の割合が男性より高く、男性では「『家庭生活』を優先したい」の割合が女性より高くなっています。(図表 18)

図表 12 男女が働き続けるために必要なこと (性別)

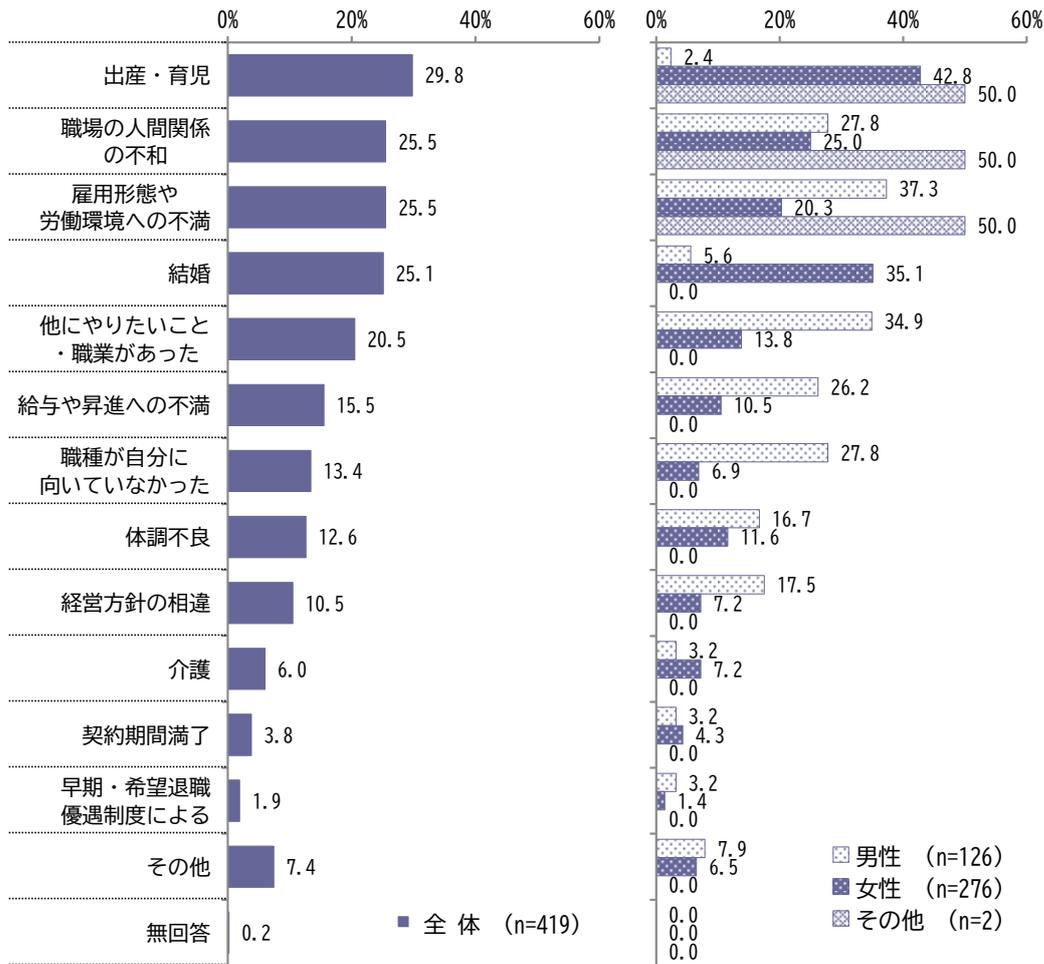


II. 調査結果まとめ／4 ワーク・ライフ・バランスについて

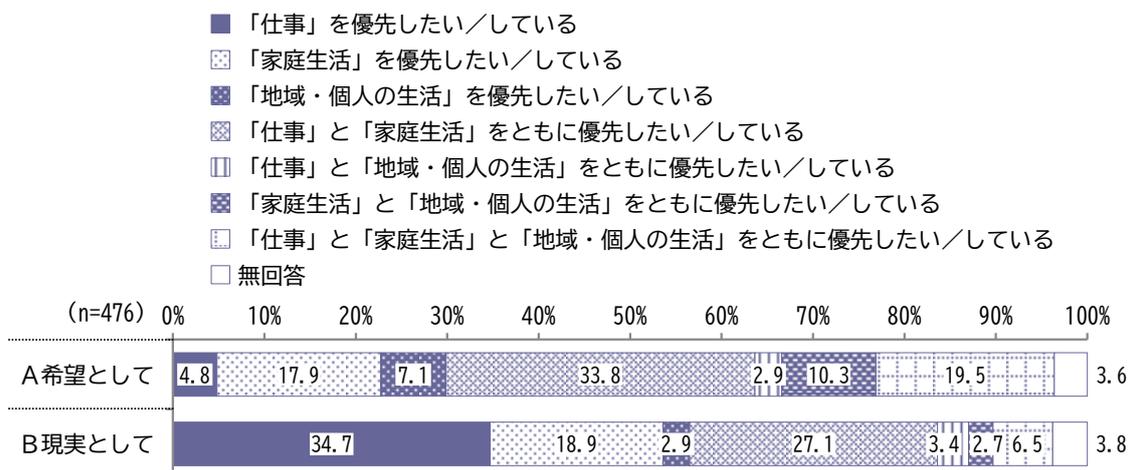
図表 13 自己都合での離職・転職経験（性別）



図表 14 離職・転職の理由（性別）

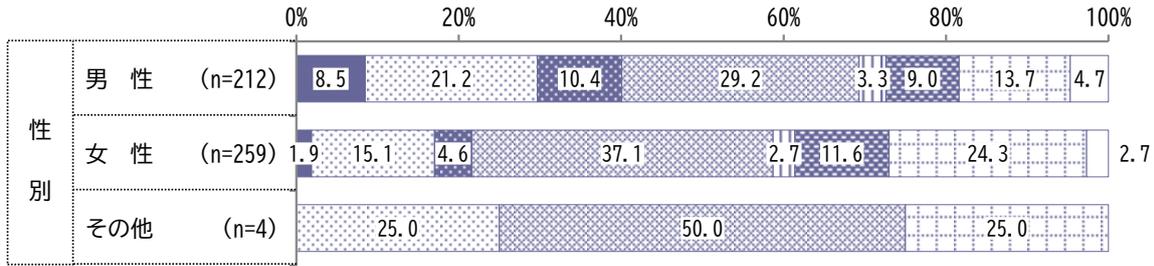


図表 15 ワーク・ライフ・バランスの優先度（希望・現実）



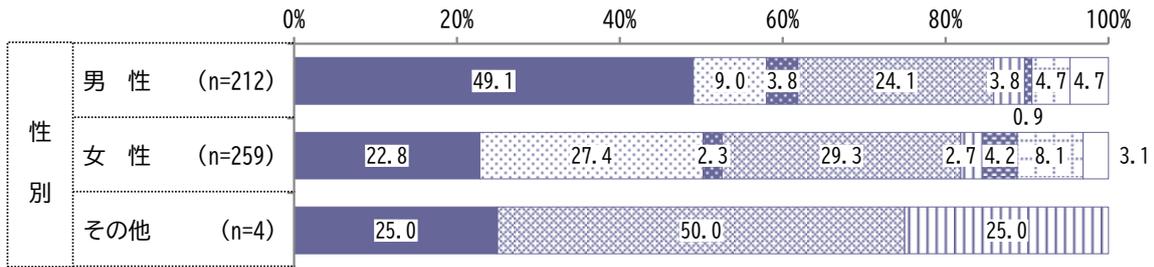
II. 調査結果まとめ / 4 ワーク・ライフ・バランスについて

図表 16 【希望として】（性別）



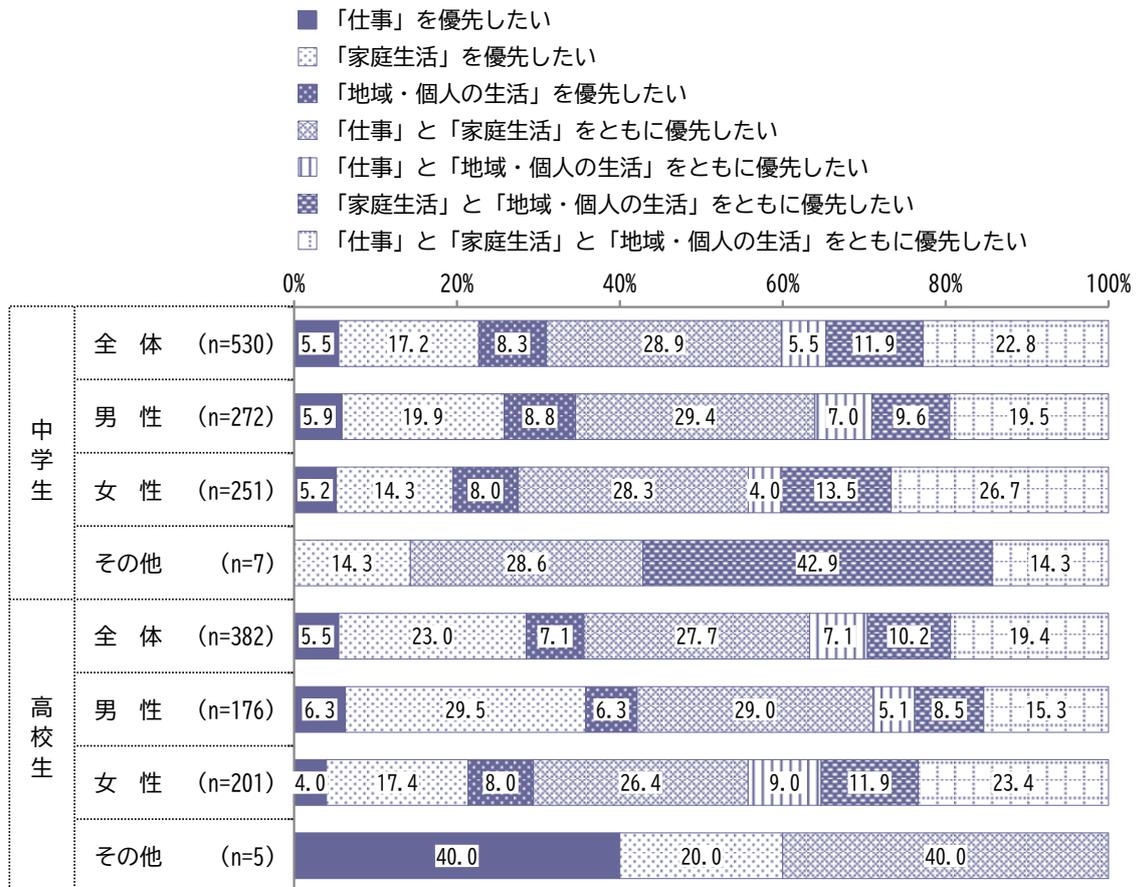
※ 凡例は図表 15 と同じ

図表 17 【現実として】（性別）



※ 凡例は図表 15 と同じ

図表 18 将来のワーク・ライフ・バランスの優先度（中学生・高校生調査）（性別）



## 5 地域活動について

最近5年間に参加した地域活動については、「いずれの活動にも参加しなかった」が37.4%で最も高くなっており、参加した活動では「区・町内会・自治会の活動」が29.7%で最も高くなっています。

「地域」は、家庭とともに人々にとって最も身近な暮らしの場であり、地域活動に男女共同参画の視点を取り入れることは新たな視点や多様な発想を生み、より多くの人材の活用につながります。そのため、地域における多様な政策・方針決定過程への女性の参画拡大を図るとともに、市民が地域活動に参加しやすい環境づくりに加え、積極的に情報提供をしていく必要があります。

災害時の避難所運営に必要なこととしては、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が男女ともに6割台半ばで最も高くなっています。

災害時は多くの女性が困難な状況に置かれます。非常時にも女性の視点がきちんと確保されるよう、災害時における方針決定過程への女性の参画を進めていく必要があります。

- ◆ 最近5年間に参加した地域活動は、「いずれの活動にも参加しなかった」が最も高くなっている。

最近5年間に参加した地域活動については、「いずれの活動にも参加しなかった」が37.4%で最も高く、参加した地域活動では、「区・町内会・自治会の活動」が29.7%で最も高くなっています。

性別では、女性で「趣味・教養文化講座への参加」が9.8ポイント、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」が9.1ポイント、それぞれ男性より高くなっています。（図表19）

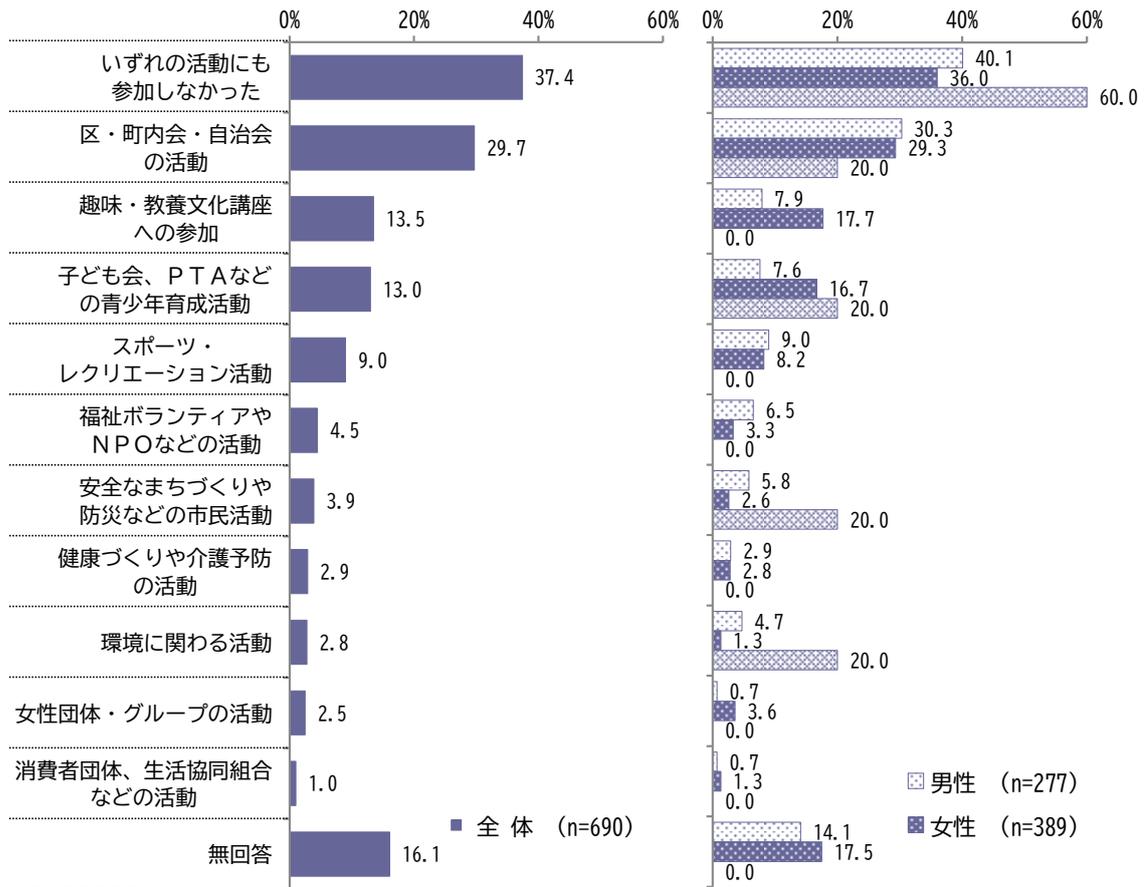
- ◆ 災害時の避難所運営に必要なことは、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高くなっている。

災害時の避難所運営に必要なことについては、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」の順となっています。

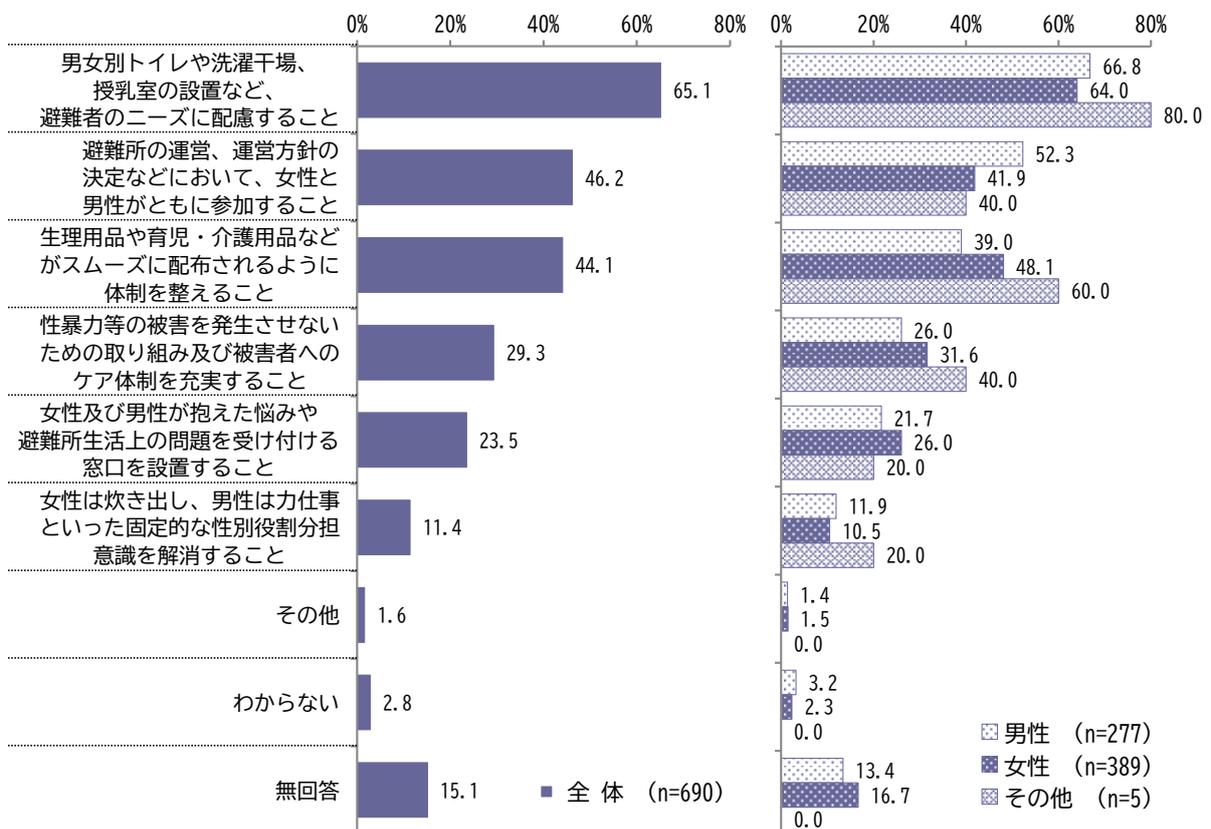
性別では、男性で「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が、女性より10.4ポイント高くなっている一方、女性では「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が、男性より9.1ポイント高くなっています。（図表20）

II. 調査結果まとめ / 5 地域活動について

図表 19 最近5年間の地域活動参加経験（性別）



図表 20 災害時の避難所運営に必要なこと（性別）



## 6 子どもの教育について

男女共同参画社会実現のためには、子どものころからの教育が非常に重要です。

子どもに期待する進学先については、『女の子の場合』『男の子の場合』ともに「大学まで」が5割を超え、最も高くなっています。

中学生・高校生調査の希望する進学先では、中学生・高校生ともに「大学まで」が6割を超え、最も高くなっています。

また、将来の仕事におけるリーダーや管理職志向については、中学生・高校生ともに「できればなりたくない」が4割前後で最も高くなっています。性別で見ると、中学生・高校生ともに、男性では「できればなりたくない」が約4割で最も高くなっている一方、女性では「できればなりたくない」が4割台後半で最も高くなっています。

教育現場における男女共同参画の推進については、「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が最も高くなっており、「男の子だから…」、「女の子だから…」という考え方ではなく、個人の資質や能力にあった教育の推進が求められています。

### ◆ 子どもに期待する進学先は、男女ともに「大学まで」が最も高くなっている。

子どもに期待する進学先については、『女の子の場合』『男の子の場合』ともに「大学まで」が5割を超えて最も高くなっているものの、『男の子の場合』の方が5.0ポイント高くなっています。また、過去の調査と比較すると、『女の子の場合』『男の子の場合』ともに「専門学校・各種学校まで」、『女の子の場合』で「短期大学・高等専門学校まで」が年々減少しています。（図表 21）

### ◆ 中学生・高校生調査では、希望する進学先は「大学まで」が最も高く、男性より女性の割合が高くなっている。

希望する進学先については、中学生・高校生ともに「大学まで」が6割台半ばで最も高くなっています。

性別で見ると、ともに男性より女性の方が「大学まで」の割合が高くなっており、特に高校生では、女性が男性より11.4ポイント高くなっています。（図表 22）

### ◆ 中学生・高校生調査では、将来の仕事におけるリーダー・管理職志向は男性の方が高くなっている。

将来の仕事におけるリーダー・管理職志向については、中学生・高校生ともに「できればなりたくない」が4割前後で最も高くなっています。

性別で見ると、中学生・高校生ともに、男性で“概ねなりたくない<sup>※1</sup>”が5割台半ば、女性で“概ねなりたくない<sup>※2</sup>”が6割前後と男女で異なる結果となっています。（図表 23）

II. 調査結果まとめ／6 子どもの教育について

※1 概ねなりたい：「なりたい」+「できればなりたい」

※2 概ねなりたくない：「なりたくない」+「できればなりたくない」

◆ 教育現場における男女共同参画の推進については、「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が最も高くなっている。

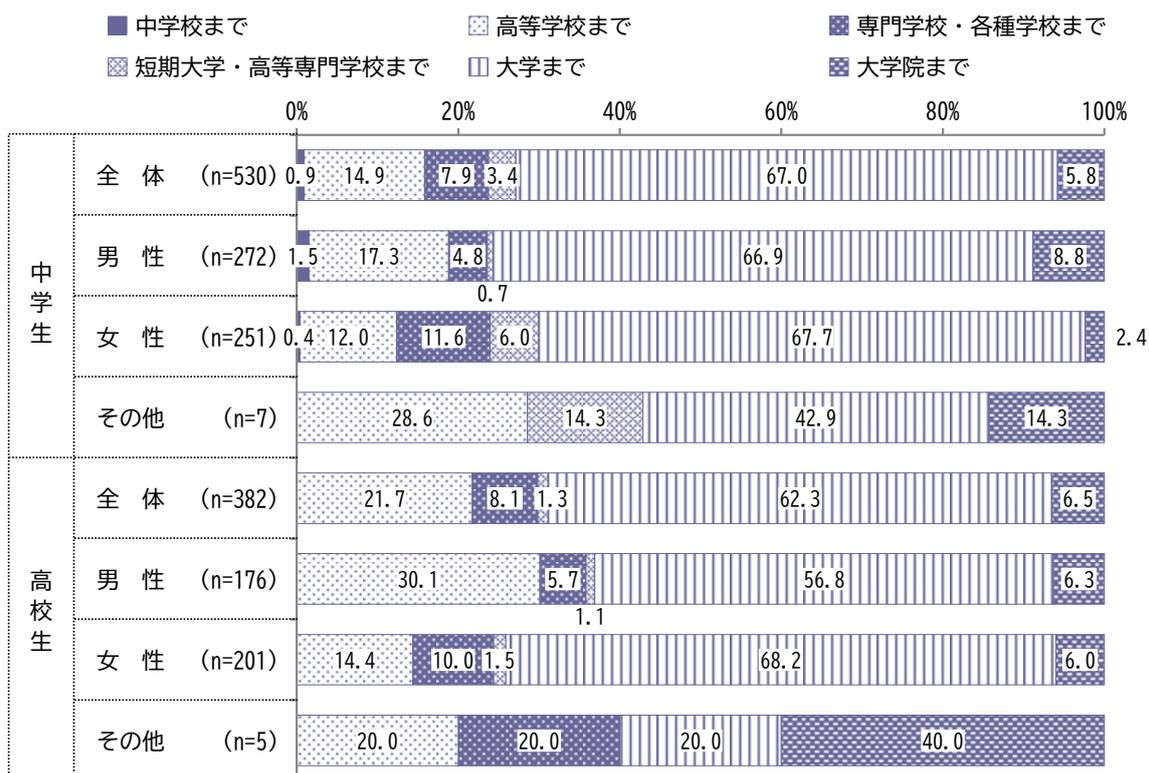
教育現場における男女共同参画の推進については、「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が最も高く、次いで「進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」、「日頃の学習の中で、人権や男女平等意識を育てていく」の順となっています。（図表 24）

図表 21 子どもに期待する進学先（過去調査との比較）

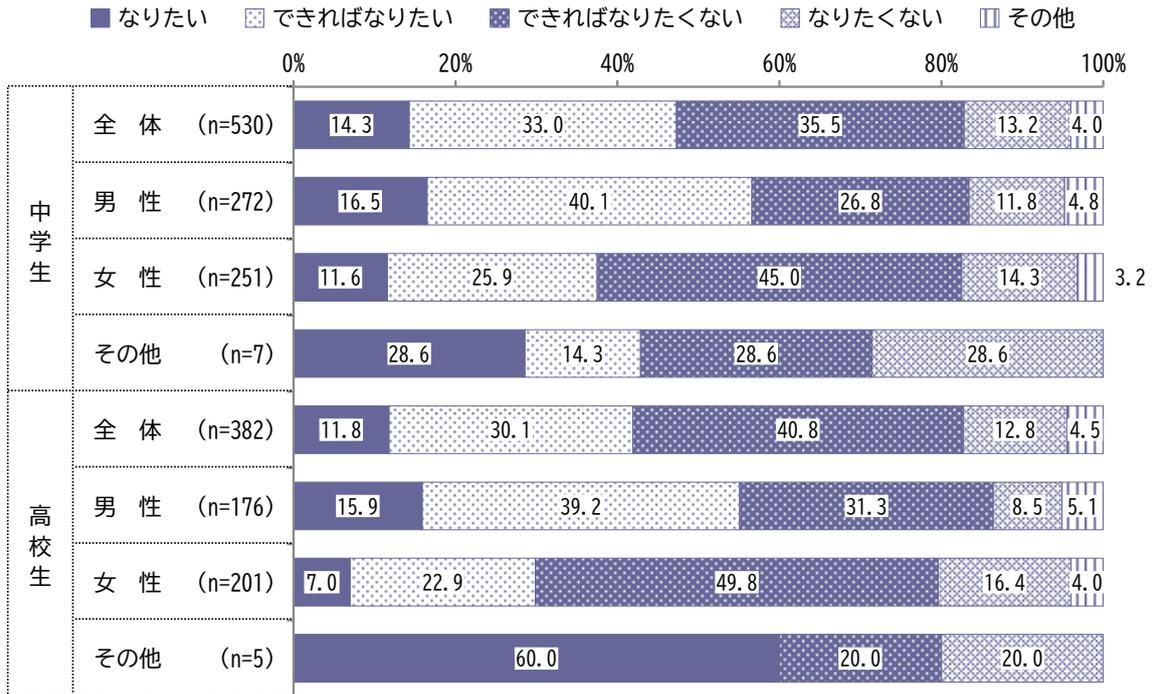
（単位：％）

		中学校まで	高等学校まで	各種専門学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	無回答
女の子の場合	令和7年	0.1	8.8	5.2	4.9	53.3	3.5	7.5	16.5
	令和2年	0.2	12.4	5.5	9.9	56.5	2.5	8.6	4.5
	平成28年	-	9.1	7.8	10.3	55.1	2.6	11.3	-
男の子の場合	令和7年	0.1	8.1	2.8	1.7	58.3	5.4	7.7	15.9
	令和2年	0.2	9.3	3.3	1.7	66.8	6.3	8.4	3.9
	平成28年	-	5.8	4.6	1.7	68.3	5.3	10.9	-

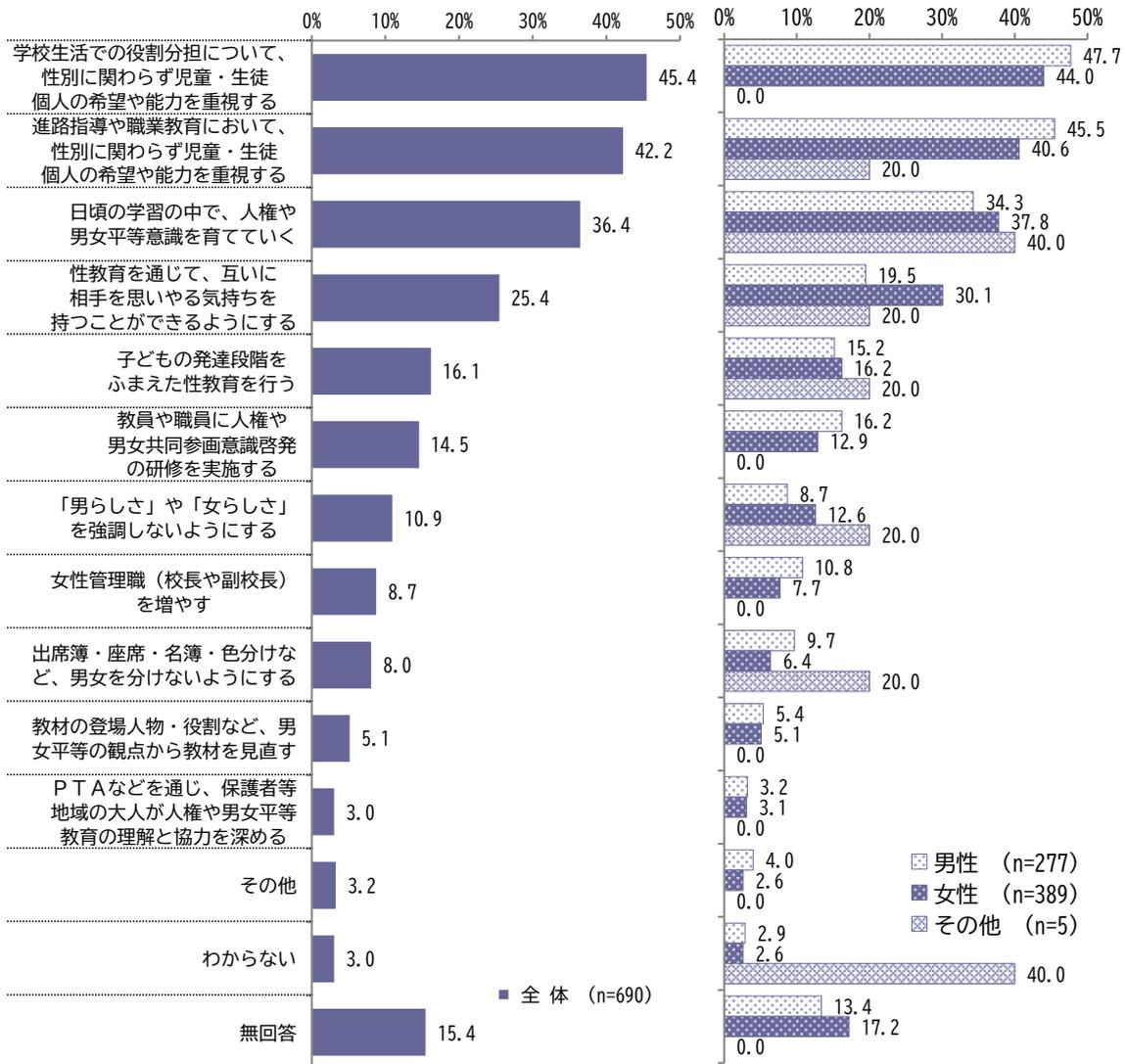
図表 22 希望する進学先（中学生・高校生調査）（性別）



図表 23 リーダー・管理職志向〈中学生・高校生調査〉（性別）



図表 24 教育現場における男女共同参画の推進（性別）



## 7 人権の尊重について

恋人や配偶者からのDV被害について、回答者のうち約7人に1人が何らかのDV被害の経験がある<sup>※1</sup>と答えています。

また、DV被害経験者のうち約8割に子どもがいることから、子どもの面前でのDVによる子どもへの心理的虐待の影響や、子どもに対する暴力が同時に行われていることなども危惧されます。DVは身体的暴力だけでなく、精神的・経済的・性的等多岐にわたります。被害が深刻になる前に、被害者に対する支援を進めていく必要があります。

身近な人から性的少数者(LGBTQ)であることを打ち明けられた場合については、「今までどおり何も変わらない」が5割前後で最も高くなっています。

一方、性的少数者の生活しづらさについては、“概ね思う<sup>※2</sup>”が6割台半ばとなっており、主な理由としては、「いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受けるから」、「性別で区分された設備(トイレなど)を使いづらいから」、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」等が挙げられており、**法や設備の整備とともに、偏見や差別を生まないような教育や啓発が必要です。**

※1 DV被害の経験がある：「何度もあった」+「一、二度あった」

※2 概ね思う：「思う」+「どちらかといえば思う」

- ◆ 恋人や配偶者からのDV被害経験者は、回答者の約7人に1人。性別では女性、年代別では10歳代と30歳代が高くなっている。

最近5年間に恋人や配偶者から、身体的・精神的・性的・経済的な暴力を受けた経験については、「まったくない」が84.2%で最も高くなっています。

“DV被害の経験がある”と回答した人は、性別では女性が男性より6.0ポイント高く、年代別では10歳代と30歳代で約2割となっています。(図表25)

DV被害の有無別では、『DV被害の経験がある』層で「子どもがいる」が約8割と、『DV被害の経験はない』層より10.4ポイント高くなっています。(図表26)

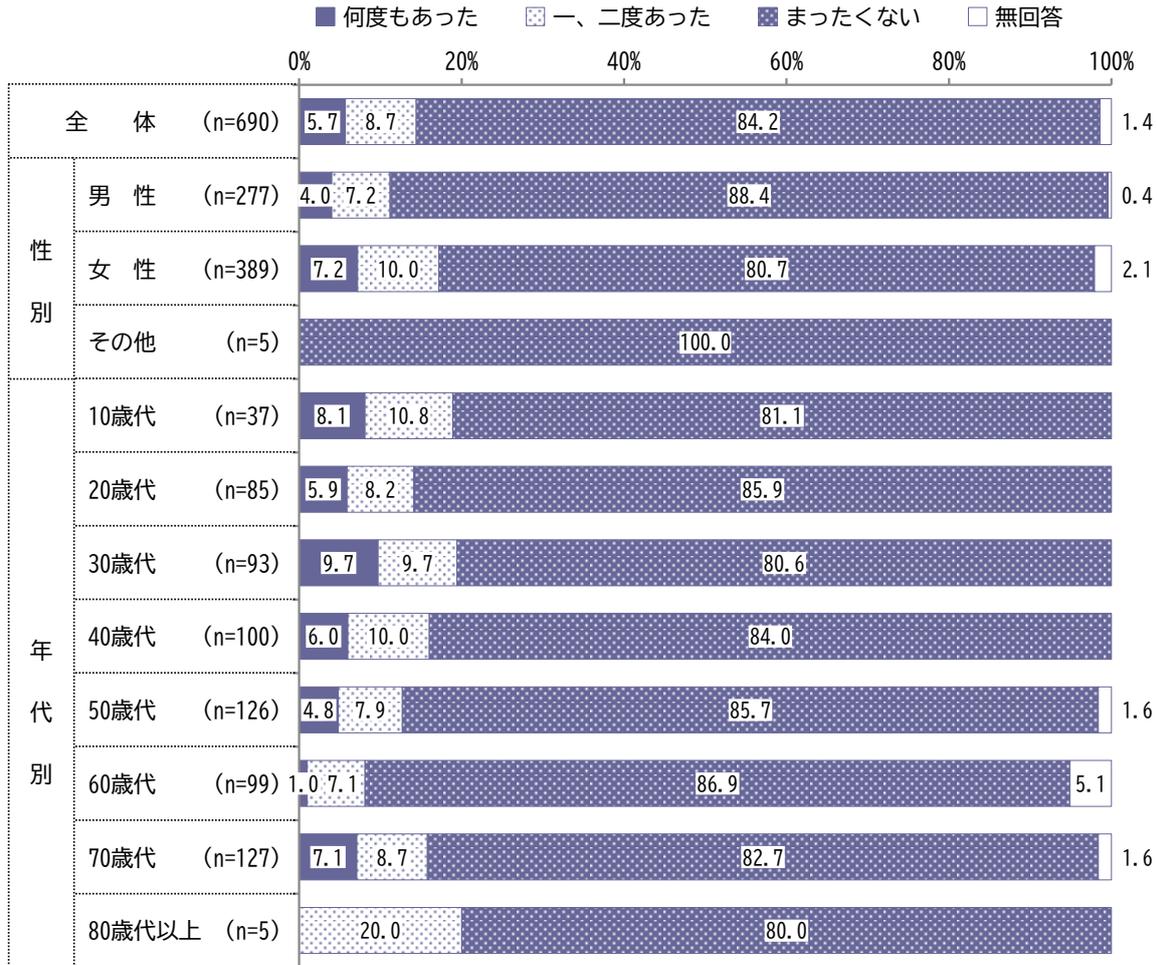
- ◆ 身近な人から性的少数者であることを打ち明けられても、「今までどおり何も変わらない」が最も高くなっている。

身近な人から性的少数者(LGBTQ)であることを打ち明けられた場合については、『家族の場合』『友人の場合』ともに「今までどおり何も変わらない」が最も高く、『友人の場合』では5割を超えています。(図表27)

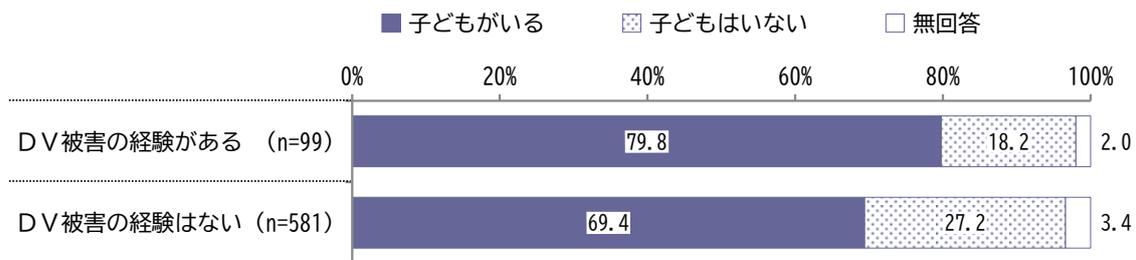
一方、偏見や差別などにより性的少数者が生活しづらい社会になっているかについては、“概ね思う”が67.1%となっており、性別では、女性が男性より9.9ポイント高くなっています。

(図表28) また、生活しづらい理由として、いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受けるからが最も高く、次いで「性別で区分された設備(トイレなど)を使いづらいから」、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」が挙げられています。(図表29)

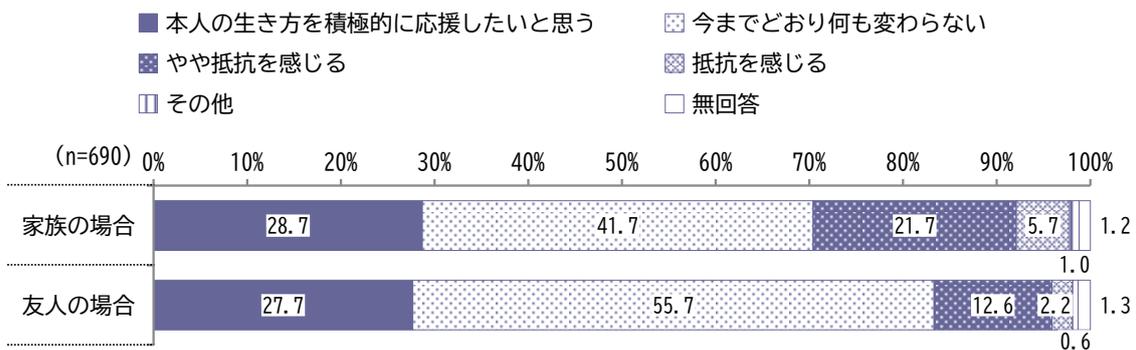
図表 25 DV被害の経験（性別/年代別）



図表 26 子どもの有無（DV被害経験の有無別）

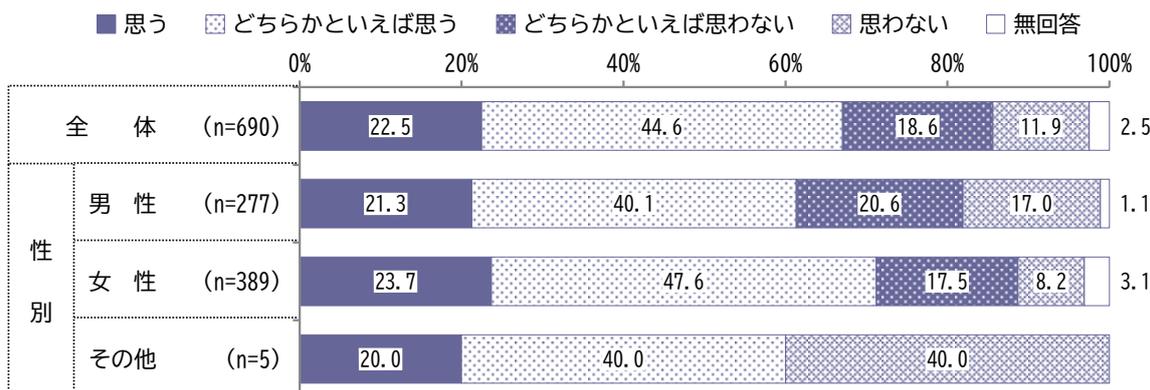


図表 27 身近な人からカミングアウトされた際の気持ち（家族・友人）

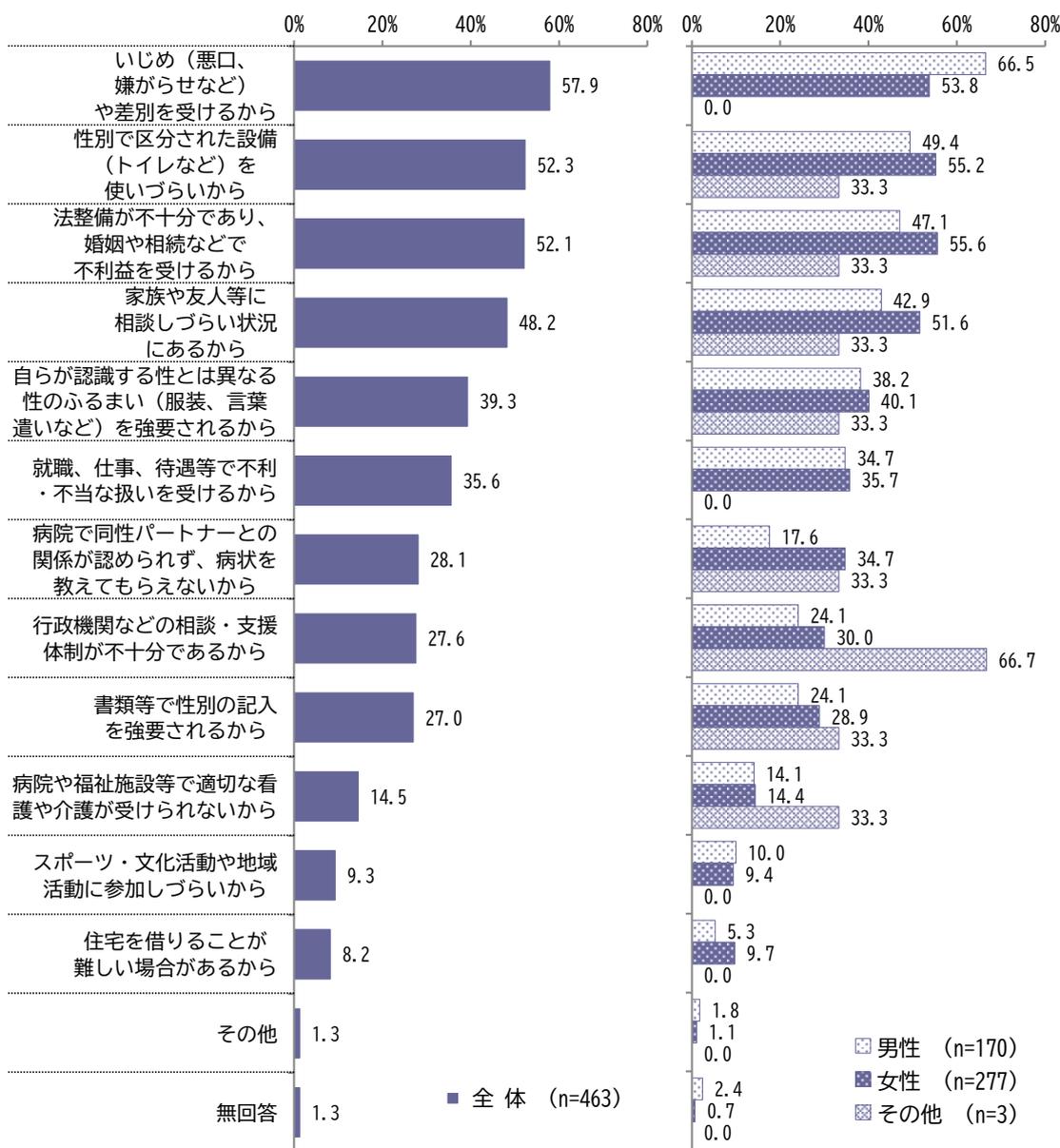


II. 調査結果まとめ / 7 人権の尊重について

図表 28 性的少数者には生活しづらさがあると思うか（性別）



図表 29 性的少数者が生活しづらいと思う理由（性別）



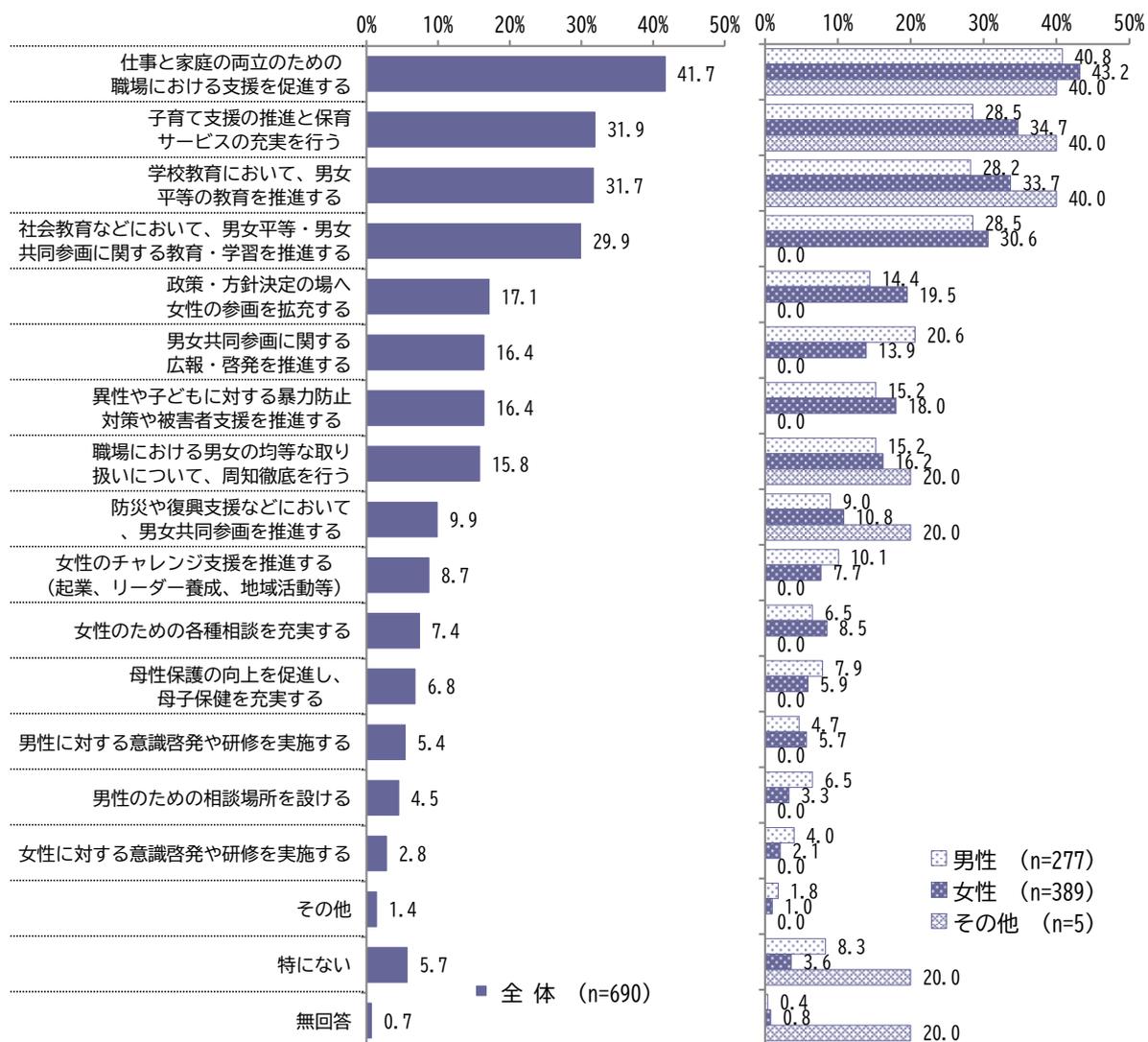
## 8 市の男女共同参画の取り組みについて

男女共同参画社会を形成していくために市が力を入れていくべきこととして、「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」、「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」、「学校教育において、男女平等の教育を推進する」が挙げられており、仕事と家庭生活の両立の実現に向けて、制度や教育の見直しや社会全体の意識改革が不可欠となっています。

- ◆ 男女共同参画社会形成のために市が力を入れていくべきことは、「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が最も高くなっている。

男女共同参画社会を形成していくため、今後市が力を入れていくべきことは、「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が最も高く、次いで「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」、「学校教育において、男女平等の教育を推進する」の順となっています。（図表 30）

図表 30 男女共同参画社会形成のために市が力を入れていくべきこと（性別）





## III. 調查結果

---



## III. 調査結果

### 1 一般市民調査

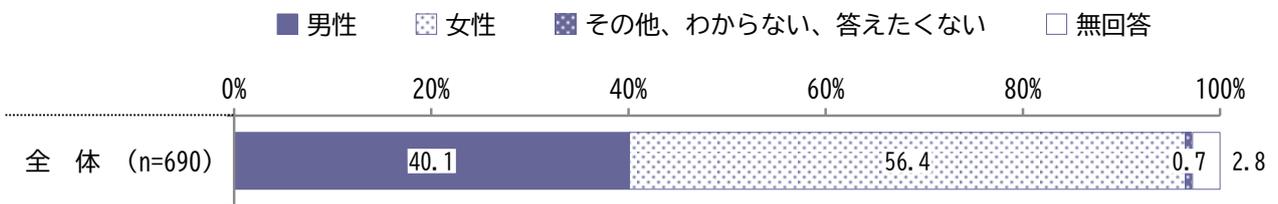
#### 1 回答者ご自身について

##### ① 性別

###### 全体

▶ 「女性」が56.4%、「男性」が40.1%、「その他、わからない、答えたくない」が0.7%となっています。

図表 1-1 性別

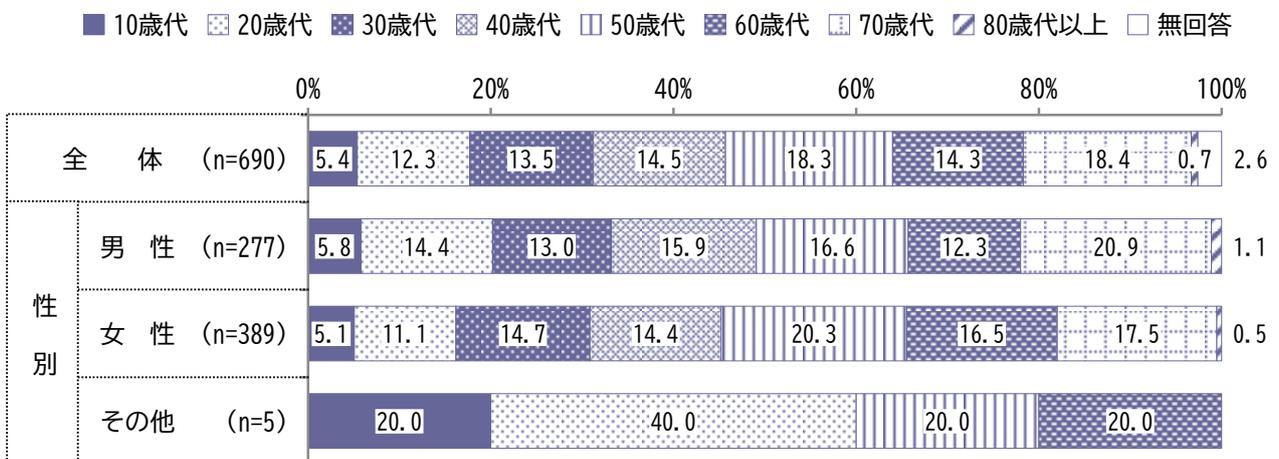


##### ② 年齢（令和7年4月1日現在）

###### 全体／性別

▶ 「70歳代」が18.4%で最も高く、次いで「50歳代」が18.3%、「40歳代」が14.5%となっています。  
 ▶ 性別では、男性は「70歳代」が20.9%で最も高く、次いで「50歳代」が16.6%、「40歳代」が15.9%、女性「50歳代」が20.3%で最も高く、次いで「70歳代」が17.5%、「60歳代」が16.5%となっています。

図表 1-2 年齢（性別）

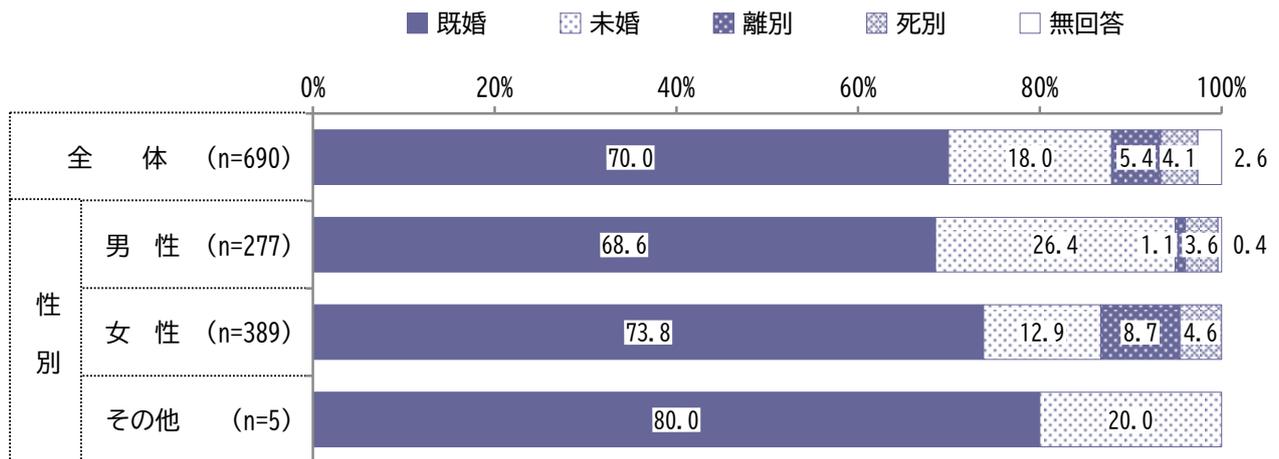


③ 配偶者の有無（事実婚を含む）

全体／性別

- 「既婚」が70.0%、「未婚」が18.0%、「離別」が5.4%、「死別」が4.1%となっています。
- 性別では、男性は「既婚」が68.6%、「未婚」が26.4%、女性は「既婚」が73.8%、「未婚」が12.9%となっています。

図表 1-3 配偶者の有無（性別）

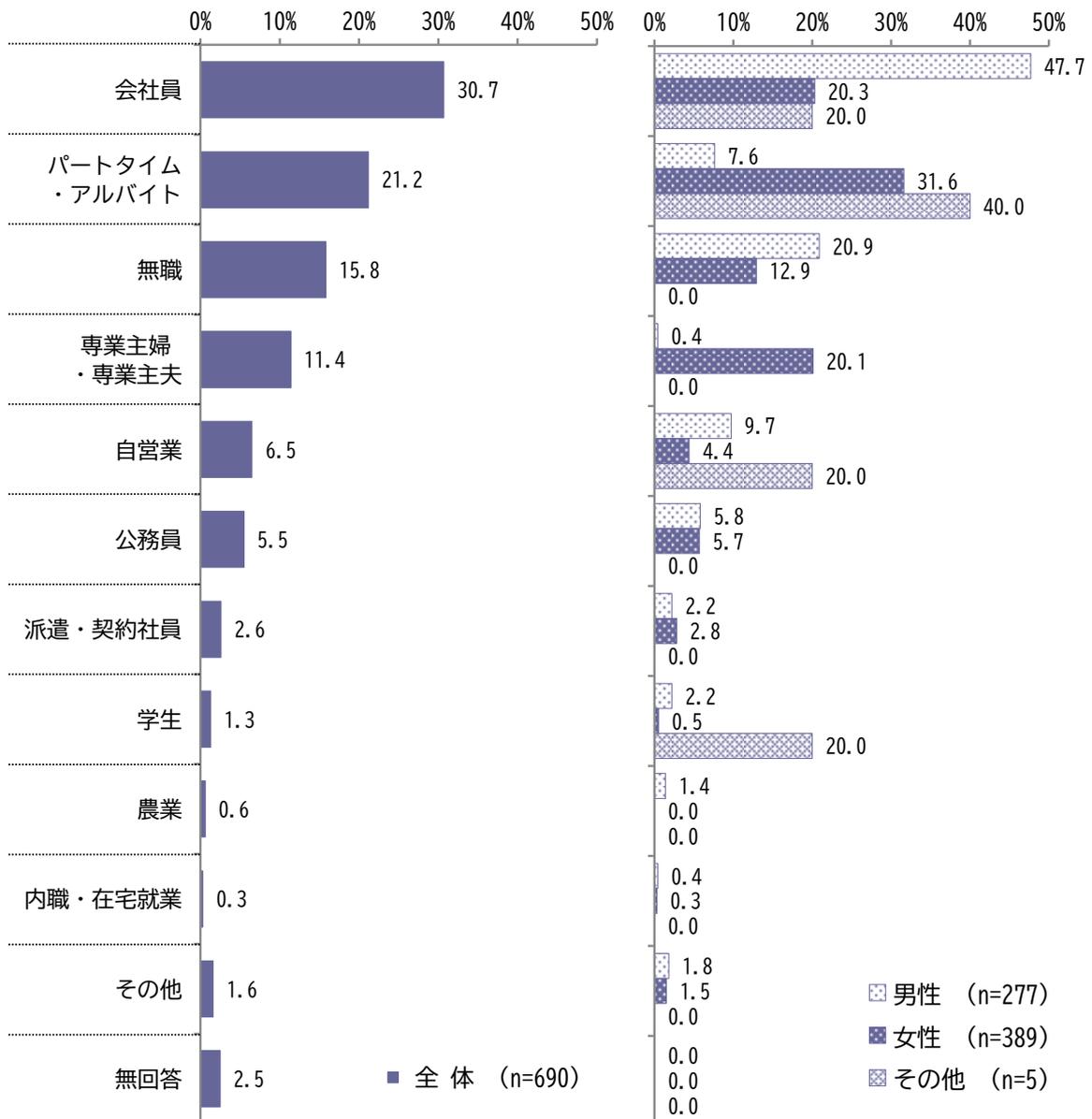


④ 職業

全体／性別

- 「会社員」が 30.7%で最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」が 21.2%、「無職」が 15.8%となっています。
- 性別では、男性は「会社員」が 47.7%で最も高く、次いで「無職」が 20.9%、「自営業」が 9.7%、女性は「パートタイム・アルバイト」が 31.6%で最も高く、次いで「会社員」が 20.3%、「専業主婦・専業主夫」が 20.1%となっています。

図表 1-4 職業（性別）

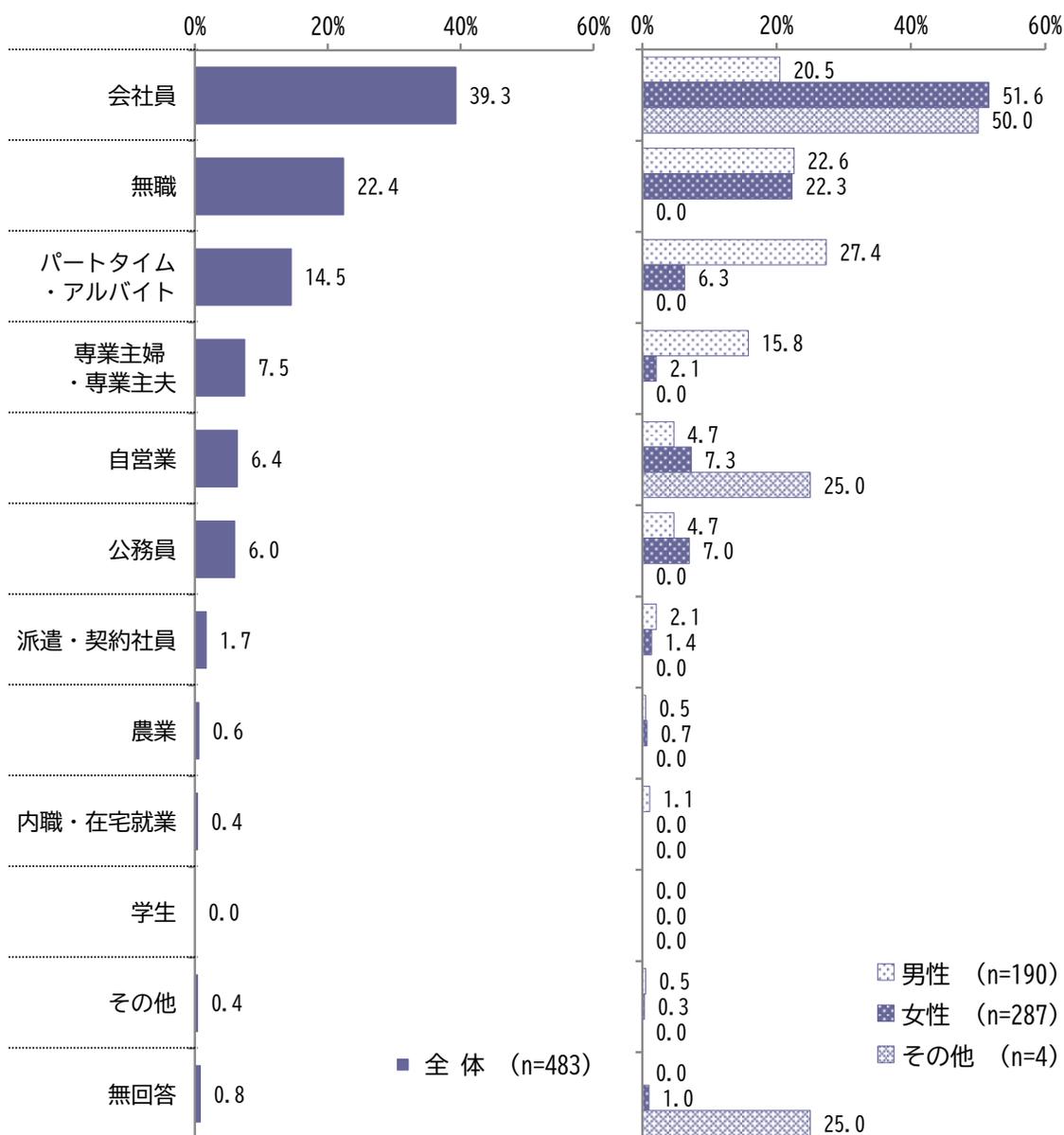


⑤ 配偶者の職業〈結婚されている方（事実婚を含む）〉

全体／性別

- 「会社員」が 39.3%で最も高く、次いで「無職」が 22.4%、「パートタイム・アルバイト」が 14.5%となっています。
- 性別では、男性は「パートタイム・アルバイト」が 27.4%で最も高く、次いで「無職」が 22.6%、「会社員」が 20.5%、女性は「会社員」が 51.6%で最も高く、次いで「無職」が 22.3%、「自営業」が 7.3%となっています。

図表 1-5 配偶者の職業（性別）

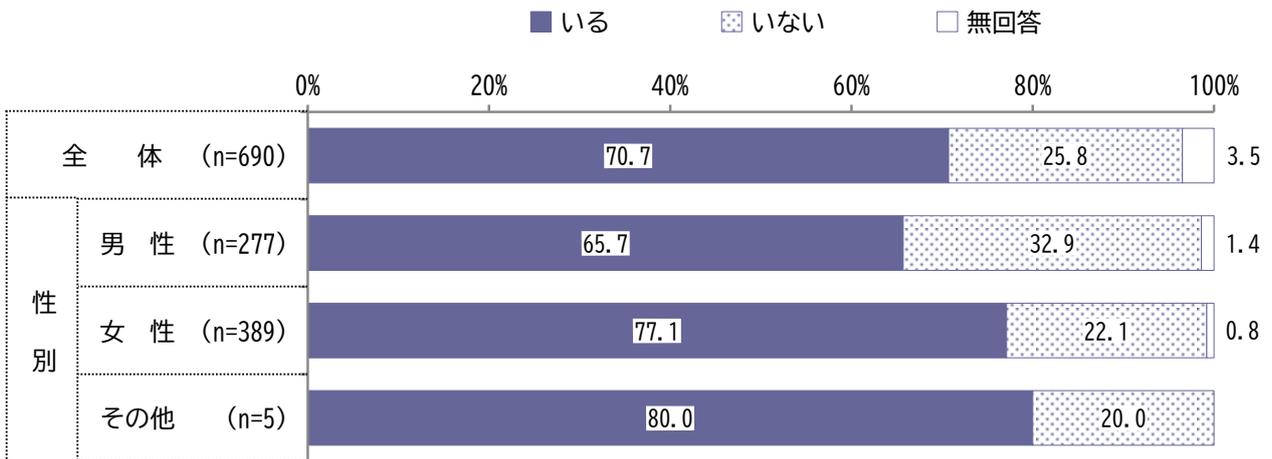


⑥ 子どもの有無（同居していないお子さんを含む）

全体／性別

- 「いる」が70.7%、「いない」が25.8%となっています。
- 性別では、男性は「いる」が65.7%、「いない」が32.9%、女性は「いる」が77.1%、「いない」が22.1%となっています。

図表 1-6 子どもの有無（性別）

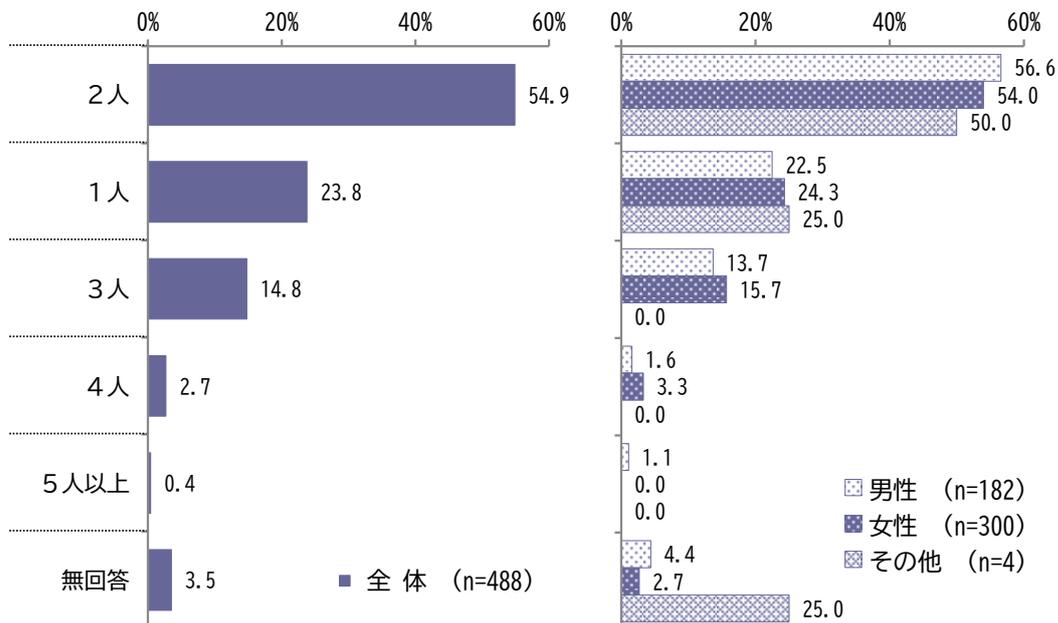


子どもの数〈⑥で「いる」と答えた方〉

全体／性別

- 「2人」が54.9%で最も高く、次いで「1人」が23.8%、「3人」が14.8%となっています。
- 性別では、男性は「2人」が56.6%で最も高く、次いで「1人」が22.5%、「3人」が13.7%、女性は「2人」が54.0%で最も高く、次いで「1人」が24.3%、「3人」が15.7%となっています。

図表 1-7 子どもの数（性別）

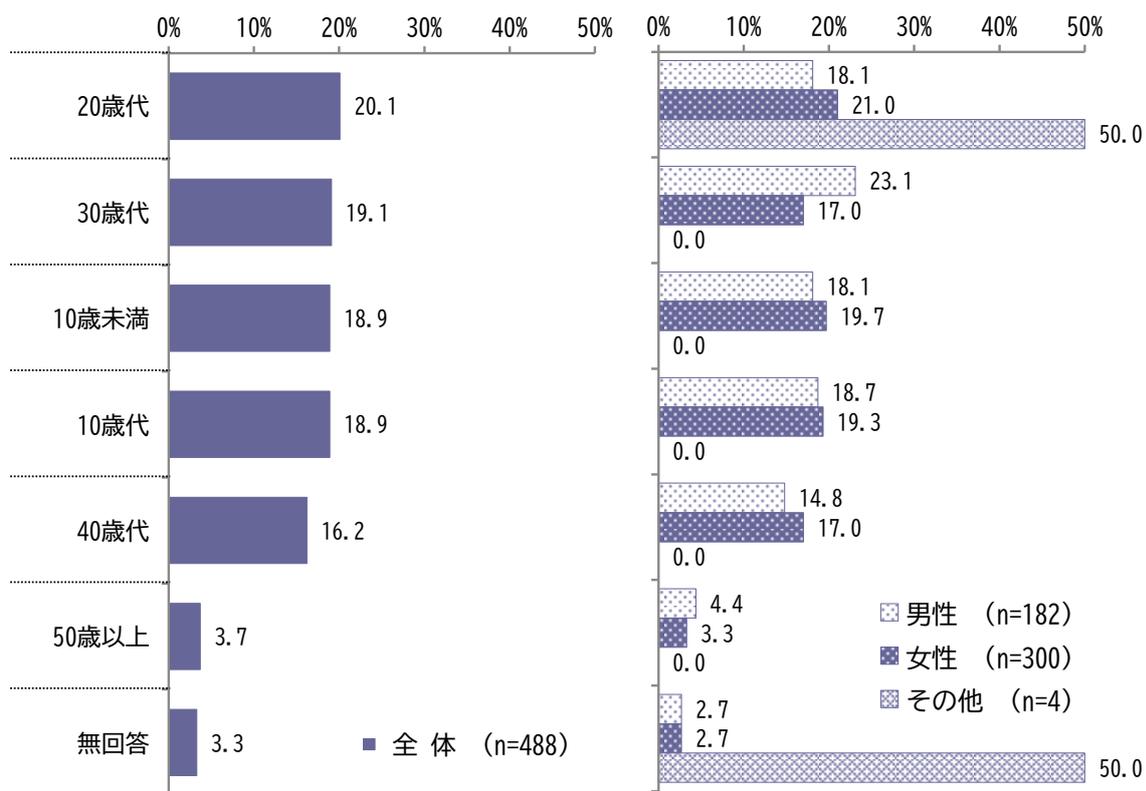


⑥-1 一番下の子どもの年齢〈⑥で「いる」と答えた方〉

全体／性別

- 「20 歳代」が 20.1%で最も高く、次いで「30 歳代」が 19.1%、「10 歳未満」と「10 歳代」が 18.9%となっています。
- 性別で見ると、男性は「30 歳代」が 23.1%で最も高く、次いで「10 歳代」が 18.7%、「20 歳代」と「10 歳未満」が 18.1%、女性は「20 歳代」が 21.0%で最も高く、次いで「10 歳未満」が 19.7%、「10 歳代」が 19.3%となっています。

図表 1-8 一番下の子どもの年齢（性別）

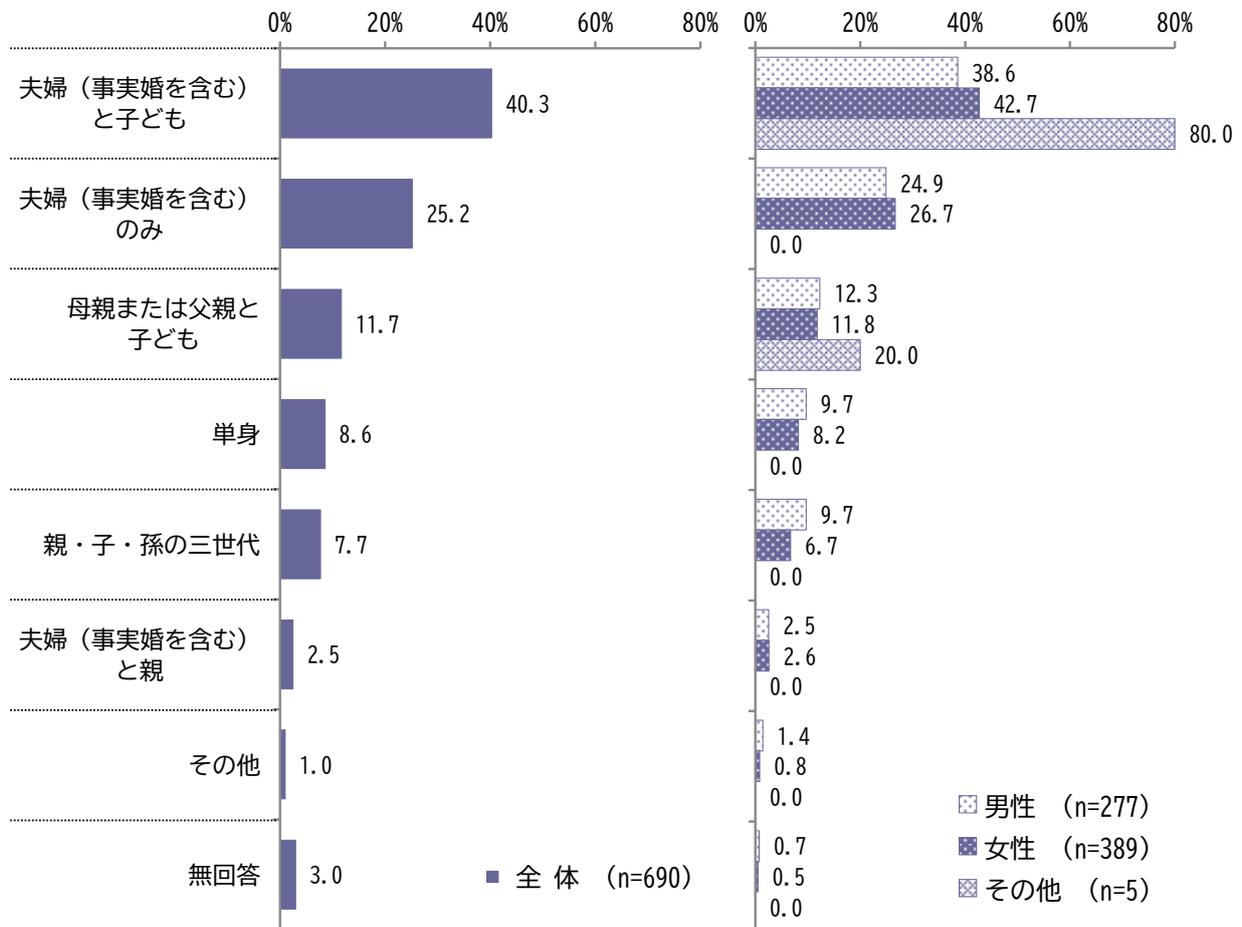


⑦ 同居家族の構成

全体／性別

- 「夫婦(事実婚を含む)と子ども」が40.3%で最も高く、次いで「夫婦(事実婚を含む)のみ」が25.2%、「母親または父親と子ども」が11.7%となっています。
- 性別で見ると、男性は「夫婦(事実婚を含む)と子ども」が38.6%で最も高く、次いで「夫婦(事実婚を含む)のみ」が24.9%、「母親または父親と子ども」が12.3%、女性は「夫婦(事実婚を含む)と子ども」が42.7%で最も高く、次いで「夫婦(事実婚を含む)のみ」が26.7%、「母親または父親と子ども」が11.8%となっています。

図表 1-9 同居家族の構成 (性別)



## 2 男女の平等意識について

問1 今の社会において、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
(①～⑧についてそれぞれ○を1つ)

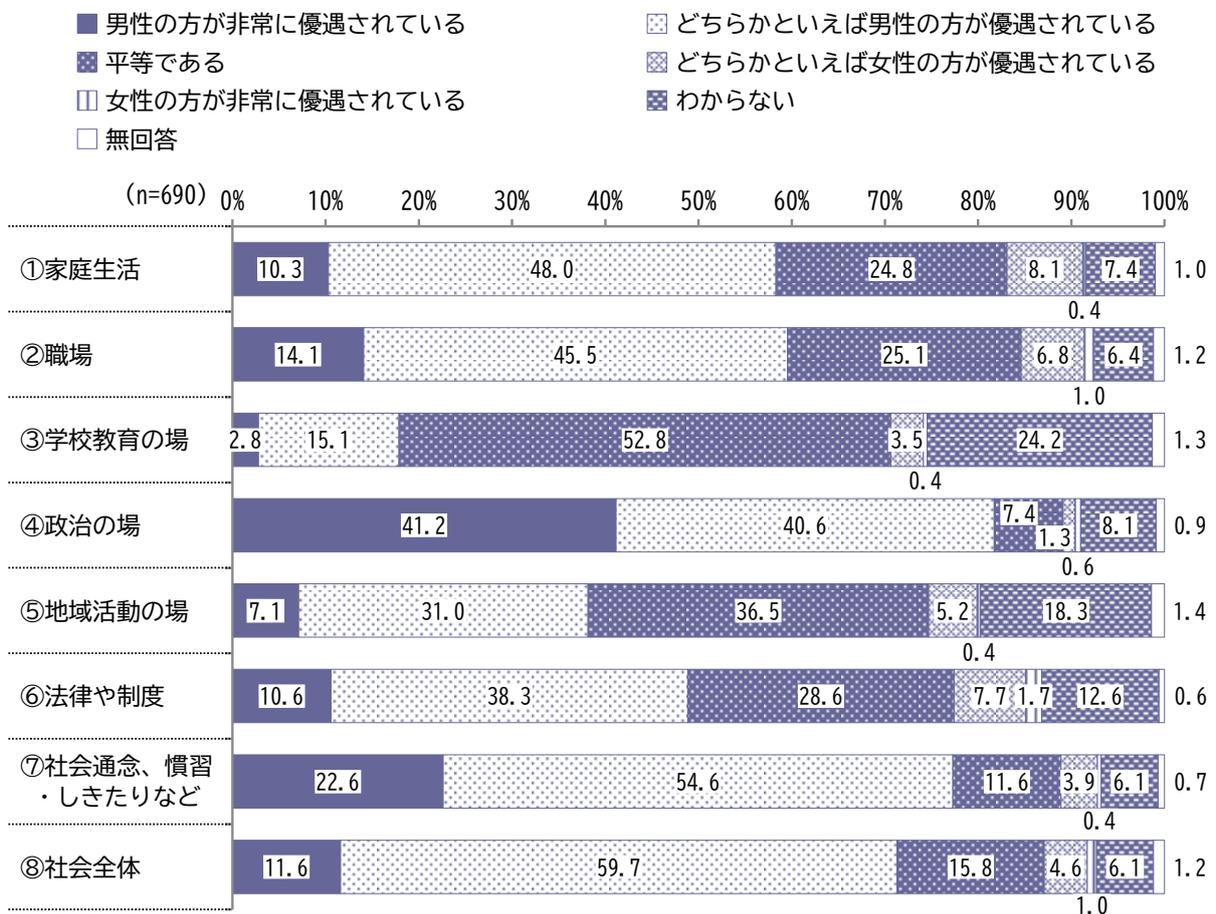
### 全体

- ▶ 『③学校教育の場』と『⑤地域活動の場』では、「平等である」が最も高く、『③学校教育の場』では5割を超えています。
- ▶ 『③学校教育の場』と『⑤地域活動の場』を除く分野では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、約4～6割となっています。
- ▶ 『①家庭生活』では、“男性優遇※1”が 58.3%、“女性優遇※2”が 8.5%、『②職場』では、“男性優遇”が 59.6%、“女性優遇”が7.8%、『③学校教育の場』では、“男性優遇”が17.9%、“女性優遇”が3.9%、『④政治の場』では、“男性優遇”が81.8%、“女性優遇”が1.9%、『⑤地域活動の場』では、“男性優遇”が38.1%、“女性優遇”が5.6%、『⑥法律や制度』では、“男性優遇”が48.9%、“女性優遇”が9.4%、『⑦社会通念、慣習・しきたりなど』では、“男性優遇”が77.2%、“女性優遇”が4.3%、『⑧社会全体』では、“男性優遇”が71.3%、“女性優遇”が5.6%と、すべての分野で“男性優遇”が大きく上回っており、なかでも、『④政治の場』と『⑦社会通念、慣習・しきたりなど』では70ポイント以上の大きな差となっています。

※1 男性優遇：「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」

※2 女性優遇：「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

図表 1-10 各分野での男女の地位

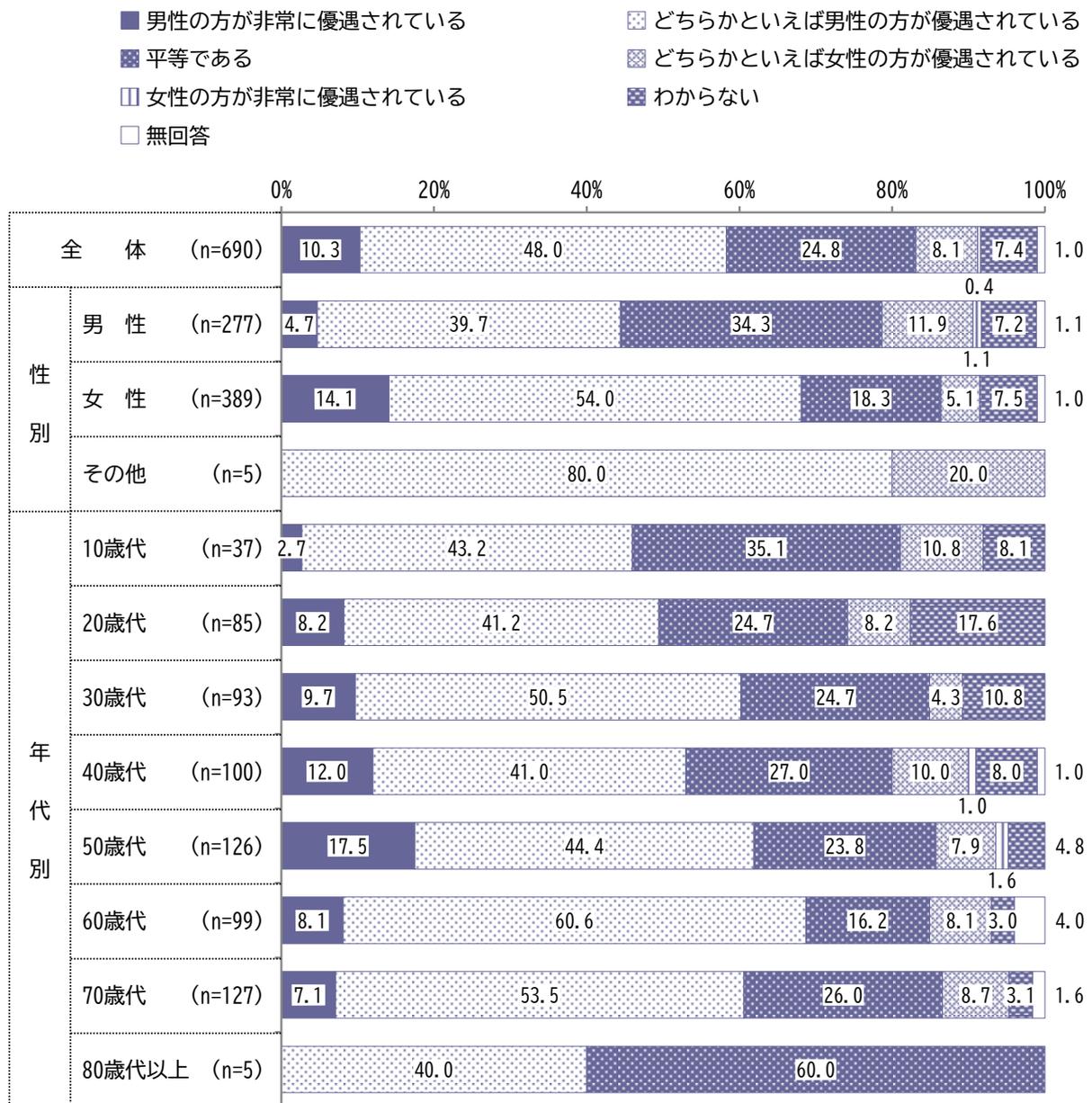


① 家庭生活

全体 / 性別 / 年代別

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が48.0%で最も高く、次いで「平等である」が24.8%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.3%となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”(44.4%)と“女性優遇”(13.0%)で31.4ポイント差、女性は“男性優遇”(68.1%)と“女性優遇”(5.1%)で63.0ポイント差と、いずれも“男性優遇”が大きく上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。一方、男性では、「平等である」(34.3%)が女性より16.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、10歳代で「平等である」(35.1%)、50歳代で「男性の方が非常に優遇されている」(17.5%)が他の年代より高くなっています。

図表 1-11 ①家庭生活 (性別/年代別)

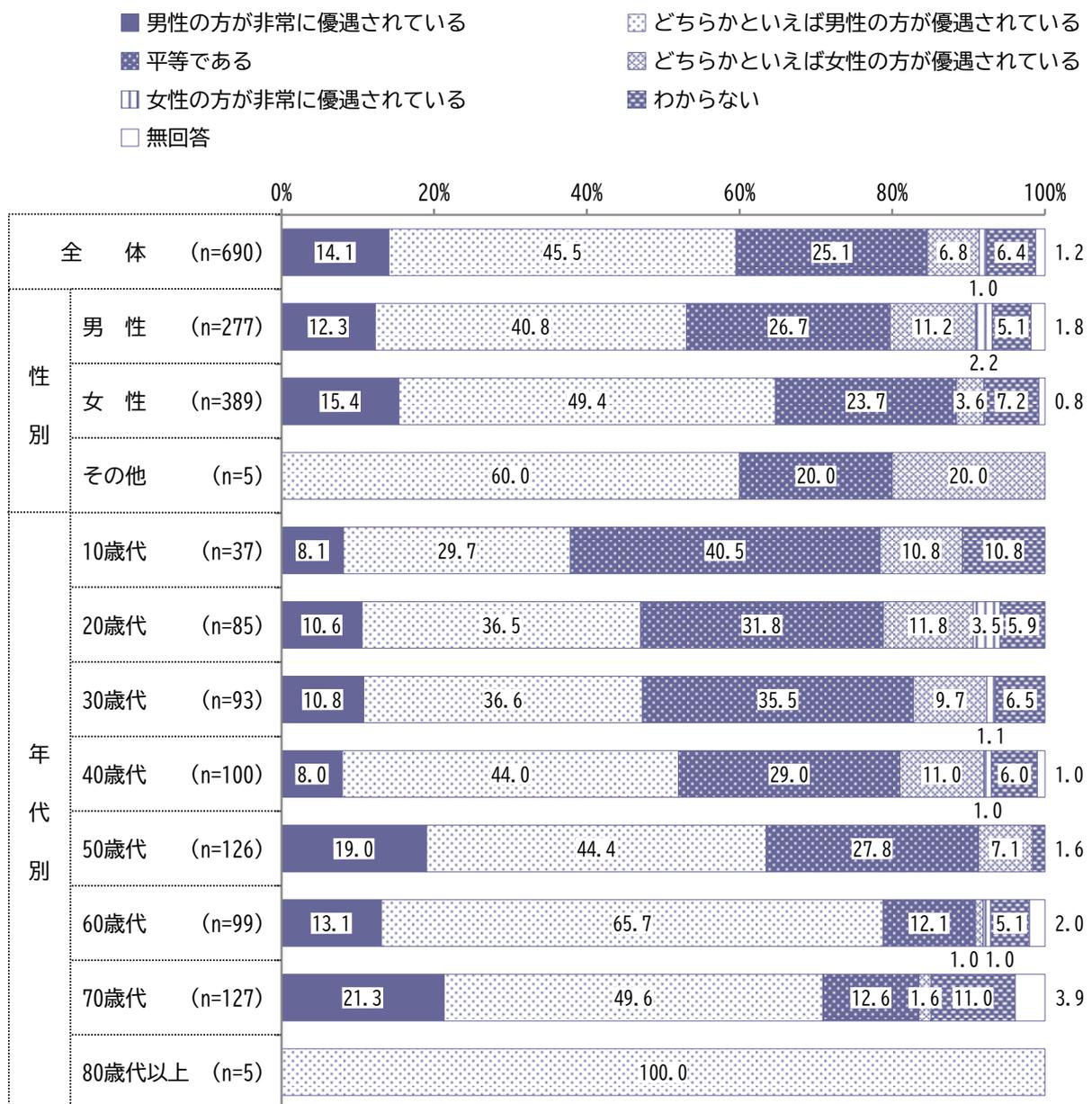


② 職場

全体 / 性別 / 年代別

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.5%で最も高く、次いで「平等である」が25.1%、「男性の方が非常に優遇されている」が14.1%となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”が53.1%、“女性優遇”が13.4%で39.7ポイント差、女性は“男性優遇”が64.8%、“女性優遇”が3.6%で61.2ポイント差と、いずれも“男性優遇”が大きく上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。
- 年代別では、10歳代で「平等である」(40.5%)が最も高く、年代が上がるにつれ割合が低くなる傾向となっています。50歳代と70歳代では、「男性の方が非常に優遇されている」(2割前後)が他の年代より高くなっています。

図表 1-12 ②職場 (性別/年代別)

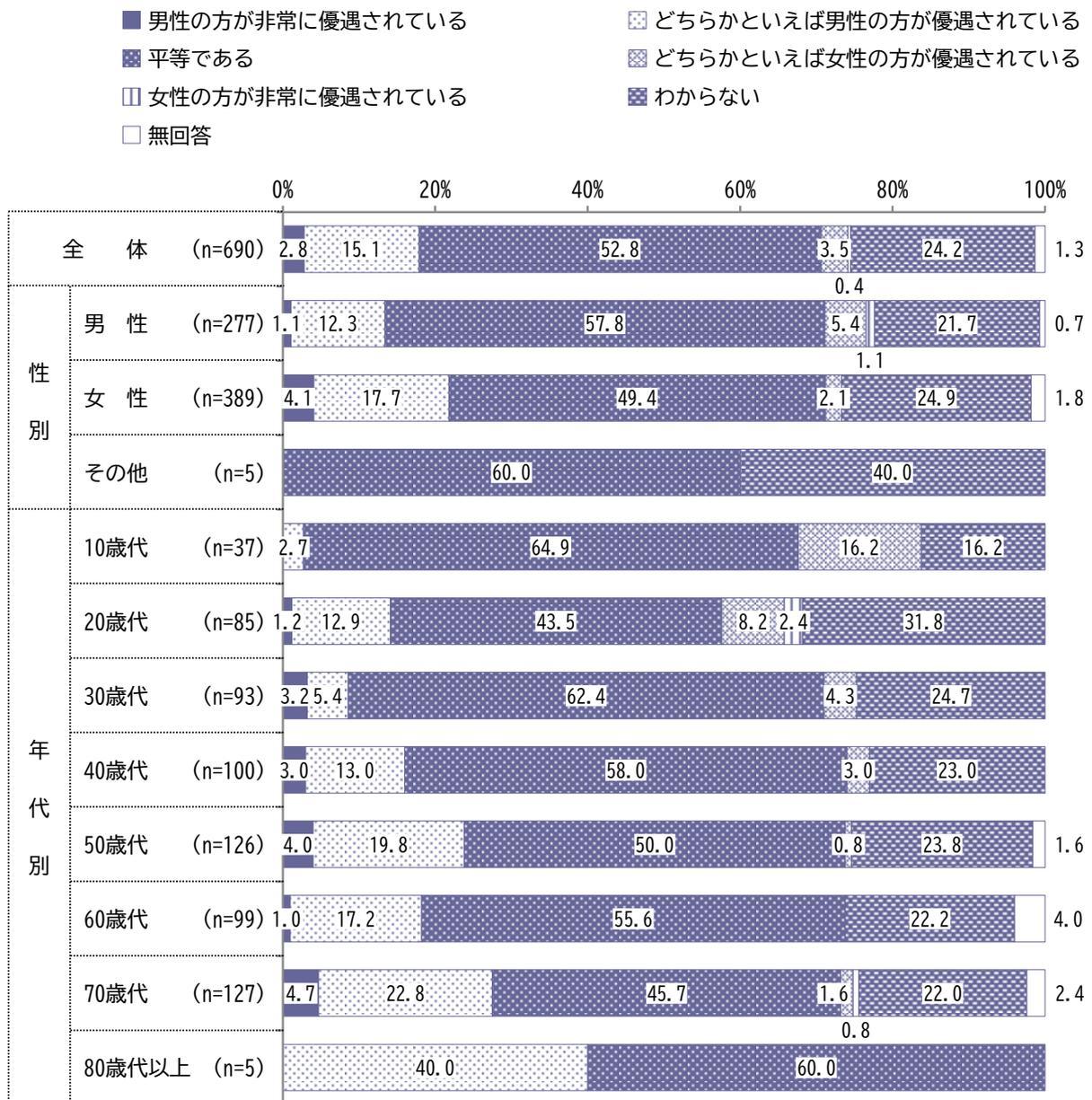


③ 学校教育の場

全体 / 性別 / 年代別

- 「平等である」が 52.8% で最も高く、次いで「わからない」が 24.2%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 15.1% となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”が 13.4%、“女性優遇”が 6.5% で 6.9 ポイント差、女性は“男性優遇”が 21.8%、“女性優遇”が 2.1% で 19.7 ポイント差と、いずれも“男性優遇”が上回っているものの、女性の方が差は大きくなっています。一方、男性では、「平等である」が女性より 8.4 ポイント高くなっています。
- 年代別では、20 歳代と 70 歳代を除き、「平等である」が 5 割を超えています。

図表 1-13 ③学校教育の場（性別/年代別）

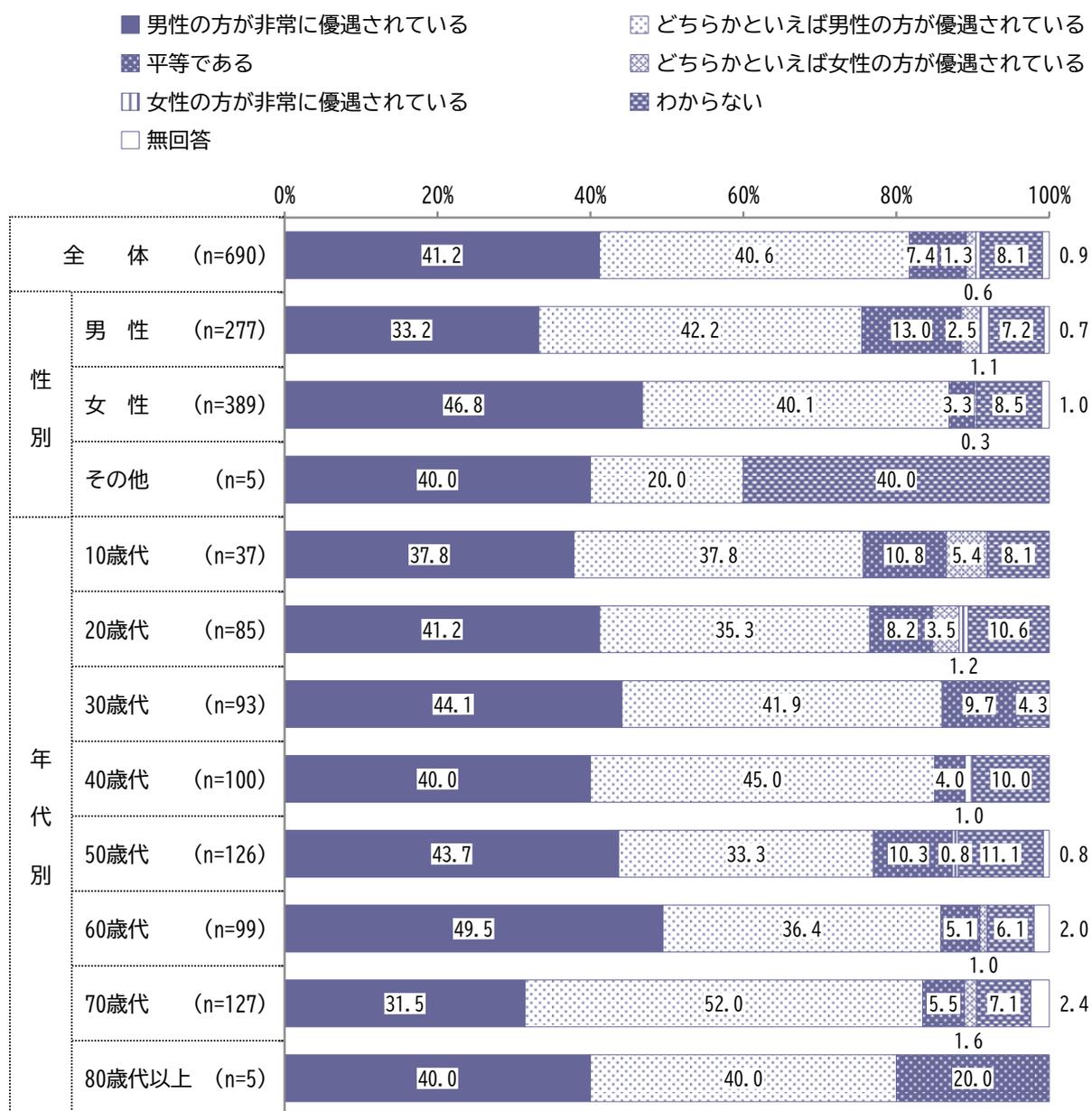


④ 政治の場

全体 / 性別 / 年代別

- 「男性の方が非常に優遇されている」が 41.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.6%、「わからない」が8.1%となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”が75.4%、“女性優遇”が3.6%で71.8ポイント差、女性は“男性優遇”が86.9%、“女性優遇”が0.3%で86.6ポイント差と、いずれも“男性優遇”が大きく上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。一方、男性では、「平等である」が女性より9.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、30～40歳代と60～70歳代で、“男性優遇”が8割を超えています。

図表 1-14 ④政治の場（性別/年代別）

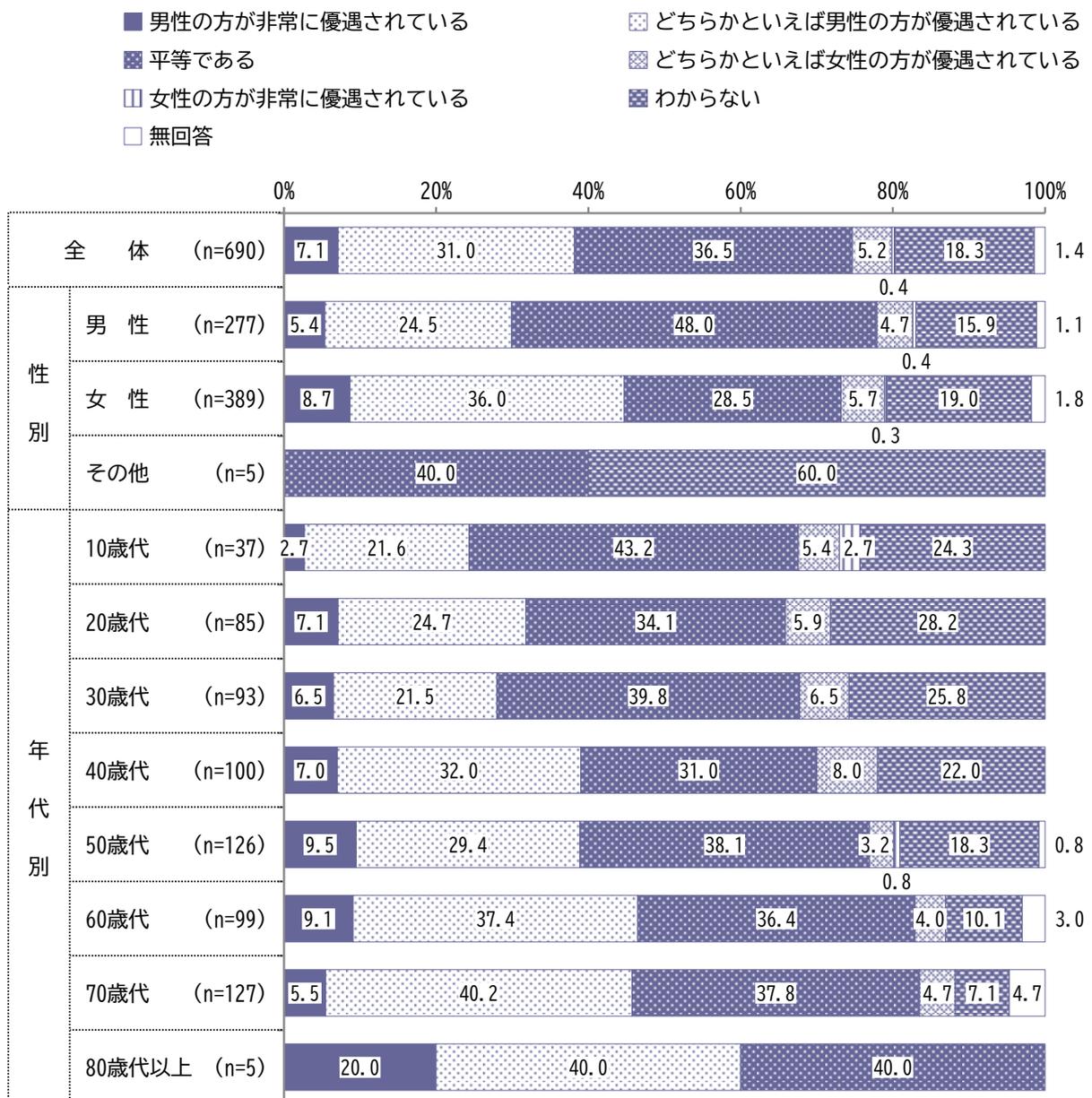


⑤ 地域活動の場

全体／性別／年代別

- 「平等である」が36.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が31.0%、「わからない」が18.3%となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”が29.9%、“女性優遇”が5.1%で24.8ポイント差、女性は“男性優遇”が44.7%、“女性優遇”が6.0%で38.7ポイント差と、いずれも“男性優遇”が大きく上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。一方、男性では、「平等である」が女性より19.5ポイント高くなっています。
- 年代別では、60～70歳代で、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(4割前後)が他の年代より高くなっており、年代が上がるにつれ“男性優遇”の割合が高くなる傾向となっています。

図表 1-15 ⑤地域活動の場（性別/年代別）

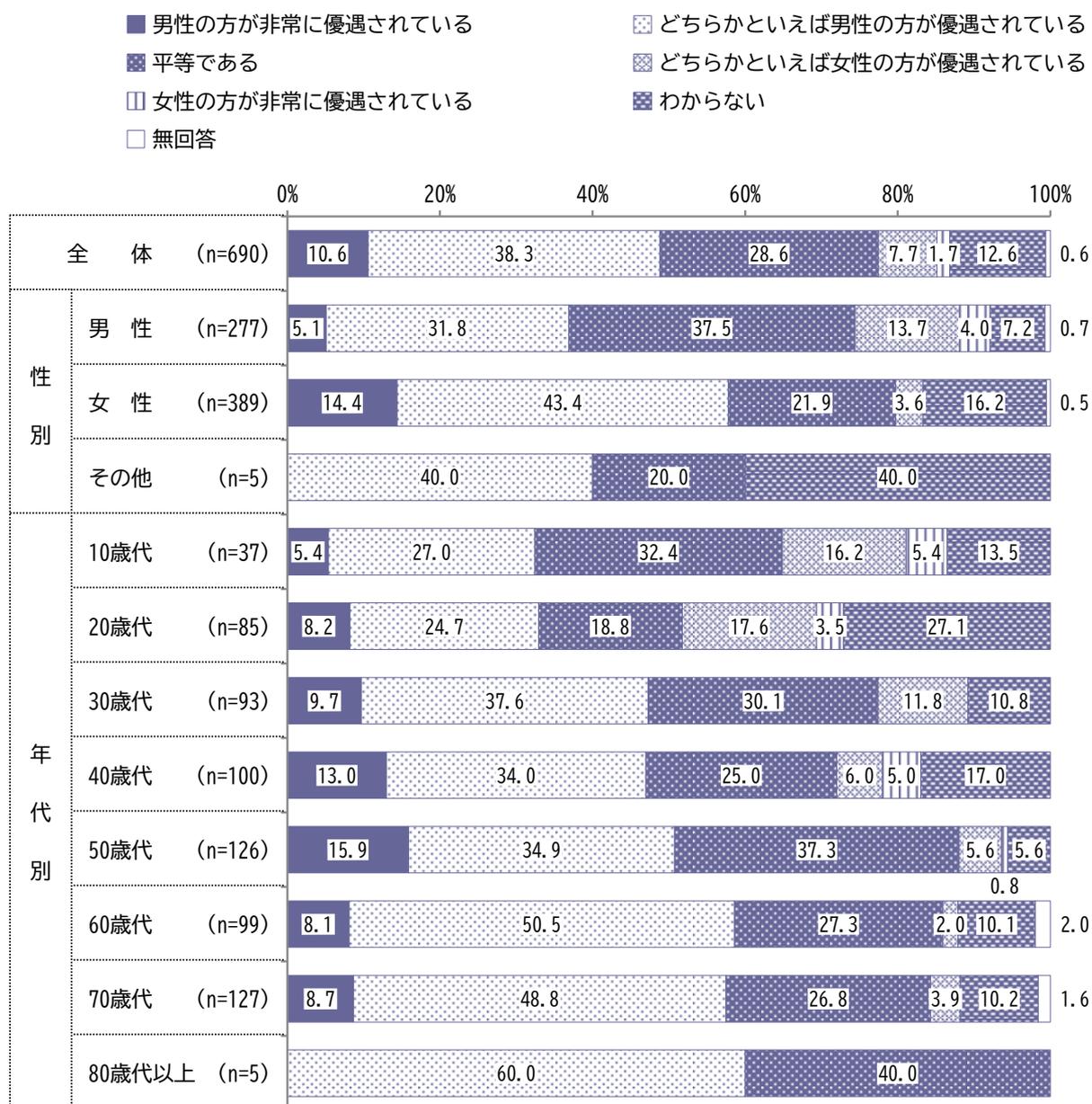


⑥ 法律や制度

全体 / 性別 / 年代別

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が38.3%で最も高く、次いで「平等である」が28.6%、「わからない」が12.6%となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”が36.9%、“女性優遇”が17.7%で19.2ポイント差、女性は“男性優遇”が57.8%、“女性優遇”が3.6%で54.2ポイント差と、いずれも“男性優遇”が上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。一方、男性では、「平等である」が女性より15.6ポイント高くなっています。
- 年代別では、40～50歳代で、「男性の方が非常に優遇されている」(1割台半ば)が他の年代よりやや高くなっており、年代が上がるにつれ“男性優遇”の割合が高くなる傾向となっています。一方、50歳代では、「平等である」(37.3%)が他の年代より高くなっています。

図表 1-16 ⑥法律や制度（性別/年代別）

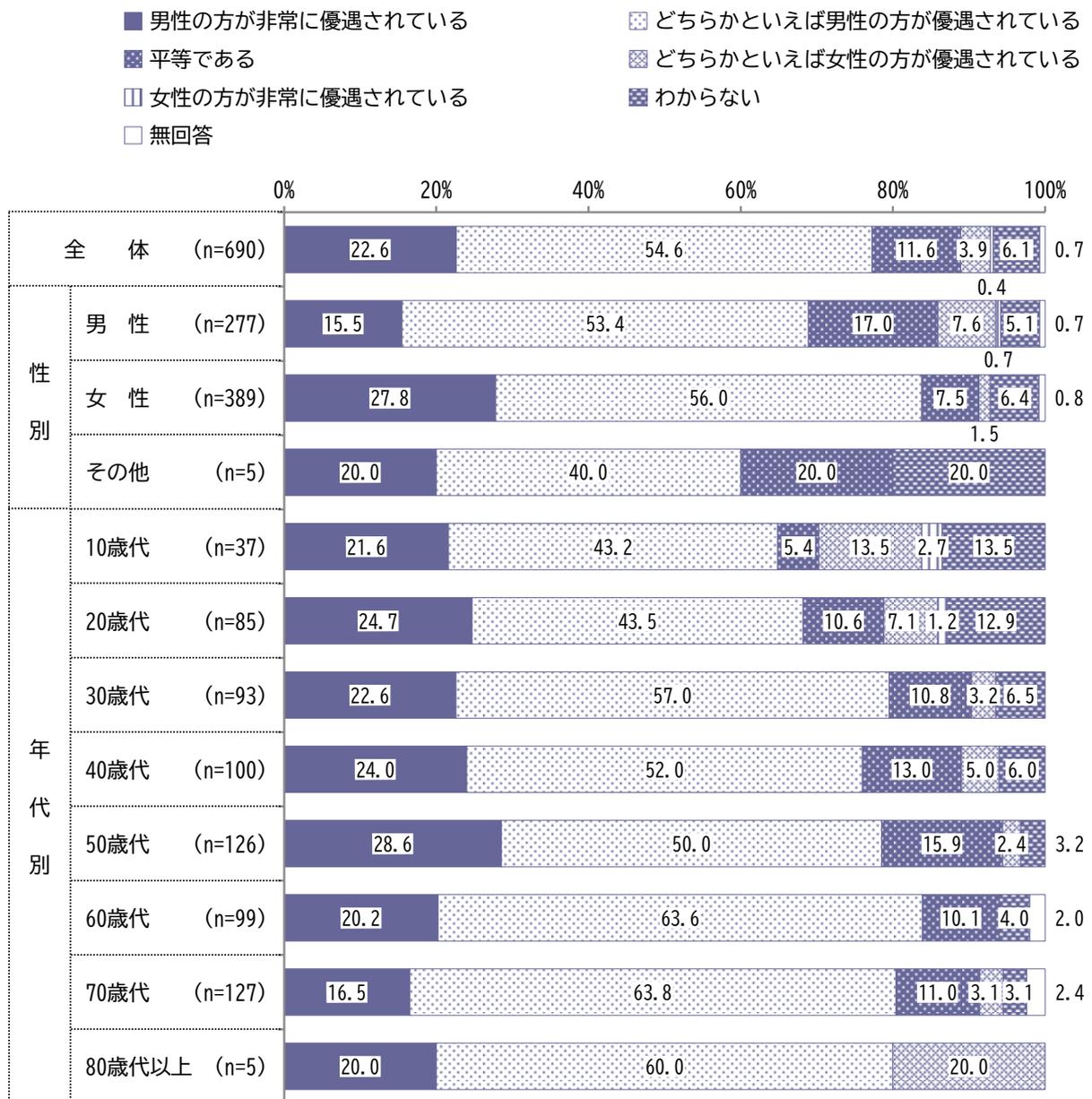


⑦ 社会通念、慣習・しきたりなど

全体／性別／年代別

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 54.6%で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が 22.6%、「平等である」が 11.6%となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”が68.9%、“女性優遇”が8.3%で 60.6 ポイント差、女性は“男性優遇”が83.8%、“女性優遇”が1.5%で 82.3 ポイント差と、いずれも“男性優遇”が大きく上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。一方、男性では、「平等である」が女性より 9.5 ポイント高くなっています。
- 年代別では、60 歳代以上で“男性優遇”(約8割)が高くなっている一方、10 歳代では“女性優遇”(16.2%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-17 ⑦社会通念、慣習・しきたりなど (性別/年代別)

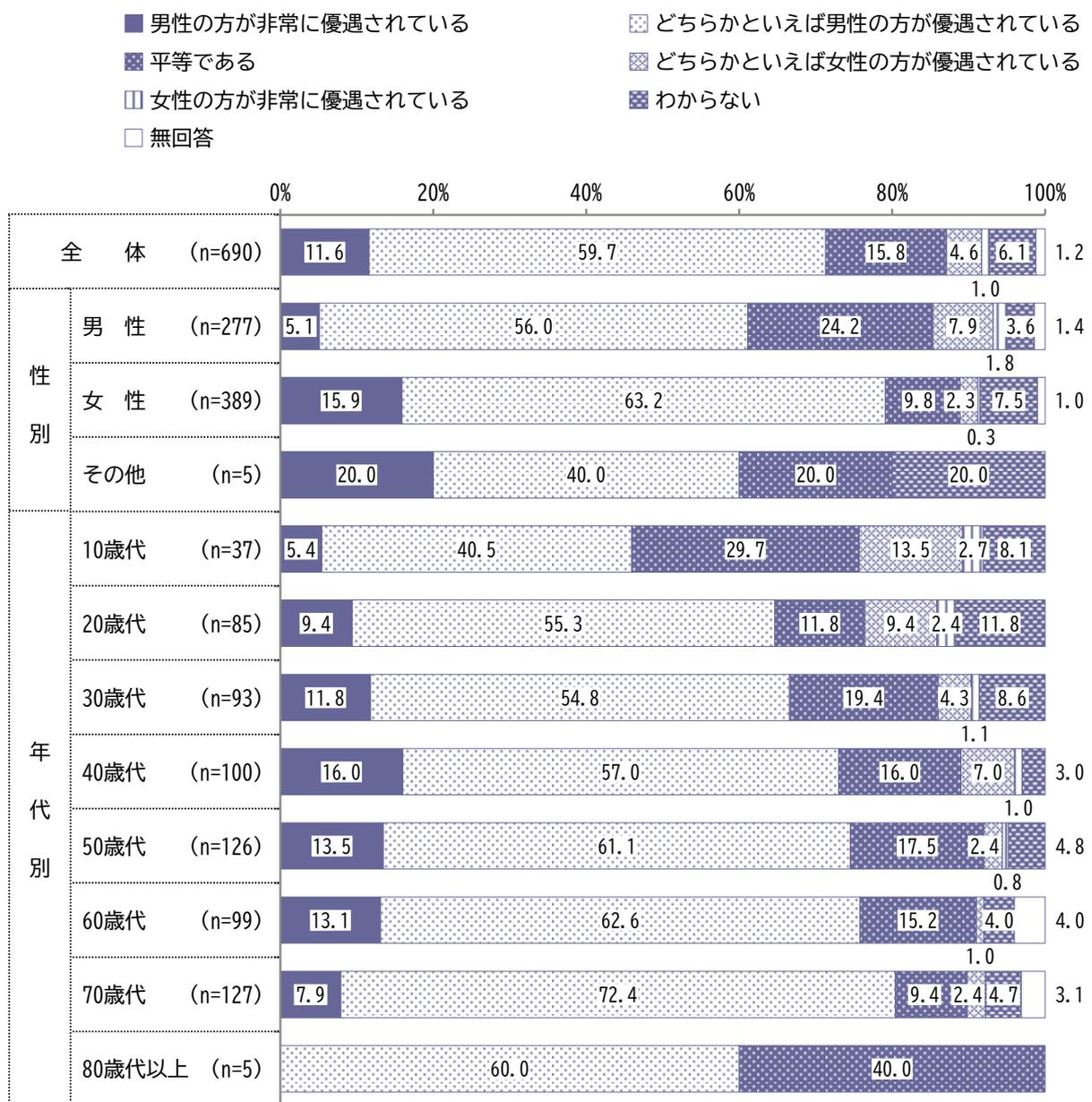


⑧ 社会全体

全体 / 性別 / 年代別

- 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が59.7%で最も高く、次いで「平等である」が15.8%、「男性の方が非常に優遇されている」が11.6%となっています。
- 性別では、男性は“男性優遇”が61.1%、“女性優遇”が9.7%で51.4ポイント差、女性は“男性優遇”が79.1%、“女性優遇”が2.6%で76.5ポイント差と、いずれも“男性優遇”が大きく上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。一方、男性では、「平等である」が女性よりも14.4ポイント高くなっています。
- 年代別では、10歳代で、「平等である」(29.7%)が他の年代よりも高くなっています。年代が上がるにつれ“男性優遇”の割合が高くなる傾向となっており、70歳代では8割を超えています。

図表 1-18 ⑧社会全体（性別/年代別）



過去調査との比較

- ▶ 過去の調査と比べると、“男性優遇”の割合は『⑥法律や制度』と『⑦社会通念、慣習・しきたりなど』を除いて令和2年より低くなっており、なかでも、『②職場』では 8.1 ポイント低くなっています。
- ▶ 性別では、『②職場』が男性で 8.2 ポイント、女性で 6.0 ポイント、それぞれ令和 2 年より低くなっています。

図表 1-19 “男性優遇”の割合（過去調査との比較）

(単位：%)

		① 家庭生活	② 職場	③ の学 場 校 教 育	④ 政 治 の 場	⑤ の地 場 域 活 動	⑥ 法 律 や 制 度	⑦ た 慣 社 り 習 会 な 通 ど し 念 し 念、 き	⑧ 社 会 全 体
全体	令和7年	58.3	59.6	17.9	81.8	38.1	48.9	77.2	71.3
	令和2年	59.7	67.7	20.9	83.9	41.7	46.3	76.5	74.7
	差	-1.4	-8.1	-3.0	-2.1	-3.6	2.6	0.7	-3.4
男性	令和7年	44.4	53.1	13.4	75.4	29.9	36.9	68.9	61.1
	令和2年	40.4	61.3	15.5	78.3	33.6	34.3	69.9	65.3
	差	4.0	-8.2	-2.1	-2.9	-3.7	2.6	-1.0	-4.2
女性	令和7年	68.1	64.8	21.8	86.9	44.7	57.8	83.8	79.1
	令和2年	70.6	70.8	23.6	87.1	46.4	53.4	80.5	80.0
	差	-2.5	-6.0	-1.8	-0.2	-1.7	4.4	3.3	-0.9

- ▶ 過去の調査と比べると、「平等である」の割合は、『①家庭生活』と『⑥法律や制度』を除いて令和2年より高くなっており、なかでも、『②職場』では 8.4 ポイント高くなっています。
- ▶ 性別では、女性の『②職場』が 8.4 ポイント、男性の『②職場』と『⑤地域活動の場』が約7ポイント、それぞれ令和 2 年より高くなっている一方、男性の『①家庭生活』では 5.5 ポイント低くなっています。

図表 1-20 「平等である」の割合（過去調査との比較）

(単位：%)

		① 家庭生活	② 職場	③ の学 場 校 教 育	④ 政 治 の 場	⑤ の地 場 域 活 動	⑥ 法 律 や 制 度	⑦ た 慣 社 り 習 会 な 通 ど し 念 し 念、 き	⑧ 社 会 全 体
全体	令和7年	24.8	25.1	52.8	7.4	36.5	28.6	11.6	15.8
	令和2年	25.3	16.7	52.0	6.7	34.2	30.5	11.5	14.1
	差	-0.5	8.4	0.8	0.7	2.3	-1.9	0.1	1.7
男性	令和7年	34.3	26.7	57.8	13.0	48.0	37.5	17.0	24.2
	令和2年	39.8	19.8	57.3	11.5	41.3	40.1	16.9	22.1
	差	-5.5	6.9	0.5	1.5	6.7	-2.6	0.1	2.1
女性	令和7年	18.3	23.7	49.4	3.3	28.5	21.9	7.5	9.8
	令和2年	16.6	15.3	49.0	3.9	29.8	24.6	8.3	9.5
	差	1.7	8.4	0.4	-0.6	-1.3	-2.7	-0.8	0.3

### 全国調査との比較

- ▶ 全国調査と比べると、“男性優遇”の割合は、すべての項目で国より低くなっており、なかでも、『⑤地域活動の場』で 8.9 ポイント低くなっています。
- ▶ 「平等である」の割合は、すべての項目で国より低くなっており、なかでも、『③学校教育の場』で 17.6 ポイント低くなっています。

図表 1-21 “男性優遇”・「平等である」の割合〈全国調査との比較〉

(単位：%)

		① 家庭生活	② 職場	③ 学校教育の場	④ 政治の場	⑤ 地域活動の場	⑥ 法律や制度	⑦ 慣習・通念、しきたりなど	⑧ 社会全体
男性優遇	春日井市	58.3	59.6	17.9	81.8	38.1	48.9	77.2	71.3
	全国	60.7	63.8	21.9	87.9	47.0	50.4	78.2	74.7
	差	-2.4	-4.2	-4.0	-6.1	-8.9	-1.5	-1.0	-3.4
平等	春日井市	24.8	25.1	52.8	7.4	36.5	28.6	11.6	15.8
	全国	30.0	25.8	70.4	9.4	40.3	38.2	16.3	16.7
	差	-5.2	-0.7	-17.6	-2.0	-3.8	-9.6	-4.7	-0.9

※全国…男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）

### 中学生・高校生調査との比較

- ▶ 中学生調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、『家庭生活』で 50.0 ポイント、『社会全体』で 43.5 ポイント、それぞれ中学生より高くなっています。また、「平等である」の割合は、『家庭生活』で 44.6 ポイント中学生より低くなっています。
- ▶ 高校生調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、『家庭生活』で 43.6 ポイント、『社会生活』で 34.4 ポイント、それぞれ高校生より高くなっています。また、「平等である」の割合は、『家庭生活』で 40.4 ポイント高校生より低くなっています。

図表 1-22 “男性優遇”・「平等である」の割合〈中学生・高校生調査との比較〉

(単位：%)

		中学生			高校生		
		家庭生活	／学校 学校教育 生活の場	社会 全体	家庭 生活	／学 校 教 育 生 活 の 場	社会 全体
男性優遇	一般市民	58.3	17.9	71.3	58.3	17.9	71.3
	中学生／高校生	8.3	3.3	27.8	14.7	1.6	36.9
	差	50.0	14.6	43.5	43.6	16.3	34.4
平等	一般市民	24.8	52.8	15.8	24.8	52.8	15.8
	中学生／高校生	69.4	56.0	21.9	65.2	64.1	22.3
	差	-44.6	-3.2	-6.1	-40.4	-11.3	-6.5

### 3 家庭生活について

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたは  
どう思いますか。(〇は1つ)

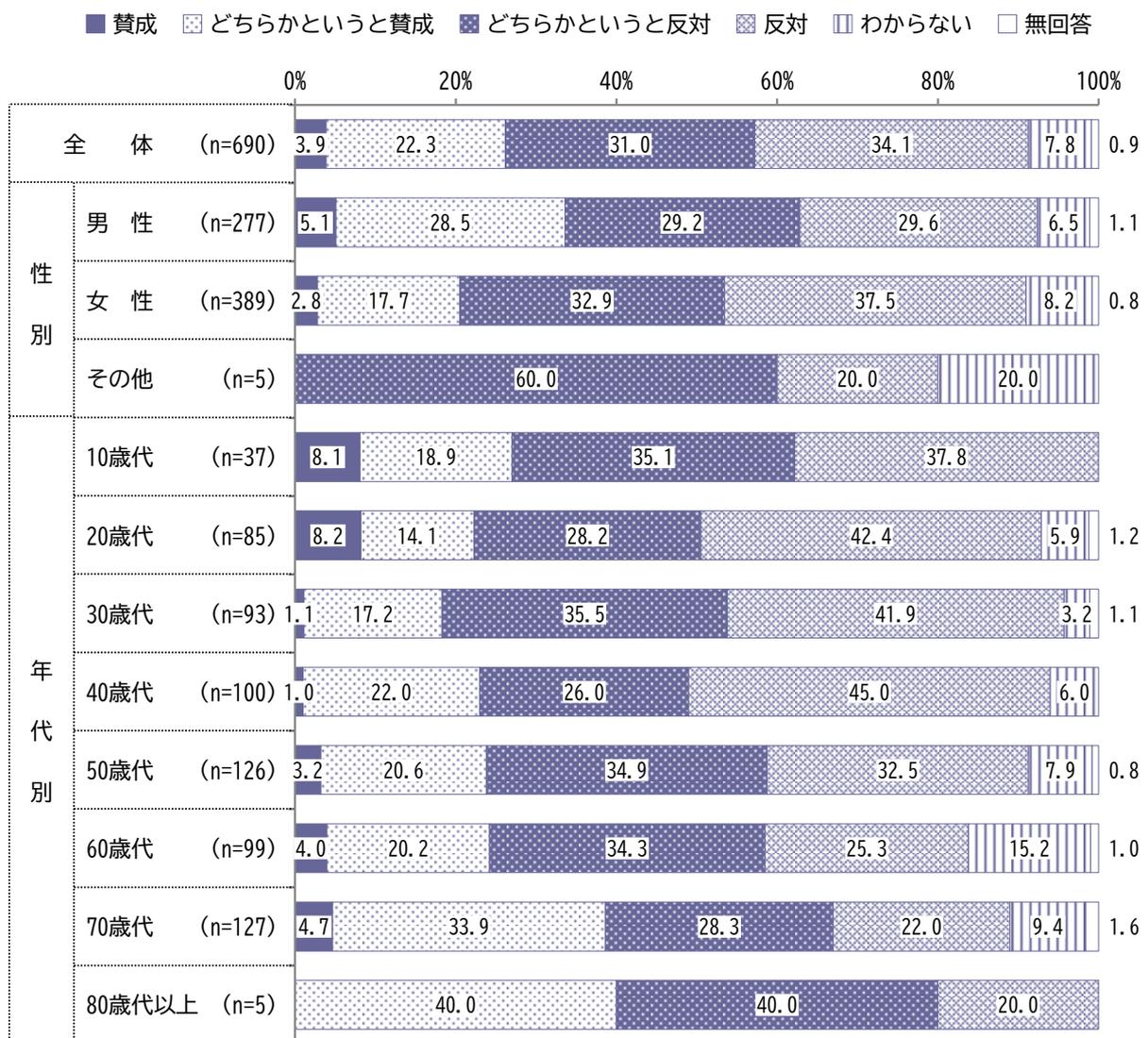
#### 全体/性別/年代別

- ▶ 「反対」が 34.1%で最も高く、次いで「どちらかという反対」が 31.0%、「どちらかという賛成」が 22.3%となっており、「概ね賛成※1」は 26.2%、「概ね反対※2」は 65.1%と、「概ね反対」が 38.9 ポイント高くなっています。
- ▶ 性別では、男性は“概ね賛成”が 33.6%、“概ね反対”が 58.8%で 25.2 ポイント差、女性は“概ね賛成”が 20.5%、“概ね反対”が 70.4%で 49.9 ポイント差と、いずれも“概ね反対”が上回っているものの、女性の方が大幅な差となっています。
- ▶ 年代別では、すべての年代で“概ね反対”が上回っているものの、70 歳代では、“概ね賛成”(38.6%)が他の年代よりも高くなっています。

※1 概ね賛成：「賛成」+「どちらかという賛成」

※2 概ね反対：「反対」+「どちらかという反対」

図表 1-23 固定的性別役割分担意識についての考え方（性別/年代別）



III. 調査結果／3 家庭生活について

職業別／性・就労状況別／子どもの有無別

- ▶ 職業別では、すべての職業で“概ね反対”が5割以上となっており、『専業主婦・専業主夫』と『無職』を除き、“概ね反対”が“概ね賛成”より約 50 ポイント高くなっています。
- ▶ 性・就労状況別では、すべての性・就労状況で“概ね反対”が“概ね賛成”を上回っており、なかでも、『仕事に就いている(女性)』で「反対」が 41.7%と、他の性・就労状況に比べて高く、『仕事に就いていない(男性)』よりも 20.2 ポイント高くなっています。
- ▶ 子どもの有無別では、どちらも“概ね反対”が“概ね賛成”より 40 ポイント前後高くなっています。

図表 1-24 固定的性別役割分担意識についての考え方（職業別/性・就労状況別/子どもの有無別）

(単位：%)

		件数 (件)	概ね 賛成	賛成	いど うち ら 賛か 成と	概ね 反対	いど うち ら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答
全 体		690	26.2	3.9	22.3	65.1	31.0	34.1	7.8	0.9
職 業	会社員	212	25.0	2.8	22.2	70.3	33.5	36.8	4.2	0.5
	公務員	38	23.7	7.9	15.8	68.4	28.9	39.5	5.3	2.6
	派遣・契約社員	18	22.2	-	22.2	72.2	44.4	27.8	5.6	-
	パートタイム・アルバイト	146	20.5	3.4	17.1	69.9	31.5	38.4	9.6	-
	自営業	45	22.2	2.2	20.0	68.9	31.1	37.8	8.9	-
	農業	4	50.0	-	50.0	50.0	25.0	25.0	-	-
	内職・在宅就業	2	50.0	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-
	専業主婦・専業主夫	79	30.4	5.1	25.3	54.4	32.9	21.5	12.7	2.5
	学生	9	11.1	11.1	-	66.6	33.3	33.3	11.1	11.1
	無職	109	33.9	5.5	28.4	55.1	25.7	29.4	10.1	0.9
その他	11	27.3	-	27.3	72.8	36.4	36.4	-	-	
性・ 就 労 状 況 ※	仕事に就いている(男性)	212	26.2	4.7	26.9	62.8	30.7	32.1	5.2	0.5
	仕事に就いている(女性)	259	31.6	1.9	15.4	75.7	34.0	41.7	6.6	0.4
	仕事に就いていない(男性)	65	17.3	6.2	33.8	46.1	24.6	21.5	10.8	3.1
	仕事に就いていない(女性)	130	40.0	4.6	22.3	60.0	30.8	29.2	11.5	1.5
子 ど も の 有 無	子どもがいる	488	26.9	3.5	23.4	64.8	31.6	33.2	7.4	1.0
	子どもはいない	178	24.2	5.1	19.1	66.9	30.9	36.0	8.4	0.6

※ 就労状況

- ・『仕事に就いている』は、職業の回答が「会社員」「公務員」「派遣・契約社員」「パートタイム・アルバイト」「自営業」「農業」「内職・在宅就業」「その他」
- ・『仕事に就いていない』は、職業の回答が「専業主婦・専業主夫」「学生」「無職」

### 過去調査との比較

- ▶ 過去の調査と比べると、「反対」と「どちらかという反対」の割合がともに平成 18 年以降で最も高く、“概ね反対”が“概ね賛成”より 38.9 ポイント高くなっています。

図表 1-25 固定的性別役割分担意識についての考え方〈過去調査との比較〉

(単位：%)

	概ね賛成	賛成	いど うち とら 賛か 成と	概ね 反対	いど うち とら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答
令和7年	26.2	3.9	22.3	65.1	31.0	34.1	7.8	0.9
令和2年	34.0	4.2	29.8	53.6	27.2	26.4	11.2	1.2
平成28年	37.4	4.5	32.9	48.3	26.3	22.0	13.5	-
平成22年	38.8	6.2	32.6	49.0	28.3	20.7	11.2	-
平成18年	37.6	7.3	30.3	51.1	24.9	26.2	9.7	-

### 全国調査との比較

- ▶ 全国調査と比べると、「どちらかという賛成」と「どちらかという反対」の割合は国より低く、「反対」は国より高くなっています。“概ね反対”の割合は、国と大きな差がみられない一方、“概ね賛成”は国より 6.9 ポイント低く、女性では国より 8.8 ポイント低くなっています。

図表 1-26 固定的性別役割分担意識についての考え方〈全国調査との比較〉

(単位：%)

		概ね賛成	賛成	いど うち とら 賛か 成と	概ね 反対	いど うち とら 反か 対と	反対	わ か ら な い	無 回 答
春日井市	全体	26.2	3.9	22.3	65.1	31.0	34.1	7.8	0.9
	男性	33.6	5.1	28.5	58.8	29.2	29.6	6.5	1.1
	女性	20.5	2.8	17.7	70.4	32.9	37.5	8.2	0.8
全国	全体	33.1	4.5	28.6	64.8	37.7	27.1	-	2.1
	男性	37.5	5.6	31.9	59.7	35.4	24.3	-	2.8
	女性	29.3	3.5	25.8	69.2	39.7	29.5	-	1.5

※全国…男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）

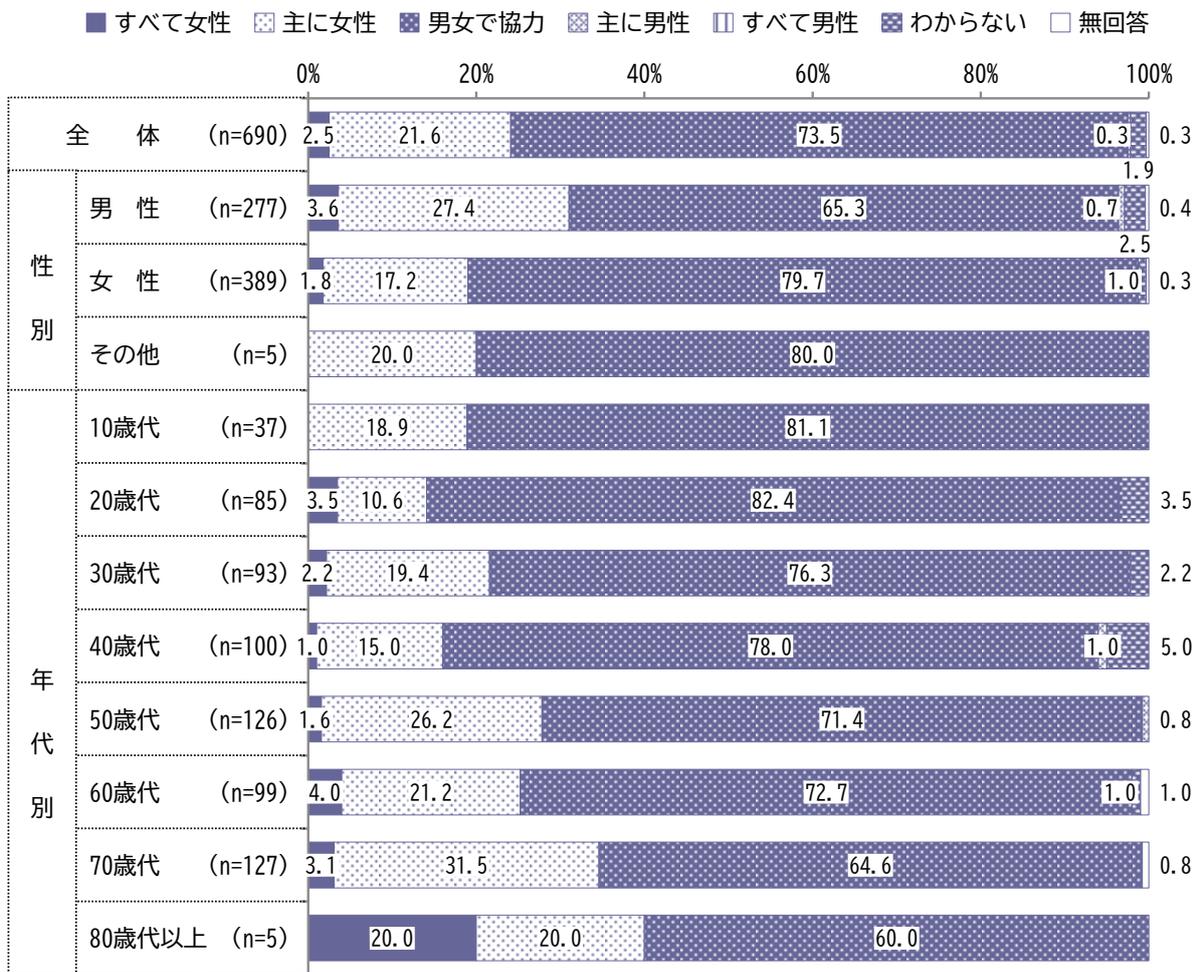


① 食事のしたく

全体 / 性別 / 年代別

- 「男女で協力」が73.5%で最も高く、次いで「主に女性」が21.6%、「すべて女性」が2.5%となっています。
- 性別では、男女ともに「男女で協力」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも14.4ポイント高くなっています。一方、男性では、「主に女性」が女性より10.2ポイント高くなっています。
- 年代別では、10～20歳代で「男女で協力」が8割を超えている一方、70歳代では「主に女性」(31.5%)が他の年代よりも高くなっています。
- 共働き状況別では、『その他』の家庭で、“主として女性<sup>※1</sup>”(36.3%)が他と比べて高くなっています。

図表 1-28 【理想】①食事の支度（性別/年代別）



図表 1-29 【理想】①食事の支度（共働き状況別）

(単位：%)

理想	(件数)	主として女性 <sup>※1</sup>	すべて女性	主に女性	協力男女	主として男性 <sup>※2</sup>	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	24.1	2.5	21.6	73.5	0.3	0.3	-	1.9	0.3
共働き家庭	124	24.2	1.6	22.6	74.2	-	-	-	1.6	-
準共働き家庭	158	22.1	2.5	19.6	75.9	0.6	0.6	-	1.3	-
非共働き家庭	106	24.6	3.8	20.8	74.5	-	-	-	0.9	-
その他	91	36.3	4.4	31.9	62.6	-	-	-	-	1.1

※1 主として女性：「すべて女性」+「主に女性」

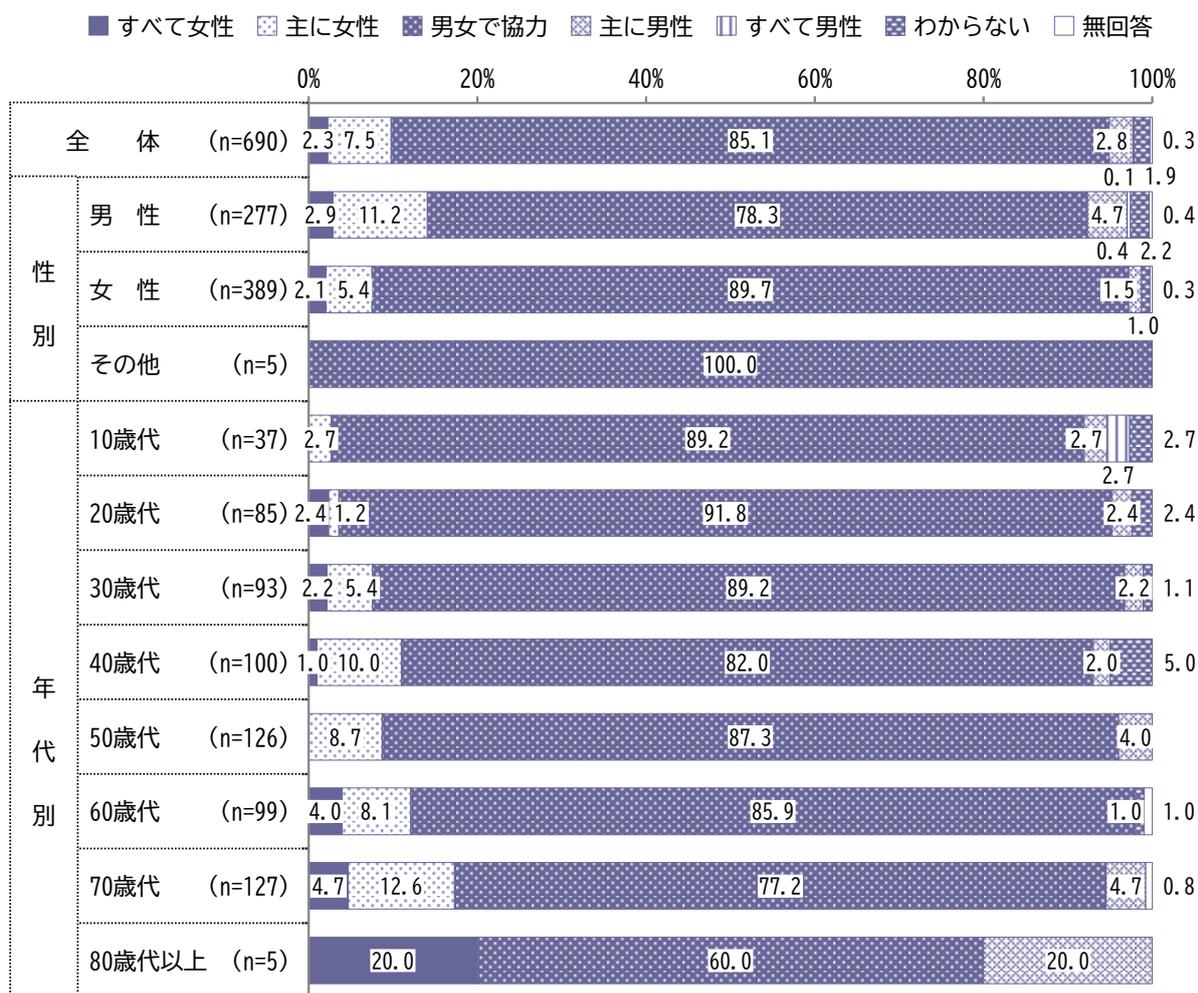
※2 主として男性：「すべて男性」+「主に男性」

② 食事の後片付け、食器洗い

全体 / 性別 / 年代別

- 「男女で協力」が 85.1%で最も高く、次いで「主に女性」が 7.5%、「主に男性」が 2.8%となっています。
- 性別では、男女ともに「男女で協力」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも 11.4 ポイント高くなっています。一方、男性では、「主に女性」が女性より 5.8 ポイント高くなっています。
- 年代別では、70 歳代以外で「男女で協力」が8割を超えており、なかでも、20 歳代は 91.8%と最も高くなっています。
- 共働き状況別では、『その他』の家庭以外で、「男女で協力」が8割を超えています。

図表 1-30 【理想】②食事の後片付け、食器洗い（性別/年代別）



図表 1-31 【理想】②食事の後片付け、食器洗い（共働き状況別）

(単位：%)

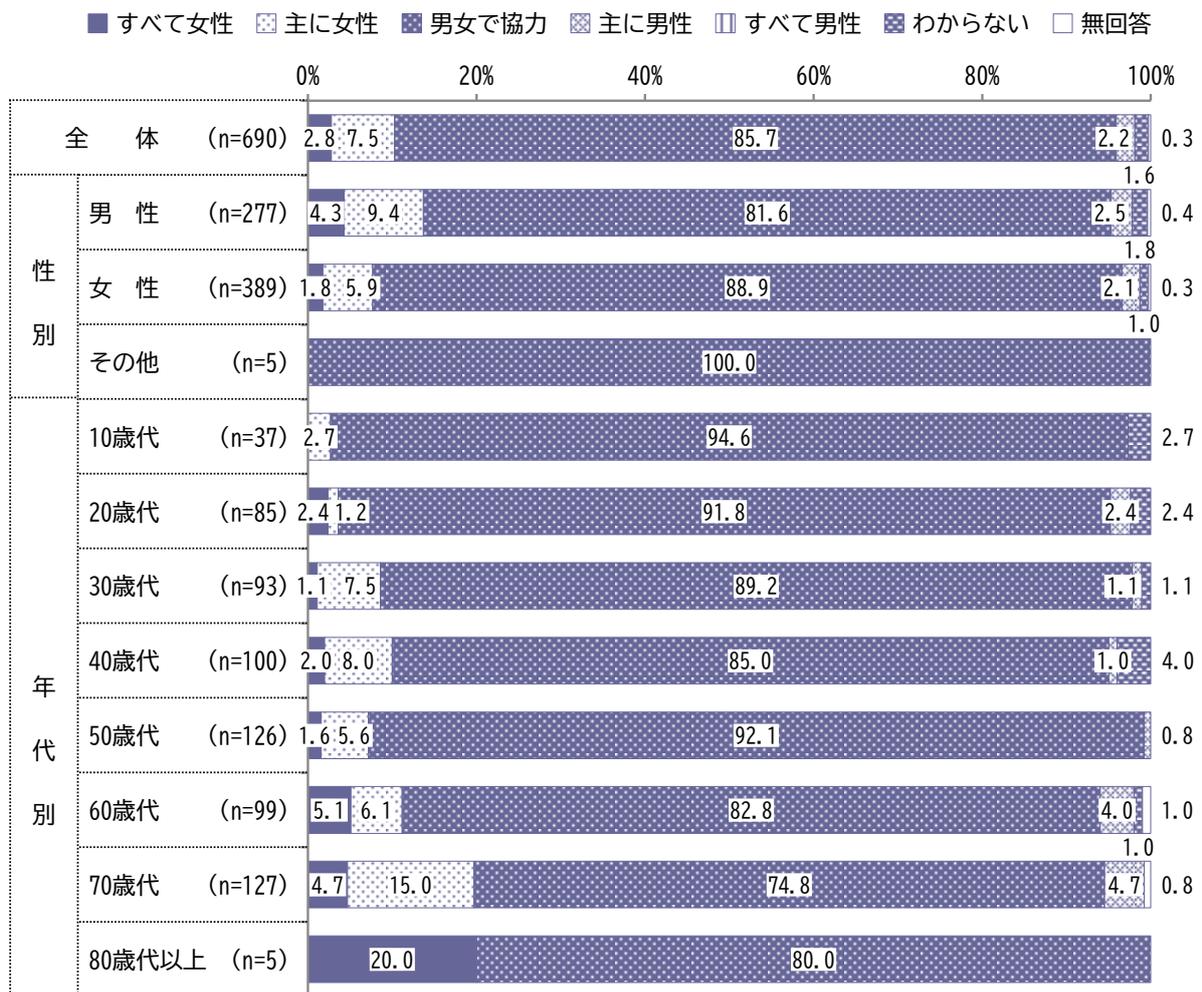
理想	(件数)	女性として	すべて女性	主に女性	協力男女	男性として	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	9.8	2.3	7.5	85.1	2.9	2.8	0.1	1.9	0.3
共働き家庭	124	6.4	1.6	4.8	87.1	4.8	4.0	0.8	1.6	-
準共働き家庭	158	9.5	1.9	7.6	88.0	1.9	1.9	-	0.6	-
非共働き家庭	106	14.2	3.8	10.4	84.0	0.9	0.9	-	0.9	-
その他	91	18.7	5.5	13.2	75.8	4.4	4.4	-	-	1.1

③ 掃除

全体／性別／年代別

- 「男女で協力」が85.7%で最も高く、次いで「主に女性」が7.5%、「すべて女性」が2.8%となっています。
- 性別では、男女ともに「男女で協力」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも7.3ポイント高くなっています。
- 年代別では、70歳代以外で「男女で協力」が8割を超えており、10～20歳代と50歳代では9割を超えています。
- 共働き状況別では、『共働き家庭』と『準共働き家庭』で「男女で協力」が約9割となっています。

図表 1-32 【理想】③掃除（性別/年代別）



図表 1-33 【理想】③掃除（共働き状況別）

(単位：%)

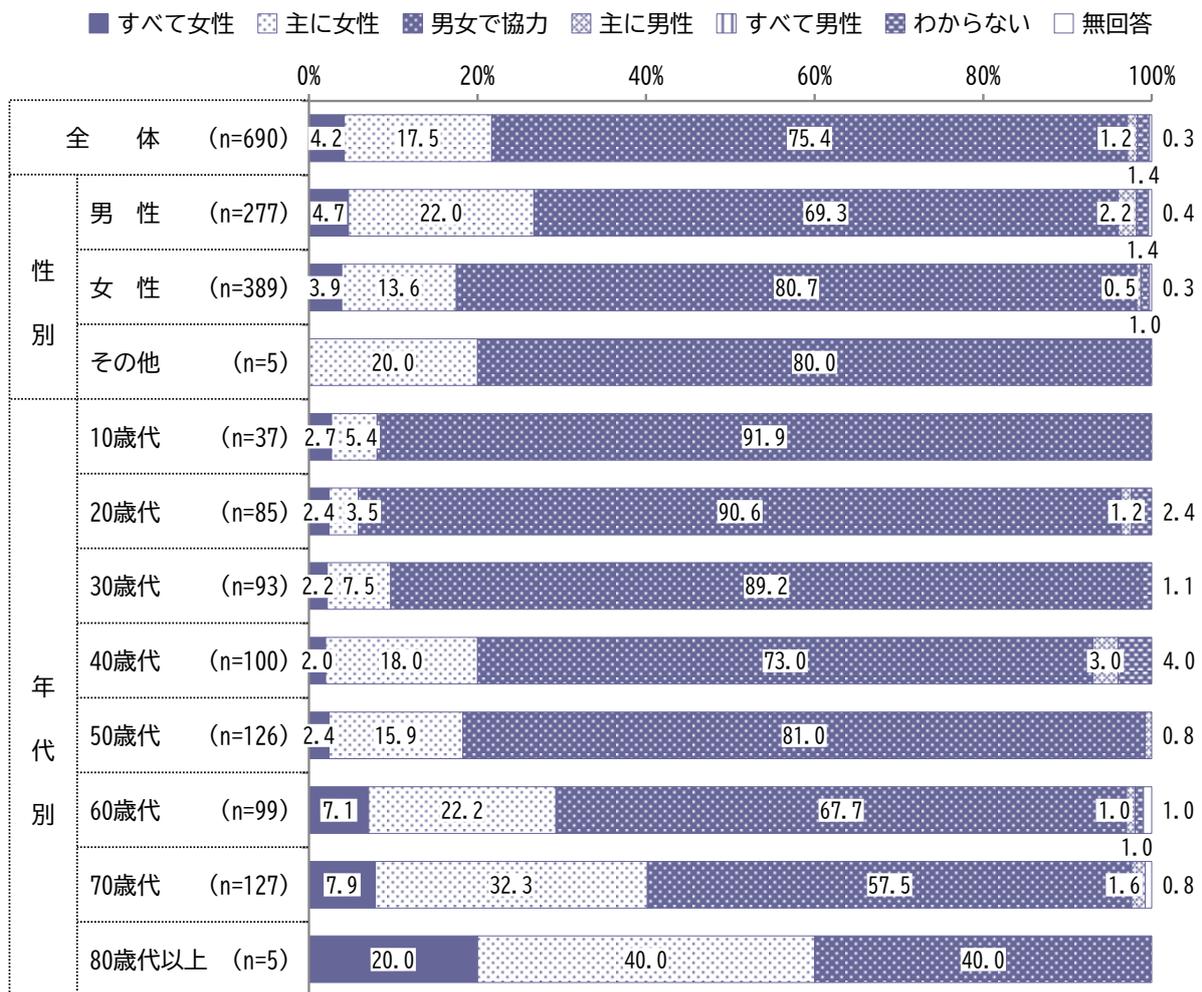
理想	(件数)	女性として	すべて女性として	主に女性	協力男女で	男性として	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	10.3	2.8	7.5	85.7	2.2	2.2	-	1.6	0.3
共働き家庭	124	6.4	2.4	4.0	90.3	2.4	2.4	-	0.8	-
準共働き家庭	158	8.3	1.3	7.0	90.5	0.6	0.6	-	0.6	-
非共働き家庭	106	12.3	5.7	6.6	85.8	0.9	0.9	-	0.9	-
その他	91	23.1	6.6	16.5	69.2	6.6	6.6	-	-	1.1

④ 洗濯

全体 / 性別 / 年代別

- 「男女で協力」が75.4%で最も高く、次いで「主に女性」が17.5%、「すべて女性」が4.2%となっています。
- 性別では、男女ともに「男女で協力」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも11.4ポイント高くなっています。一方、男性では、「主に女性」が女性より8.4ポイント高くなっています。
- 年代別では、30歳代以下で「男女で協力」(9割前後)、70歳代で「主に女性」(32.3%)が他の年代よりも高くなっています。
- 共働き状況別では、『その他』の家庭で、“主として女性”(41.8%)が他と比べて高くなっています。

図表 1-34 【理想】④洗濯 (性別/年代別)



図表 1-35 【理想】④洗濯 (共働き状況別)

(単位: %)

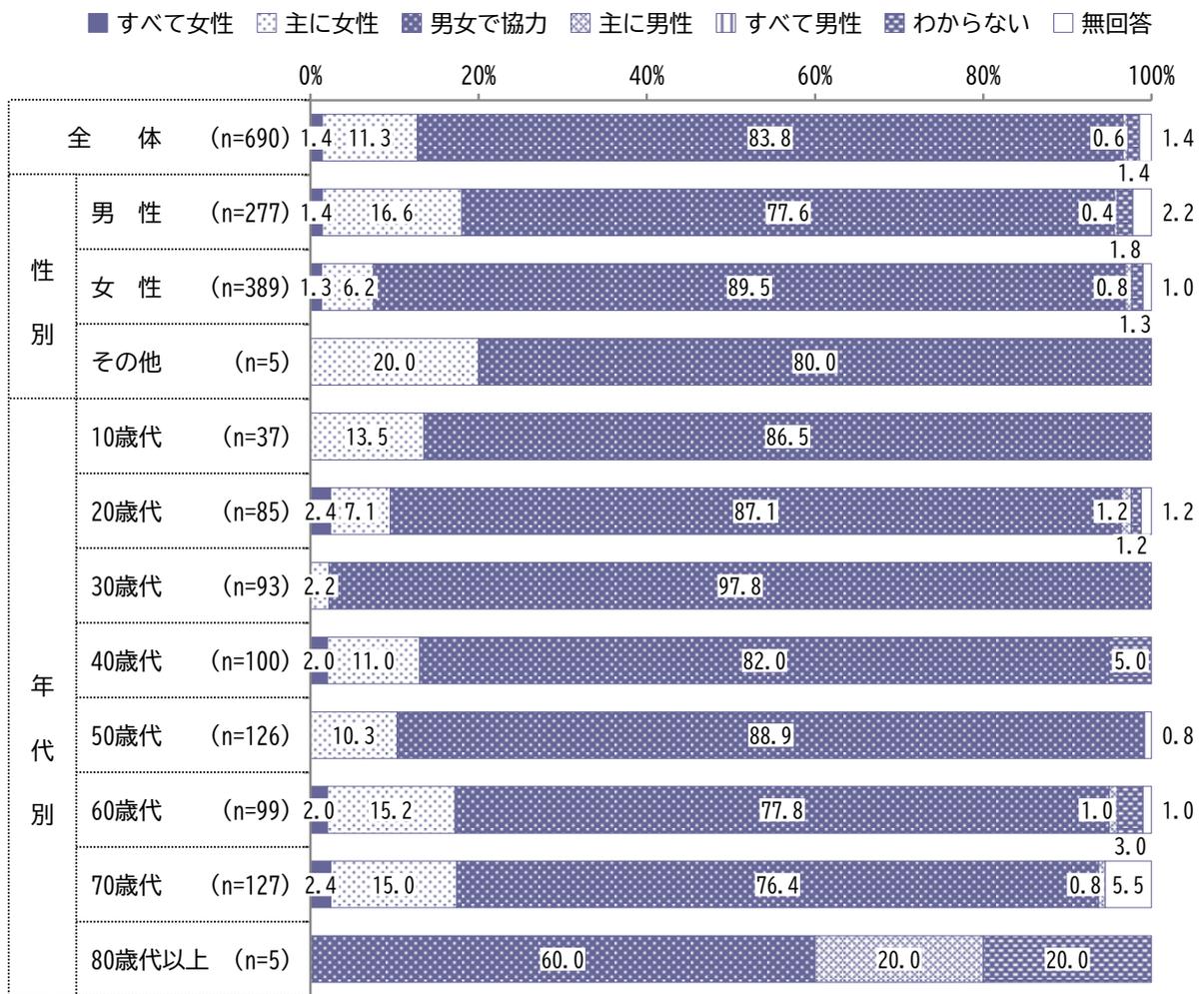
理想	(件数)	女性として	すべて女性	主に女性	協力男女	男性として	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	21.7	4.2	17.5	75.4	1.2	1.2	-	1.4	0.3
共働き家庭	124	16.9	2.4	14.5	79.0	3.2	3.2	-	0.8	-
準共働き家庭	158	19.0	2.5	16.5	79.7	0.6	0.6	-	0.6	-
非共働き家庭	106	24.5	7.5	17.0	73.6	0.9	0.9	-	0.9	-
その他	91	41.8	8.8	33.0	56.0	1.1	1.1	-	-	1.1

⑤ 育児・しつけ

全体／性別／年代別

- 「男女で協力」が 83.8%で最も高く、次いで「主に女性」が 11.3%、「すべて女性」と「わからない」が 1.4%となっています。
- 性別では、男女ともに「男女で協力」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも 11.9 ポイント高くなっています。一方、男性では、「主に女性」が女性より 10.4 ポイント高くなっています。
- 年代別では、50 歳代以下で「男女で協力」が8割を超えており、なかでも、30 歳代は 97.8%と最も高くなっています。
- 共働き状況別では、『準共働き家庭』で、「男女で協力」(89.2%)が他と比べてやや高くなっています。

図表 1-36 【理想】⑤育児・しつけ（性別/年代別）



図表 1-37 【理想】⑤育児・しつけ（共働き状況別）

(単位：%)

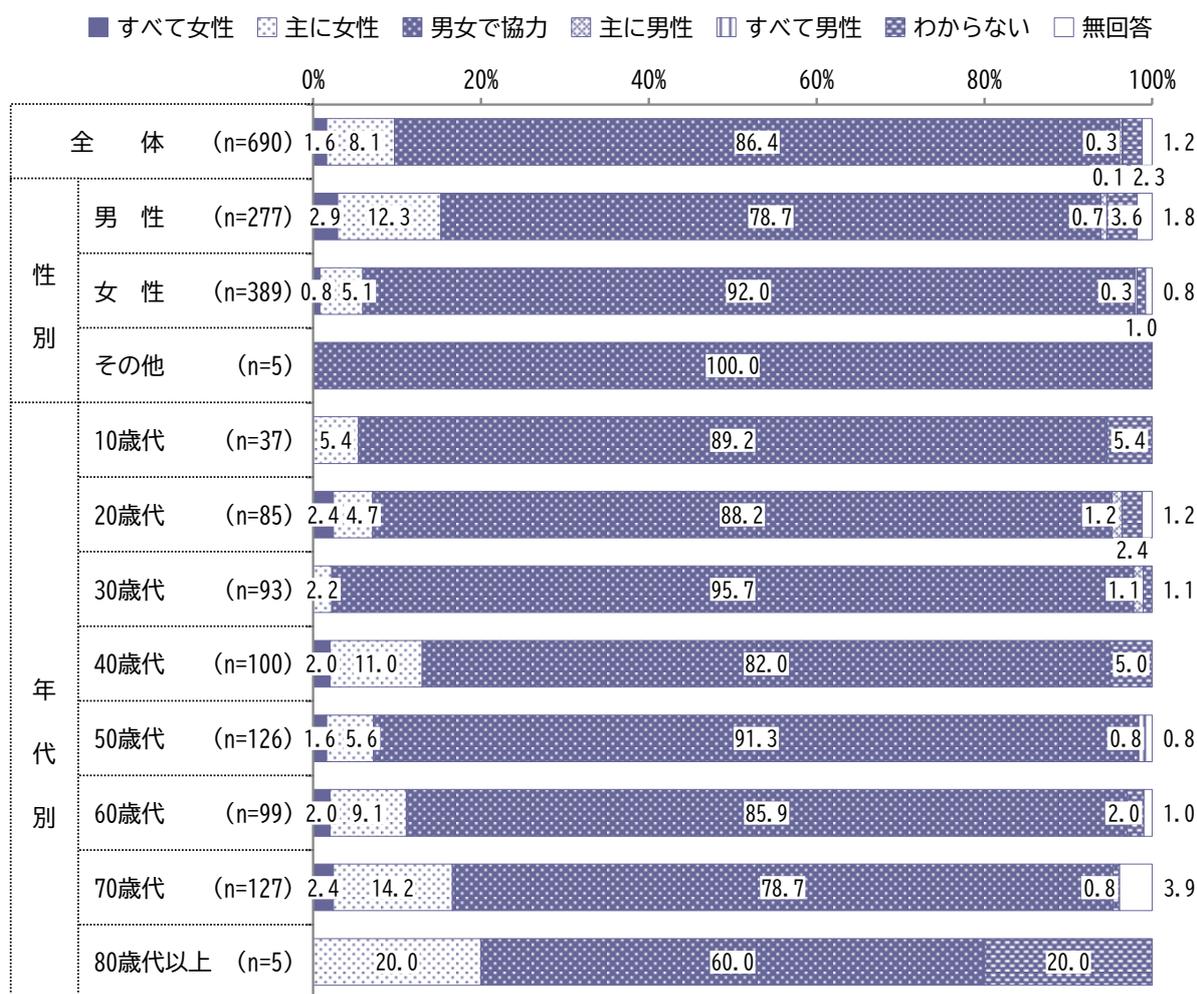
理想	(件数)	女性として	すべて女性	主に女性	協力男女で	男性として	主に男性	男性すべて	わからない	無回答
全体	690	12.7	1.4	11.3	83.8	0.6	0.6	-	1.4	1.4
共働き家庭	124	9.7	1.6	8.1	86.3	0.8	0.8	-	2.4	0.8
準共働き家庭	158	9.5	0.6	8.9	89.2	-	-	-	0.6	0.6
非共働き家庭	106	13.2	-	13.2	81.1	0.9	0.9	-	1.9	2.8
その他	91	18.7	4.4	14.3	79.1	-	-	-	-	2.2

⑥ 看護・介護

全体 / 性別 / 年代別

- 「男女で協力」が86.4%で最も高く、次いで「主に女性」が8.1%、「わからない」が2.3%となっています。
- 性別では、男女ともに「男女で協力」が最も高くなっているものの、女性が男性よりも13.3ポイント高くなっています。一方、男性では、「主に女性」が女性より7.2ポイント高くなっています。
- 年代別では、70歳代以外で「男女で協力」が8割を超えており、30歳代と50歳代では9割を超えています。
- 共働き状況別では、『準共働き家庭』で、「男女で協力」(89.9%)が他と比べてやや高くなっています。

図表 1-38 【理想】⑥看護・介護（性別/年代別）



図表 1-39 【理想】⑥看護・介護（共働き状況別）

(単位：%)

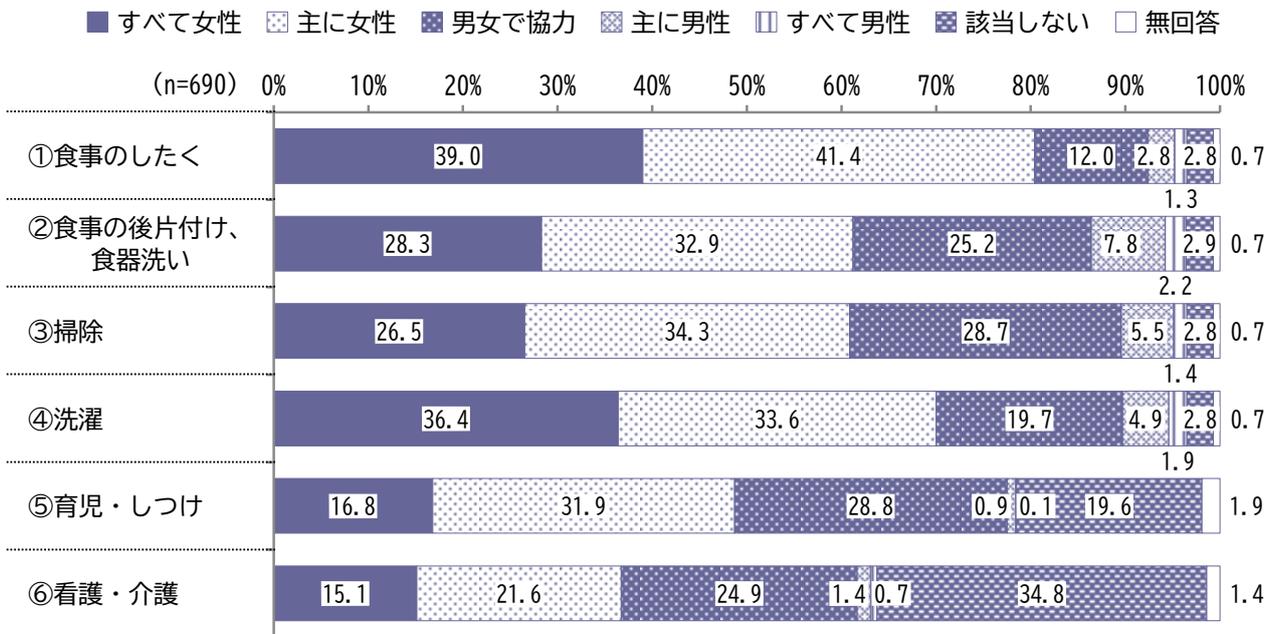
理想	(件数)	女性として	すべて女性	主に女性	協働男女	男性として	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	9.7	1.6	8.1	86.4	0.4	0.3	0.1	2.3	1.2
共働き家庭	124	11.3	3.2	8.1	84.7	-	-	-	3.2	0.8
準共働き家庭	158	8.2	0.6	7.6	89.9	1.2	0.6	0.6	-	0.6
非共働き家庭	106	9.4	0.9	8.5	85.8	-	-	-	2.8	1.9
その他	91	15.4	3.3	12.1	83.5	-	-	-	-	1.1

問4 あなたの家庭では、次のような家庭内の仕事を、現実には主に誰が受けもっていますか。(①～⑥についてそれぞれ○を1つ)

**全体**

- 「すべて女性」をみると、『①食事のしたく』と『④洗濯』では3割台後半、『②食事の後片付け、食器洗い』、『③掃除』では2割台後半となっています。「男女で協力」をみると、『②食事の後片付け、食器洗い』、『③掃除』、『⑤育児・しつけ』、『⑥看護・介護』では2割台半ば～後半となっています。
- 『①食事の支度』では、“主として女性”が80.4%、“主として男性”が4.1%、『②食事の後片付け、食器洗い』では、“主として女性”が61.2%、“主として男性”が10.0%、『③掃除』では、“主として女性”が60.8%、“主として男性”が6.9%、『④洗濯』では、“主として女性”が70.0%、“主として男性”が6.8%、『⑤育児・しつけ』では、“主として女性”が48.7%、“主として男性”が1.0%、『⑥看護・介護』では、“主として女性”が36.7%、“主として男性”が2.1%と、すべての分野で“主として女性”が大幅に上回っており、なかでも、『①食事の支度』、『④洗濯』では60ポイント以上の大きな差となっています。

図表 1-40 家庭内の仕事の分担【現実】

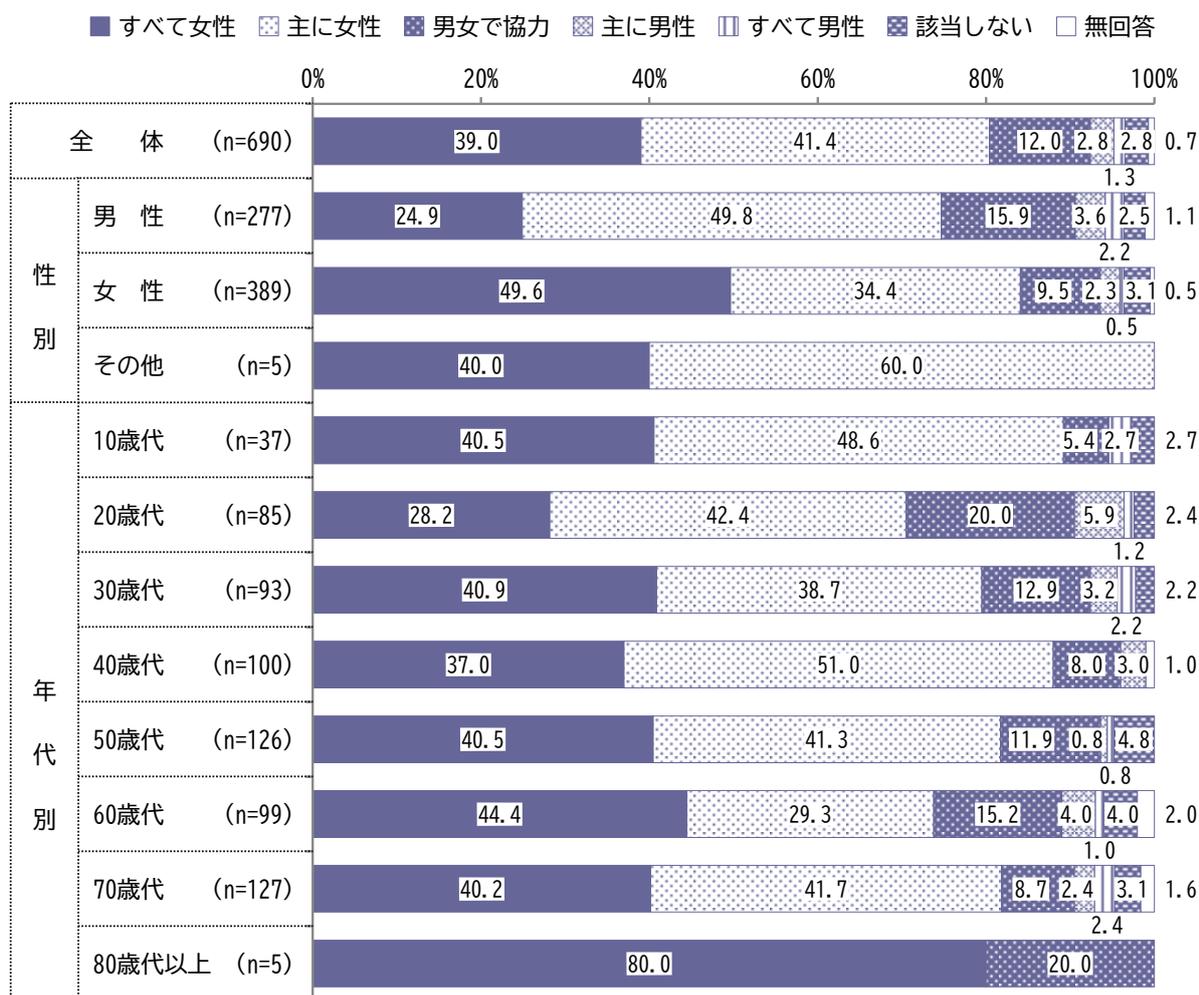


① 食事のしたく

全体 / 性別 / 年代別

- 「主に女性」が41.4%で最も高く、次いで「すべて女性」が39.0%、「男女で協力」が12.0%となっています。
- 性別では、女性で、「すべて女性」(49.6%)が男性より 24.7 ポイント高くなっています。一方、男性では、「男女で協力」(15.9%)が女性より 6.4 ポイント高くなっています。
- 年齢別では、30～50 歳代と 70 歳代で、“主として女性”が8割前後を占めています。一方、20 歳代では、「男女で協力」(20.0%)が他の年代よりも高くなっています。
- 共働き状況別では、『その他』の家庭で、「すべて女性」(46.2%)が他と比べてやや高くなっています。

図表 1-41 【現実】①食事の支度（性別/年代別）



図表 1-42 【現実】①食事の支度（共働き状況別）

(単位：%)

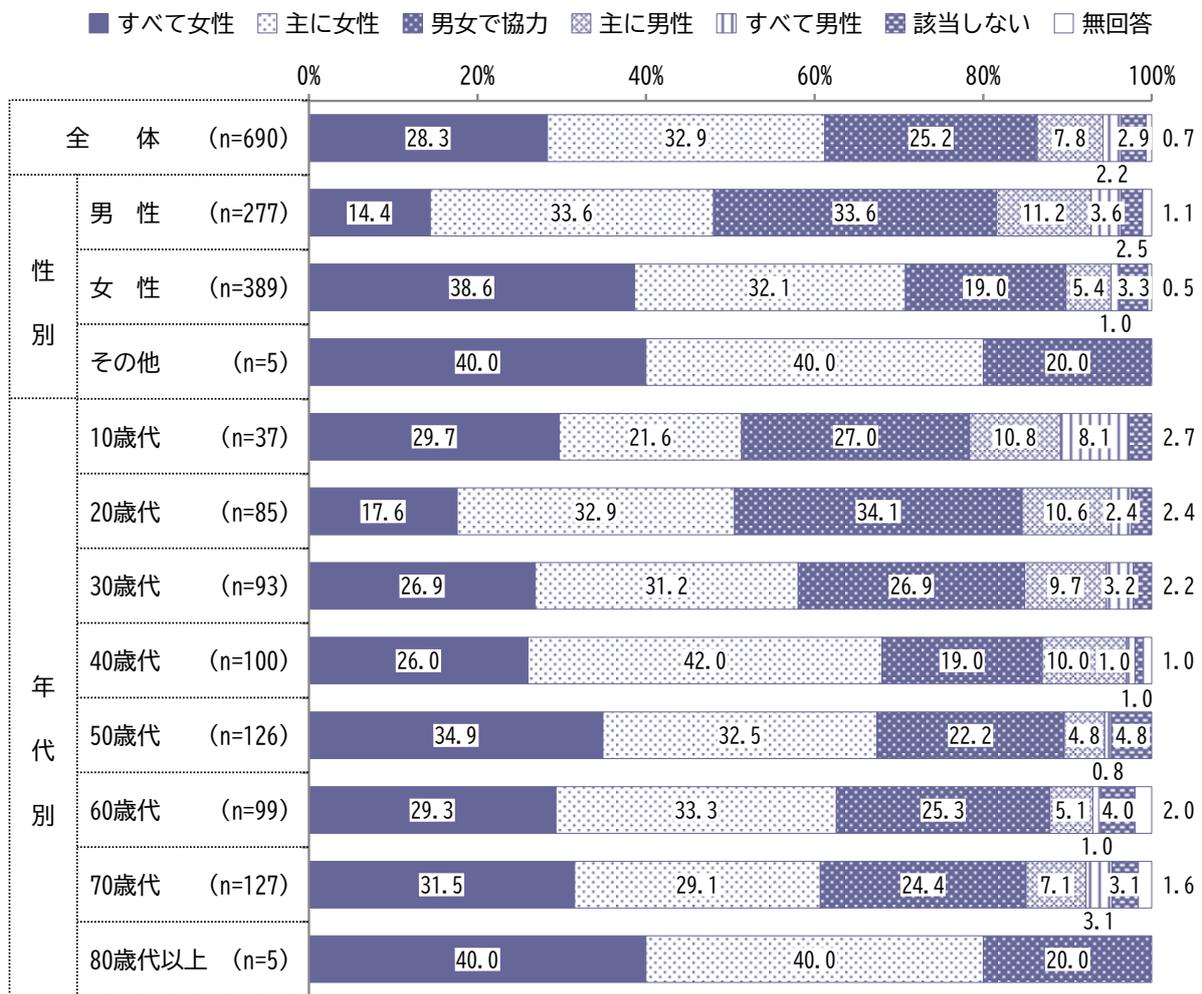
現実	(件数)	女性として	すべて女性	主に女性	協力男女	男性として	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	80.4	39.0	41.4	12.0	4.1	2.8	1.3	2.8	0.7
共働き家庭	124	81.5	31.5	50.0	14.5	4.0	3.2	0.8	-	-
準共働き家庭	158	82.9	38.6	44.3	13.3	3.2	3.2	-	0.6	-
非共働き家庭	106	84.0	43.4	40.6	13.2	2.8	1.9	0.9	-	-
その他	91	84.7	46.2	38.5	11.0	3.3	2.2	1.1	-	1.1

② 食事の後片付け、食器洗い

全体／性別／年代別

- 「主に女性」が32.9%で最も高く、次いで「すべて女性」が28.3%、「男女で協力」が25.2%となっています。
- 性別では、女性で、「すべて女性」(38.6%)が男性より 24.2 ポイント高くなっています。一方、男性では、「男女で協力」(33.6%)が女性より 14.6 ポイント高くなっています。
- 年齢別では、50 歳代と 70 歳代で、「すべて女性」が3割を超えています。一方、20 歳代では、「男女で協力」(34.1%)が他の年代よりも高くなっています。
- 共働き状況別では、『共働き家庭』で「男女で協力」(33.9%)、『その他』の家庭で“主として女性” (68.2%)が他と比べてやや高くなっています。

図表 1-43 【現実】②食事の後片付け、食器洗い（性別/年代別）



図表 1-44 【現実】②食事の後片付け、食器洗い（共働き状況別）

(単位：%)

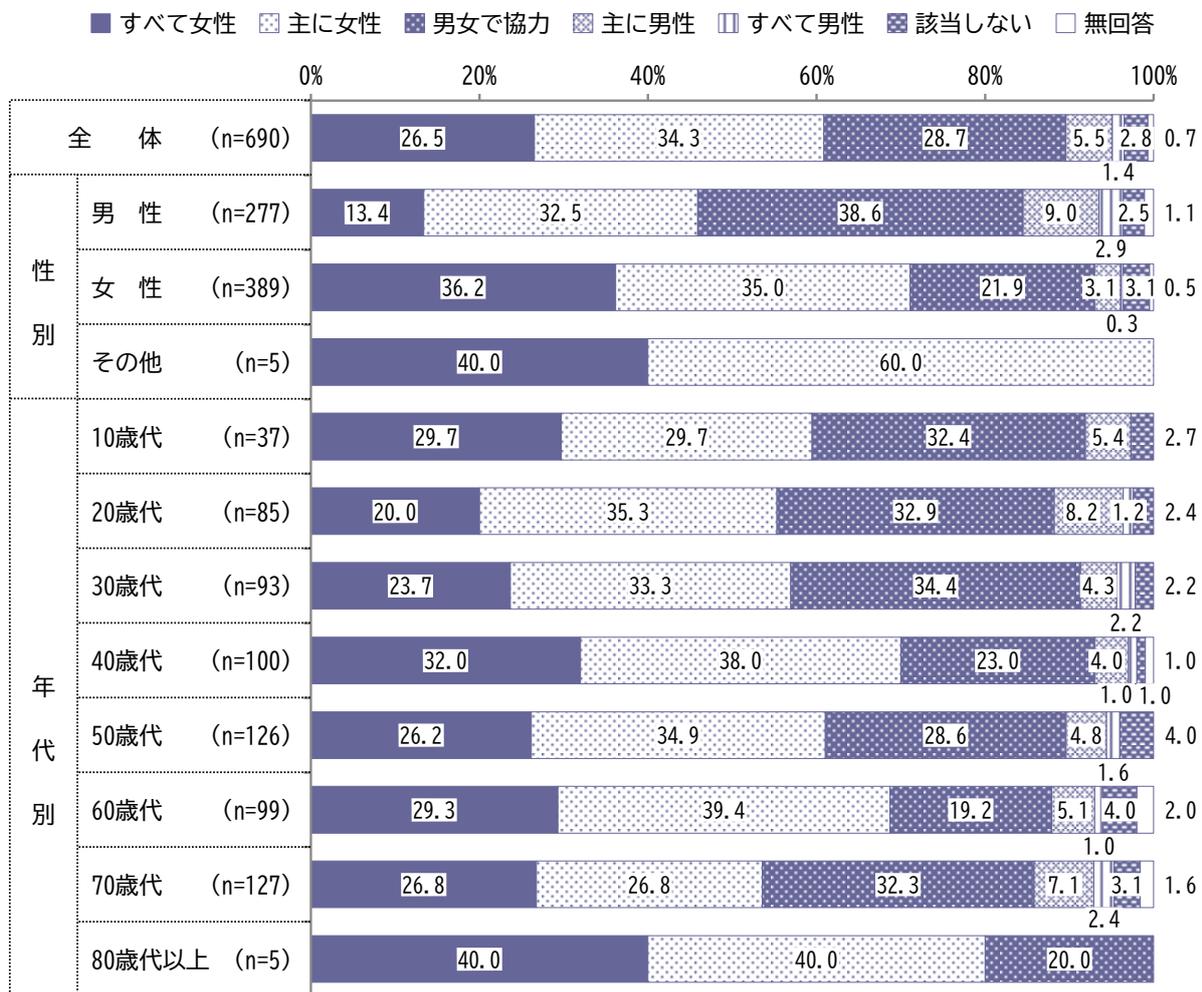
現実	(件数)	女性として	すべて女性	主に女性	協働男女	男性として	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	690	61.2	28.3	32.9	25.2	10.0	7.8	2.2	2.9	0.7
共働き家庭	124	50.0	18.5	31.5	33.9	15.3	12.9	2.4	0.8	-
準共働き家庭	158	62.0	27.8	34.2	27.8	9.5	8.9	0.6	0.6	-
非共働き家庭	106	66.0	30.2	35.8	29.2	4.7	4.7	-	-	-
その他	91	68.2	33.0	35.2	18.7	12.1	9.9	2.2	-	1.1

③ 掃除

全体 / 性別 / 年代別

- 「主に女性」が34.3%で最も高く、次いで「男女で協力」が28.7%、「すべて女性」が26.5%となっています。
- 性別では、女性で、「すべて女性」(36.2%)が男性より22.8ポイント高くなっています。一方、男性では「男女で協力」(38.6%)が女性より16.7ポイント高くなっています。
- 年齢別では、40歳代と60歳代で、“主として女性”が7割前後を占めています。一方、30歳代以下と70歳代では、「男女で協力」(3割台前半)が他の年代よりも高くなっています。
- 共働き状況別では、『準共働き家庭』と『非共働き家庭』で“主として女性”(66%台)が他と比べてやや高くなっています。

図表 1-45 【現実】③掃除 (性別/年代別)



図表 1-46 【現実】③掃除 (共働き状況別)

(単位: %)

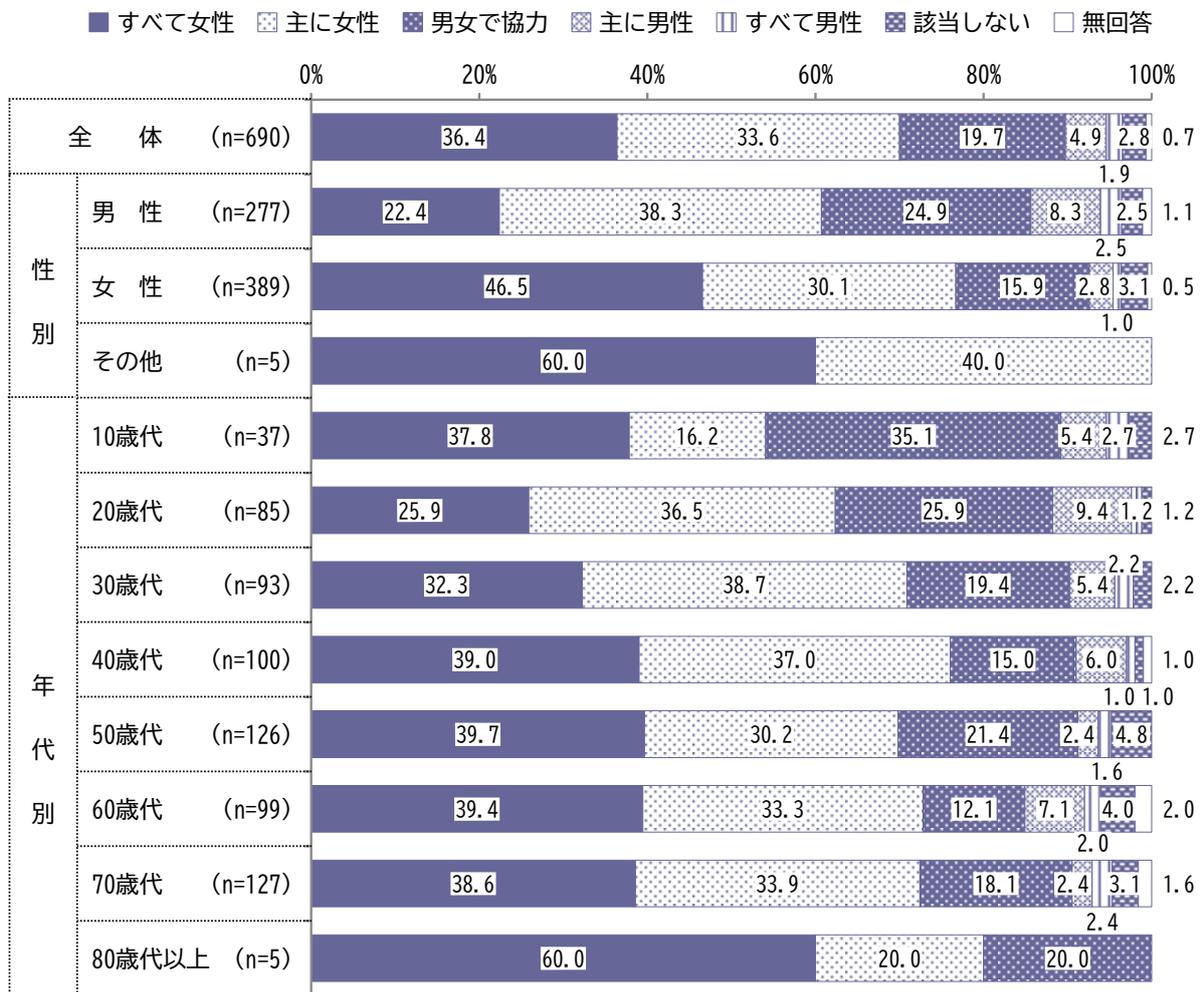
現実	(件数)	女性として	女性すべて	主に女性	協働男女	男性として	主に男性	男性すべて	わからない	無回答
全体	690	60.8	26.5	34.3	28.7	6.9	5.5	1.4	2.8	0.7
共働き家庭	124	51.6	17.7	33.9	38.7	8.9	8.1	0.8	0.8	-
準共働き家庭	158	66.5	26.6	39.9	29.1	3.8	3.8	-	0.6	-
非共働き家庭	106	66.1	23.6	42.5	29.2	4.7	3.8	0.9	-	-
その他	91	56.1	27.5	28.6	31.9	11.0	9.9	1.1	-	1.1

④ 洗濯

全体／性別／年代別

- 「すべて女性」が36.4%で最も高く、次いで「主に女性」が33.6%、「男女で協力」が19.7%となっています。
- 性別では、女性で、「すべて女性」(46.5%)が男性より24.1ポイント高くなっています。一方、男性では、「男女で協力」(24.9%)が女性より9.0ポイント高くなっています。
- 年齢別では、20～30歳代を除き、「すべて女性」が約4割となっています。一方、10歳代では「男女で協力」(35.1%)が他の年代よりも高くなっています。
- 共働き状況別では、『共働き家庭』で「男女で協力」(41.1%)が他と比べて高くなっている一方、『共働き家庭』以外では“主として女性”が7割以上を占めています。

図表 1-47 【現実】④洗濯（性別/年代別）



図表 1-48 【現実】④洗濯（共働き状況別）

(単位：%)

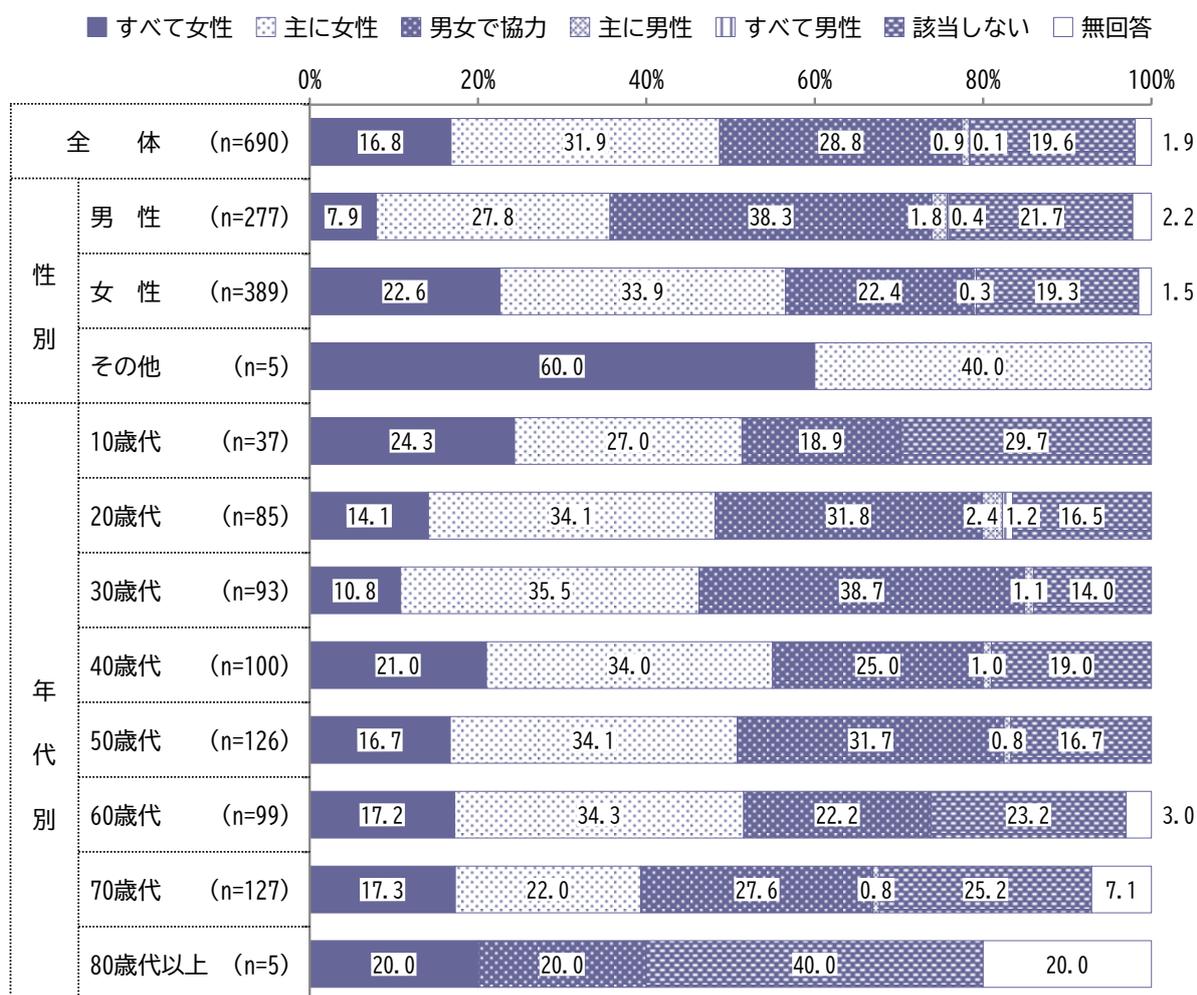
現実	(件数)	女主として	女すべて	主に女性	協男女力女で	男主として	主に男性	男すべて	いわから	無回答
全体	690	70.0	36.4	33.6	19.7	6.8	4.9	1.9	2.8	0.7
共働き家庭	124	48.4	20.2	28.2	41.1	9.7	8.9	0.8	0.8	-
準共働き家庭	158	78.5	38.0	40.5	16.5	4.4	3.8	0.6	0.6	-
非共働き家庭	106	74.6	40.6	34.0	19.8	5.7	3.8	1.9	-	-
その他	91	79.2	41.8	37.4	14.3	5.5	4.4	1.1	-	1.1

⑤ 育児・しつけ

全体 / 性別 / 年代別

- 「主に女性」が31.9%で最も高く、次いで「男女で協力」が28.8%、「該当しない」が19.6%となっています。
- 性別では、女性で、「すべて女性」(22.6%)が男性より14.7ポイント高くなっています。一方、男性では「男女で協力」(38.3%)が女性より15.9ポイント高くなっています。
- 年齢別では、10歳代と40歳代で、「すべて女性」が2割を超えています。一方、20～30歳代と50歳代では、「男女で協力」が3割を超えています。
- 共働き状況別では、『準共働き家庭』で、“主として女性”(57.6%)が他と比べて高くなっています。

図表 1-49 【現実】⑤育児・しつけ（性別/年代別）



図表 1-50 【現実】⑤育児・しつけ（共働き状況別）

(単位：%)

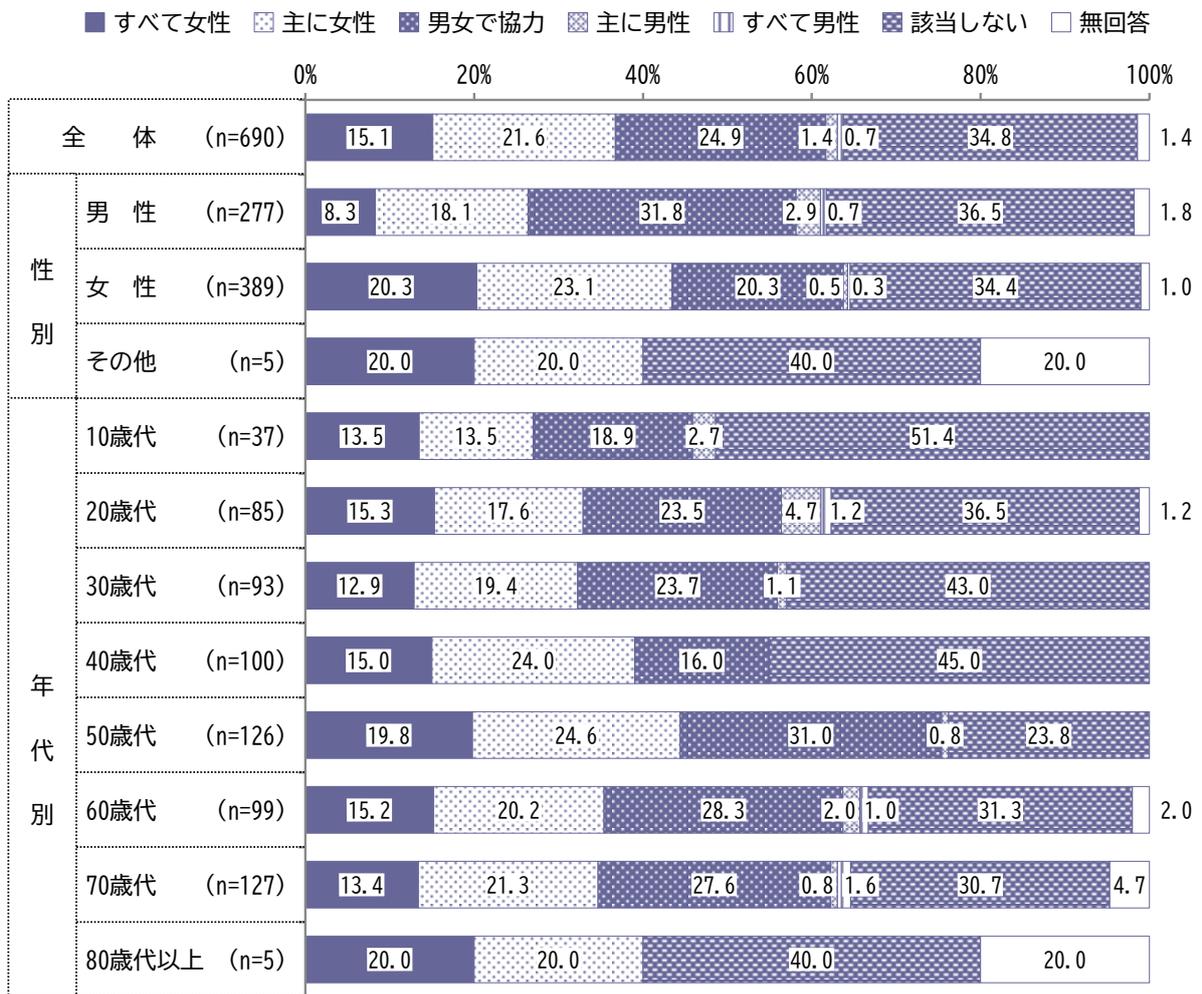
現実	(件数)	女 主 性 と し て	女 す べ て	主 に 女 性	協 男 力 女 で	男 主 性 と し て	主 に 男 性	男 す べ て	い わ か ら な	無 回 答
全体	690	48.7	16.8	31.9	28.8	1.0	0.9	0.1	19.6	1.9
共働き家庭	124	44.4	8.1	36.3	33.9	0.8	0.8	-	20.2	0.8
準共働き家庭	158	57.6	15.2	42.4	30.4	0.6	0.6	-	11.4	-
非共働き家庭	106	46.3	14.2	32.1	37.7	0.9	0.9	-	12.3	2.8
その他	91	42.9	19.8	23.1	26.4	-	-	-	24.2	6.6

⑥ 看護・介護

全体／性別／年代別

- 「該当しない」が34.8%で最も高く、次いで「男女で協力」が24.9%、「主に女性」が21.6%となっています。
- 性別では、女性で、「すべて女性」(20.3%)が男性より12.0ポイント高くなっています。一方、男性では、「男女で協力」(31.8%)が女性より11.5ポイント高くなっています。
- 年齢別では、50～70歳代で、「男女で協力」が3割前後となっています。
- 共働き状況別では、『非共働き家庭』で、「男女で協力」(34.0%)が他と比べて高くなっています。

図表 1-51 【現実】⑥看護・介護（性別/年代別）



図表 1-52 【現実】⑥看護・介護（共働き状況別）

(単位：%)

現実	(件数)	女主性として	女すべて	主に女性	協男力女で	男主性として	主に男性	男すべて	いわから	無回答
全体	690	36.7	15.1	21.6	24.9	2.1	1.4	0.7	34.8	1.4
共働き家庭	124	35.5	12.9	22.6	25.8	-	-	-	37.9	0.8
準共働き家庭	158	38.6	11.4	27.2	22.2	1.9	1.9	-	37.3	-
非共働き家庭	106	34.0	14.2	19.8	34.0	3.8	1.9	1.9	26.4	1.9
その他	91	31.9	14.3	17.6	29.7	2.2	1.1	1.1	33.0	3.3

家庭内の仕事分担の理想と現実の比較

- ▶ 家庭内の仕事分担の理想と現実を比べると、いずれの項目も理想では「男女で協力」が最も高くなっている一方、現実では“主として女性”が最も高くなっています。
- ▶ 理想では、「男女で協力」が『①食事のしたく』と『②看護・介護』で 61.5 ポイント、それ以外の項目でも 55 ポイント以上、それぞれ現実よりも高くなっています。
- ▶ 現実では、“主として女性”が『①食事のしたく』、『②食事の後片付け、食器洗い』、『③掃除』で 50 ポイント以上、それぞれ理想よりも高くなっています。

図表 1-53 家庭内の仕事分担〈理想と現実の比較〉

(単位：%)

	①食事のしたく			②食事の後片付け、食器洗い			③掃除		
	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として
理想	24.1	73.5	0.3	9.8	85.1	2.9	10.3	85.7	2.2
現実	80.4	12.0	4.1	61.2	25.2	10.0	60.8	28.7	6.9
差	-56.3	61.5	-3.8	-51.4	59.9	-7.1	-50.5	57.0	-4.7

	④洗濯			⑤育児・しつけ			⑥看護・介護		
	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として	女性として	男女で協力	男性として
理想	21.7	75.4	1.2	12.7	83.8	0.6	9.7	86.4	0.4
現実	70.0	19.7	6.8	48.7	28.8	1.0	36.7	24.9	2.1
差	-48.3	55.7	-5.6	-36.0	55.0	-0.4	-27.0	61.5	-1.7

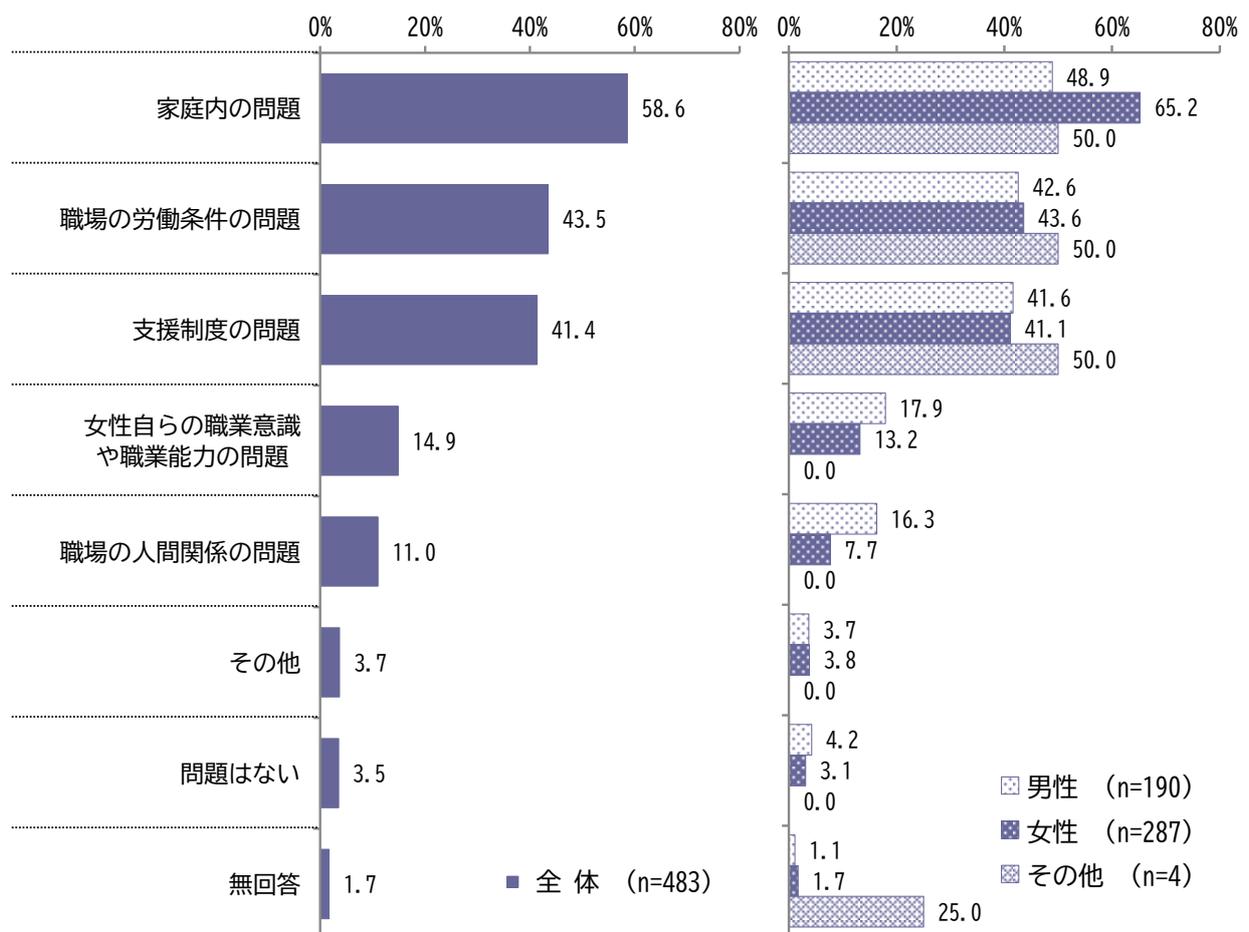
## 4 女性の職業生活について

問5 あなたは、女性が職業に就いたり、職業生活を続けたりする上で、障壁となっているものは何だと思いますか。(〇は2つまで)  
 〈現在結婚している方(事実婚を含む)〉

### 全体/性別

- ▶ 「家庭内の問題(家族の協力や理解、育児や介護など)」が 58.6%で最も高く、次いで「職場の労働条件の問題(賃金、労働時間、休暇制度など)」が 43.5%、「支援制度の問題(子育て・介護家庭支援、再就職支援など)」が 41.4%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「家庭内の問題」(65.2%)が男性より 16.3 ポイント高くなっています。一方、男性では、「職場の人間関係の問題(上司や同僚の無理解、セクシュアルハラスメントなど)」(16.3%)が 8.6 ポイント、「女性自らの職業意識や職業能力の問題(責任ある仕事への不安、仕事への取り組み姿勢など)」(17.9%)が 4.7 ポイント、それぞれ女性よりも高くなっています。

図表 1-54 女性の就労上の障壁(性別)



### III. 調査結果 / 4 女性の職業生活について

#### 年代別 / 子どもの有無別

- ▶ 年代別では、20～70 歳代で「家庭内の問題」(約5～7割)が最も高くなっています。10 歳代と 30 歳代では「支援制度の問題」(10 歳代:72.7%、30 歳代:54.4%)、20 歳代では「職場の労働条件の問題」(51.3%)が他の年代と比べて高くなっています。
- ▶ 子どもの有無別では、『子どもがいる』層は、「家庭内の問題」(60.0%)で 10.8 ポイント、「支援制度の問題」(42.4%)で 8.0 ポイント、それぞれ『子どもはいない』層よりも高くなっています。

図表 1-55 女性の就労上の障壁 (年代別/子どもの有無別)

(単位: %)

	件数 (件)	家庭内の 問題	職場の 労働条件 の問題	支援 制度の 問題	女性 自らの 職業 能力 の問題	職場の 人間 関係 の問題	その他	問題 はない	無 回答	
全体	483	58.6	43.5	41.4	14.9	11.0	3.7	3.5	1.7	
年代	10歳代	11	54.5	27.3	72.7	-	9.1	-	9.1	-
	20歳代	39	69.2	51.3	33.3	15.4	5.1	5.1	-	2.6
	30歳代	68	61.8	38.2	54.4	8.8	7.4	2.9	4.4	-
	40歳代	75	65.3	37.3	30.7	21.3	10.7	2.7	5.3	-
	50歳代	98	56.1	44.9	44.9	13.3	12.2	6.1	3.1	-
	60歳代	80	51.3	43.8	43.8	17.5	13.8	5.0	3.8	5.0
	70歳代	106	58.5	47.2	34.9	15.1	13.2	1.9	2.8	1.9
	80歳代以上	5	20.0	60.0	40.0	20.0	-	-	-	20.0
子どもの有無	子どもがいる	422	60.0	43.4	42.4	14.2	10.2	3.3	3.3	1.7
	子どもはいない	61	49.2	44.3	34.4	19.7	16.4	6.6	4.9	1.6

#### 過去調査との比較

- ▶ 過去の調査と比べると、「家庭内の問題」、「職場の労働条件の問題」、「女性自らの職業意識や職業能力の問題」が増加傾向となっています。一方、「支援制度の問題」、「職場の人間関係の問題」は平成 28 年以降最も低くなっています。

図表 1-56 女性の就労上の障壁 (過去調査との比較)

(単位: %)

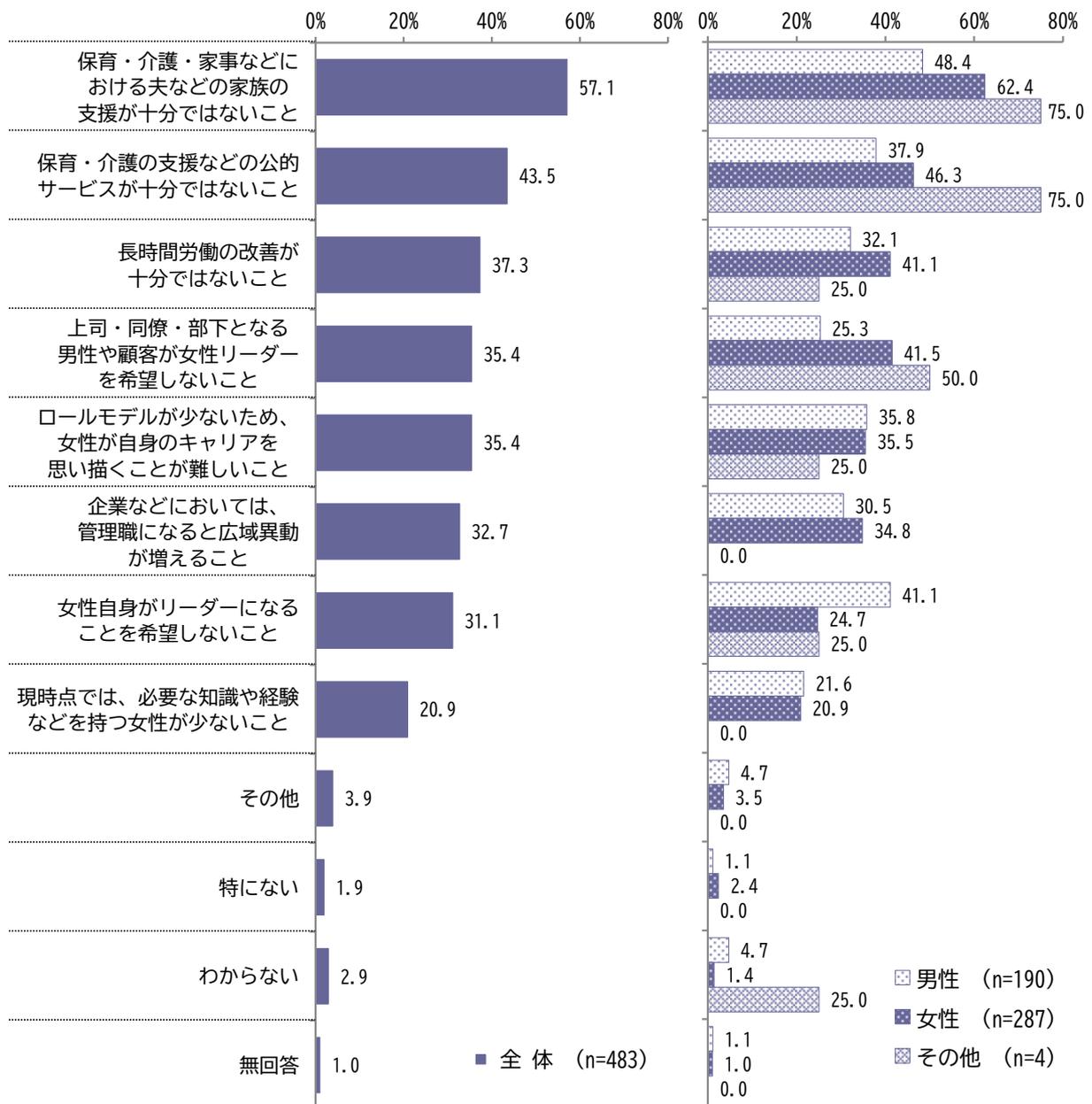
	家庭内の 問題	職場の 労働条件 の問題	支援 制度の 問題	女性 自らの 職業 能力 の問題	職場の 人間 関係 の問題	その他	問題 はない	無 回答
令和7年	58.6	43.5	41.4	14.9	11.0	3.7	3.5	1.7
令和2年	58.4	40.5	43.8	13.9	14.6	2.1	3.5	2.7
平成28年	50.8	40.7	42.8	10.9	12.8	-	2.4	-

問6 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性リーダーの登用が進んでいない理由は何だと思いませんか。(あてはまるものすべてに○)  
 〈現在結婚している方(事実婚を含む)〉

全体/性別

- 「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が 57.1%で最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が 43.5%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が 37.3%となっています。
- 性別では、男性で、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(41.1%)が女性より 16.4 ポイント高くなっています。一方、女性では、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(41.5%)が 16.2 ポイント、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(62.4%)が 14.0 ポイント、それぞれ男性よりも高くなっています。

図表 1-57 女性リーダーの登用が進んでいない理由(性別)



III. 調査結果 / 4 女性の職業生活について

年代別 / 子どもの有無別

- ▶ 年代別では、10歳代を除き「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も高くなっています。
- ▶ 70歳代で「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」(34.9%)、60歳代で「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(55.0%)、「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」(42.5%)、20歳代で「ロールモデルが少ないため、女性が自身のキャリアを思い描くことが難しいこと」(46.2%)が他の年代よりも高くなっています。
- ▶ 子どもの有無別では、どちらも「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も高くなっています。
- ▶ 『子どもはいない』層で、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(37.7%)が『子どもがいる』層よりも 7.6 ポイント高くなっています。

図表 1-58 女性リーダーの登用が進んでいない理由（年代別/子どもの有無別）

(単位：%)

	件数 (件)	夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護・家事などの公的サービスが十分ではないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	顧客が女性リーダーを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性が少ないこと	ロールモデルが少ないため、女性が自身のキャリアを思い描くことが難しいこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
全体	483	57.1	43.5	37.3	35.4	35.4	32.7	31.1	20.9	3.9	1.9	2.9	1.0	
年代	10歳代	11	27.3	27.3	36.4	18.2	36.4	27.3	27.3	-	-	18.2	-	
	20歳代	39	53.8	30.8	25.6	33.3	46.2	20.5	38.5	17.9	5.1	-	2.6	2.6
	30歳代	68	45.6	44.1	35.3	33.8	41.2	32.4	17.6	5.9	5.9	1.5	2.9	-
	40歳代	75	64.0	37.3	34.7	26.7	37.3	26.7	33.3	28.0	4.0	2.7	2.7	-
	50歳代	98	61.2	42.9	41.8	37.8	33.7	32.7	30.6	11.2	3.1	2.0	3.1	-
	60歳代	80	57.5	55.0	33.8	42.5	33.8	42.5	32.5	21.3	3.8	2.5	2.5	1.3
	70歳代	106	59.4	44.3	43.4	36.8	29.2	34.9	34.0	34.9	3.8	1.9	1.9	1.9
	80歳代以上	5	60.0	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	60.0	20.0	-	-	-	20.0
子どもの有無	子どもがいる	422	57.8	44.1	37.4	35.8	35.1	33.4	30.1	20.6	4.3	1.4	2.4	0.9
	子どもはいない	61	52.5	39.3	36.1	32.8	37.7	27.9	37.7	23.0	1.6	4.9	6.6	1.6

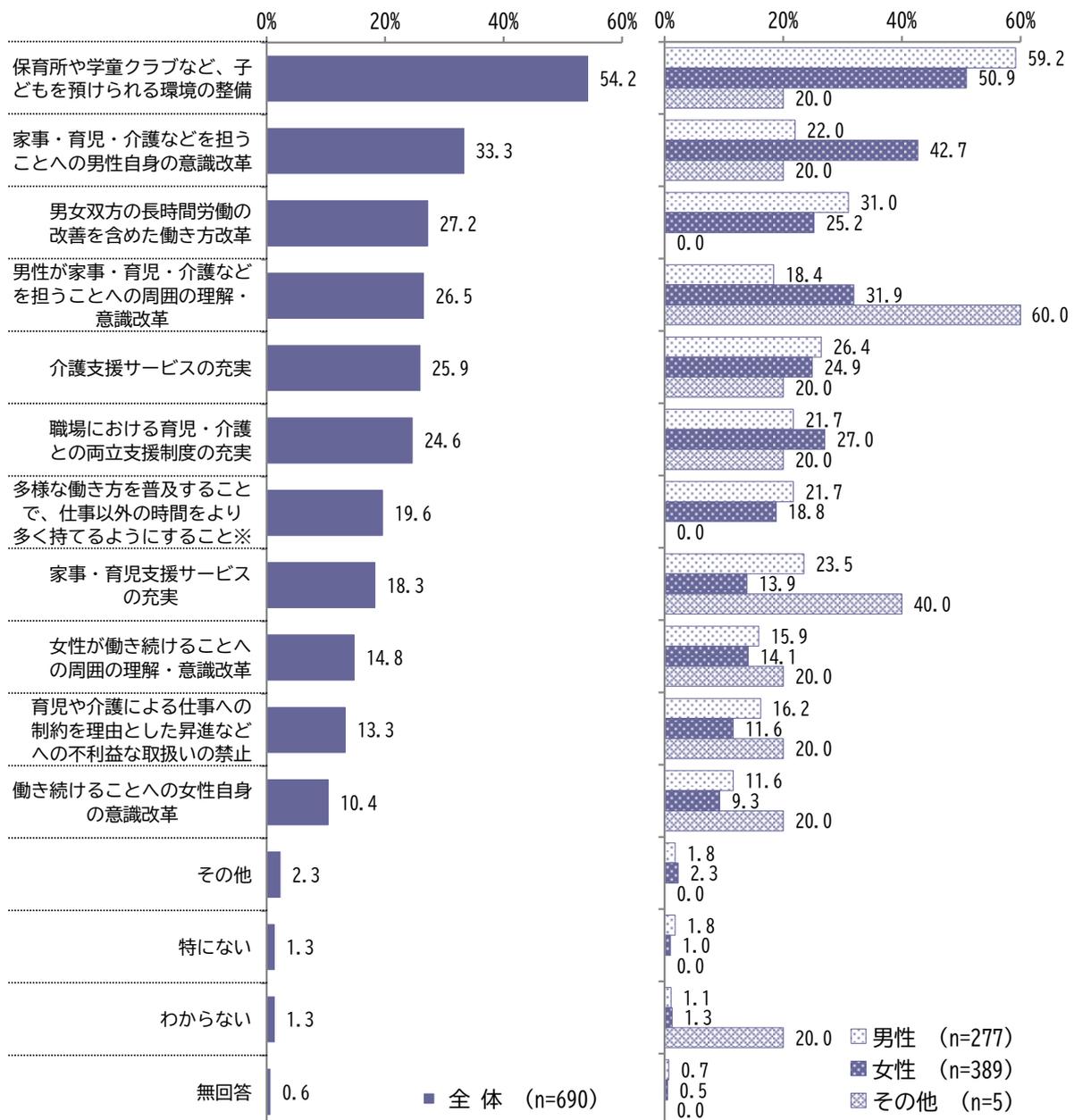
## 5 ワーク・ライフ・バランスについて

問7 あなたは、男女が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

### 全体／性別

- ▶ 「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が 54.2%で最も高く、次いで「家事・育児・介護などを担うことへの男性自身の意識改革」が 33.3%、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が 27.2%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「家事・育児・介護などを担うことへの男性自身の意識改革」(42.7%)が 20.7 ポイント、「男性が家事・育児・介護などを担うことへの周囲の理解・意識改革」(31.9%)が 13.5 ポイント、それぞれ男性よりも高くなっています。

図表 1-59 男女が働き続けるために必要なこと（性別）



※ 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること

III. 調査結果／5 ワーク・ライフ・バランスについて

年代別／配偶者の有無別／子どもの有無別

- ▶ 年代別では、10～70 歳代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高くなっています。
- ▶ 20 歳代で「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(34.1%)、「家事・育児支援サービスの充実」(29.4%)、30 歳代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(64.5%)が他の年代よりも高くなっています。
- ▶ 配偶者の有無別では、『配偶者がいる』層で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(57.1%)が『配偶者はいない』層より11.6ポイント、『配偶者はいない』層で「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が『配偶者がいる』層より11.8ポイント、それぞれ高くなっています。
- ▶ 子どもの有無別では、『子どもがいる』層で「家事・育児・介護などを担うことへの男性自身の意識改革」(37.7%)が14.7ポイント、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(57.4%)が13.0ポイント、それぞれ『子どもはいない』層よりも高くなっています。一方、『子どもはいない』層では、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」(39.9%)が『子どもがいる』層より16.9ポイント高くなっています。

図表 1-60 男女が働き続けるために必要なこと（年代別/配偶者の有無別/子どもの有無別）

(単位：%)

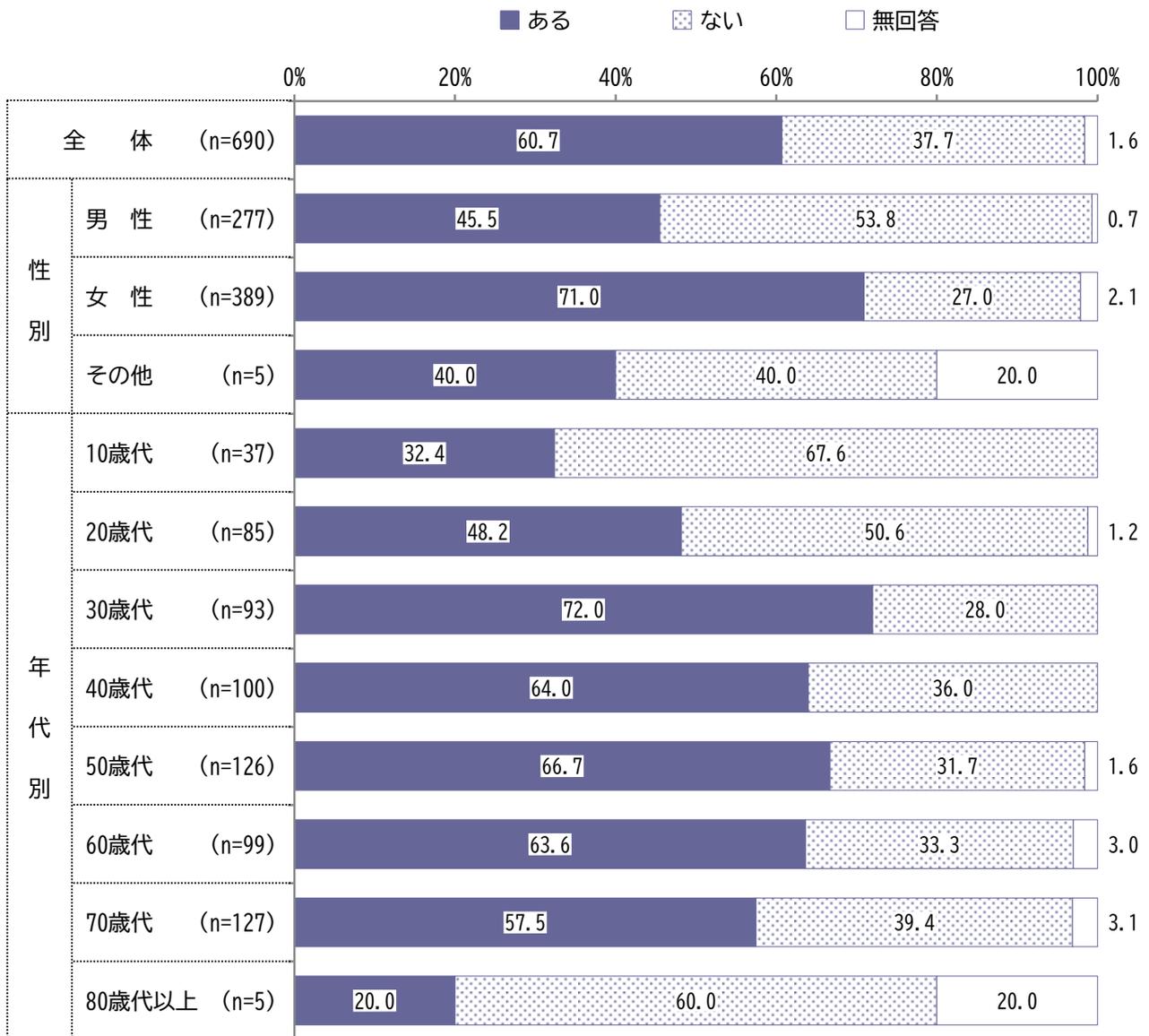
	件数（件）	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	家事・育児・介護など自身を担うことへの男性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善	意識改革	男性が家事・育児・介護などを担うことへの周囲の理解・介護など	介護支援サービスの充実	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	多様な働き方を普及すること、仕事以外の時間をより多く持つようにすること	家事・育児支援サービスの充実	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	働き続けることへの女性の意識改革	その他	特になし	わからない	無回答
全体	690	54.2	33.3	27.2	26.5	25.9	24.6	19.6	18.3	14.8	13.3	10.4	2.3	1.3	1.3	0.6	
年代	10歳代	37	54.1	32.4	35.1	35.1	13.5	24.3	27.0	13.5	8.1	18.9	18.9	-	2.7	-	-
	20歳代	85	52.9	29.4	35.3	27.1	18.8	24.7	34.1	29.4	5.9	14.1	4.7	1.2	2.4	3.5	-
	30歳代	93	64.5	29.0	31.2	29.0	24.7	25.8	12.9	25.8	10.8	15.1	4.3	1.1	2.2	-	1.1
	40歳代	100	54.0	38.0	28.0	22.0	26.0	17.0	17.0	14.0	16.0	14.0	13.0	5.0	2.0	2.0	-
	50歳代	126	44.4	38.9	23.8	31.7	31.0	23.8	11.1	19.0	19.8	14.3	12.7	2.4	-	1.6	-
	60歳代	99	58.6	28.3	20.2	22.2	28.3	34.3	16.2	11.1	21.2	13.1	13.1	1.0	2.0	1.0	-
	70歳代	127	52.8	36.2	26.8	24.4	24.4	24.4	27.6	11.8	15.7	10.2	9.4	2.4	-	0.8	2.4
	80歳代以上	5	60.0	60.0	-	20.0	80.0	20.0	-	60.0	-	-	-	-	-	-	-
配偶者の有無	配偶者がいる	483	57.1	34.6	24.2	26.9	25.1	24.0	18.4	19.7	16.4	13.3	9.5	1.9	1.0	1.0	0.8
	配偶者はいない	189	45.5	31.7	36.0	25.9	27.0	27.5	23.3	13.8	11.1	14.8	12.2	2.6	2.1	2.1	-
子どもの有無	子どもがいる	488	57.4	37.7	23.0	27.7	24.2	26.0	18.2	18.0	16.2	12.7	10.5	2.0	0.8	1.0	0.8
	子どもはいない	178	44.4	23.0	39.9	23.6	28.7	21.3	24.7	18.5	10.7	16.3	10.1	2.2	2.8	2.2	-

問8 あなたは、これまでに自己都合で離職もしくは転職をしたことがありますか。  
(○は1つ)

全体／性別／年代別

- 「ある」が60.7%、「ない」が37.7%となっています。
- 性別では、男性は「ない」が53.8%、「ある」が45.5%、女性は「ある」が71.0%、「ない」が27.0%となっています。
- 年代別では、30歳代で、「ある」(72.0%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-61 自己都合での離職・転職経験（性別/年代別）

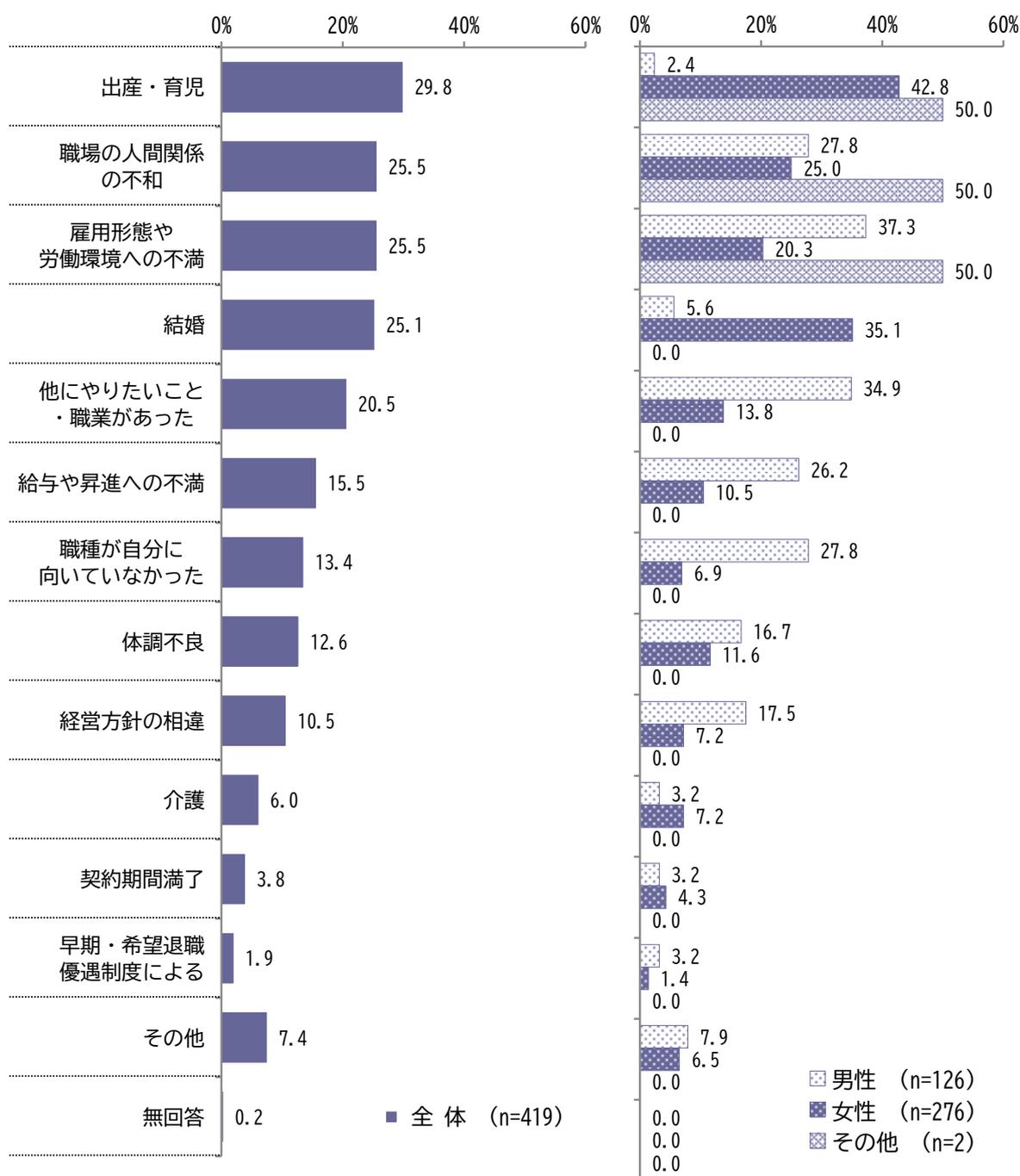


問8-1 離職・転職をした理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)  
 〈問8で「1」と回答した方〉

全体／性別

- 「出産・育児」が29.8%で最も高く、次いで「職場の人間関係の不和」と「雇用形態や労働環境への不満」が25.5%、「結婚」が25.1%となっています。
- 性別では、女性で、「出産・育児」(42.8%)が40.4ポイント、「結婚」(35.1%)が29.5ポイント、それぞれ男性よりも高くなっています。一方、男性では、「他にやりたいこと・職業があった」(34.9%)が21.1ポイント、「職種が自分に向いていなかった」(27.8%)が20.9ポイント、それぞれ女性よりも高くなっています。

図表 1-62 離職・転職の理由（性別）



年代別

- ▶ 年代別では、10～20歳代で「雇用形態や労働環境への不満」、30～40歳代、70歳代で「出産・育児」、50～60歳代で「結婚」が最も高くなっています。
- ▶ 10歳代で「雇用形態や労働環境への不満」(58.3%)、「職場の人間関係の不和」(50.0%)、「他にやりたいこと・職業があった」(33.3%)、20歳代で「雇用形態や労働環境への不満」(43.9%)、「給与や昇進への不満」(29.3%)、30歳代で「給与や昇進への不満」(29.9%)、60歳代で「結婚」(38.1%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-63 離職・転職の理由（年代別）

(単位：%)

	件数 (件)	出産・ 育児	職場の 人間関係の 不和	雇用形 態や労働 環境 への不 満	結 婚	他 にや りた いこ と・ 職 業 が あ つ た	給 与 や 昇 進 へ の 不 満	職 種 が 自 分 に 向 い て い な か つ た	体 調 不 良	経 営 方 針 の 相 違	介 護	契 約 期 間 満 了	早 期・ 希 望 退 職 優 遇 制 度 に よ る	そ の 他	無 回 答
全 体	419	29.8	25.5	25.5	25.1	20.5	15.5	13.4	12.6	10.5	6.0	3.8	1.9	7.4	0.2
年 代	10歳代	12	25.0	50.0	58.3	16.7	33.3	25.0	-	16.7	-	-	-	-	-
	20歳代	41	22.0	29.3	43.9	7.3	17.1	29.3	22.0	17.1	12.2	2.4	-	2.4	4.9
	30歳代	67	37.3	26.9	29.9	20.9	23.9	29.9	11.9	10.4	16.4	-	6.0	-	4.5
	40歳代	64	32.8	26.6	21.9	26.6	17.2	14.1	9.4	20.3	4.7	4.7	7.8	-	7.8
	50歳代	84	31.0	29.8	19.0	32.1	20.2	8.3	11.9	9.5	8.3	10.7	3.6	1.2	9.5
	60歳代	63	28.6	19.0	17.5	38.1	15.9	7.9	9.5	17.5	7.9	4.8	4.8	3.2	7.9
	70歳代	73	27.4	19.2	24.7	23.3	24.7	8.2	21.9	6.8	13.7	11.0	1.4	5.5	6.8
	80歳代以上	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-

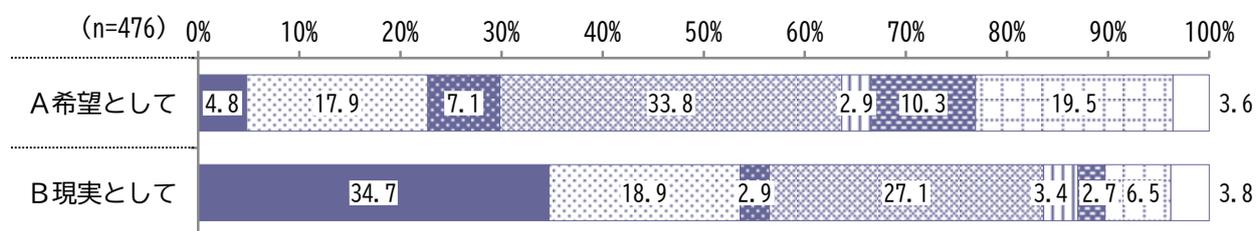
問9 あなたは、暮らしの中での「仕事」、「家庭」、「地域・個人（付き合い、学習・趣味など）」の生活で、何を優先しますか。（○は1つ）〈仕事に就いている方〉

**全体**

- 『希望として』では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 33.8%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が 19.5%、「『家庭生活』を優先したい」が 17.9%となっています。
- 『現実として』では、「『仕事』を優先している」が 34.7%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 27.1%、「『家庭生活』を優先している」が 18.9%となっています。
- 『現実として』で、「『仕事』を優先している」(34.7%)が、『希望として』より 29.9 ポイント高くなっている一方、『希望として』では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(19.5%)が、『現実として』より 13.0 ポイント高くなっています。

図表 1-64 ワーク・ライフ・バランスの優先度

- 「仕事」を優先したい／している
- ▨ 「家庭生活」を優先したい／している
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先したい／している
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい／している
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい／している
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい／している
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい／している
- 無回答

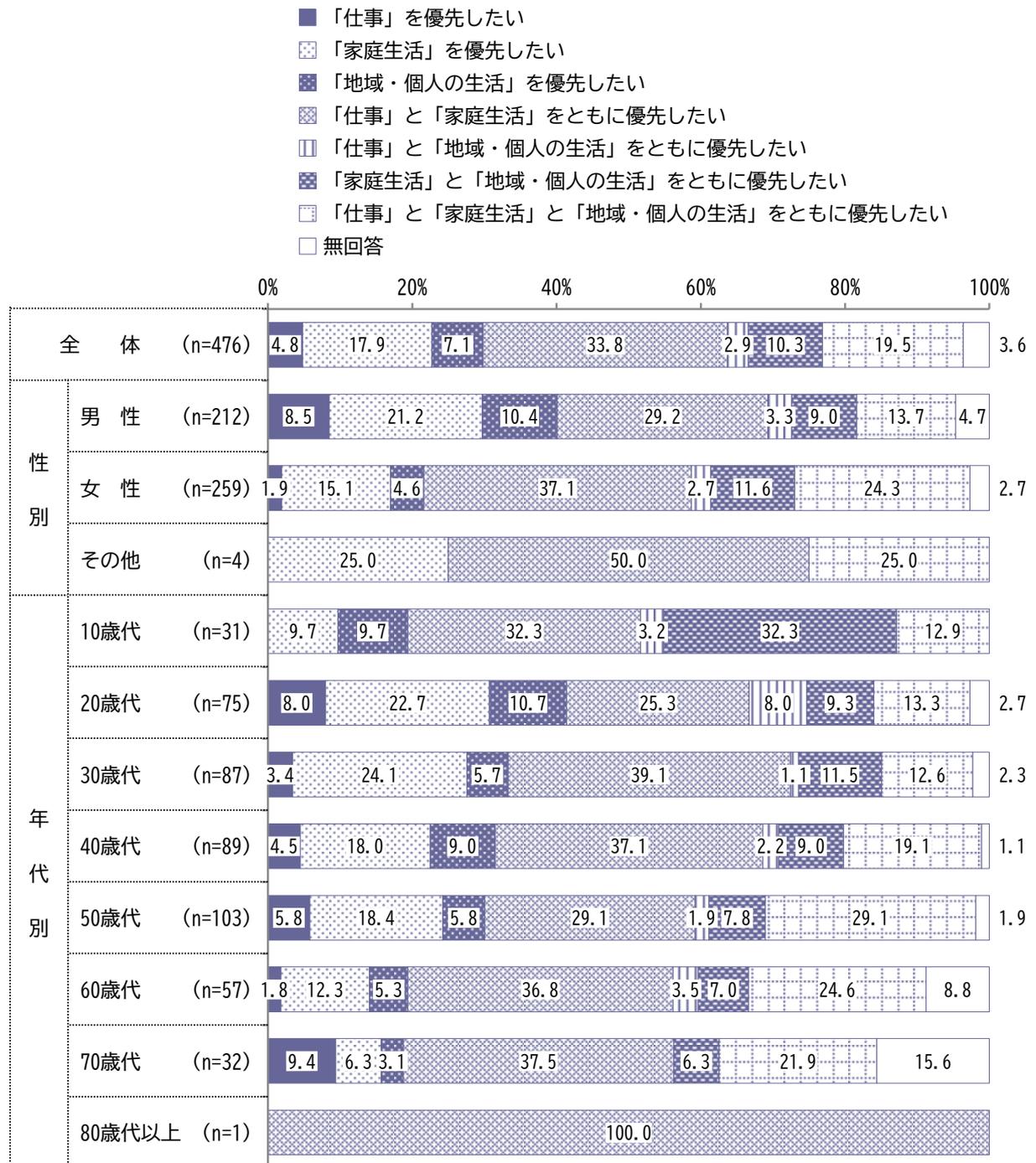


A 希望として

性別／年代別

- 性別では、女性で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい(24.3%)が、男性より10.6ポイント高くなっています。
- 年代別では、20～50歳代で『家庭生活』を優先したい(2割前後)、10歳代で『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい(32.3%)、50歳代で『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい(29.1%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-65 【希望】ワーク・ライフ・バランスの優先度（性別/年代別）



III. 調査結果／5 ワーク・ライフ・バランスについて

過去調査との比較

➤ 過去の調査と比べると、『希望として』では、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい(10.3%)が年々増加している一方、『家庭生活』を優先したい(17.9%)は、平成 28 年以降で最も低くなっています。

図表 1-66 【希望】ワーク・ライフ・バランスの優先度〈過去調査との比較〉

(単位：%)

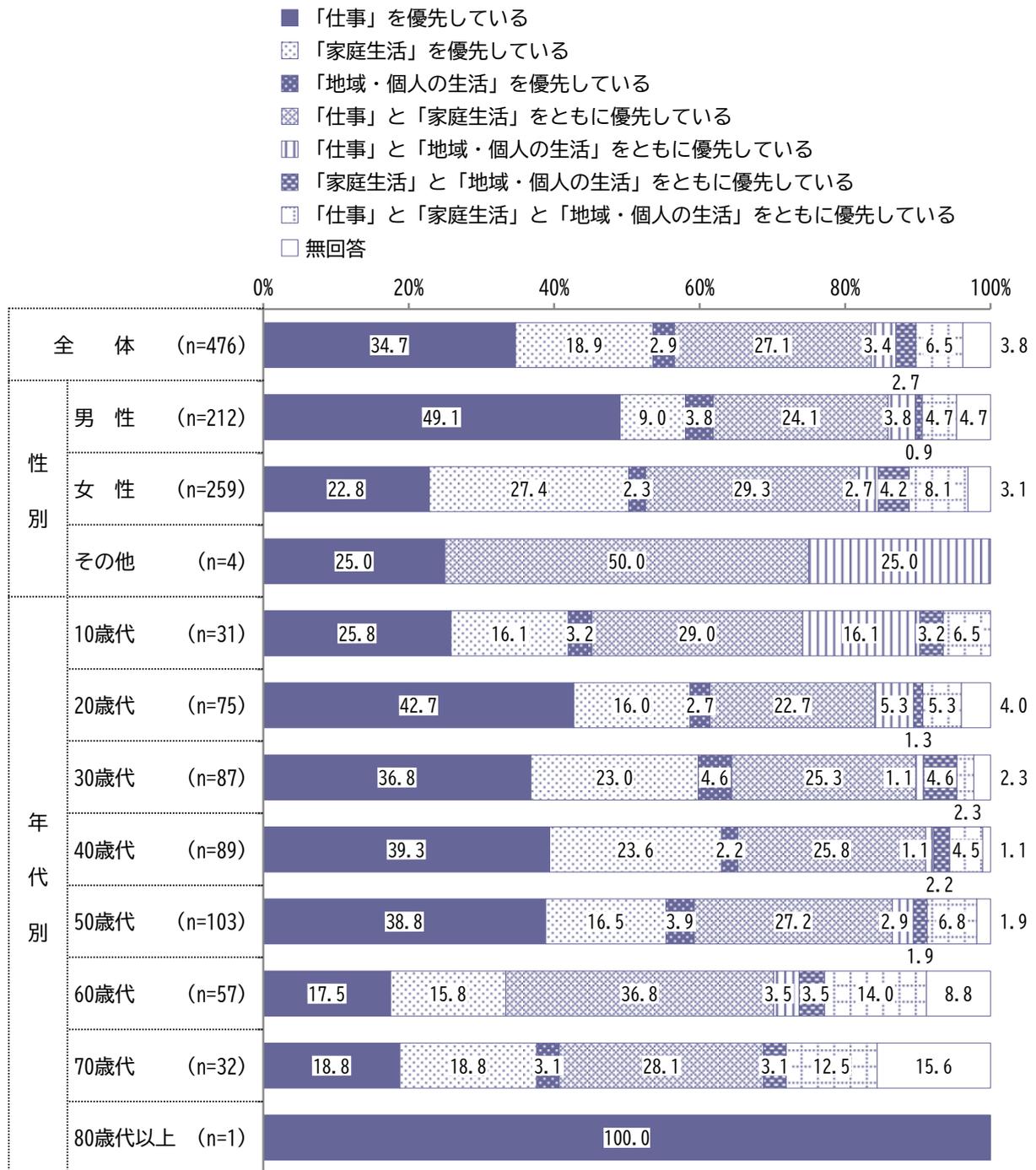
希望	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	無回答
令和7年	4.8	17.9	7.1	33.8	2.9	10.3	19.5	3.6
令和2年	4.0	22.1	4.5	33.1	2.7	8.8	20.3	4.5
平成28年	4.8	22.2	3.8	36.1	4.9	8.0	18.4	-

**B 現実として**

**性別／年代別**

- 性別では、男性で、「『仕事』を優先している」(49.1%)が女性より 26.3 ポイント高くなっている一方、女性では、「『家庭生活』を優先している」(27.4%)が男性より 18.4 ポイント高くなっています。
- 年代別では、20～50 歳代で「『仕事』を優先している」(4割前後)、10 歳代で「『仕事』と『地域・個人の生活』をともに優先している」(16.1%)、60 歳代で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」(36.8%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-67 【現実】ワーク・ライフ・バランスの優先度（性別/年代別）



### 過去調査との比較

- 過去の調査と比べると、『現実として』では、『仕事』と『家庭生活』をともに優先している(27.1%)が過去の調査の中で最も高くなっている一方、『仕事』を優先している(34.7%)は、過去の調査の中で最も低くなっています。

図表 1-68 【現実】ワーク・ライフ・バランスの優先度〈過去調査との比較〉

(単位：%)

現実	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「生活」と「地域・個人生活」をともに優先している	「個人生活」と「地域・家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先している	無回答
令和7年	34.7	18.9	2.9	27.1	3.4	2.7	6.5	3.8
令和2年	42.6	16.8	1.3	24.3	4.0	1.8	4.8	4.3
平成28年	36.1	23.0	2.0	24.9	4.9	1.7	5.7	-

### 希望と現実との比較

- 希望と現実を比べると、男女ともに『仕事』を優先で希望と現実の差が大きくなっており、男性では『現実』が『希望』より40.6ポイント高くなっています。『家庭生活』を優先では、男性は『希望』が『現実』より、女性は『現実』が『希望』よりそれぞれ約12ポイント高くなっています。

図表 1-69 ワーク・ライフ・バランスの優先度〈理想と現実の比較〉(性別)

(単位：%)

		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「生活」と「地域・個人生活」をともに優先したい	「個人生活」と「地域・家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先したい	無回答
全体	希望	4.8	17.9	7.1	33.8	2.9	10.3	19.5	3.6
	現実	34.7	18.9	2.9	27.1	3.4	2.7	6.5	3.8
	差	-29.9	-1.0	4.2	6.7	-0.5	7.6	13.0	-0.2
男性	希望	8.5	21.2	10.4	29.2	3.3	9.0	13.7	4.7
	現実	49.1	9.0	3.8	24.1	3.8	0.9	4.7	4.7
	差	-40.6	12.2	6.6	5.1	-0.5	8.1	9.0	-
女性	希望	1.9	15.1	4.6	37.1	2.7	11.6	24.3	2.7
	現実	22.8	27.4	2.3	29.3	2.7	4.2	8.1	3.1
	差	-20.9	-12.3	2.3	7.8	-	7.4	16.2	-0.4

※差は「理想」－「現実」

問10 あなたの生活は、ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思いますか。  
(○は1つ)〈仕事に就いている方〉

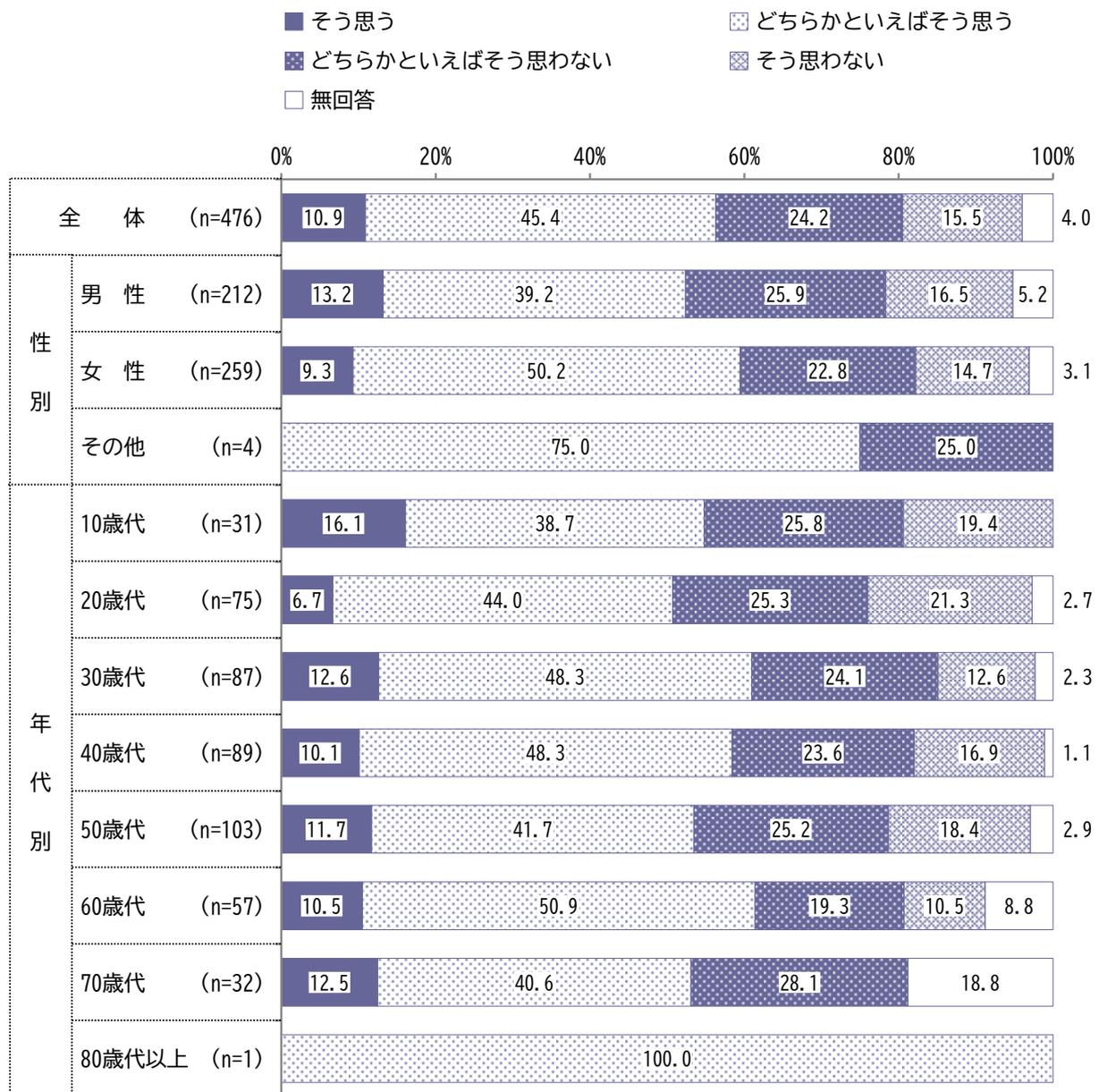
全体／性別／年代別

- 「どちらかといえばそう思う」が 45.4%、「どちらかといえばそう思わない」が 24.2%、「そう思わない」が 15.5%となっており、バランスが“とれていると思う※1”は 56.3%、“とれていると思わない※2”は 39.7%で、“とれていると思う”が16.6ポイント高くなっています。
- 性別では、女性で、「どちらかといえばそう思う」(50.2%)が男性より11.0ポイント高くなっています。
- 年代別では、30～40歳代と60歳代で、“とれていると思う”(約6割)が他の年代よりも高くなっています。

※1 とれていると思う：「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」

※2 とれていると思わない：「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」

図表 1-70 ワーク・ライフ・バランスの実現（性別/年代別）



### III. 調査結果／5 ワーク・ライフ・バランスについて

#### 過去調査との比較

- 過去の調査と比べると、バランスが“とれていると思う”(56.3%)が年々増加しており、「そう思う」(10.9%)は、平成28年以降で最も高くなっています。

図表 1-71 ワーク・ライフ・バランスの実現〈過去調査との比較〉

(単位：%)

	とと 思れ うて いる	そ う 思 う	思 い ど う え ち ば ら そ か う と	と と 思 れ わ て な い い る	思 い ど わ え ち な ば ら い そ か う と	思 そ わ う な い	無 回 答
令和7年	56.3	10.9	45.4	39.7	24.2	15.5	4.0
令和2年	53.6	8.3	45.3	42.3	28.8	13.5	4.2
平成28年	49.6	9.7	39.9	48.7	30.0	18.7	-

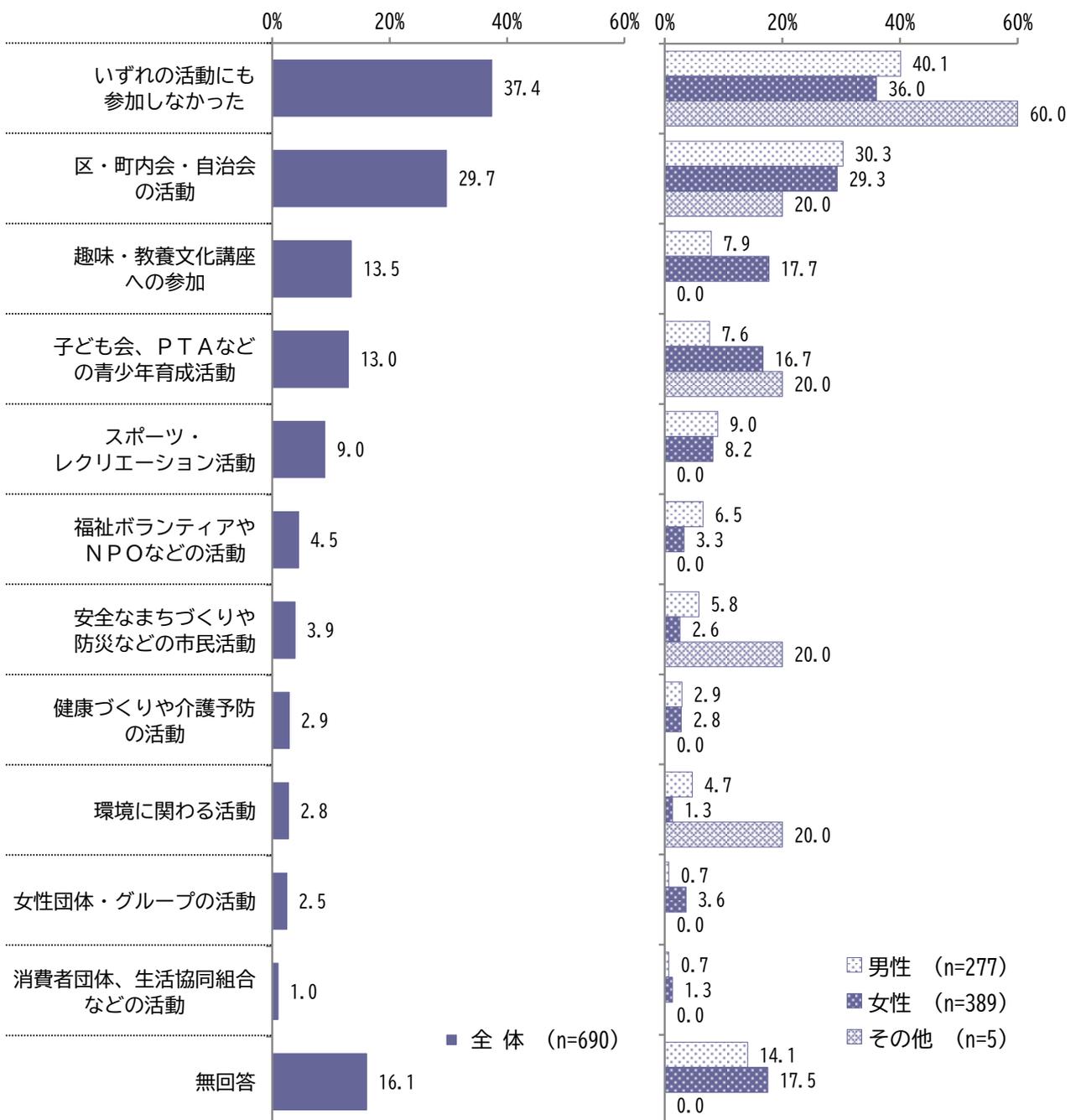
## 6 地域活動について

問 11 最近5年間に、あなたは、次のような地域活動に参加したことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

### 全体／性別

- ▶ 「いずれの活動にも参加しなかった」が 37.4%で最も高く、次いで「区・町内会・自治会の活動」が 29.7%、「趣味・教養文化講座への参加」が 13.5%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「趣味・教養文化講座への参加」(17.7%)が 9.8 ポイント、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」(16.7%)が 9.1 ポイント、それぞれ男性よりも高くなっています。

図表 1-72 地域活動への参加経験（性別）



年代別 / 職業別 / 配偶者の有無別 / 子どもの有無別

- ▶ 年代別では、10～40 歳代で「いずれの活動にも参加しなかった」が最も高くなっており、年代が上がるにつれ割合が低くなる傾向となっています。50 歳代以上では、「区・町内会・自治会の活動」の割合が最も高くなっています。
- ▶ 職業別では、「会社員」と「公務員」で「いずれの活動にも参加しなかった」が5割を超えている一方、「専業主婦」と「無職」では低くなっています。
- ▶ 配偶者の有無別では、『配偶者はいない』層で、「いずれの活動にも参加しなかった」(61.4%)が『配偶者がいる』層より32.8ポイント高くなっている一方、それ以外の項目ではすべて『配偶者がいる』層の割合が高くなっています。
- ▶ 子どもの有無別では、『子どもはいない』層で、「いずれの活動にも参加しなかった」(65.2%)が『子どもがいる』層より37.1ポイント高くなっている一方、それ以外の項目ではすべて『子どもがいる』層の割合が高くなっています。

図表 1-73 地域活動への参加経験（年代別 / 職業別 / 配偶者の有無別 / 子どもの有無別）

(単位：%)

	件数 (件)	加 い ず れ の 活 動 に も 参 加 し な か つ た	区 ・ 町 内 会 ・ 自 治 会	ハ ン ド ・ ク ラ ブ ・ 教 育 文 化 講 座	ど の 子 も 会 ・ P T A な ど の 活 動	エ ス ポ ー ツ ・ レ ク リ ・ 活 動	N P O な ど の 活 動	福 祉 ボ ラ ン テ ア ・ 活 動	防 災 安 全 な ま ち づ くり 活 動	防 健 康 づ くり や 介 護 予 防 の 活 動	環 境 に 関 わ る 活 動	の 女 性 団 体 ・ グ ル ー プ	同 組 合 な ど の 活 動	消 費 者 団 体 ・ 生 活 協 会	無 回 答
全 体	690	37.4	29.7	13.5	13.0	9.0	4.5	3.9	2.9	2.8	2.5	1.0	16.1		
年 代	10歳代	37	83.8	10.8	2.7	5.4	10.8	-	-	2.7	-	-	-		
	20歳代	85	58.8	18.8	4.7	10.6	9.4	2.4	3.5	1.2	3.5	-	3.5		
	30歳代	93	41.9	28.0	18.3	23.7	6.5	7.5	4.3	3.2	1.1	2.2	1.1	2.2	
	40歳代	100	38.0	36.0	14.0	28.0	12.0	5.0	6.0	2.0	1.0	4.0	2.0	2.0	
	50歳代	126	40.5	42.9	18.3	11.9	5.6	5.6	4.0	5.6	2.4	3.2	-	6.3	
	60歳代	99	29.3	31.3	14.1	6.1	9.1	4.0	1.0	4.0	4.0	-	2.0	26.3	
	70歳代	127	12.6	23.6	14.2	3.9	8.7	4.7	6.3	0.8	4.7	4.7	1.6	50.4	
	80歳代以上	5	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	60.0	
職 業	会社員	212	54.2	30.7	10.8	10.8	8.5	5.2	3.8	3.8	1.9	1.4	0.5	0.5	
	公務員	38	52.6	28.9	10.5	7.9	7.9	5.3	7.9	2.6	2.6	2.6	-	-	
	派遣・契約社員	18	44.4	27.8	5.6	5.6	-	16.7	-	-	-	-	-	5.6	
	パート・アルバイト	146	33.6	38.4	19.2	27.4	10.3	4.1	2.7	2.7	2.7	4.1	0.7	3.4	
	自営業	45	42.2	31.1	4.4	11.1	11.1	4.4	8.9	2.2	8.9	4.4	4.4	6.7	
	農業	4	25.0	25.0	50.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	25.0	
	内職・在宅就業	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	専業主婦・専業主夫	79	12.7	25.3	16.5	7.6	7.6	1.3	-	1.3	-	1.3	2.5	49.4	
	学生	9	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	
	無職	109	22.0	19.3	12.8	5.5	6.4	4.6	6.4	2.8	3.7	2.8	0.9	50.5	
	その他	11	9.1	54.5	36.4	27.3	18.2	9.1	-	9.1	18.2	-	-	-	
の 配 偶 者 無 者	配偶者がいる	483	28.6	35.8	14.9	16.8	8.7	5.2	5.2	3.3	3.7	2.9	1.4	17.0	
	配偶者はいない	189	61.4	13.8	10.1	3.2	7.9	3.2	1.1	1.6	0.5	1.1	-	13.8	
の 子 ど も 無 も	子どもがいる	488	28.1	35.2	15.4	17.2	9.2	4.9	4.5	3.7	3.5	3.1	1.4	18.0	
	子どもはいない	178	65.2	14.6	9.0	1.1	6.7	3.9	2.8	-	1.1	0.6	-	9.6	

## 過去調査との比較

▶ 過去の調査と比べると、ほとんどの項目が過去の調査の中で最も低くなっています。

図表 1-74 地域活動への参加経験（過去調査との比較）

(単位：%)

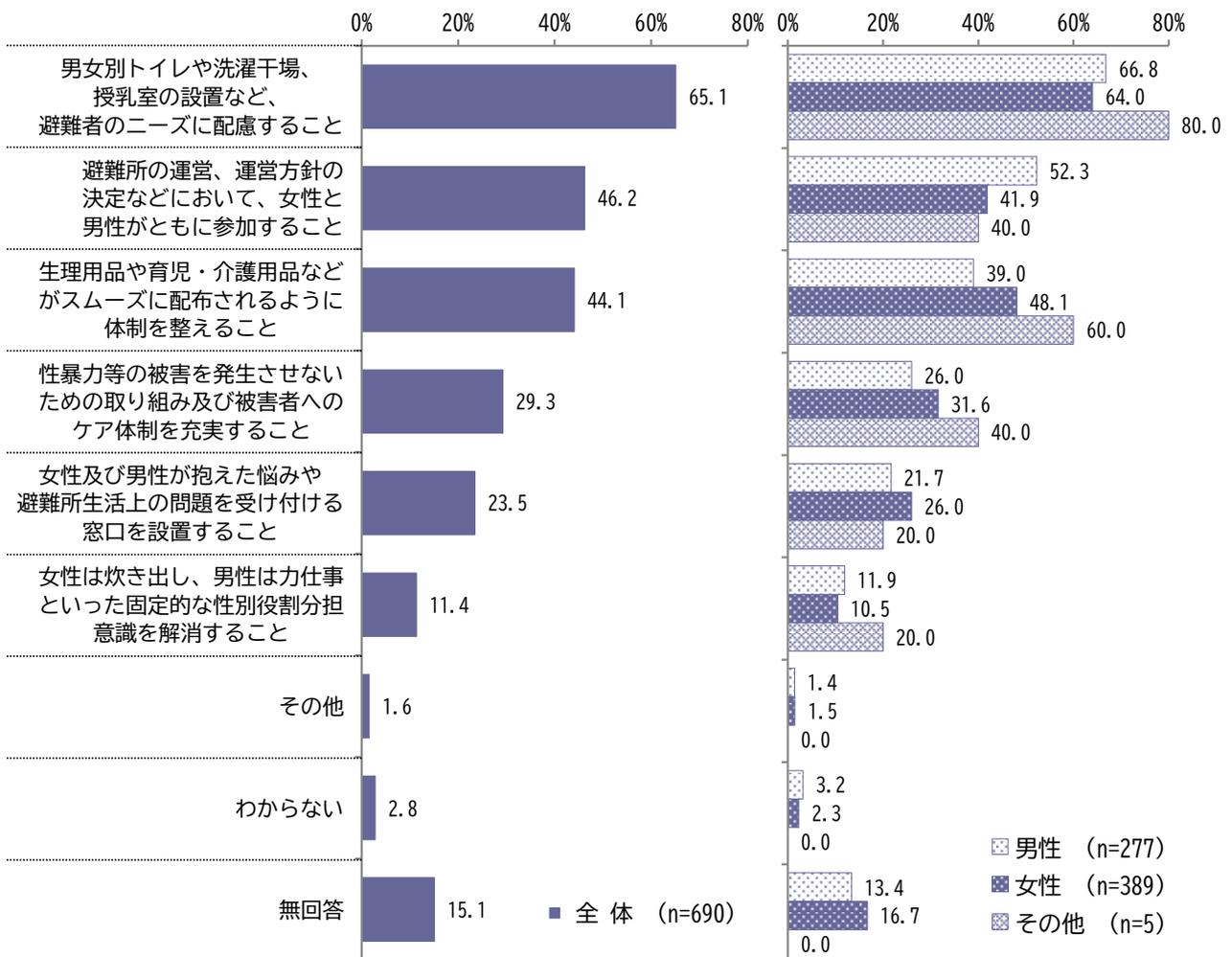
	加い しな れ の 活 動 に も 参 加 し な か つ た	区 ・ 町 内 会 ・ 自 治 会 の 活 動	趣 味 ・ 参 加 の 活 動	子 ど も 会 、 青 少 年 育 成 活 動 な ど	エ ス ポ ー ツ ・ レ ク リ ン グ の 活 動	福 祉 ボ ラ ン テ ィ ア の 活 動	防 災 安 全 な ま ち づ く り の 活 動	防 健 康 づ く り や 介 護 予 防 の 活 動	環 境 に 関 わ る 活 動	女 性 団 体 ・ グ ル ー プ の 活 動	消 費 者 団 体 、 生 活 協 同 組 合 な ど の 活 動	無 回 答
令和7年	37.4	29.7	13.5	13.0	9.0	4.5	3.9	2.9	2.8	2.5	1.0	16.1
令和2年	40.4	34.5	18.3	12.9	15.1	5.2	5.8	4.0	3.3	2.6	0.5	3.4
平成28年	40.7	35.6	18.4	16.9	11.4	6.0	5.2	4.0	3.8	3.3	0.8	-

問 12 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

**全体／性別**

- 「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が 65.1%で最も高く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」が 46.2%、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」が 44.1%となっています。
- 性別では、男性で、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」(52.3%)が女性よりも 10.4 ポイント高くなっています。一方、女性では、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」(48.1%)が男性よりも 9.1 ポイント高くなっています。

図表 1-75 災害時の避難所運営に必要なこと（性別）



年代別

- ▶ 年代別では、いずれの年代も「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が最も高く、なかでも、10歳代と30歳代では8割を超えています。
- ▶ 20～40歳代では、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」（6割前後）が高くなっています。
- ▶ 年代が下がるにつれ「性暴力等の被害を発生させないための取り組み及び被害者へのケア体制を充実すること」の割合が高くなっており、10歳代では64.9%となっています。

図表 1-76 災害時の避難所運営に必要なこと（年代別）

(単位：%)

	件数 (件)	二乳男  室女 ズの別 に設ト 配置イ 慮なレ すど、 と、避 難者場 の、授	が定避 と難所 もにの ににお 加い す、運 こと、 女性方 と針の 男性決	うど生 にが理 体ス用 制ム品 を や 整ズ育 えに児 る配・ こと介 よさ護 れる用 る品 よな	へいた のた暴 ケめ力 アの等 体取の 制り被 を組害 を充み 実及発 すび生 こと害 けさせ 付や	け避女 る難所 窓及 口生 を活 設置上 するの こと問 と題を 受た け悩 付み や	分事女 担とは 意い 識つ をた 解消固 す消定 ること と、男 女性性 はは 炊き 出し 、男 性性 はは 別別 役割 割割 仕仕	その他	わから ない	無回 答	
全 体	690	65.1	46.2	44.1	29.3	23.5	11.4	1.6	2.8	15.1	
年 代	10歳代	37	81.1	48.6	45.9	64.9	13.5	5.4	-	5.4	-
	20歳代	85	75.3	38.8	58.8	45.9	15.3	8.2	2.4	4.7	3.5
	30歳代	93	80.6	50.5	59.1	43.0	24.7	9.7	1.1	-	2.2
	40歳代	100	74.0	51.0	60.0	35.0	24.0	13.0	3.0	5.0	2.0
	50歳代	126	74.6	60.3	46.0	28.6	27.0	11.9	2.4	3.2	3.2
	60歳代	99	52.5	42.4	33.3	13.1	32.3	15.2	1.0	2.0	25.3
	70歳代	127	38.6	33.9	18.9	7.9	23.6	10.2	-	0.8	49.6
80歳代以上	5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-	60.0	

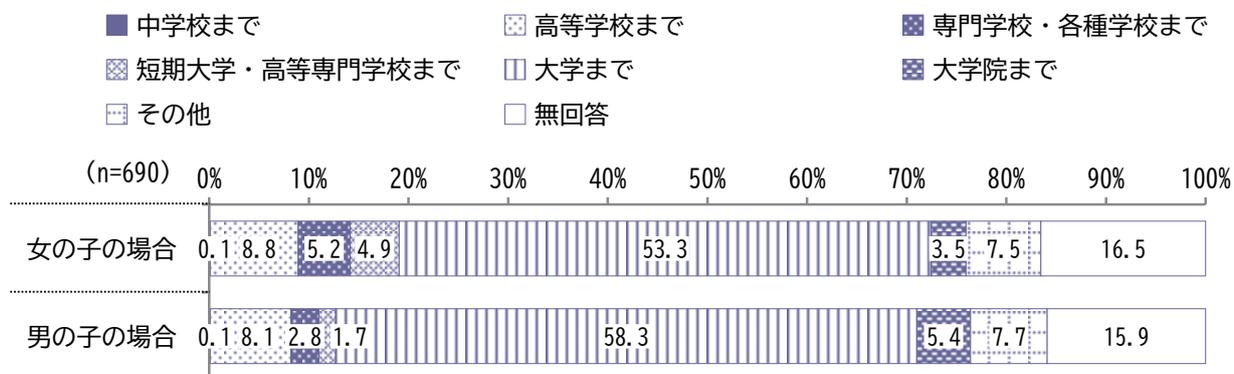
## 7 子どもの教育について

問13 子どもにはどこまで進学することを期待しますか。子どもがいる、いないにかかわらず回答してください。(それぞれ○を1つ)

### 全体

- ▶ 『女の子の場合』では、「大学まで」が53.3%で最も高く、次いで「高等学校まで」が8.8%、「専門学校・各種学校まで」が5.2%となっています。
- ▶ 『男の子の場合』では、「大学まで」が58.3%で最も高く、次いで「高等学校まで」が8.1%、「大学院まで」が5.4%となっています。
- ▶ 『男の子の場合』で、「大学まで」(58.3%)が『女の子の場合』より5.0ポイント高くなっています。

図表 1-77 子どもに期待する進学先

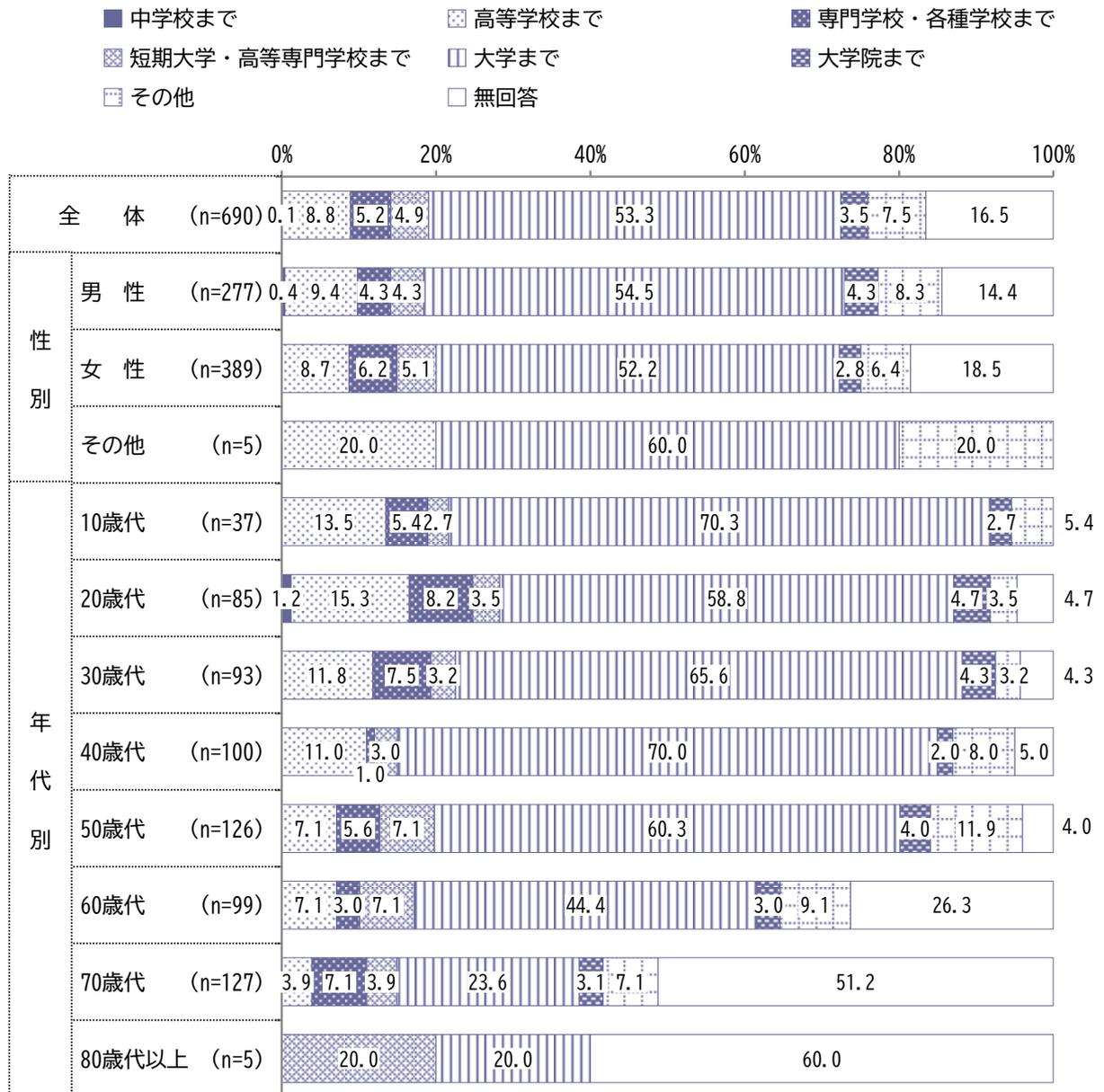


女の子の場合

性別／年代別

- ▶ 性別では、男女で大きな差はみられません。
- ▶ 年代別では、いずれの年代も「大学まで」が最も高くなっており、50 歳代以下では6割を超え、なかでも、10 歳代と 40 歳代では約7割となっています。

図表 1-78 女の子の場合（性別/年代別）

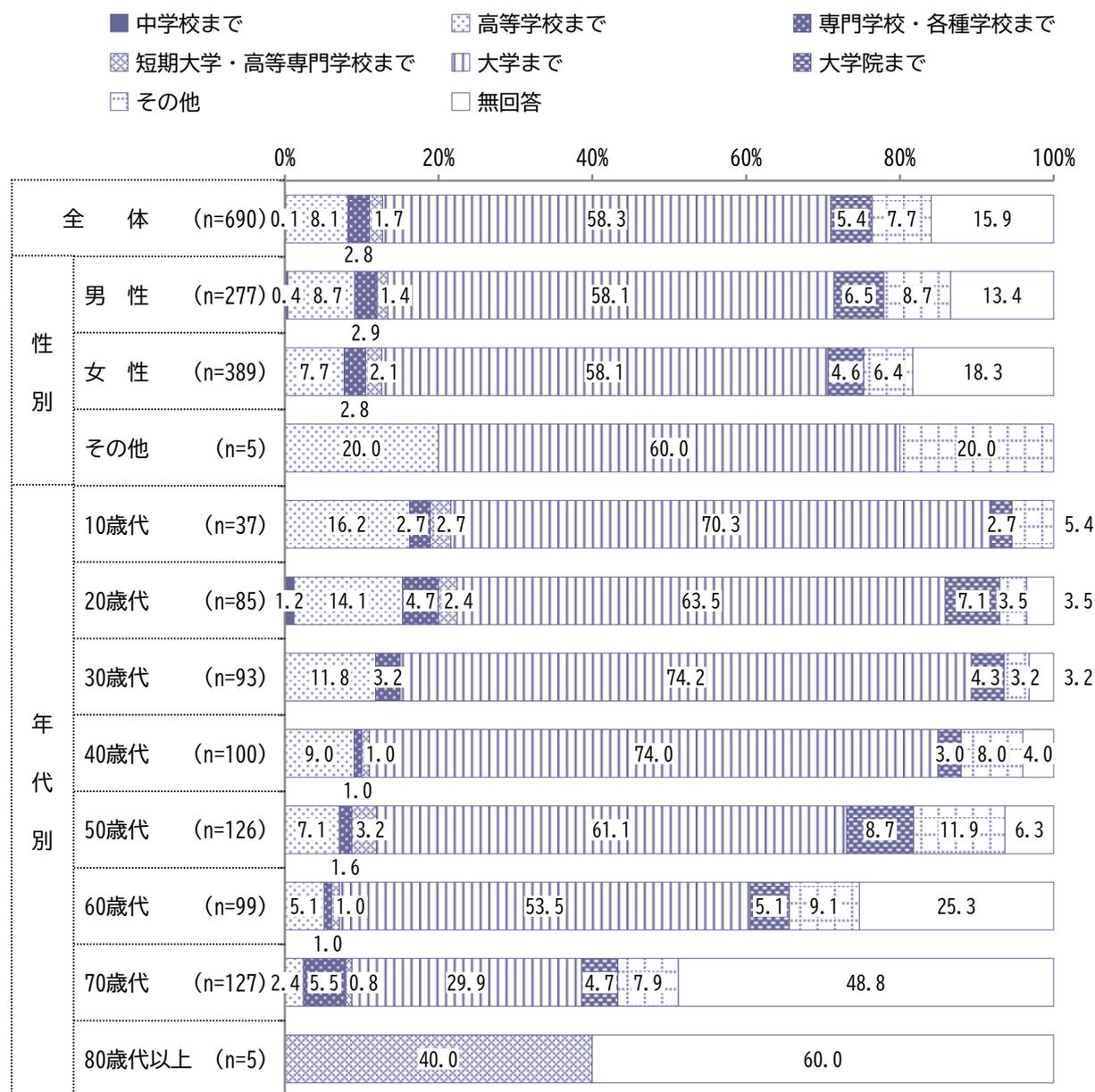


男の子の場合

性別／年代別

- ▶ 性別では、男女で大きな差はみられません。
- ▶ 年代別では、いずれの年代も「大学まで」が最も高くなっており、50 歳代以下では6割以上、なかでも、10 歳代と 30～40 歳代では7割を超えています。

図表 1-79 男の子の場合（性別/年代別）



過去調査との比較

- ▶ 過去の調査と比べると、『女の子の場合』では、「大学院まで」以外は平成 28 年以降で最も低くなっています。一方、『男の子の場合』では、「専門学校・各種学校まで」と「大学まで」が年々減少しています。

図表 1-80 子どもに期待する進学先〈過去調査との比較〉

(単位：%)

		中学校まで	高等学校まで	各専門学校・各種学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	無回答
女の子の場合	令和7年	0.1	8.8	5.2	4.9	53.3	3.5	7.5	16.5
	令和2年	0.2	12.4	5.5	9.9	56.5	2.5	8.6	4.5
	平成28年	-	9.1	7.8	10.3	55.1	2.6	11.3	-
男の子の場合	令和7年	0.1	8.1	2.8	1.7	58.3	5.4	7.7	15.9
	令和2年	0.2	9.3	3.3	1.7	66.8	6.3	8.4	3.9
	平成28年	-	5.8	4.6	1.7	68.3	5.3	10.9	-

中学生・高校生調査との比較

- ▶ 女の子に期待する進学先と、中学生・高校生(女性)の希望する進学先を比べると、高校生の「短期大学・高等専門学校まで」と、中学生の「大学院まで」を除き、中学生・高校生の希望する進学先が、期待する進学先を上回っており、なかでも、「大学まで」では、期待する進学先よりも約 15 ポイント高くなっています。
- ▶ 男の子に期待する進学先と、中学生・高校生(男性)の希望する進学先を比べると、「短期大学・高等専門学校まで」と高校生の「大学まで」を除き、中学生・高校生の希望する進学先が、期待する進学先を上回っており、なかでも、高校生の「高等学校まで」では、期待する進学先よりも 22 ポイント高くなっています。

図表 1-81 子どもに期待する進学先〈中学生・高校生調査(希望する進学先)との比較〉

(単位：%)

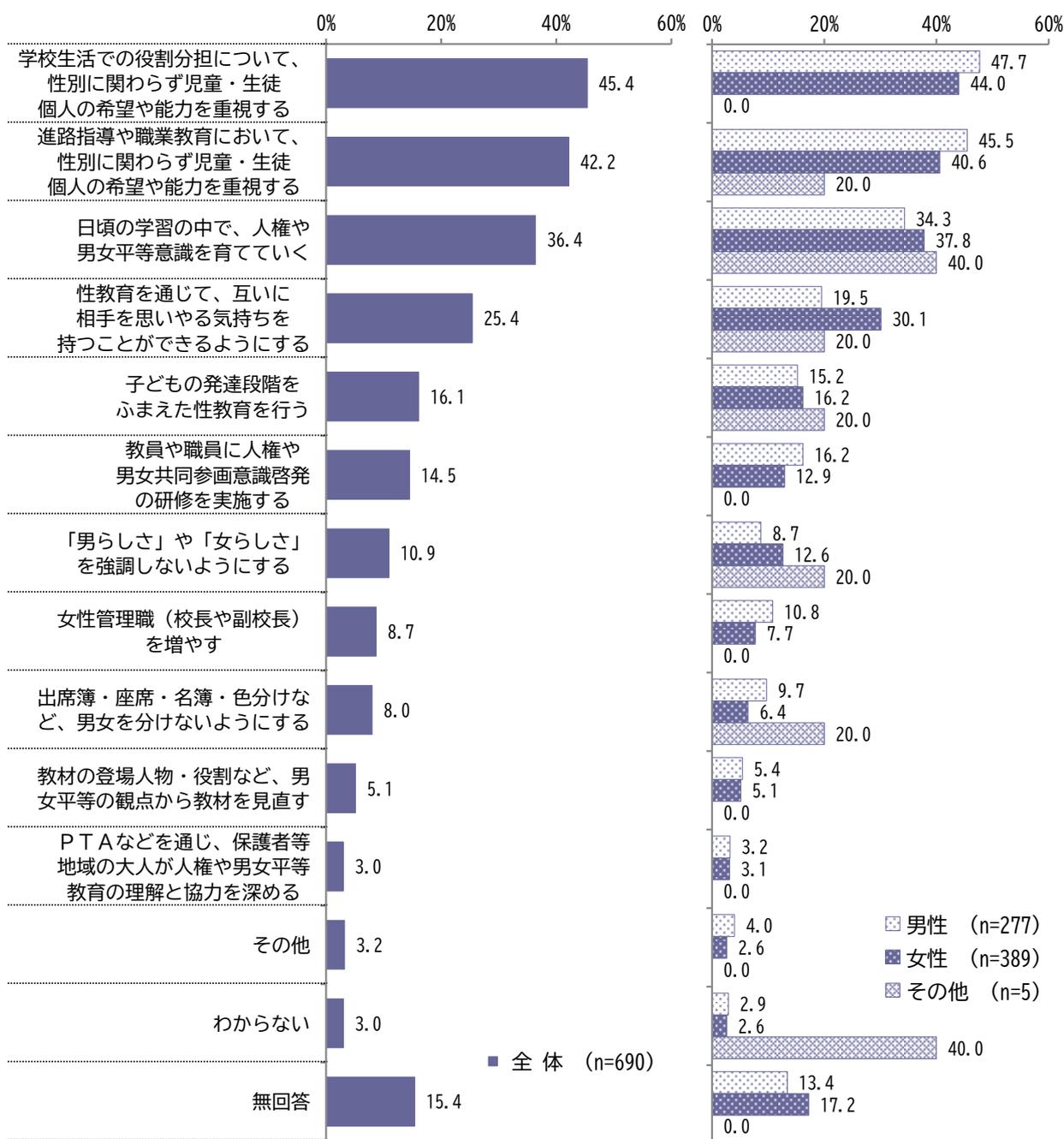
	中学校まで	高等学校まで	各専門学校・各種学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	無回答
一般市民(女の子の場合)	0.1	8.8	5.2	4.9	53.3	3.5	7.5	16.5
中学生(女性)	0.4	12.0	11.6	6.0	67.7	2.4		-
高校生(女性)		14.4	10.0	1.5	68.2	6.0		-
一般市民(男の子の場合)	0.1	8.1	2.8	1.7	58.3	5.4	7.7	15.9
中学生(男性)	1.5	17.3	4.8	0.7	66.9	8.8		-
高校生(男性)		30.1	5.7	1.1	56.8	6.3		-

問 14 教育現場における男女共同参画の推進について考えていく場合、どうしたらよ  
いと思いますか。(〇は3つまで)

全体／性別

- 「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が45.4%で最も高く、次いで「進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」が42.2%、「日頃の学習の中で、人権や男女平等意識を育てていく」が36.4%となっています。
- 性別では、女性で、「性教育を通じて、互いに相手を思いやる気持ちを持つことができるようにする」(30.1%)が男性よりも10.6ポイント高くなっています。

図表 1-82 教育現場における男女共同参画の推進方法（性別）



年代別

- ▶ 年代別では、20～30歳代と50～60歳代で「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」、10歳代・40歳代・70歳代で「進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」がそれぞれ最も高くなっています。
- ▶ 10歳代で「『男らしさ』や『女らしさ』を強調しないようにする」(29.7%)、20歳代で「子どもの発達段階をふまえた性教育を行う」(32.9%)が他の年代よりも高くなっている一方、70歳代では「学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する」(26.8%)が他の年代よりも低くなっています。

図表 1-83 教育現場における男女共同参画の推進方法（年代別）

(単位：%)

	件数（件）	学校生活での役割分担について、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する	進路指導や職業教育において、性別に関わらず児童・生徒個人の希望や能力を重視する	日頃の学習の中で、人権や男女平等意識を育てていく	性教育を通じて、互いに相手を思いやる気持ちを持つことができるようにする	子どもの発達段階をふまえた性教育を行う	教員や職員に人権や男女共同参画意識啓発の研修を実施する	「男らしさ」や「女らしさ」を強調しないようにする	女性管理職（校長や副校長）を増やす	出席簿・座席・名簿・色分けなど、男女を分けないようにする	教材の登場人物・役割など、男女平等の観点から教材を見直す	P.T.A.などを通じ、保護者等地域の大人が人権や男女平等教育の理解と協力を深める	その他	わからない	無回答	
全体	690	45.4	42.2	36.4	25.4	16.1	14.5	10.9	8.7	8.0	5.1	3.0	3.2	3.0	15.4	
年代	10歳代	37	51.4	56.8	43.2	29.7	18.9	5.4	29.7	8.1	-	-	2.7	2.7	8.1	-
	20歳代	85	47.1	38.8	29.4	32.9	32.9	9.4	20.0	5.9	8.2	8.2	1.2	2.4	2.4	4.7
	30歳代	93	49.5	43.0	39.8	33.3	29.0	16.1	16.1	18.3	10.8	6.5	5.4	2.2	2.2	2.2
	40歳代	100	46.0	53.0	43.0	27.0	13.0	12.0	12.0	12.0	9.0	5.0	3.0	7.0	3.0	4.0
	50歳代	126	56.3	46.0	45.2	31.7	7.9	18.3	7.1	7.9	11.1	7.9	4.8	4.8	4.0	3.2
	60歳代	99	47.5	37.4	36.4	14.1	11.1	12.1	5.1	9.1	6.1	2.0	3.0	1.0	4.0	25.3
	70歳代	127	26.8	33.9	23.6	15.0	7.9	18.9	3.9	3.1	4.7	3.1	1.6	1.6	0.8	48.8
80歳代以上	5	20.0	20.0	-	40.0	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	60.0	

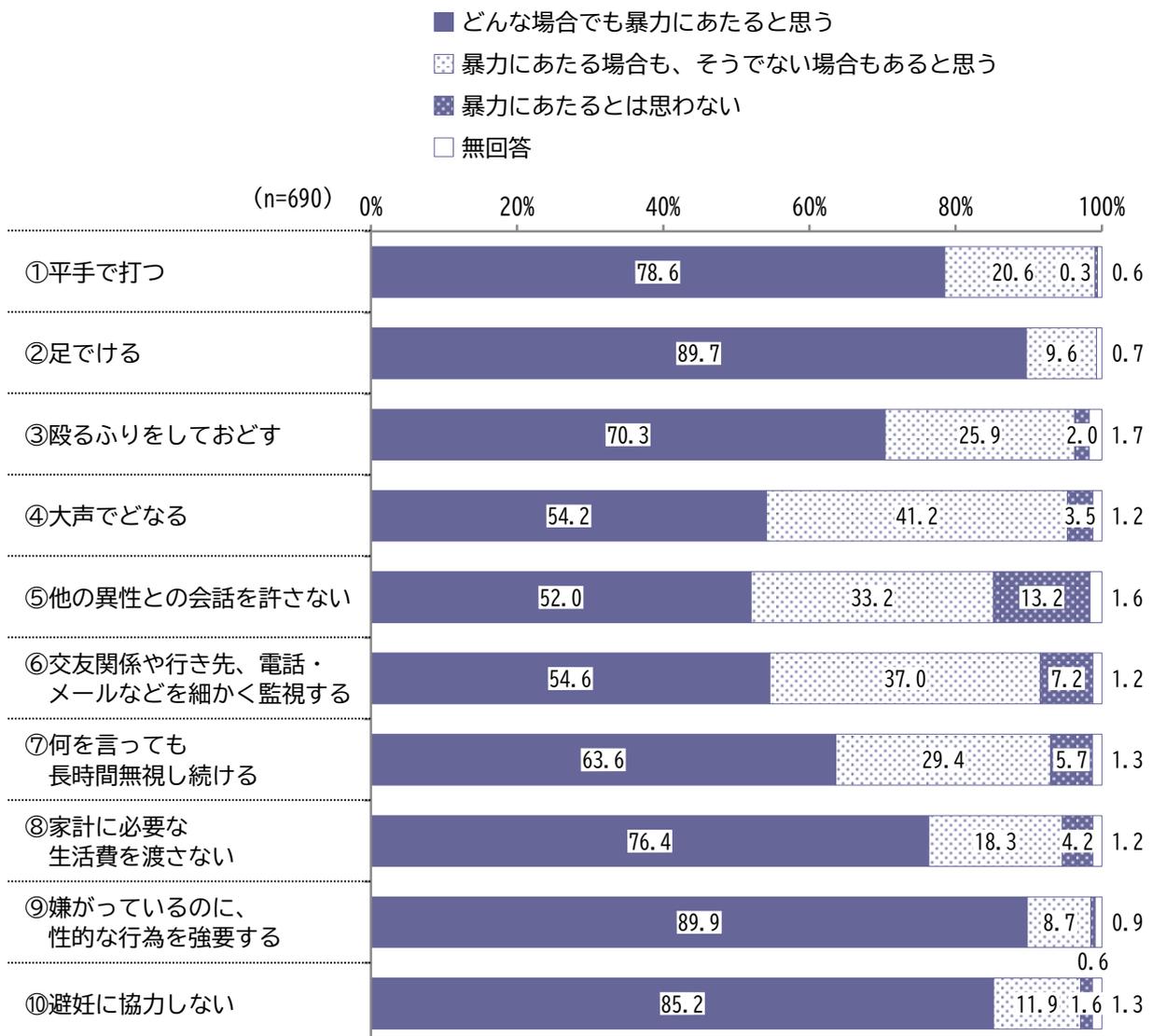
## 8 人権の尊重について

問 15 あなたは、夫婦や恋人との間で、次のような行為があったとき、それを暴力だと思えますか。(①～⑩についてそれぞれ○を1つ)

### 全体

▶ 『①平手で打つ』、『②足でける』、『③殴るふりをしておどす』、『⑧家計に必要な生活費を渡さない』、『⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する』、『⑩避妊に協力しない』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割を超えています。一方、『④大声でどなる』、『⑥交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する』では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が4割前後となっています。

図表 1-84 夫婦や恋人間での暴力行為の認識

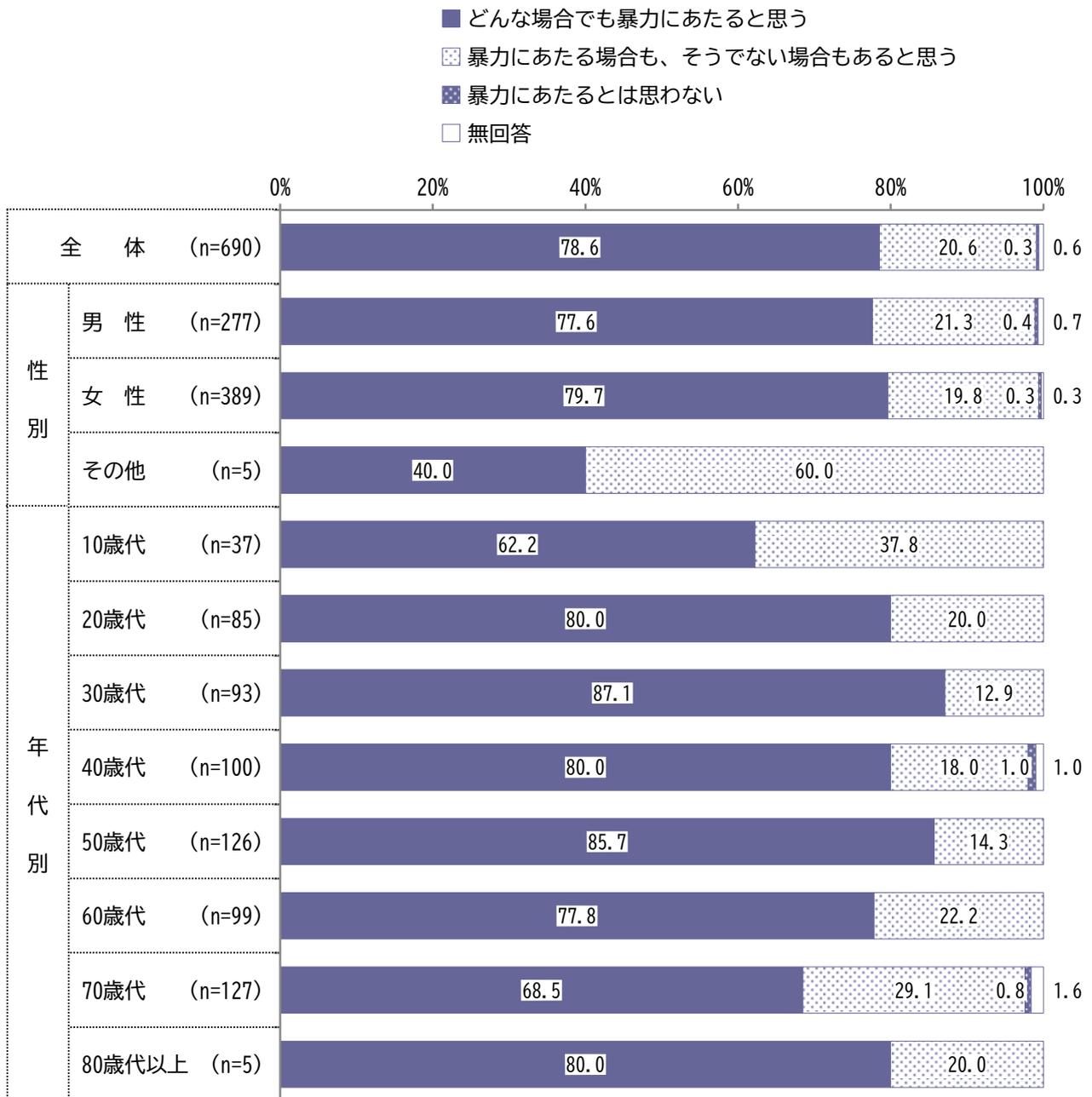


① 平手で打つ

全体／性別／年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 78.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 20.6%となっています。
- 性別では、男女で大きな差はみられません。
- 年代別では、20～60 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割前後を占めている一方、10 歳代と 70 歳代では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が3割前後となっています。

図表 1-85 ①平手で打つ（性別/年代別）

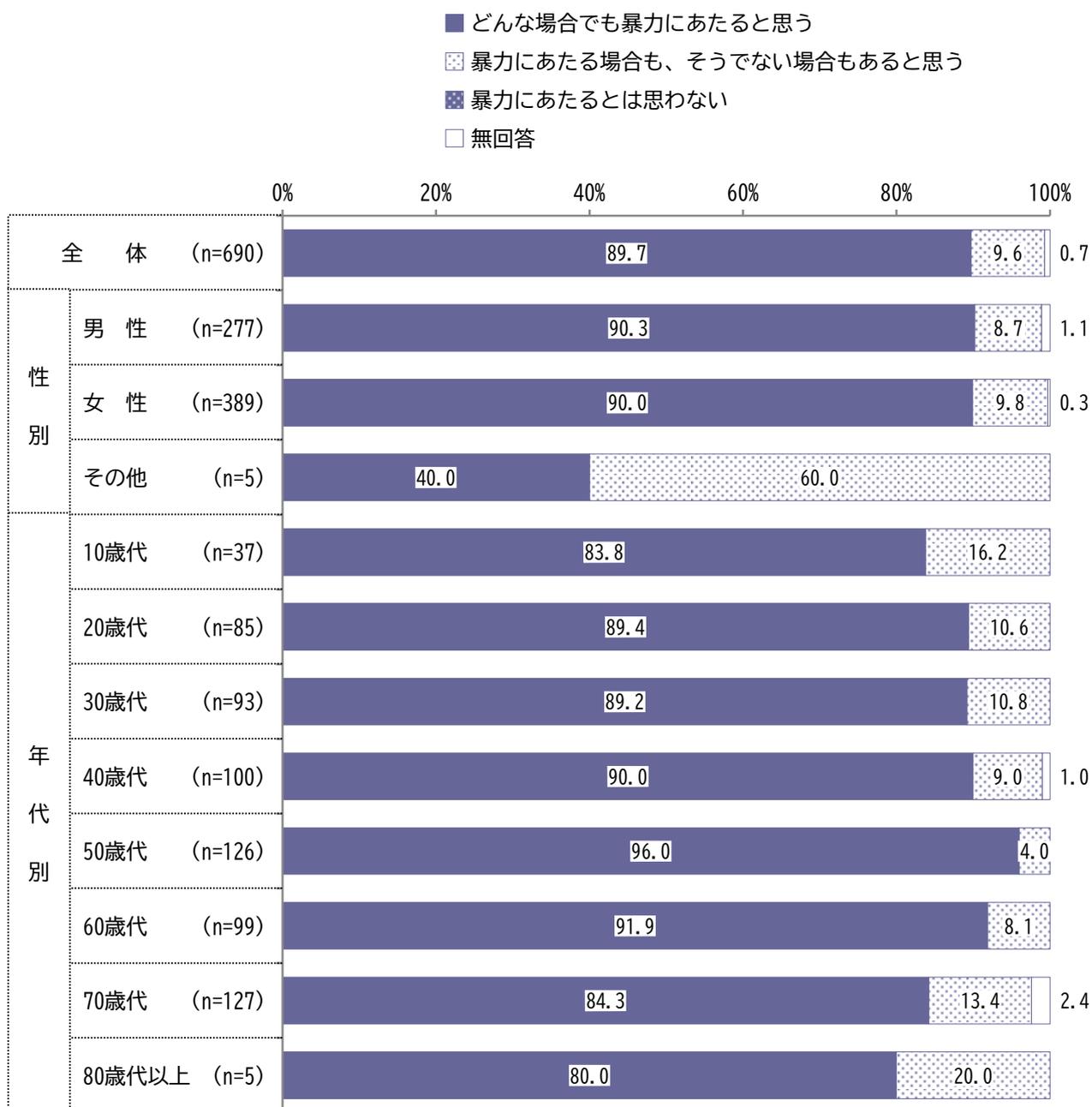


② 足でける

全体 / 性別 / 年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 89.7%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 9.6%となっています。
- 性別では、男女で大きな差はみられません。
- 年代別では、20～60 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割前後を占めており、なかでも、50 歳代は 96.0%と最も高くなっています。

図表 1-86 ②足でける（性別/年代別）

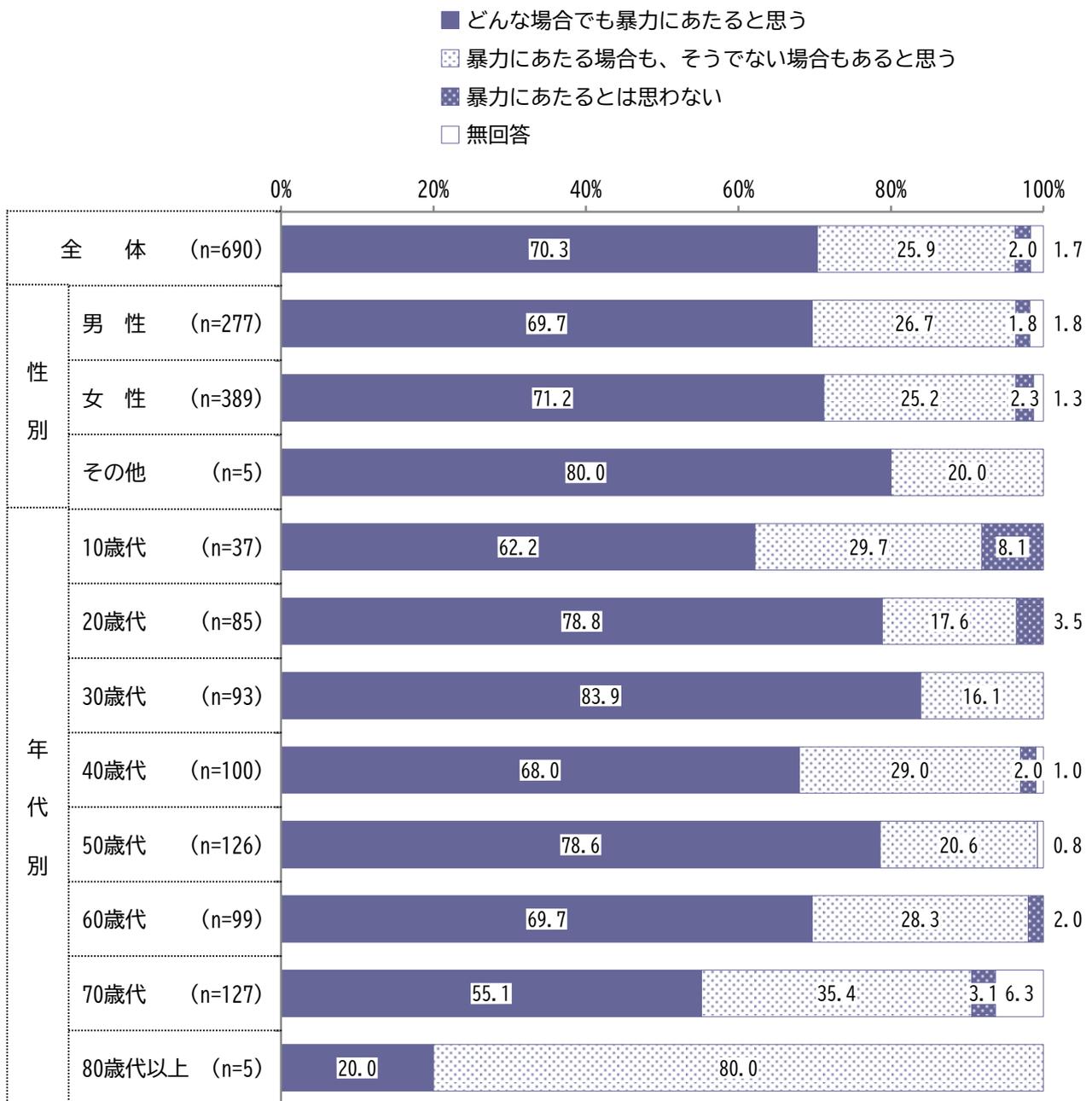


③ 殴るふりをしておどす

全体 / 性別 / 年代別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 70.3%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 25.9%、「暴力にあたるとは思わない」が 2.0%となっています。
- ▶ 性別では、男女で大きな差はみられません。
- ▶ 年代別では、20～30 歳代と 50 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割前後を占めている一方、それ以外の年代では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が3割前後となっており、70 歳代では 35.4%と、他の年代よりも高くなっています。

図表 1-87 ③殴るふりをしておどす（性別/年代別）

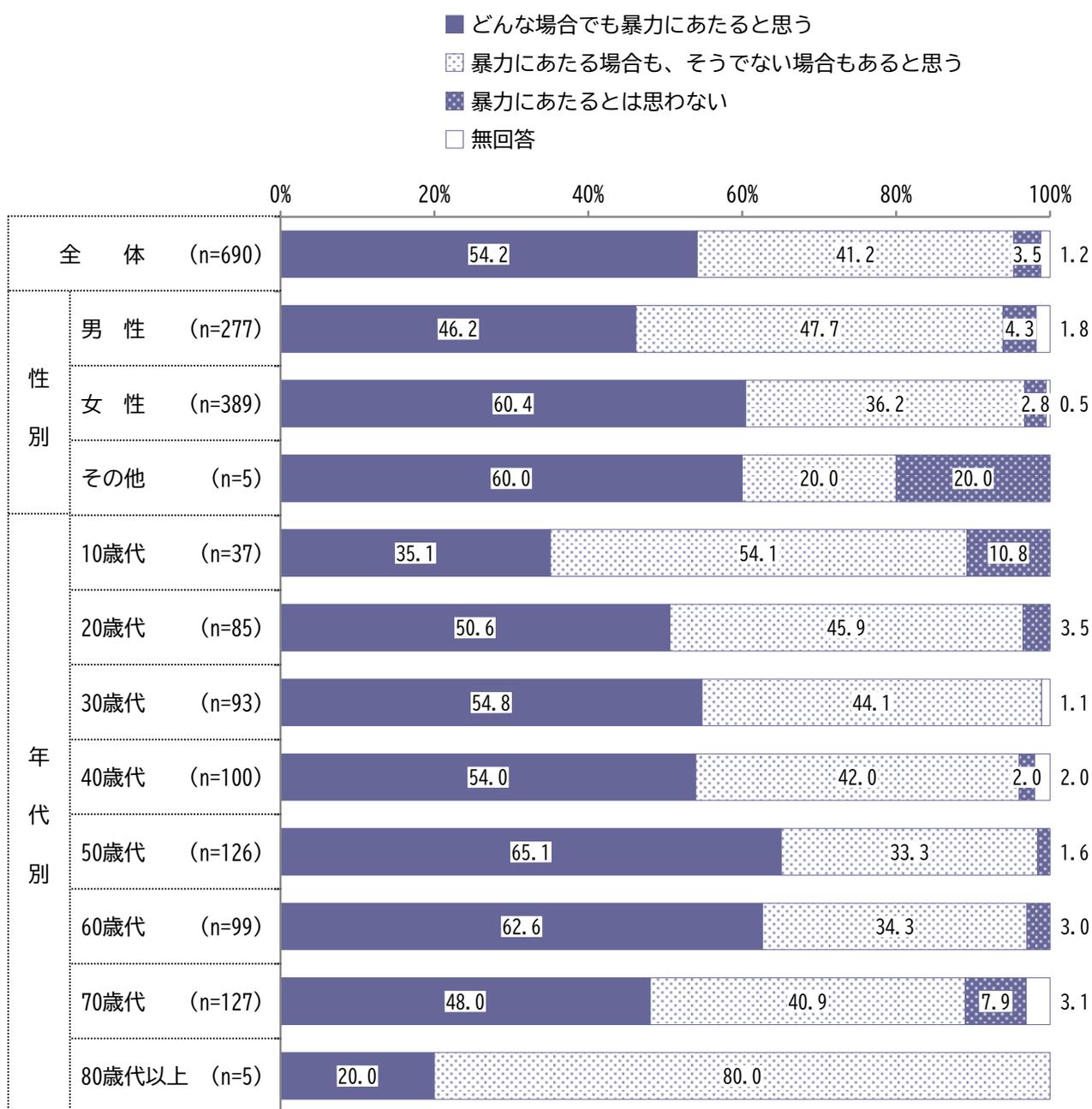


④ 大声でどなる

全体 / 性別 / 年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 54.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 41.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 3.5%となっています。
- 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(60.4%)が男性よりも 14.2 ポイント高くなっています。
- 年代別では、20～60 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割を超えている一方、10 歳代では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(54.1%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-88 ④大声でどなる (性別/年代別)

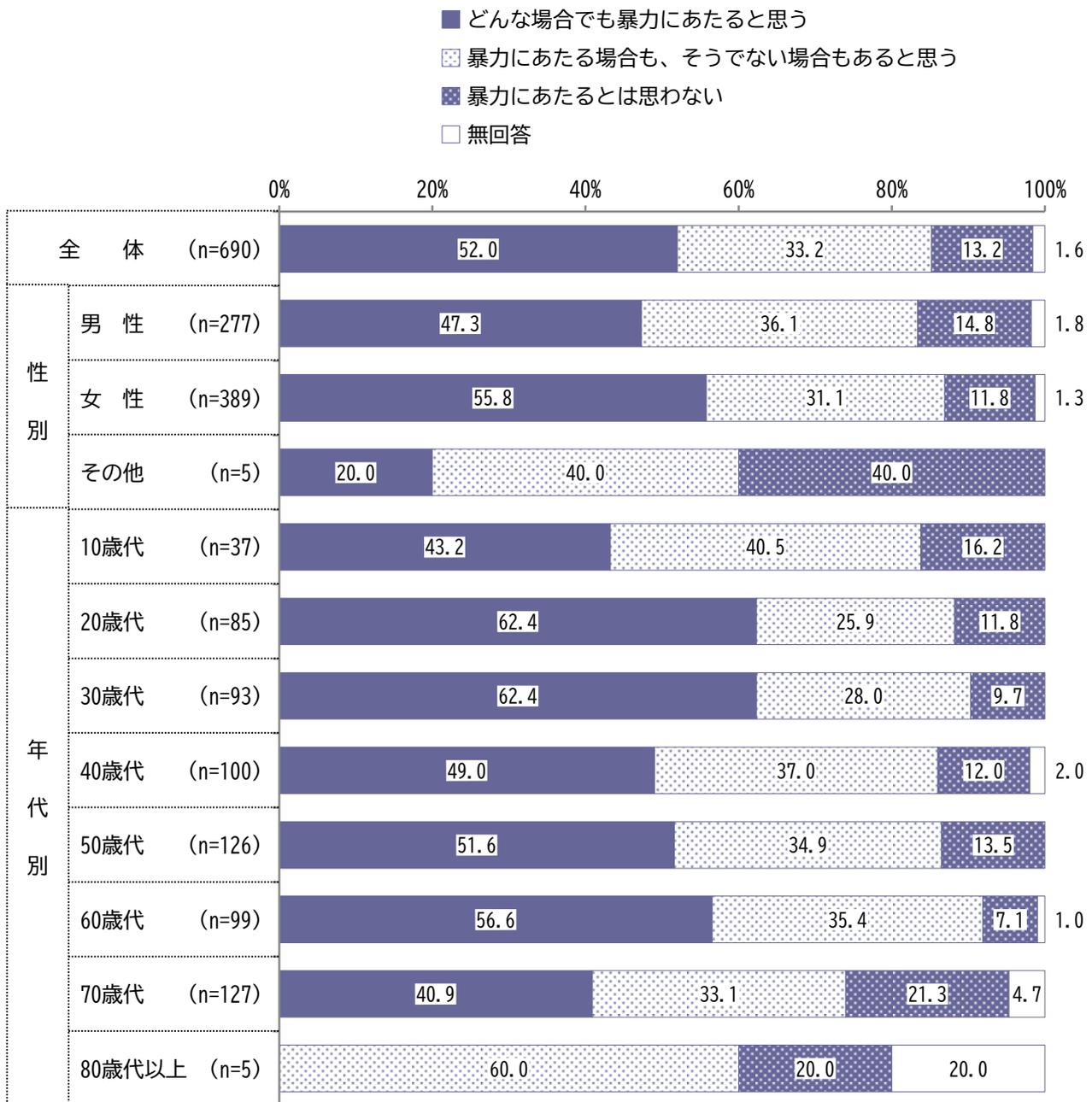


⑤ 他の異性との会話を許さない

全体 / 性別 / 年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 52.0%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 33.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 13.2%となっています。
- 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(55.8%)が男性よりも 8.5 ポイント高くなっています。
- 年代別では、20～30 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割を超えている一方、10 歳代と 70 歳代では約4割となっています。70 歳代では「暴力にあたるとは思わない」(21.3%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-89 ⑤他の異性との会話を許さない（性別/年代別）

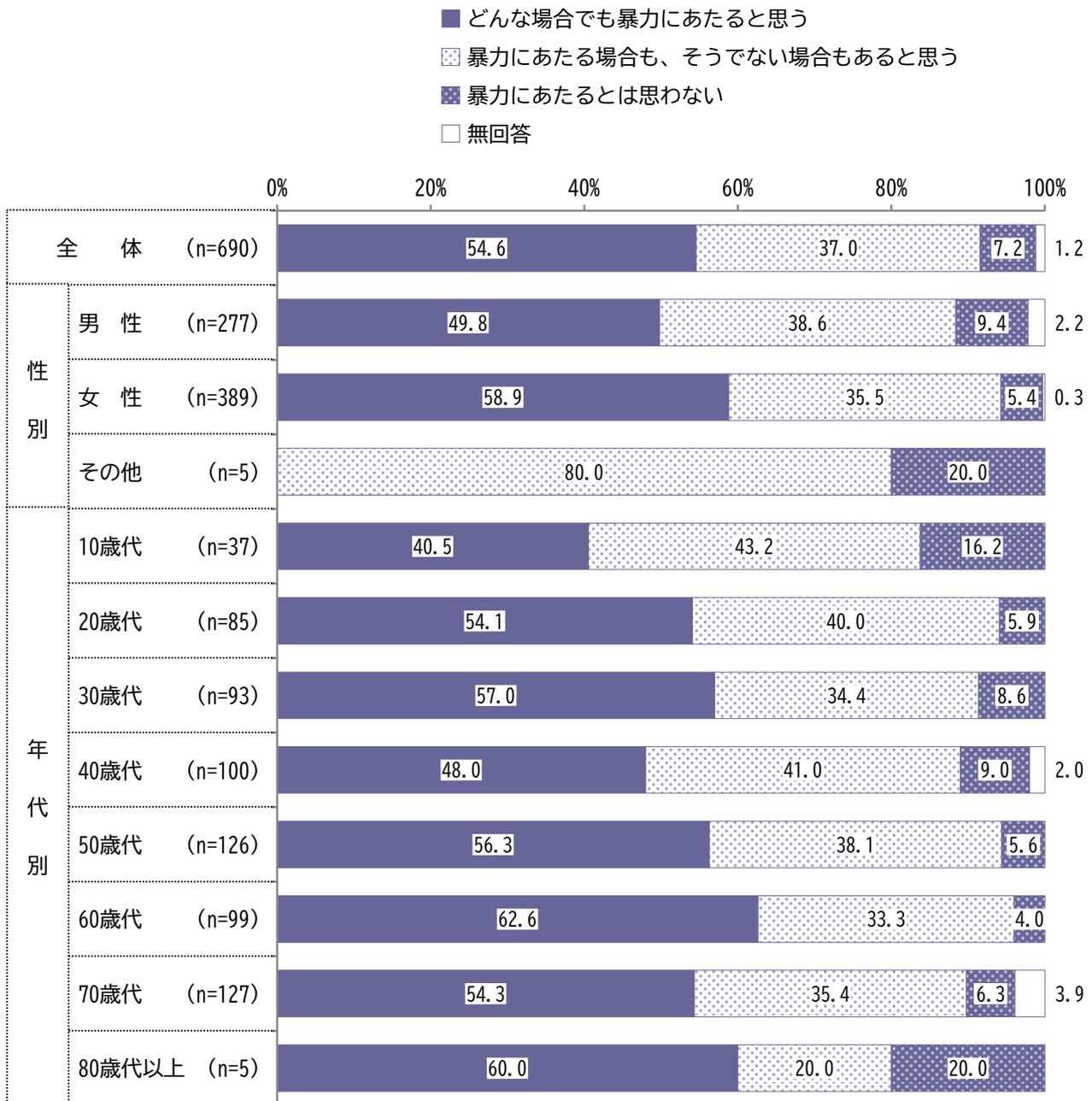


⑥ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

全体 / 性別 / 年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 54.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 37.0%、「暴力にあたるとは思わない」が 7.2%となっています。
- 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(58.9%)が男性よりも 9.1 ポイント高くなっています。
- 年代別では、10 歳代と 40 歳代を除き「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割を超えている一方、10 歳代では「暴力にあたるとは思わない」(16.2%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-90 ⑥交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する（性別/年代別）

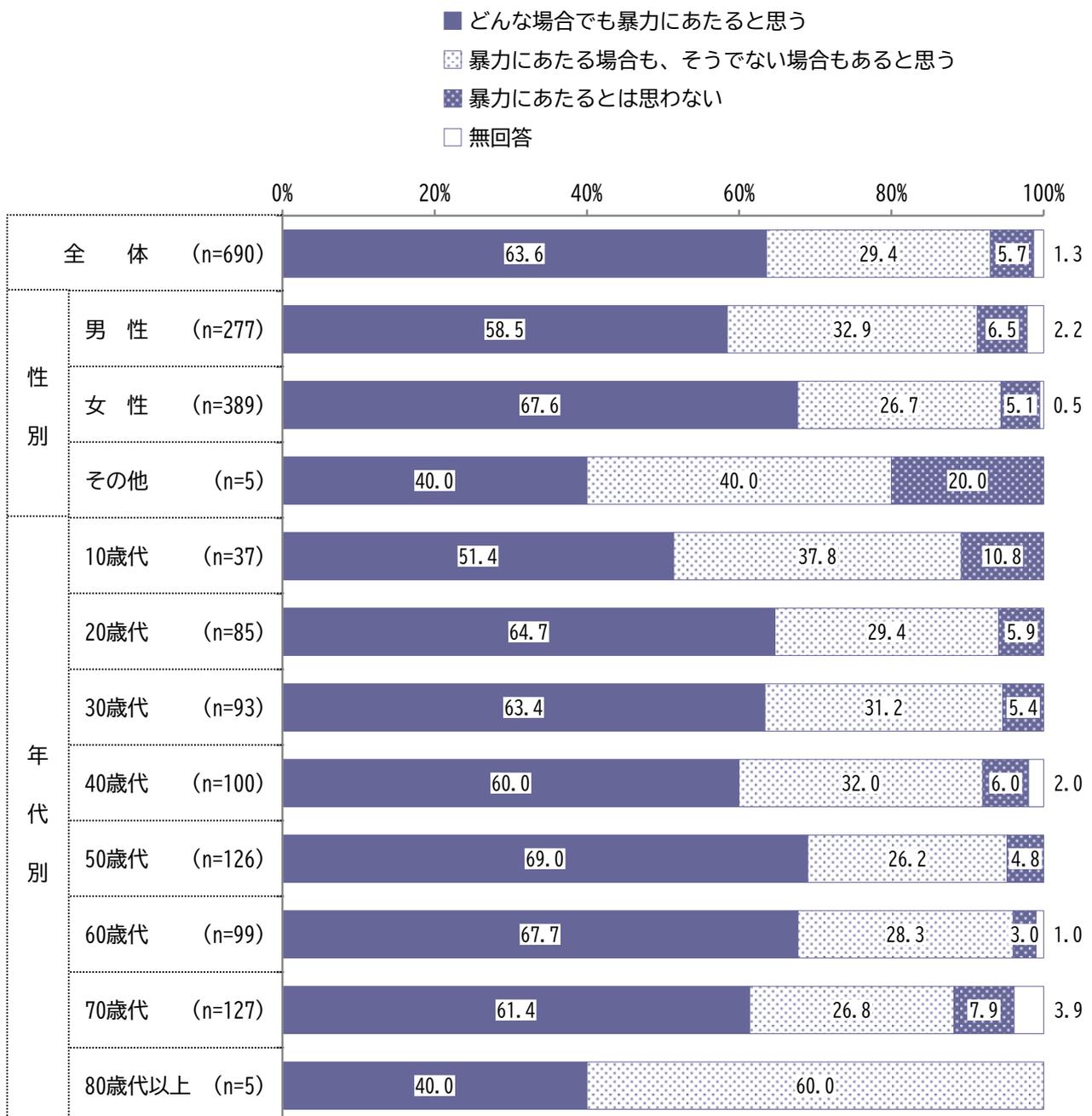


⑦ 何を言っても長時間無視し続ける

全体 / 性別 / 年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 63.6%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 29.4%、「暴力にあたるとは思わない」が 5.7%となっています。
- 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(67.6%)が男性よりも 9.1 ポイント高くなっています。
- 年代別では、10 歳代を除き「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割以上となっている一方、10 歳代では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(37.8%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-91 ⑦何を言っても長時間無視し続ける (性別/年代別)

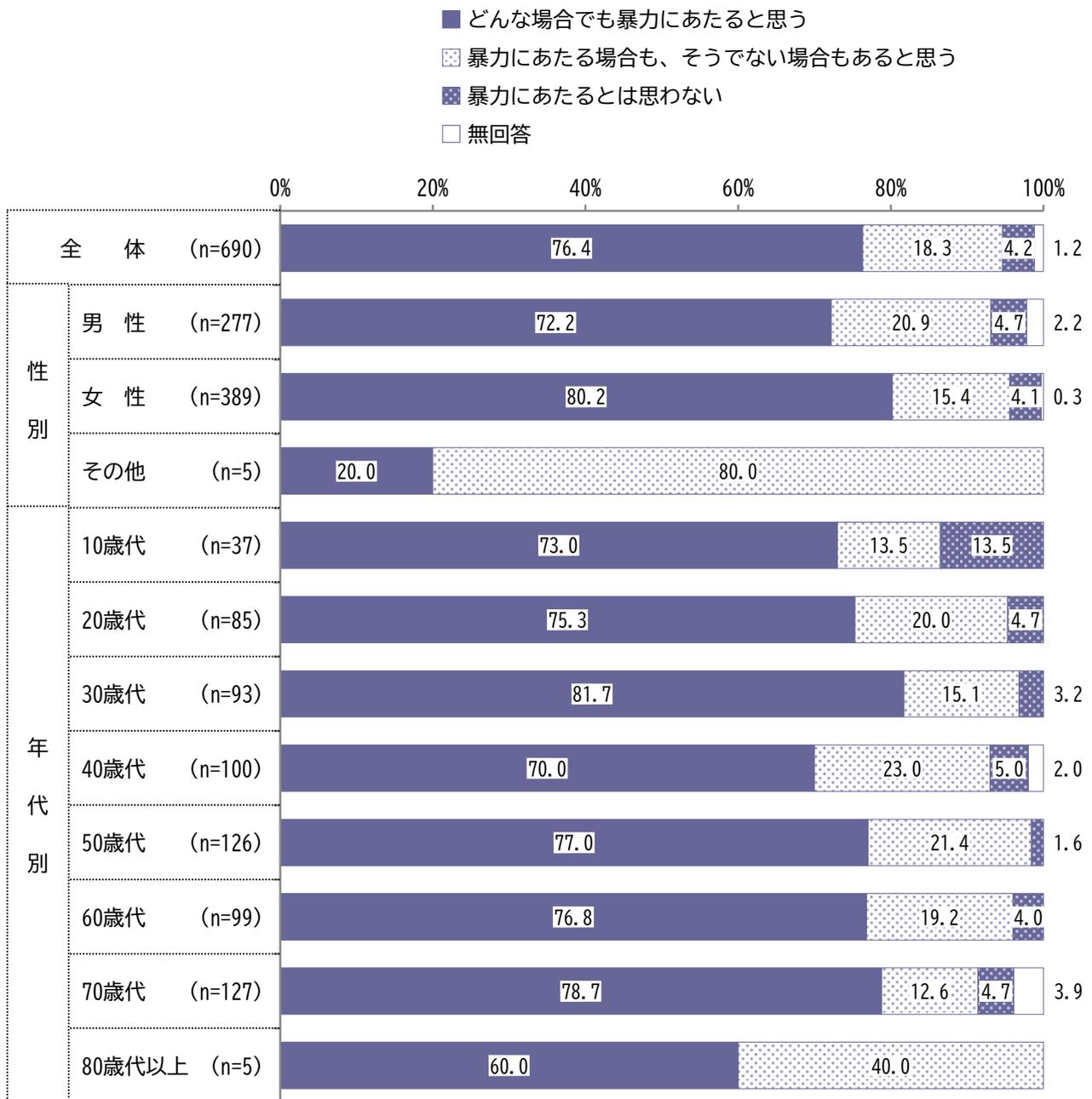


⑧ 家計に必要な生活費を渡さない

全体 / 性別 / 年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 76.4%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 18.3%、「暴力にあたるとは思わない」が 4.2%となっています。
- 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(80.2%)が男性よりも 8.0 ポイント高くなっています。
- 年代別では、10～70 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上となっており、なかでも、30 歳代で 81.7%と最も高くなっています。一方、10 歳代では「暴力にあたるとは思わない」(13.5%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-92 ⑧家計に必要な生活費を渡さない（性別/年代別）

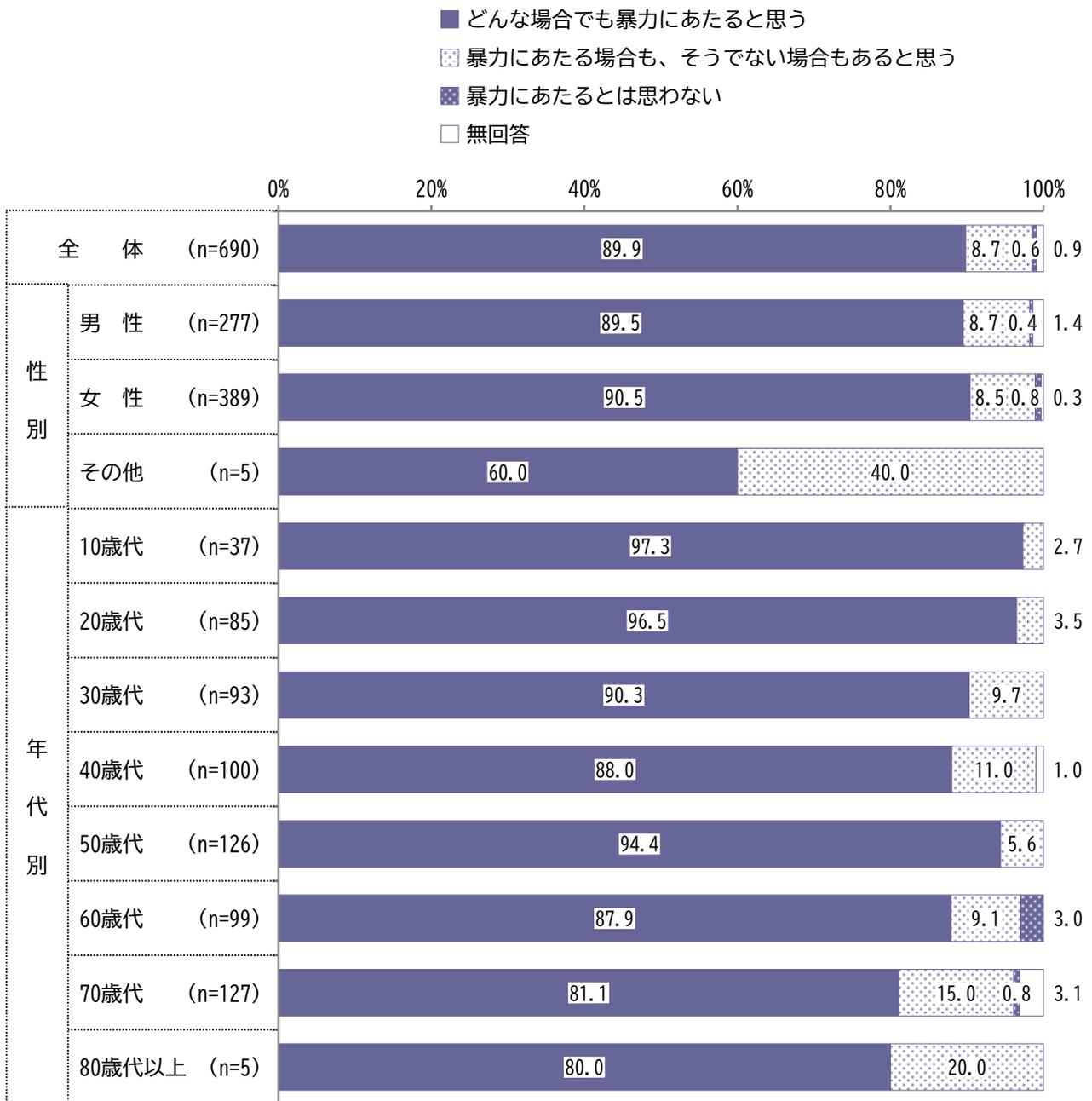


⑨ 嫌がっているのに、性的な行為を強要する

全体 / 性別 / 年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 89.9%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 8.7%となっています。
- 性別では、男女で大きな差はみられません。
- 年代別では、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上を占めており、なかでも、10歳代で97.3%と最も高くなっています。一方、50歳代を除く30歳代以上では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が1割前後となっており、なかでも、70歳代で15.0%と、他の年代よりも高くなっています。

図表 1-93 ⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する（性別/年代別）

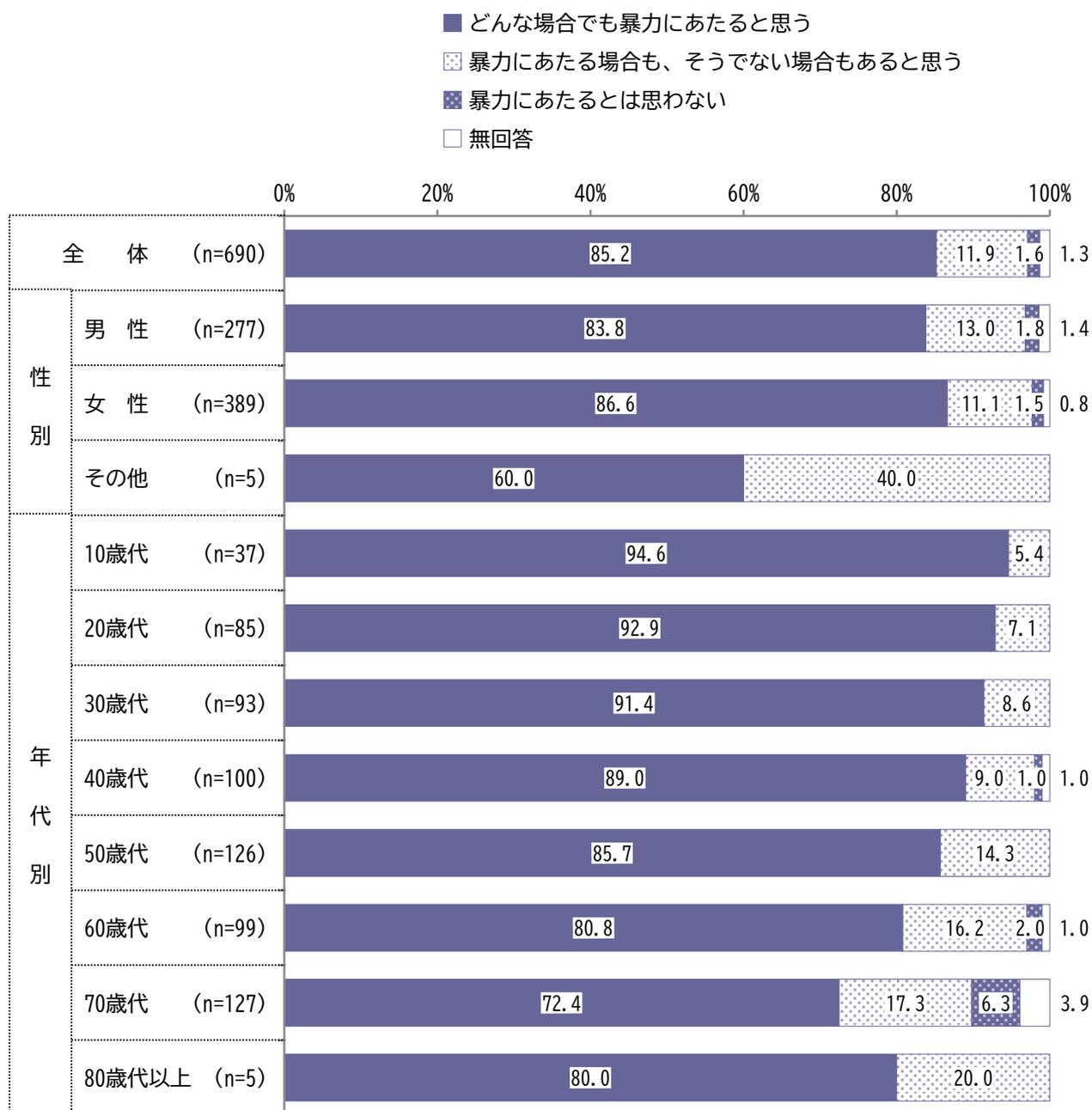


⑩ 避妊に協力しない

全体／性別／年代別

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 85.2%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 11.9%、「暴力にあたるとは思わない」が 1.6%となっています。
- 性別では、男女で大きな差はみられません。
- 年代別では、年代が上がるにつれ「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が低くなっており、30 歳代以下では9割を超えている一方、70 歳代では 72.4%となっています。

図表 1-94 ⑩避妊に協力しない（性別/年代別）



中学生・高校生調査との比較

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合を中学生の調査と比べると、すべての項目で中学生を上回っています。なかでも、『①平手で打つ』と『⑦何を言っても長時間無視し続ける』では、約 30 ポイント高くなっています。
- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合を高校生の調査と比べると、『⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する』と『⑩避妊に協力しない』を除き、高校生を上回っています。なかでも、『②足でける』と『⑦何を言っても長時間無視し続ける』では、約 20 ポイント高くなっています。
- ▶ 「暴力にあたるとは思わない」の割合を中学生の調査と比べると、すべての項目で中学生が上回っています。なかでも、『⑥交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する』と『⑤他の異性との会話を許さない』では、中学生の方がそれぞれ 15 ポイント前後高くなっています。
- ▶ 「暴力にあたるとは思わない」の割合を高校生の調査と比べると、すべての項目で高校生が上回っています。なかでも、『⑦何を言っても長時間無視し続ける』では、高校生の方が 6.1 ポイント高くなっています。

図表 1-95 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合〈中学生・高校生調査との比較〉

(単位：%)

	① 平手で打つ	② 足でける	③ 殴るふりをしておどす	④ 大声でどなる	⑤ 許さない 他の異性との会話を	⑥ 細かく監視する 電話・メールなどを	⑦ 無視し続ける 何を言っても長時間	⑧ をせびつたりする やり払ったりする、お金	⑨ 性的な行為を強要する 嫌がっているのに、	⑩ 避妊に協力しない 家計に必要な生活費を
一般市民	78.6	89.7	70.3	54.2	52.0	54.6	63.6	76.4	89.9	85.2
中学生	49.1	65.7	48.5	34.7	35.7	42.1	34.5	61.7	86.4	63.8
高校生	70.2	69.9	65.2	42.1	45.3	51.8	43.7	69.6	94.5	88.5

図表 1-96 「暴力にあたるとは思わない」の割合〈中学生・高校生調査との比較〉

(単位：%)

	① 平手で打つ	② 足でける	③ 殴るふりをしておどす	④ 大声でどなる	⑤ 許さない 他の異性との会話を	⑥ 細かく監視する 電話・メールなどを	⑦ 無視し続ける 何を言っても長時間	⑧ をせびつたりする やり払ったりする、お金	⑨ 性的な行為を強要する 嫌がっているのに、	⑩ 避妊に協力しない 家計に必要な生活費を
一般市民	0.3	-	2.0	3.5	13.2	7.2	5.7	4.2	0.6	1.6
中学生	4.0	3.8	14.3	17.4	27.9	22.5	19.1	9.4	2.1	6.8
高校生	1.3	1.3	5.2	6.8	17.3	12.0	11.8	5.0	1.0	1.8

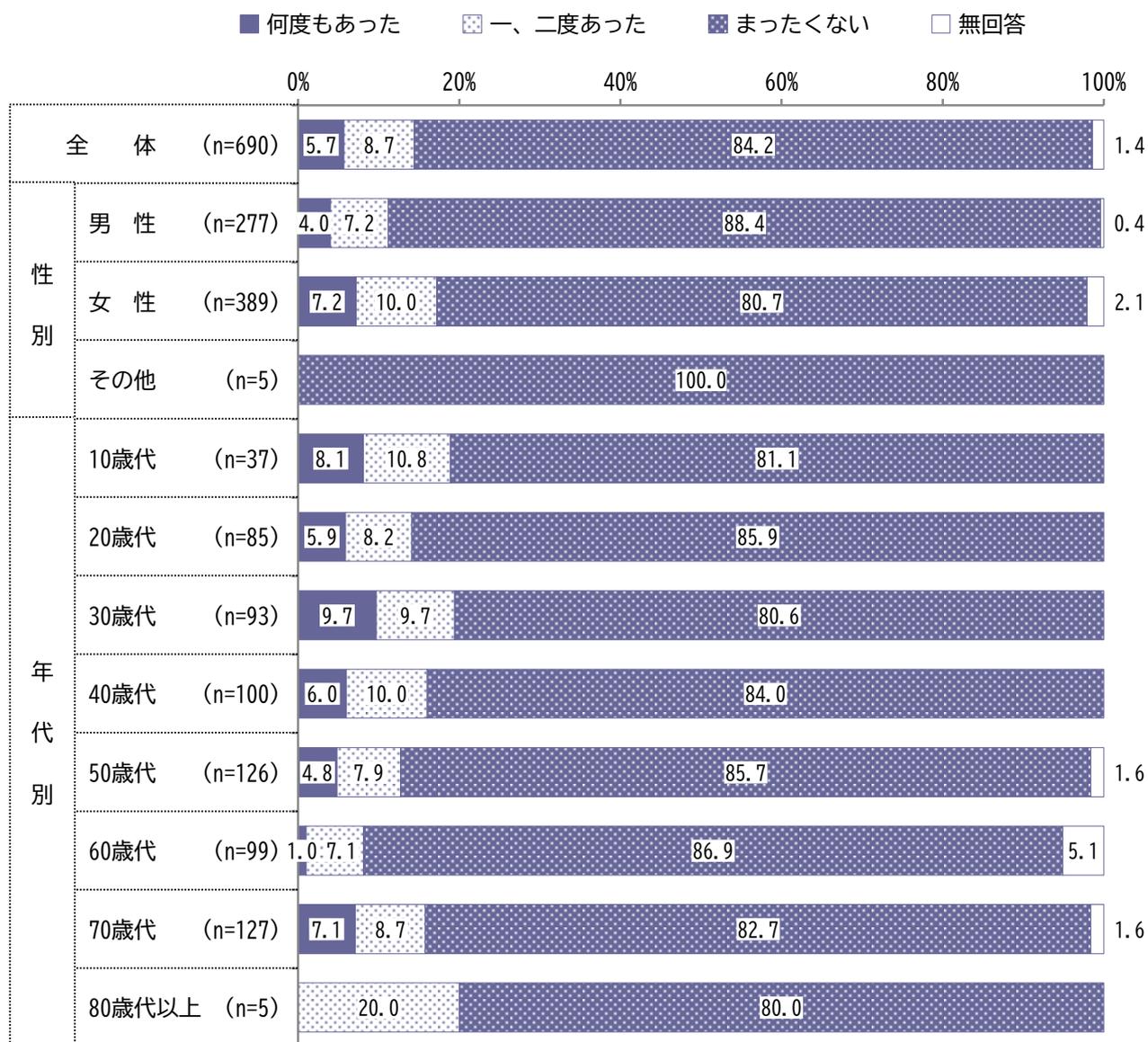
問 16 最近5年間に、あなたは恋人や配偶者から、身体的・精神的・性的・経済的な暴力を受けたことがありますか。(○は1つ)

全体／性別／年代別

- 「まったくない」が84.2%、「一、二度あった」が8.7%、「何でもあった」が5.7%となっています。
- 性別では、男性で、「まったくない」(88.4%)が女性よりも7.7ポイント高くなっています。
- 年代別では、すべての年代で「まったくない」が8割以上を占めている一方、10歳代と30歳代では“DV被害の経験がある※1”(約2割)が他の年代よりも高くなっています。

※1 DV被害の経験がある：「何でもあった」+「一、二度あった」

図表 1-97 DVを受けた経験（性別/年代別）



### 配偶者の有無別

➤ 配偶者の有無別では、『離別』と『未婚』の層で“暴力を受けたことがある”の割合が高くなっており、なかでも、『離別』の層では「何度もあった」(18.9%)が高くなっています。

図表 1-98 DVを受けた経験（配偶者の有無別）

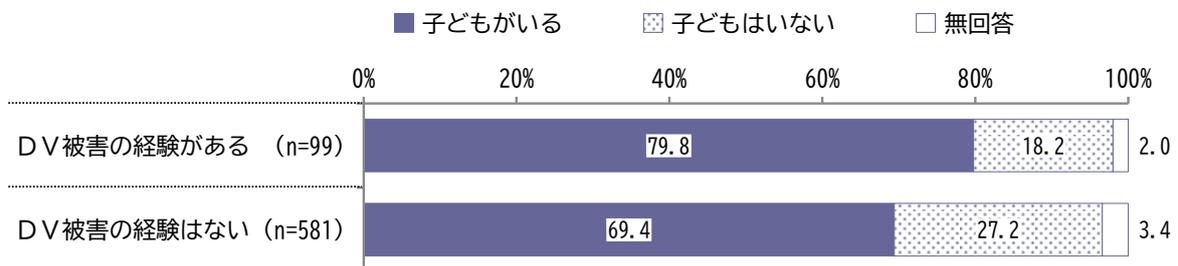
(単位：%)

	件数 (件)	あ受暴 るけ力 たを こと が	何 度 も あ つ た	あ 一 つ た 二 度	ま つ た く な い	無 回 答
配偶者がいる	483	15.7	5.8	9.9	83.2	1.0
配偶者がいない	189	11.6	5.8	5.8	86.2	2.1
未婚	124	15.7	5.8	9.9	83.2	1.0
離別	37	21.6	18.9	2.7	70.3	8.1
死別	28	7.2	3.6	3.6	89.3	3.6

### DV被害の経験別子どもの有無

➤ DV被害の経験別に子どもの有無をみると、『DV被害の経験がある』層は、「子どもがいる」(79.8%)が『DV被害の経験はない』層よりも10.4ポイント高くなっています。

図表 1-99 子どもの有無（DV被害の有無別）



### 過去調査との比較

➤ 過去の調査と比べると、「何度もあった」は令和2年まで減少していたものの、今回の調査では増加に転じています。「一、二度あった」(8%前後)と「まったくくない」(85%前後)は、横ばいで推移しています。

図表 1-100 DVを受けた経験（過去調査との比較）

(単位：%)

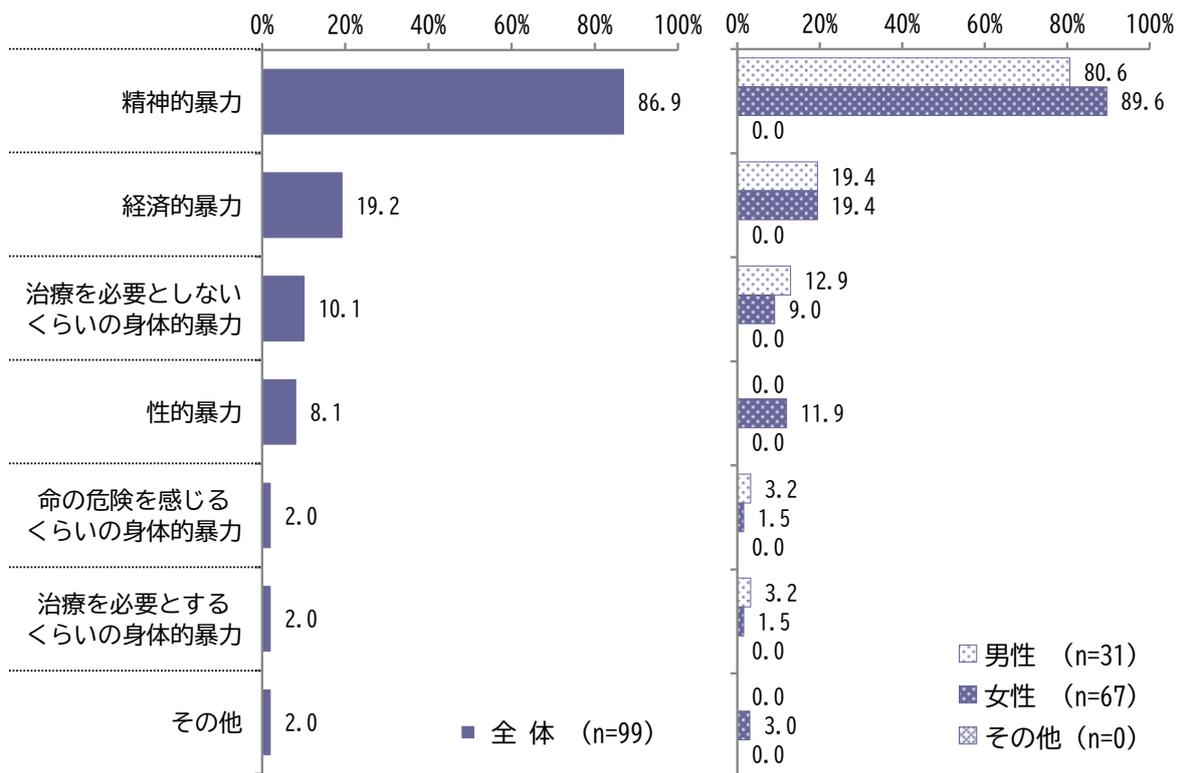
	あ受暴 るけ力 たを こと が	何 度 も あ つ た	あ 一 つ た 二 度	ま つ た く な い	無 回 答
令和7年	14.4	5.7	8.7	84.2	1.4
令和2年	12.7	3.9	8.8	85.8	1.5
平成28年	12.4	4.8	7.6	84.0	-
平成22年	14.6	6.3	8.3	77.3	-

問 16-1 それはどのような暴力ですか。(あてはまるものすべてに○)  
 〈問 16 で「1」または「2」と回答した方〉

**全体／性別**

- 「精神的暴力」が 86.9%で最も高く、次いで「経済的暴力」が 19.2%、「治療を必要としないくらいの身体的暴力」が 10.1%となっています。
- 性別では、女性で「性的暴力」(11.9%)が 11.9 ポイント、「精神的暴力」(89.6%)が 9.0 ポイント、それぞれ男性よりも高くなっています。

図表 1-101 受けたDVの種類（性別）



年代別／配偶者の有無別

- ▶ 年代別では、ほとんどの年代で「精神的暴力」が8割以上を占め、最も高くなっています。30 歳代では、「経済的暴力」(33.3%)が他の年代よりも高くなっています。
- ▶ 配偶者の有無別では、『配偶者はいない』層で、「経済的暴力」(36.4%)で 21.9 ポイント、「治療を必要としないくらいの身体的暴力」(22.7%)で 16.1 ポイント、それぞれ『配偶者がいる』層よりも高くなっています。

図表 1-102 受けたDVの種類（年代別/配偶者の有無別）

(単位：%)

		件数 (件)	命の危険を感じる くらいの身体的暴力	治療を必要と するくらいの身体的暴力	治療を必要と しないくらいの身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力	その他
全体		99	2.0	2.0	10.1	86.9	8.1	19.2	2.0
年代	10歳代	7	14.3	-	-	85.7	-	28.6	-
	20歳代	12	8.3	8.3	8.3	83.3	-	16.7	-
	30歳代	18	-	-	11.1	77.8	22.2	33.3	-
	40歳代	16	-	-	18.8	87.5	12.5	12.5	-
	50歳代	16	-	-	6.3	93.8	6.3	12.5	-
	60歳代	8	-	-	25.0	87.5	-	25.0	12.5
	70歳代	20	-	5.0	5.0	90.0	5.0	15.0	5.0
	80歳代以上	1	-	-	-	100.0	-	-	-
の配偶者 有無者	配偶者がいる	76	1.3	1.3	6.6	86.8	7.9	14.5	2.6
	配偶者はいない	22	4.5	4.5	22.7	86.4	9.1	36.4	-

過去調査との比較

- ▶ 過去の調査と比べると、「精神的暴力」、「性的暴力」、「命の危険を感じるくらいの身体的暴力」、「経済的暴力」が増加しており、なかでも、「精神的暴力」(86.9%)は年々増加し、平成 22 年以降で最も高くなっています。

図表 1-103 受けたDVの種類（過去調査との比較）

(単位：%)

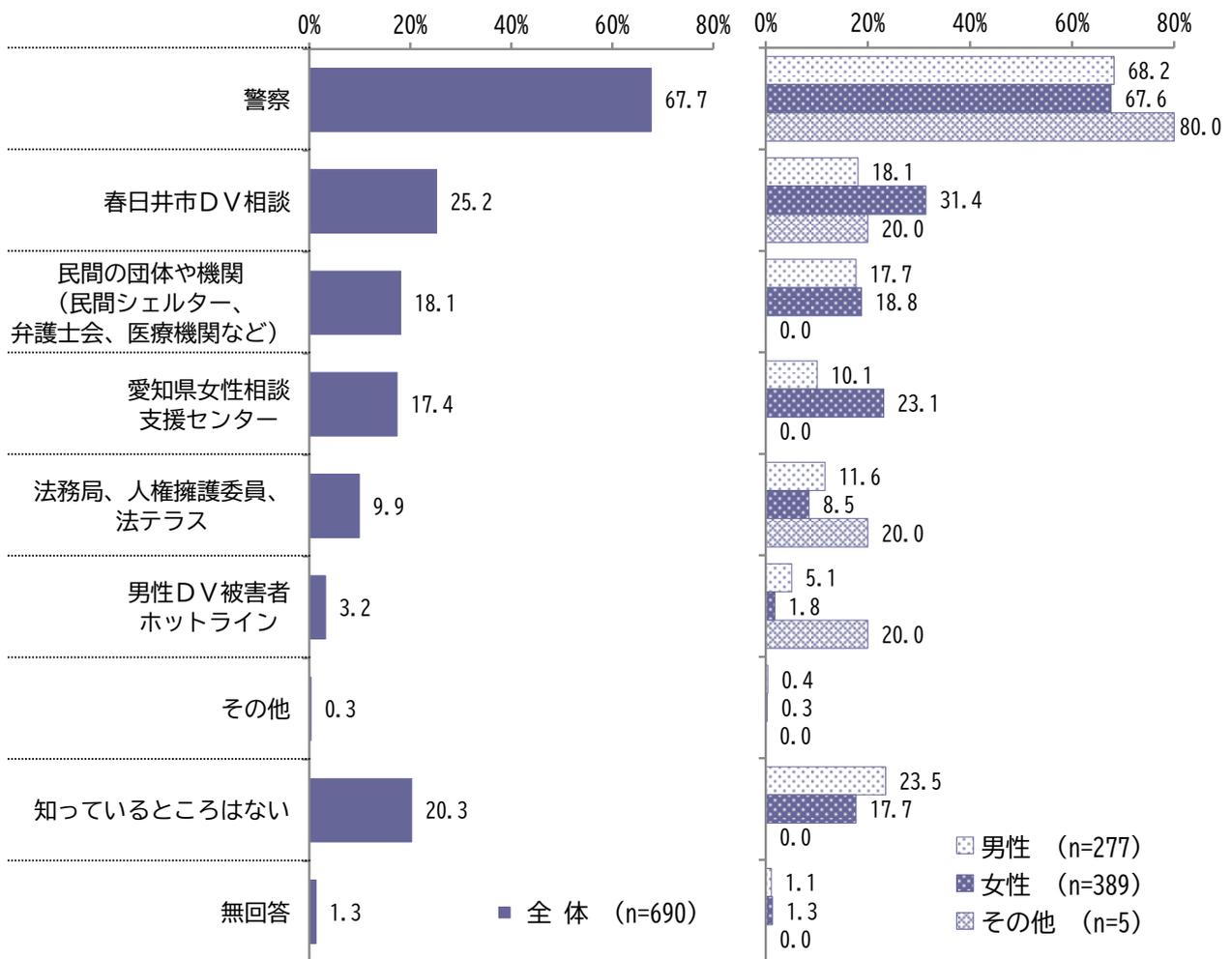
	命の危険を感じる くらいの身体的暴力	治療を必要と するくらいの身体的暴力	治療を必要と しないくらいの身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力	その他
令和7年	2.0	2.0	10.1	86.9	8.1	19.2	2.0
令和2年	0.8	2.4	13.8	82.9	6.5	18.7	4.1
平成28年	1.6	6.2	19.4	81.4	7.8	28.7	4.7
平成22年	3.9	9.2	23.0	71.1	14.5	23.7	4.6

問 17 あなたは、DVについて相談できる窓口について、どのようなところを知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

**全体／性別**

- 「警察」が67.7%で最も高く、次いで「春日井市DV相談」が25.2%、「民間の団体や機関(民間シェルター、弁護士会、医療機関など)」が18.1%となっている一方、「知っているところはない」は20.3%となっています。
- 性別では、女性で「春日井市DV相談」(31.4%)が13.3ポイント、「愛知県女性相談支援センター」(23.1%)が13.0ポイント、それぞれ男性よりも高くなっています。

図表 1-104 知っているDVの相談窓口（性別）



## 年代別

- ▶ 年代別では、ほとんどの年代で「警察」が6割以上を占め、最も高くなっています。
- ▶ 60歳代では、「愛知県女性相談支援センター」(28.3%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-105 知っているDVの相談窓口（年代別）

(単位：%)

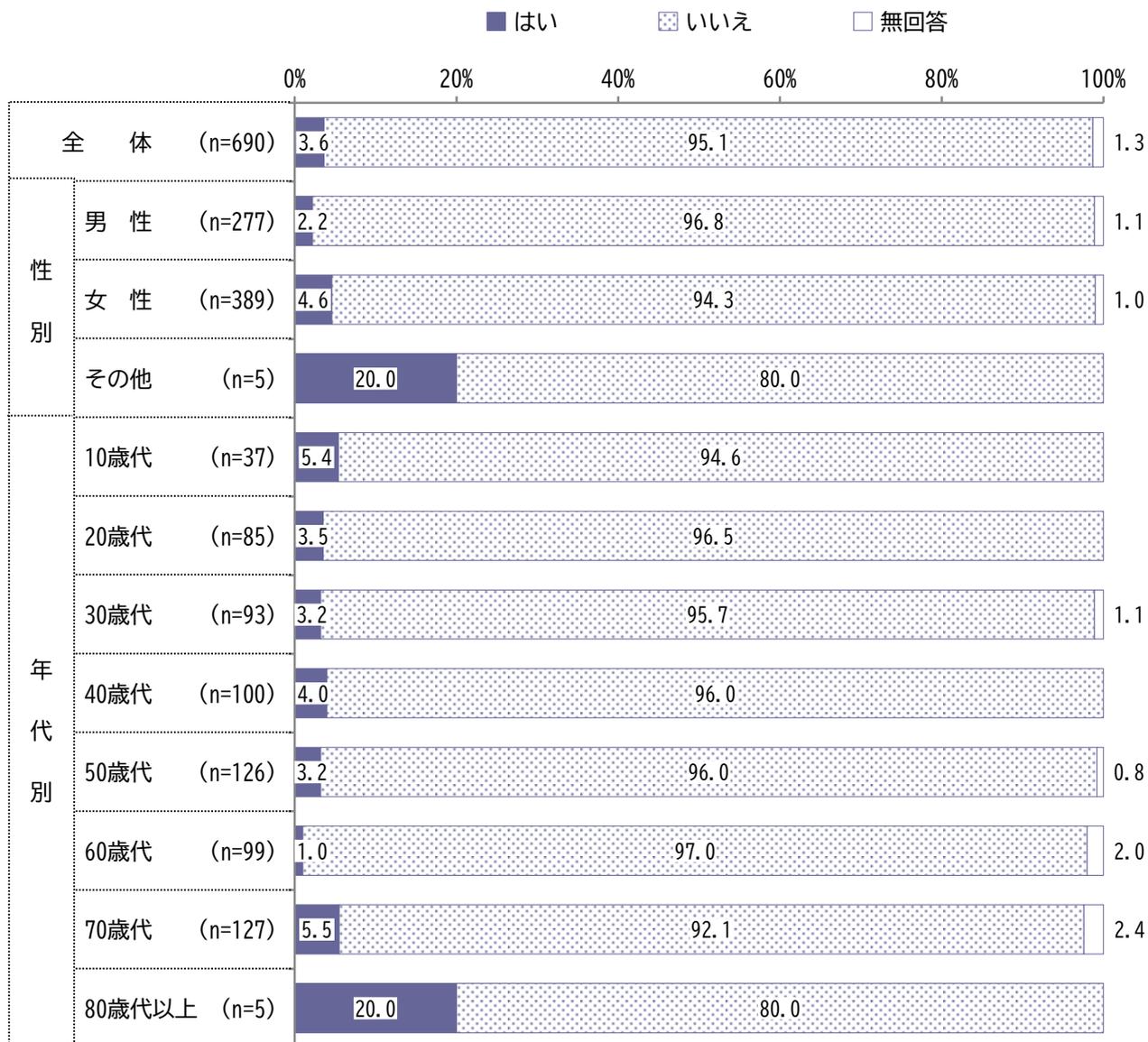
		件数 (件)	春日井市DV相談	愛知県女性相談支援センター	警察	民間の団体や機関 (民間シェルター、弁護士会、医療機関など)	法務局、人権擁護委員、 法テラス	男性DV被害者ホットライン	その他	知っているところはない	無回答
全体		690	25.2	17.4	67.7	18.1	9.9	3.2	0.3	20.3	1.3
年代	10歳代	37	16.2	8.1	70.3	24.3	13.5	2.7	-	24.3	-
	20歳代	85	21.2	7.1	70.6	20.0	7.1	1.2	1.2	23.5	-
	30歳代	93	29.0	14.0	59.1	21.5	7.5	3.2	-	20.4	2.2
	40歳代	100	29.0	14.0	67.0	22.0	11.0	3.0	-	21.0	-
	50歳代	126	33.3	24.6	73.8	17.5	11.9	4.8	-	14.3	-
	60歳代	99	23.2	28.3	63.6	12.1	9.1	5.1	1.0	21.2	2.0
	70歳代	127	22.0	18.1	68.5	15.7	10.2	2.4	-	21.3	3.1
	80歳代以上	5	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-

問 18 あなたは今までに性的指向や性自認について悩んだことはありますか。  
(○は1つ)

**全体／性別／年代別**

- 「いいえ」が 95.1%、「はい」が 3.6%となっています。
- 性別では、男女で大きな差はみられません。
- 年代別では、10～70 歳代で「いいえ」が9割台半ばを占めています。

図表 1-106 性的指向や性自認に悩んだ経験（性別/年代別）

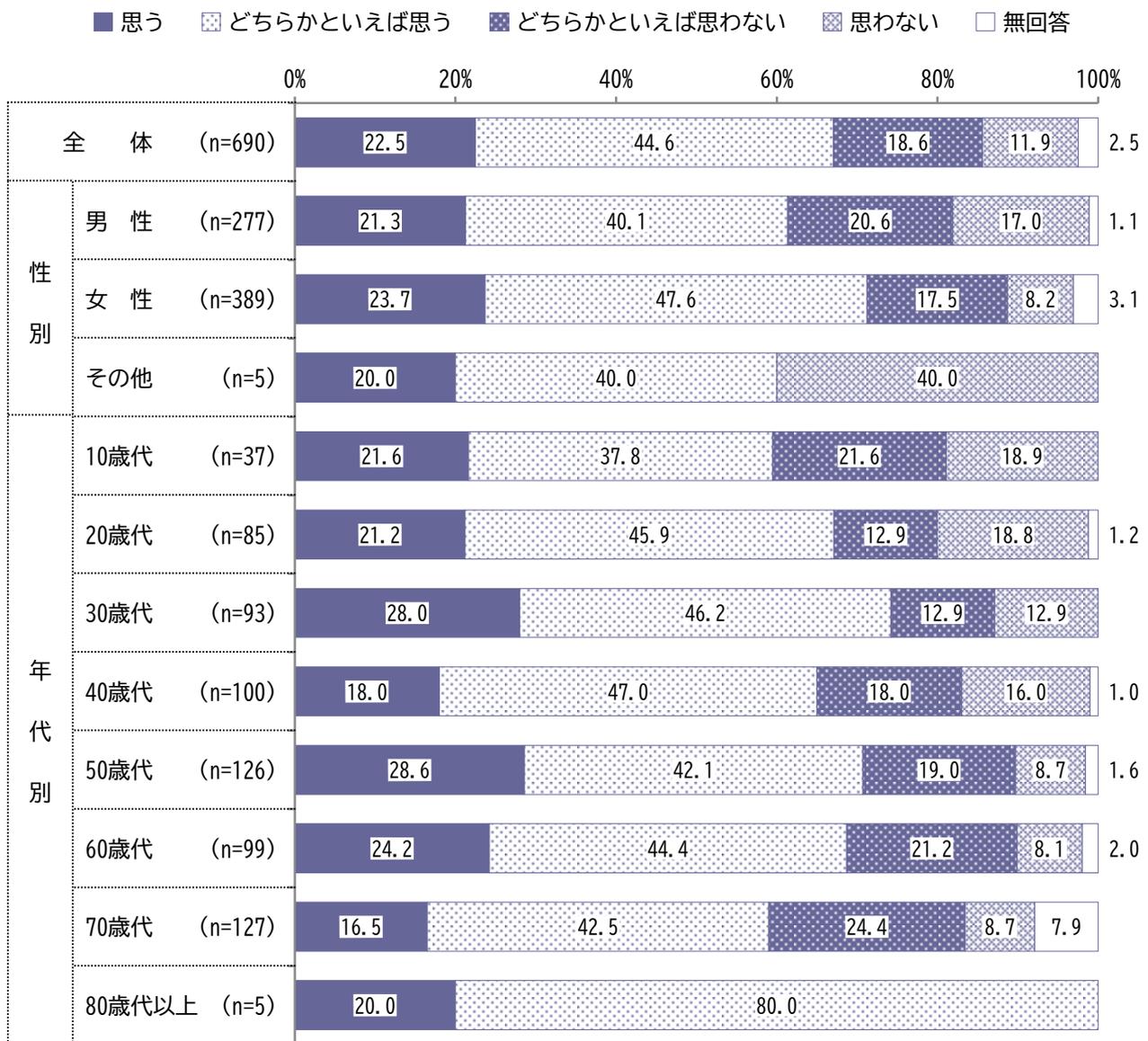


問 19 性的少数者（LGBTQ）の方々にとって、現在の社会は偏見や差別などがあり、生活しづらいと思いますか。（〇は1つ）

全体／性別／年代別

- 「どちらかといえば思う」が 44.6%で最も高く、次いで「思う」が 22.5%、「どちらかといえば思わない」が 18.6%となっています。
- 性別では、男性で、「思わない」(17.0%)が女性より 8.8 ポイント高くなっています。一方、女性では、「どちらかといえば思う」(47.6%)が男性より 7.5 ポイント高くなっています。
- 年代別では、30 歳代と 50 歳代で「思う」(3割弱)、70 歳代で「どちらかといえば思わない」(24.4%)、10～20 歳代で「思わない」(2割弱)が、他の年代よりもやや高くなっています。

図表 1-107 性的少数者の生活しづらさ（性別/年代別）

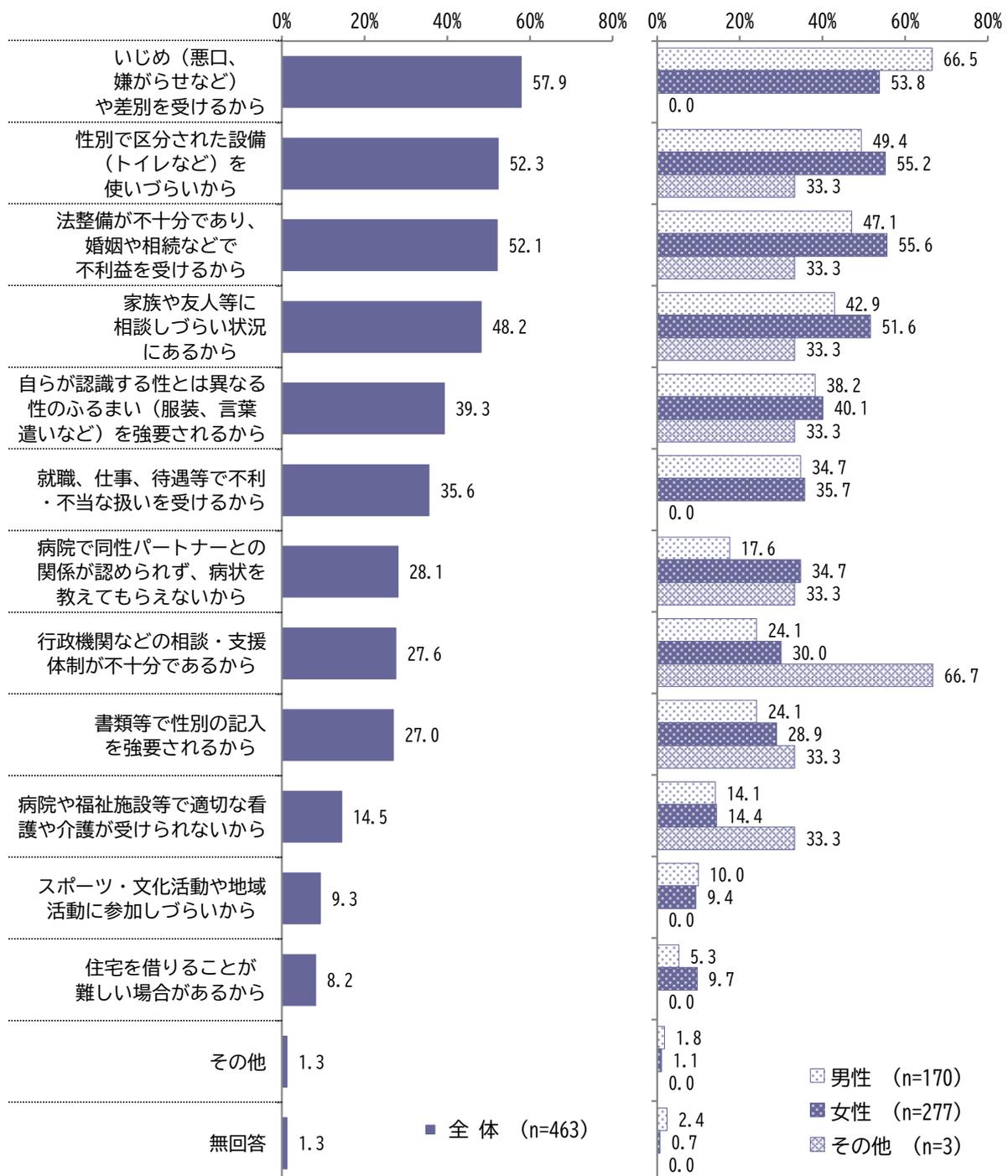


問 19-1 それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)  
 (問 19 で「1」または「2」と回答した方)

全体／性別

- ▶ 「いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受けるから」が 57.9%で最も高く、次いで「性別で区分された設備(トイレなど)を使いづらいから」が 52.3%、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」が 52.1%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「病院で同性パートナーとの関係が認められず、病状を教えてもらえないから」(34.7%)が男性より 17.1 ポイント高くなっている一方、男性では、「いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受けるから」(66.5%)が女性より 12.7 ポイント高くなっています。

図表 1-108 性的少数者が生活しづらいと思う理由(性別)



年代別

- ▶ 年代別では、40～70 歳代で「いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受けるから」、30 歳代で「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」、10 歳代で「性別で区分された設備(トイレなど)を使いづらいから」、20 歳代で「家族や友人等に相談しづらい状況にあるから」が最も高くなっています。
- ▶ 70 歳代で、「就職、仕事、待遇等で不利・不当な扱いを受けるから」(50.7%)、「性別で区分された設備(トイレなど)を使いづらいから」(65.3%)が他の年代よりも高くなっている一方、10 歳代では、「いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受けるから」(40.9%)、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」(36.4%)、「書類等で性別の記入を強要されるから」(13.6%)が他の年代よりも低くなっています。

図表 1-109 性的少数者が生活しづらいと思う理由（年代別）

(単位：%)

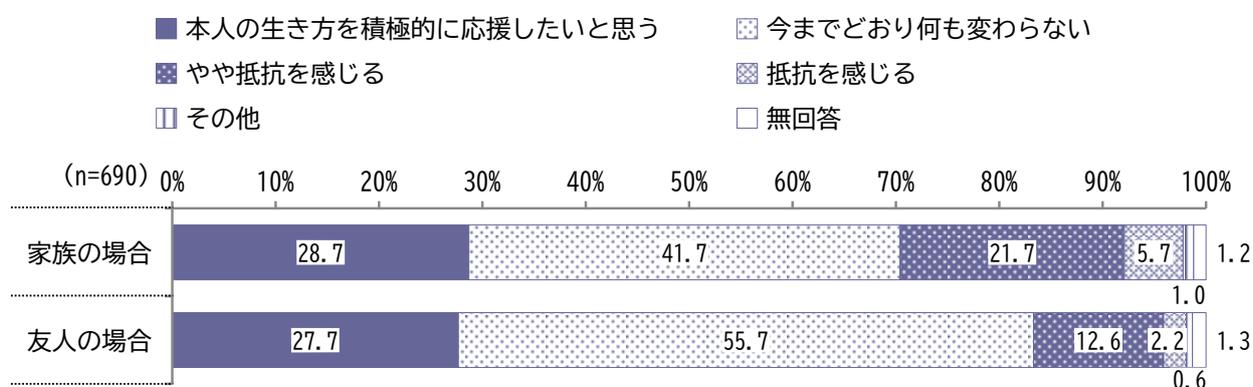
	件数(件)	いじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受けるから	性別で区分された設備(トイレなど)を使いづらいから	法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから	家族や友人等に相談しづらい状況にあるから	自らが認識する性とは異なる性のふるまい(服装、言葉遣いなど)を強要されるから	就職、仕事、待遇等で不利・不当な扱いを受けるから	病院で同性パートナーとの関係が認められず、病状を教えてもらえないから	行政機関などの相談・支援体制が不十分であるから	書類等で性別の記入を強要されるから	病院や福祉施設等で適切な看護や介護が受けられないから	スポーツ・文化活動や地域活動に参加しづらいから	住宅を借りることが難しい場合があるから	その他	無回答
全体	463	57.9	52.3	52.1	48.2	39.3	35.6	28.1	27.6	27.0	14.5	9.3	8.2	1.3	1.3
年代	10歳代	22	40.9	59.1	36.4	40.9	36.4	27.3	27.3	22.7	13.6	9.1	-	-	-
	20歳代	57	52.6	43.9	52.6	56.1	36.8	31.6	17.5	28.1	28.1	15.8	12.3	10.5	-
	30歳代	69	58.0	50.7	63.8	50.7	46.4	23.2	34.8	27.5	24.6	10.1	8.7	8.7	-
	40歳代	65	55.4	50.8	43.1	43.1	33.8	32.3	29.2	26.2	24.6	13.8	6.2	4.6	3.1
	50歳代	89	57.3	49.4	56.2	51.7	41.6	37.1	30.3	23.6	28.1	12.4	7.9	5.6	2.2
	60歳代	68	61.8	51.5	48.5	41.2	39.7	35.3	30.9	33.8	30.9	10.3	8.8	11.8	2.9
	70歳代	75	68.0	65.3	54.7	49.3	38.7	50.7	25.3	33.3	32.0	24.0	14.7	10.7	-
80歳代以上	5	60.0	80.0	20.0	40.0	20.0	40.0	20.0	-	-	20.0	-	-	-	-

問 20 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（LGBTQ）であることを打ち明けられたらどう思いますか。（○は1つ）

**全体**

- 『家族の場合』では、「今までどおり何も変わらない」が41.7%で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が28.7%、「やや抵抗を感じる」が21.7%となっています。
- 『友人の場合』では、「今までどおり何も変わらない」が55.7%で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が27.7%、「やや抵抗を感じる」が12.6%となっています。
- 『友人の場合』で、「今までどおり何も変わらない」(55.7%)が『家族の場合』より14.0ポイント高くなっている一方、『家族の場合』では、「やや抵抗を感じる」(21.7%)が『友人の場合』より9.1ポイント高くなっています。

図表 1-110 身近な人からのカミングアウト

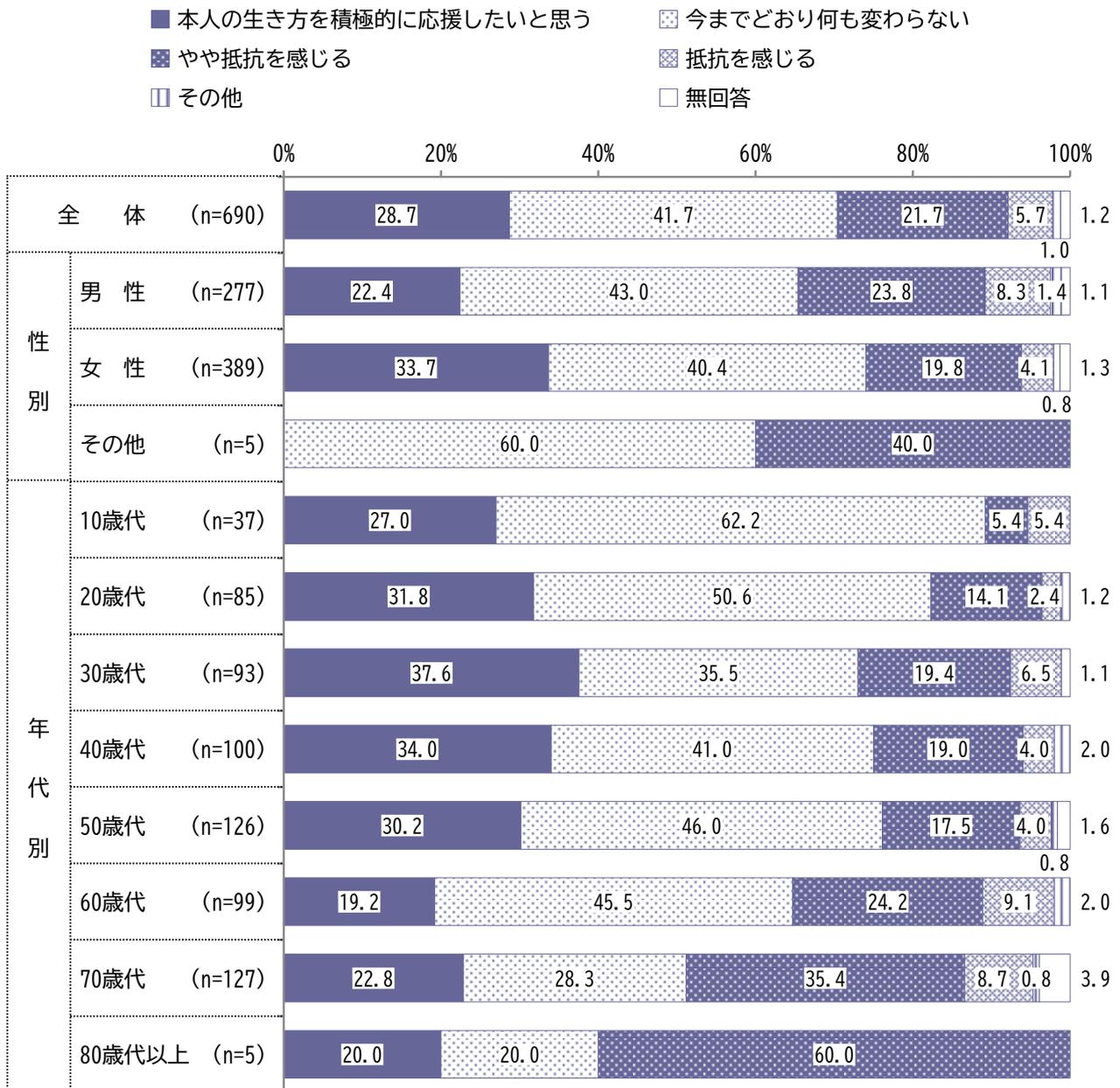


家族の場合

性別／年代別

- ▶ 性別では、女性で、「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」(33.7%)が男性より 11.3 ポイント高くなっています。
- ▶ 年代別では、10 歳代で「今までどおり何も変わらない」(62.2%)、70 歳代で「やや抵抗を感じる」(35.4%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-111 家族の場合（性別/年代別）

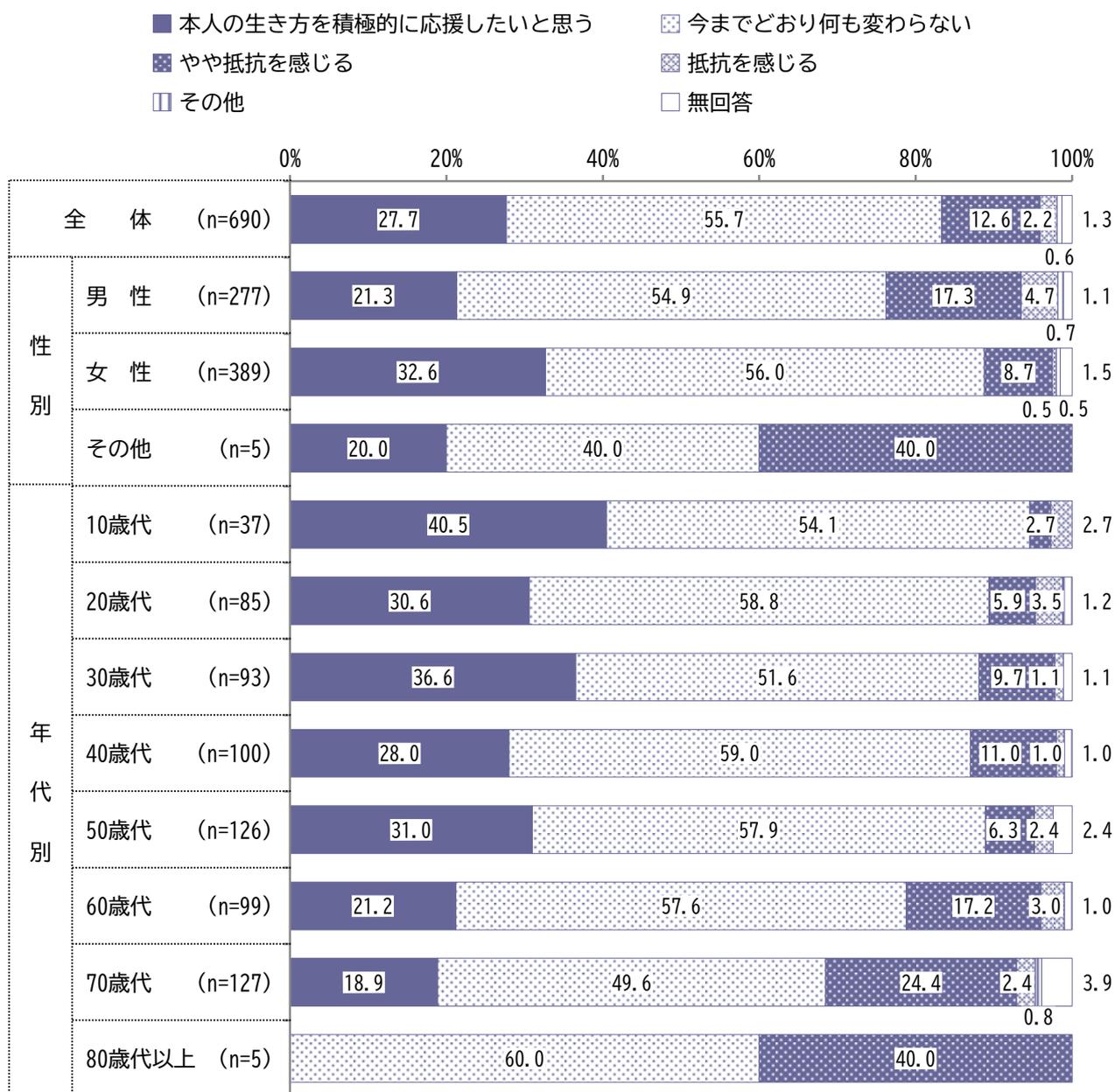


友人の場合

性別／年代別

- ▶ 性別では、女性で、「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」(32.6%)が男性より 11.3 ポイント高くなっている一方、男性では「やや抵抗を感じる」(17.3%)が女性より 8.6 ポイント高くなっています。
- ▶ 年代別では、50 歳代を除き、年代が上がるにつれ「やや抵抗を感じる」の割合が高くなっています。10 歳代では「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」(40.5%)が他の年代よりも高くなっています。

図表 1-112 友人の場合（性別/年代別）



## 中学生・高校生調査との比較

- ▶ 『家族の場合』を中学生・高校生の調査と比べると、「やや抵抗を感じる」が中学生・高校生よりも約 8 ポイント高くなっている一方、「今までどおり何も変わらない」は約 10 ポイント低くなっています。
- ▶ 『友人の場合』を中学生・高校生の調査と比べると、「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が中学生・高校生よりも約8ポイント低くなっています。
- ▶ いずれの調査でも、『家族』『友人』ともに、「今までどおり何も変わらない」の割合が最も高くなっているものの、「やや抵抗を感じる」の割合は『家族』の方が高くなっています。
- ▶ 中学生・高校生調査の「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」の割合では、『友人』の方が『家族』よりも高くなっています。

図表 1-113 身近な人からのカミングアウト〈中学生・高校生調査との比較〉

(単位：%)

		た積本 い極人 の思に生 う応き 援方しを	何今 もま 変で わど らお ない	感や じ る 抵 抗 を	抵 抗 を 感 じ る	そ の 他	無 回 答
家 族	一般市民	28.7	41.7	21.7	5.7	1.0	1.2
	中学生	26.6	52.6	13.2	5.5	2.1	-
	高校生	29.3	52.6	13.1	4.7	0.3	-
友 人	一般市民	27.7	55.7	12.6	2.2	0.6	1.3
	中学生	35.3	46.0	11.3	5.7	1.7	-
	高校生	35.6	52.4	8.6	2.4	1.0	-

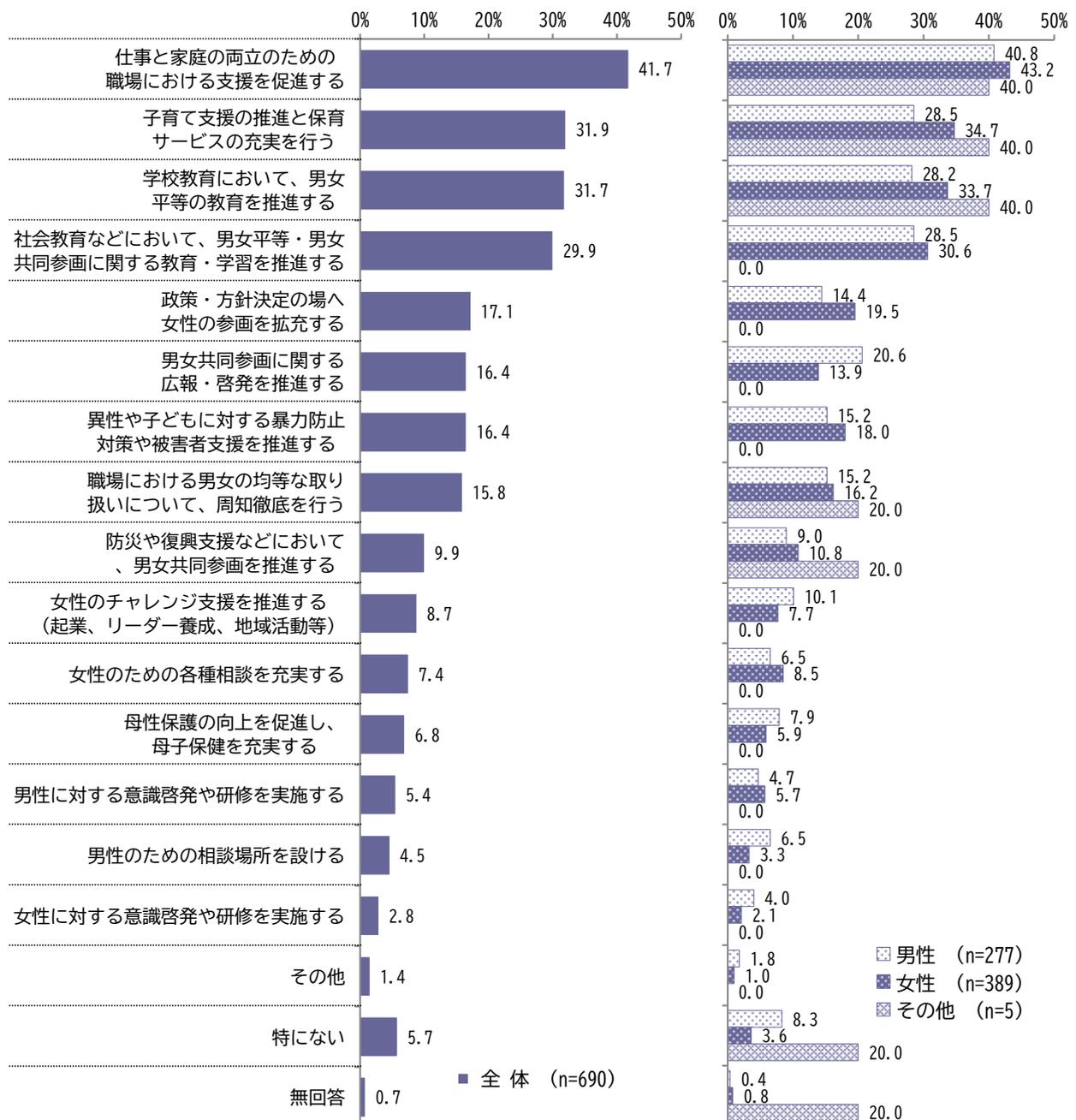
## 9 市の男女共同参画の取り組みについて

問 21 男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

### 全体／性別

- ▶ 「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が 41.7%で最も高く、次いで「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」が 31.9%、「学校教育において、男女平等の教育を推進する」が 31.7%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、「男女共同参画に関する広報・啓発を推進する」(20.6%)が女性より 6.7 ポイント高くなっている一方、女性では、「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」(34.7%)が男性より 6.2 ポイント高くなっています。

図表 1-114 男女共同参画社会形成のために市が力を入れていくべきこと（性別）



年代別

- ▶ 年代別では、20～60 歳代で「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」、10～20 歳代で「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」、70 歳代で「学校教育において、男女平等の教育を推進する」が最も高くなっています。
- ▶ 10～20 歳代で、「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」(5割弱)が他の年代よりも高くなっている一方、10 歳代では、「学校教育において、男女平等の教育を推進する」と「社会教育などにおいて、男女平等・男女共同参画に関する教育・学習を推進する」(ともに 10.8%)が他の年代よりも低くなっています。

図表 1-115 男女共同参画社会形成のために市が力を入れていくべきこと（年代別）

(単位：%)

	件数 (件)	仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する	子育て支援の推進と保育サービスの充実	学校教育において、男女平等の教育を推進する	社会教育などにおいて、男女平等・男女共同参画に関する教育・学習を推進する	政策・方針決定の場へ女性の参画を拡充する	男女共同参画に関する広報・啓発を推進する	異性や子どもに対する暴力防止対策や被害者支援を推進する	職場における男女の均等な取り扱いについて、周知徹底を行う	参画を推進する	防災や復興支援などにおいて、男女共同参画を推進する	女性のチャレンジャー支援を推進する(起業、リーダー養成、地域活動等)	女性のための各種相談を充実する	女性に対する意識啓発や研修を実施する	男性に対する意識啓発や研修を実施する	男性のための相談場所を設ける	その他	特になし	無回答	
全体	463	41.7	31.9	31.7	29.9	17.1	16.4	16.4	15.8	9.9	8.7	7.4	6.8	5.4	4.5	2.8	1.4	5.7	0.7	
年代	10歳代	22	37.8	48.6	10.8	10.8	21.6	8.1	29.7	16.2	13.5	10.8	5.4	18.9	5.4	10.8	2.7	-	2.7	-
	20歳代	57	49.4	49.4	21.2	15.3	10.6	9.4	15.3	8.2	11.8	7.1	10.6	9.4	8.2	5.9	4.7	-	7.1	1.2
	30歳代	69	38.7	33.3	36.6	32.3	10.8	15.1	16.1	12.9	11.8	9.7	5.4	9.7	6.5	4.3	3.2	1.1	5.4	-
	40歳代	65	46.0	37.0	33.0	26.0	17.0	12.0	21.0	10.0	11.0	10.0	5.0	7.0	3.0	4.0	-	4.0	6.0	1.0
	50歳代	89	42.1	29.4	29.4	39.7	14.3	17.5	13.5	18.3	7.1	6.3	12.7	4.8	5.6	5.6	0.8	2.4	7.9	-
	60歳代	68	44.4	24.2	33.3	29.3	19.2	17.2	15.2	23.2	5.1	6.1	10.1	3.0	4.0	5.1	3.0	1.0	6.1	1.0
	70歳代	75	37.0	21.3	40.2	35.4	27.6	25.2	14.2	19.7	12.6	10.2	3.1	3.9	4.7	1.6	5.5	-	3.1	1.6
	80歳代以上	5	40.0	-	20.0	40.0	-	60.0	40.0	20.0	20.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-

問 22 男女がともに参画できるまちづくりを進めることについて、ご意見・ご提案やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

行政について		25 件
女性	20 歳代	ストレス発散のため、気軽に入れるサークル活動（スポーツ）。男性も入りやすいカフェの充実。土日はカフェなどが混んでいるため、2 時間程滞在できる無料の勉強ができるスペースがほしい（学生）。
女性	30 歳代	所得があるシングルマザーの対応をもっと厚くしてほしい。
女性	40 歳代	少子化対策でお金を使うところをもっと考えてほしいと思う。大学無償化とか意味ないし、今までローンを払っている人からしたら腹立たしいとしか思えない。少子化を考えるなら、まず、結婚しない人が増えているから、そこから考えていくことだと思う。結婚する意味がわからんという若者が多いから、実家の親も子どものためと思うだろうし。まずは結婚する人が増えたら。子どもがたくさんいる人の方が優遇されるみたいなのはやめてほしいと思います。
女性	40 歳代	男性も、育児休暇を 100% 取ることが当たり前になってほしいし、そういった環境を作る助成制度（収入面）が課題です。同じ時間働いても、女性の方が収入が低いのも、女性が家事をして男性が働くのが当たり前になってしまう構図の原因だと思います。まずは、世の中の男性や企業に「それは女性蔑視だよ」と指摘してほしいです。
女性	40 歳代	私は事実婚です。情報が少ないためこの先、病気などの時、死を迎える時、どうしたら良いのか不安です。この先、事実婚は増え続けると思います。わかりやすい窓口があれば嬉しいです。
女性	40 歳代	私は社会変革を声高に述べたい程の理不尽な目に遭った経験がないと思っていますので、男女共同参画の取り組みに積極的な関心を持ったことはありません。私は 40 代ですが、過去の学校教育、地域の関わりにおいて、十分な、そして適度なものであったと思います。図書館のトイレ等使用する際、暴力等で困った時の連絡先などを記載したカードが置いてあり、ああこんなふうを守ってくれる機関があるのだと安心した記憶があります。しかし、今回のアンケート内の教育現場における試みの設問には、ここまで介入するべきなのかという疑問が湧きました。いざという時に助けてくれる機関を設けることは大切な公の仕事として尊重したいのですが、明らかに個人の人生に介入しすぎだとも思うのです。一般認識として統制するには、過ぎたる分野とも思います。学術として、研究対象として個々でやっていくことは良いとは思いますが、国の予算を使うには優先順位が低いものではないか。そして、このような問題は文学の世界でもって、一人ひとりが向き合うべき。そして、完全な解決を求めるには相応しいとは言えない分野だとも思うのです。
女性	40 歳代	近所の付き合いもない現在、子育て世代も介護している世代も、人との関わりができるように、気軽に予約なしでフラッと寄れるくらいのイベントがたくさんあると良いと思います。 広報を全世帯に配布するのが決まったと聞きました！素晴らしいことだと思います！！
女性	50 歳代	市役所職員の女性の数を増やしてみたらいかがでしょう。
女性	50 歳代	男女問わず、働きたい人が全力で働けるような制度にしてください。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

女性	50 歳代	<p>DVの相談窓口が市役所に有ると知っていても、どこまで力になってもらえるか不安で、結局相談していません。近くの、それまで信頼していた医者に相談した時も、プライベートな事だからと力になってもらえず、市役所に相談して、と言われただけ。父親が信頼していて、その父親からのDVに対しての相談だった、医者と言う事なら聞く耳を持つ、と思い相談したのに、ガッカリした覚えがあります。医者だからプライベートな部分も話せるのに、本当に悲しかったです。警察も一方的に年寄りの肩を持ち、年寄り臍・男性臍だと思いました、双方の話を聞くべき立場だと思いますが、警察も信用出来ません。その時の警察官の問題でしょうか？</p> <p>ただでさえ、日本は同じように働いていても、最初から男女の給料格差があります。今、一番年金収入が高い人達は、男尊女卑の時代に働いていた人々、年寄りだから医療費を安くするのではなく、収入によって決めてほしいと思います。社会税等、高すぎると思います。女性が一人で生きていくには、年金が少なすぎます。</p> <p>シティバスの運行時間をもっと増やしていただきたいです、特に市役所や市民病院等の行き先は特に。</p>
女性	60 歳代	<p>交通機関が少なく住みにくいです。特に、坂が多くある地区の不便さを知っている方々にまちづくりを進めてほしいと思います。望みもしない伴走型の支援ではなく、食べ物、駐車場、トイレマナー等が大切で、探し回ることがないようなまちづくりを希望します。</p>
女性	60 歳代	<p>仕事と家庭の両立ができるように支援を促進して、住みやすい街にしてほしいと思います。</p>
女性	60 歳代	<p>男女ともに参加できるダンス（ディスコミュージックなど簡単な振り付け）。インスタグラムでフォローしている外国の楽しそうな動画を見て地域にもあったら。公民館の健康体操と同じく、POPな曲で体を動かす楽しいサークルを将来地域で提案、老後にカラオケ（月1～2回）。男女自由に参加できる趣味活動が理想。仕事の合間に余暇を楽しむ機会を設けて仲間を増やしたい。まちづくり、介護予防、生きがいを見つけられる地域を目指す。友人が協力してくれたいと思っています。</p>
男性	10 歳代	<p>多様性や男女平等などについてを、強要するような事には賛成しかねます。</p>
男性	20 歳代	<p>職場でも子育て支援については、子持ちもそうでない人も、互いに気持ちよく働けるような制度であってほしい。子持ちだけが優遇されると感じられては人間関係に歪みが生じ、気を遣って休みの制度を使わない子持ちは損をする。みんな休みが取れているからお互い様だよって言える形が最良だが、実現するのは難しい。休みはたくさんもらうけど、給料たくさんくださいなんて都合の良い話は無いから。そういうところを考えるのが政治や国のリーダーとなる方たちではないでしょうか。少子化だと言われているのに、我が家は1番近くの家の目の前の保育園に入れませんでした。お金配るとかいららないです。わけわかんない細かい制度とかじゃなくて、こういういびつなところを改正してもらえることを期待しています。</p>
男性	20 歳代	<p>男女参画などは税金の無駄である。</p>
男性	20 歳代	<p>まずは大きいところから、国会をはじめとした政治の場や、企業の管理職における男女比の偏りが大きいのを是正することで、男女が平等に社会や会社を動かしているんだという「空気感」を作っていく必要が不可欠だと思う。</p>
男性	40 歳代	<p>僕が子供の頃は男女は平等になってきたとは思いますが、仕事や社会への女性の参加ばかりが強調されて、専業主婦地位、または専業主婦が少なくなっていると思います。それは、ご主人の給料の手取り額が少ない為であり、専業主婦になりたい女性であっても、家計を助ける為に共働きの家庭が増えていると思います。すると、子育てはどうしても労働時間的に女性に負荷がかかり、専業主婦になれない低所得世帯の女性は労働、子育て、家事などダブルワーク、トリプルワークになってしまいます。所得税や社会保険料などの減税をすることも各家庭で男女が共に家事、子育てをしやすい環境を作る手助けになると考えています。</p>

III. 調査結果／ 9 市の男女共同参画の取り組みについて

男性	50 歳代	市民講座、男女混合スポーツ活動、資格取得講座等、地域コミュニティの場をどんどん増やすべきだと思う。
男性	50 歳代	市議会議員を 50%女性にするなど、制限する条例を制定する。
男性	60 歳代	男女共同参画と言えど、今まではどちらかという女性を重視した政策であったと思うが、今後は男性に対しても、共同参画するよう施策を推進していく方がより良くなるのではないのでしょうか。
男性	70 歳代	何かないか広報を見ているんですが、定番のものばかり。
男性	70 歳代	もっともっと春日井市が予算の支出を工夫して、男女共同参画を進める政策を進めてください。応援しています。
その他	10 歳代	男女平等への動きは必要であると考えているが、そのための男性・女性どちらか片方への意識改革や教育、支援は慎重にすべきだと感じた。必要性について理解・共感するが、片方だけに行うことは優遇ないしは抑圧的に捉えられる可能性が否定できない。(問 21 でいう 4.5.10.11.13 など) また排除の動きはなくすべきだが、必要以上に歓迎することは前述の内容と同様に反感の恐れがあると感じた。
無回答	無回答	男女平等とか、働き方改革とか、育児対応とか、高校無償とか、もうすでに終わってしまった。そんな人たちは、特に政治に期待はしていない。どうせ変更で振り回されて、いいことはありません。そんな人生ですよ。つまらない。

子育てについて		14 件
女性	20 歳代	子どもが家にいる場合、子どもに時間を割くしか選択肢がない。それを踏まえて出産しているので、社会や地域活動には、子どもが巣立つまで積極的に参加するつもりがない。なので、子どもをもつ女性が色々な社会生活や活動に参加していくとなると、子どもをどうするかが問題になってくると思う。
女性	20 歳代	夫がまさにそうですが、会社で育児休暇が取れず、2児を産院退院後からずっとワンオペレーションでしています。どの会社でも、男性にも育児休暇を（もちろん有給で）与えてほしかったです。また、2児とも保育園に通い、パートタイムで勤務していますが、園の準備・送迎など（体調を崩して早退時のお迎えなど）、全体的に母がやるということが当たり前になっているような風潮も気になります。一つ前に正社員で勤めていた会社では、上司（男性）の理解がなく、妊娠中に時短を求め承諾はいただけただけのもの、時短定時に退勤すると無視など、冷たい態度を取られすごく不快な思いをしました。最終的に、園もすぐには空きがなく見つからず、通ったとしても正社員としては勤務時間的に難しく辞職せざるを得ませんでした。現在でも、すぐに園が見つかり正社員として働けていたら、ここまで生活も苦しくないのにと考えてしまうことがあります。もっと教育・保育施設の普及、会社（上司）への理解を強めてほしいと願います。どうか子どもたちが親になった頃には、もっと母親も働きやすい＆育児しやすい世の中になっていることを願います。
女性	30 歳代	男女平等と言うが、結局、仕事で男性が残業などで家庭のことまで手が回らないことが現状だと思います。だからといって、女性が男性と同じように全く同じクオリティでの仕事ができるかといったら、体格差など体力の違い、生理の有無、子育てなどを考慮すると、平等とはいかない点がたくさんあると思う。肉体的な違いや、男性の得意分野・女性の得意分野の違いなどを埋めていく必要があると思う。子どもにおいては、やはり父親よりも母親を欲することの方が多いと思うので、必ずしも男性が子どもの世話をすることが子どもにとって本当に良いことかと言えば、そうではないと思う。これらを踏まえて思うことは、男性も女性も双方に対する認識、思いやりを持って接することがとても大事だと思います。産休からの復帰条件も全く整っていないと思います。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

女性	30 歳代	2人目育児中に長子の保育園通園が認められなかったため、退園しないためには育休を取得することができず、退社して同じ会社に再入社するという形を取って、なんとかギリギリ3ヶ月の休職期間を作り、下の子を生後3ヶ月から預けられる所を探しました。たまたま1名だけ空きがあったところに入れましたが、もし空いていなければ預け先がなく職場復帰できないため、ここまでやっても結局上の子も退園しないといけないところでした。一度退園してしまうと再入園は厳しいので、女性の職場復帰を推進したいのであれば、育休中の上の子の保育園通園許可は絶対に必要です。
女性	30 歳代	保育園での一時預かりをしている所ではやはり人手不足もありますし、何かあってからでは遅いと思うので、保育園とかではなく一時預かりを専門とした施設をもっと増やしてもいいのではないかなと思う。その方が虐待なども少なくなっていくのではないかなとも思います。
女性	30 歳代	我が家は核家族で両実家はお互い他県です。数年前にPTA、現在、子ども会の役員をしています。両実家が遠方のため、子どもを預けてこういった活動をするということができず、お互い仕事を調整したり、どちらかが休みを取る（ほとんど妻の私ですが）というようにしています。どうしても都合がつかず、子ども同伴で参加していました（イベント以外の打ち合わせなど、町内会による掃除も）。とても大変で、夫と喧嘩になることもありました。PTA、町内会、子ども会も今の時代に合ったあり方を見直し、アップデートしていくべきなのではととても感じています。声を上げようとしても、以前からのやり方でと反対されたり理解していただけず、町内会の様子を見ても、年々退会されています。町内会に入られている一部の方たちへの負担も気になるところです。家庭の事情を考えると、退会したくなる気持ちはとてもわかります。だからこそ、そのバランスを考え、活動の負担を軽減し、今より退会していく人が減らせればと思います。5年後、10年後の春日井市が、今よりもより良い街になっているといいなと思います。
女性	40 歳代	子どもを育てていて、まず大変と思ったことは、パートナーの家事等の経験不足でした。一人暮らしをしていた人だけど、そもそも子どもの時に家の手伝いを全くしていません。できれば、家庭、学校でもっと経験できる世の中になってほしいものです。子どもの預け先も、会社内に作ってくれば仕事復帰もしやすいし、大変助かります。50人以上の企業には、そんな制度に参加できる仕組みを作してほしいです。50代の方と仕事をしていますが、男女うんぬんより「根性」とかそういうことを言ってきたりします。その辺りの意識を変えてほしいです。私も年代的にそういうことを言われて育ってきましたが、今時通用しません。
女性	50 歳代	同居の親族を見ていると、子どもに何かあった時、迎えに行くのは母親ばかり。ここが解消されないと、女性が職場で働き続けるのは難しい。子どもを放置するわけにはいかず、早退を繰り返せば職場の理解もなかなかの問題になる。何とかならないものか。
女性	60 歳代	男女が共に参画するのに大切なことは、それぞれが尊重しあう、それぞれが思いやる、生まれた時からその気持ちを持つことが大切なので、家族での話し合い、そして園、学校と進み、男女、人と人との関わり方、つながり、大人と子どもがきちんと理解し合える場（社会）を作れる世の中にしていきたいです。
女性	70 歳代	便利な生活になりすぎて、人間同士の情、つながりが薄れてしまっている。子育てはやはり親がすべきだと思います（中学生くらいまでは）。
男性	20 歳代	子どもがほしい。しかし金がかかる、時間がかかる、それは困る。当方、年収が3,000万ほどあるが、それでもお金が足りないと感じている。共働きで何とかといった具合である。皆、どうしているのだろうか。欲しい物を買えず、やりたいこと、共に過ごす時間、それらを捨てて子を育てる。独身貴族との差は開くばかりである。子どもを無償で育てたい。子どもを時間フリーで育てたい。そうでなければ、女性は会社を辞めねばならない。それこそまさに、男女が共に参画することを妨げるものだ。しかし、春日井市はよくできた良い町だと思う。緑が多くて好ましい。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

男性	50 歳代	男も女も関係ない。それぞれが思いやりを持てば何の問題も起こらない。全ての原因として親の育て方がベースとなる。子どもは親のものではなく、指示ではなくアドバイス。
男性	70 歳代	土・日に働く親も、安心して子どもを預け仕事に行ける場の充実。高齢者の活用。
男性	70 歳代	日本の伝統社会のあり方として、三世代同居のあり方をもっと広めてほしい。民生委員として、春日井市内の幼稚園関係者との連絡会で幼稚園側から出た言葉、「三世代同居の子どもは穏やかな育ち方をしている」という言葉が忘れられない。保育、幼稚園でも高齢教育者の雇用により、公的三世代同居を図るべきだと思う。

固定概念について		13 件
女性	10 歳代	家庭生活の質問の中にある、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、自分の意見として、賛成もしくは反対という考えではなく、得意な方が行えば良いという考えだったので、回答に選択肢がなく、選べずに非常に困りました。大黒柱になるほど外で働く女性がいてもいいし、家庭に積極的な男性がいてもいいと思います。
女性	10 歳代	医療機関で看護師として働いています。幅広い年齢層の方と接していますが、時代にそぐわない男尊女卑と受け取れる言動や、看護師に対するセクハラ的発言や女性軽視発言は、高齢者は勿論ですが、40 代以上の男性に多くみられると思います。40 代以上の男性は、一般的に会社など組織の中では中間管理職の立場にあたる年代かと思います。その部下にあたる子育て世代や、今後を担う若者たちがどれだけ男女共同参画に対する意識が高くても、中間管理職の立場の年代の方々の意識が低い、理解がなければ意味がないと思います。そのような年代の方々へのアプローチがあると良いのではないかと思います。 また、クリニックなどの小さな医療機関への働き方改革や、意識改革も行って欲しいと思います。クリニックは拘束時間が長く、残業も多いため、子育て世代のスタッフは仕事と育児の両立が難しく、働きたくても辞めていく現状にあります。人命に関わる医療機関こそ、子育て世代が働きやすい環境や制度を整えるべきだと思いますが、時代遅れの働き方をしています。女性が多く活躍する看護師の働き方が時代にそぐわない点は、未婚率の上昇、出生率の低下に繋がっているように思います。
女性	20 歳代	母校の女子中学生の制服が、パンツスタイルも最近はあるということに驚きました。スカートに抵抗のある人にとって、素晴らしい時代だと思いました。でも、スカートを履いている男の子は見たことがないです。男の子にも、服装の自由が普及したらいいなと思いました。私は、仕事よりも、家事や育児をすることで役に立ちたいと考えています。しかし、女性も働きやすくなり、結婚するには働いている女性が求められている気がします。女性が男性と同じように働ける社会は素敵ですが、色んな選択肢を用意されている社会になってほしいです。働く女性も、家事・育児に専念する女性も、どちらも応援されるような社会になったらいいなと思います。
女性	40 歳代	男女という概念で物事を考えること自体、それぞれの個の適性を考えない枠組みだと思う。性別・年齢関係なく、それぞれの個人が得意とすること、好きと思うこと、力や適性がある事が尊重されることに視点をもった社会を目指して欲しい。
女性	40 歳代	男女で分けて考えていることが差別を生んでいる気がします。人として尊重できる世の中になるといいと思います。 回答欄に自由記述できる欄があるともっと幅広い意見が聞けると思いました。
女性	50 歳代	男女共にお互いの良いところを認め合い尊重をして暮らしていきたいです。仕方がないとは思いますが、高齢者の方は男のくせに女のくせにとすぐ口にするのが残念です。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

女性	50 歳代	今まで日本を引っ張ってきたのは年配男性であるが、その裏側に女性の我慢や犠牲があったことを理解するべき。これからの社会はそういう時代ではなくなっていくので、まず、年配男性の意識改革が絶対に必要になる（男尊女卑→男女平等）。会社や社会の上に立っている人間が変わらないと、その下の若い人や女性が何を言っても変えられない。
女性	70 歳代	昭和生まれの私たちは、男は社会で働き、女は家庭を守るために頑張りましたので、今はのんびり生活しています。主人、子どもたちには感謝しています。子どもたちは家庭を持ち、お互いに子育て、家のことも協力し合って生活しています。子どもたちの子育てを見てみると、孫まで受け継がれていくことを嬉しく思います。時代の流れでしょうが、男子も家事を楽しく手伝っています。私は働いてこなかったためわかりませんので、回答が上手く書けませんのでごめんなさい。
女性	70 歳代	育ってきた年代によっては、今さら考え方を転換することは難しく、また、強要しても上手くいかないと思います。私の年代では「男のくせに」「女らしくない」と思う気持ちが正直あると思います。レディヤンという名前にも女性だけという感じがあります（男性に対しても何かあるべき）。恋愛においても、女らしさ、男らしさに惹かれているところもあると思われ、根底には難しい思いもあると思います。これからの教育において、上記の女らしさ、男らしさを踏まえた上で、協力して何ができるのか（目的に向かって）を考えさせることが重要かと思えます。男女の違いをしっかりと踏まえる教育と、LGBT等多様性の尊重、人権の尊重をする教育が必要と思われ、他国のあり方等、広い視野が持てる教育が必要と思えます。
男性	40 歳代	生まれてくる時に自分で選択できない、所詮、運で決まるようなことで人のことを判断する。自分がそんなことで判断されたらどんな気持ちになるか。こんな簡単なことすらわからない人がとてもたくさんいるという時点で、世の中終わっているということなんでしょうか。
男性	40 歳代	考え方が古いタイプの人が上にいる限り、何をしても無駄なような気がします。
男性	70 歳代	日本人の考えが古過ぎる。伝統的な価値観を殊更進めていくことが、今の日本経済低迷の一因であることに気づいていない。日本社会を発展するためには、男女参画社会の実現は必須条件なのに、それをためらっている。男性にも愚かな者がいるし（実は多数いる）、女性にも優秀な者もいる（実はこの数は男性より多いかもしれない）。女性に教育の機会を多くし、少なくとも男女同条件にすべきだと思う。
男性	70 歳代	「男女共同参画」とか「男女ともに参画」など、そもそも男と女を分けている考え方に男女差別を感じる。

就労について		10 件
女性	10 歳代	クリニックなどの小さな医療機関への働き方改革や、意識改革も行って欲しいと思います。クリニックは拘束時間が長く、残業も多いため、子育て世代のスタッフは仕事と育児の両立が難しく、働きたくても辞めていく現状にあります。人命に関わる医療機関こそ、子育て世代が働きやすい環境や制度を整えるべきだと思いますが、時代遅れの働き方をしています。女性が多く活躍する看護師の働き方が時代にそぐわない点は、未婚率の上昇・出生率の低下に繋がっているように思います。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

女性	30 歳代	男女平等というと、女性への過剰な優遇をイメージしてしまいます。その為、能力は足りないけどイメージアップの為に女性管理職などは、女性も求めてないのではと思います。あとは過剰な優遇により、プレッシャーや責任が重かったりする場合もあると思います。まずは同じ労働条件など、性別によって内容を変えないなどしていくべき。男性は残業で女性は定時上がりも差別だと思う。生理による体調不良は男性には理解しづらいだろうが、男性が痛風や胆石に毎月なっていると思って理解してほしい。
女性	40 歳代	女性は結婚して出産して、育児と家事、親の看護と、仕事を続けられる人もいれば出産と育児で辞めなければならぬ人もいて、子育てが少し落ち着いてもフルで仕事には出られないこともあるし、障害児を持つ親はもっと働きづらいです。放課後デイサービスを利用しているも、週5で利用しないと働くことも難しい。なかなか事業所の空きもなく、週5で利用は難しい。夏休みもデイサービスの始まりが10時位で、仕事をしたくても長期休みの時、いつもの時間で仕事に行けない。短時間労働ができる職場がもっと増えていくとありがたいと思う。
女性	40 歳代	今、”子育て様”というような言葉もあります。女性の、産休・育休中の人が所属する職場の人も、普段以上の仕事量をこなしていると思います。その人達へのフォロー制度もできると、お互いを理解しあって、気持ちよく働ける職場が増えそう。
女性	50 歳代	現在、共働きで、自分も女性管理職として働いています。家庭での負担、職場での負担ともに重く、疲弊する毎日です。女性管理職を登用しなければならないという社会の流れの中で、自分の能力と意思に反してその職責を負わされることに疑問を感じています。一方で、仕事を頑張りたい友人で昇進できない者もいます。管理職が嫌なら仕事を辞めなければなりません。どうしたら良いのかはわかりませんが、「女性の管理職登用率」の数字だけを追うのはやめてほしいです。数字の向こうにある女性たちの思いを知ってほしい。
女性	50 歳代	最近、妊娠・出産をしても仕事を辞めずに続けるのが普通になってきましたが、私達世代（50代）までは、妊娠・出産をしたら辞めるのが当然の時代でした。その私達世代が、子育てが終わり時間ができてさあ働こうと思っても、年齢を理由に断られるという方が多いように思います。求人では年齢不問と言っている、実際はというのが実情です。そんな私達世代が働ける社会になれば良いと思います。
女性	60 歳代	パートの職場でも、女性上司のパワハラがありました。見ないふりをして助けてくれないので困りました。上司は定年で終わりました。今からでも学校で教えてください。辛い思いをしている方は、負けないでほしいです。若い方が仕事を離れてしまわないように、相談に乗ってあげてください。きっと仕事をしたい、続けたいと思っているのではないのでしょうか。よろしくお祈りします。
女性	70 歳代	女性は、結婚・子育て等ですぐ休んだり辞めたりとか勝手なことばかり言われましたが、2人の子どもであったり親であったりするので、男だからといって自覚がなさすぎます。やむを得ず休むのであるから理解してほしい。
男性	30 歳代	男女平等や男女共同は、男女どちらの勤務地も家から近く、子どもの急用などに柔軟に休める環境が無いと成り立たないのではないのでしょうか。男女平等を求める必要はなく、環境整備が必要なのではないのでしょうか。 女性管理職や女性リーダーを無理に進めても、管理職・リーダーに向いている人でないと登用しても意味がないでしょう。男女平等より、「男性の役割」「女性の役割」を良く理解して役割分担をする方が、全体の満足度が上がり、結果として男女共同が成り立っていくのではないのでしょうか。

男性	40 歳代	以下のことはやるべきと考える。女性が出産・育児で休暇を取り、出世等に影響がないこと。男性も同様に育児で休暇を取りやすい環境にして、出世等に影響がないこと。→育児休暇を取る場合、その仕事が残された人に回されるが、残された人が働き過ぎないように人を配置すること。時短も取りやすくするのがもちろん理想だが、時短を理由に早く帰り、残された人は夜の 22 時まで働いて同じ評価になるのはおかしいと思う。現状として、就職に比較的に有利な理系の大学では、工学部で男性の割合が高い。その後就職する製造業でも、男性の割合が高い（感覚的には男 9：女 1 ぐらい）。その環境で男女共同参画と言われると、あまり不公平は今までなかったが、逆に女性を特別扱いしなければいけないような風潮になっている。進路を決めるのは本人の意思ではあるが、現状として男女の比率に偏りのある業種についてはどのように考えたらよいか悩む。個人が尊重され個人として生きやすくなっている。力も出しやすくなっているが、組織としての成果やまとまりが減っているような気がする（物価高騰やサービスの低下）。
----	-------	--

性差について		10 件
女性	30 歳代	男女平等であることを考えた時に、やはり性的な問題を感じてしまいます。一人ひとりの人間がそれぞれ違っていいということ、認め合うという意識が必要ではあるが、男女全く同じように捉えて動くことは不可能であることも事実で、そのことを理解し、互いの足りないところを補っていくということが、男女がともに参画できるまちづくりにつながるのだと思う。
女性	40 歳代	そもそも、男女で差があるのは当たり前だと思っています。体力や生物学的にどうしても違いはあるのに、平等、平等と言われると、女性としてどこまでも求められているようで辛いです。その人に合うレベルを求める社会になればいいと感じています。
女性	60 歳代	男女の特性というものを無視して、何でもかんでも男女平等という考え方には賛成できません。今は、昔ほど差別はないように思います。男性には経済的に家族を守る責任、女性には家族への母性を望みます。ただ、能力のある女性には活躍してほしいです。
男性	10 歳代	まず、男女平等がどのような状態であるのかが分からない。身体能力に差がある以上、適材適所が生まれるのは当然だと思う。平等を推し進めると、平等じゃない社会が出来上がるのではないかと思う。
男性	20 歳代	かつては男尊女卑、今の時代男女平等を追い求めすぎると女尊男卑のようになると思う。生物学的、体力的に差があることは認めて受け入れ、可能な範囲で自己実現ができる社会になるべきで、無理してまでも全てを平等にする必要はないのではないかと感じる。
男性	30 歳代	男女が、互いの性についてより深く知ることが大切です。男性にあって女性にないもの、女性にあって男性にないもの、その欠けているものを学生時代に知り、共感し支え合う優しさを学びの中で培っていくと、将来、今よりも生きやすい社会につながっていくと思います。余談ですが、例えば電車の女性専用車両などにはじまりますが、こうした女性を特別に配慮するものも必要だとは思いますが、その逆も必要だと思います。通勤時、男性は不便です。平等に男性専用を必要とすることも考えるべきです。男性の中には女性のいる車両に乗りたくないと思う方もいらっしゃいます。という 1 つの例でしたが、女性専用もあれば男性専用もある方が、性の中にある問題点が少しは解決できるものかと思います。また、専用のもを設置するにあたって、何のためにそうするか、今後はこうなることを願うというようなビジョンを明記して、設置をできたらとも思う。
男性	30 歳代	主に男性にしかできないことと、主に女性にしかできないことをはっきりさせておく。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

男性	40 歳代	私が共感した芸能人のフィフシさんの言葉。「私は“女性らしさ”が滲み出ている人に憧れますし、“男性らしさ”にも惹かれます。私は性別学的な取り柄を排除しません。性差がある以上、そこを無視して男女平等とも思いません。性差があるのはお互いの違いを活用して、成長したり発展したりするためです。逆に、今は同じになろうとするばかりで違和感。」これらの言葉の通り、現状は無理に女性の立場を向上させようとするあまり、世の中が歪になっていると感じます。まずは性差があることを正しく理解しお互いを認め合い、その上で得意なことを任せたり、苦手なことを補ったりしていけば良い世の中になるのではないのでしょうか。
男性	70 歳代	男女平等、男女共同参画について、男間、女間においても差別はあり、不平等は多々ある。男女間での共同・共生はななくすことはできないが、それぞれの役割は異なり、求める個々の社会によっても異なり成り立っている。女性の参画は今後も更に必要を増していくと思うが、それに伴う責任の重みを認識する必要があると思われる。男女同数の社会において、男女同数の組織形成、改革が基本にならなければ、男女共同参画社会は成り立っていかないと思われる。
無回答	無回答	男女平等になりつつある社会で、女性が活躍する場所が増えると男性が生きづらい社会になると思う。考え方や行動力は女性の方があり、地域において女性の町内会長が増えてきているが、それは男性がやらない、やらなくても女性が動いてしまっているから。それでは男性がいらなくなってしまう。離婚率が上がってしまう。男性は外、女性は家庭という昔の社会の方が女性も生きやすいと思う。子どもの遊び方が男子、女子と違うように、男性を家庭的、女性を外交的にもっていくのは適正とずれているように思う。男の子は外で虫捕り、女の子は人形やおままごとと興味があることがそもそも違う。

教育について		9 件
女性	30 歳代	家事の分担などは協力というより、どちらもやることができるようにしておく状況が大切だと思う。現状、男性の方が仕事負担が多いことが多く、女性が必然的に家事をやらなければいけない状況がほとんどだと思う。そうなる、できる女性、できない男性、やるのが当然の女性、やらないのが当然の男性ができあがってしまう。そんな中で、例えば子どもが体調不良になったとして、何もできない男性が家にいて看病ができますか？女性が休むしかないとなります。それぞれ、仕事や家庭環境が違うので、法や制度で決めるのは限界があると思うので、やはり子どもの頃から意識できる教育、今の大人たちの意識を変える教育が大切かと思います。仕事の1つとして、そういう教育を大人たちにすべきだと思う。
女性	40 歳代	日本は、男女平等について非常に遅れていると思います。産むことは女性しかできませんが、子どもは2人の子どもです。育児は当然2人でするのが当たり前だと思いますが、まだまだ日本は女性が下であったり、家のことは女性がやって当たり前という男性の考えが変わらず残っています。家庭内でそれを当たり前に見て育てば、そのようになるのは避けることが難しいですが、学校教育で違うということを教えることで、意識が変わると思います。日本は中学まで義務教育ですので、しっかり家に帰ったら皿洗いなどをする習慣を、男女関係なくできるといいと感じます。今の年配の方の多くは、男尊女卑が当たり前身に付いていますので、40歳以上の方の教育は必要だと思います（若い人に強制しがちだから）。女性上司は上司と見れなかったり、自分より妻の給与が多いと許せなかったり、認められなかったりが多いです。
女性	40 歳代	これからの子どもたちは、多様性についてもっと身近になっていくといいと思います。昔は、男はこうあるべき、女はこうあるべきと決めつけられていた時代に逆らうことすらできなかったと思いますが、今は、一人ひとり個性を大事に得意なことを伸ばし、お互いが協力できる時代になれば、子どもたちの未来も少しは明るいのかなと思います。結婚しても働いていかなければならない時代になっていくので、男女平等については、小さいうちから学校教育の中で学ぶのも大切だと思います。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

女性	50 歳代	男女問わずその個人の特性、自分らしさが活かされる社会を望みます。そのためには、こどもの頃からの教育が大事だと思います。社会の一員としてルールを知り、その中で自分らしさを発揮できるような教育を大人たちが提供できるよう、今の大人たちが勉強していくべきだと思います。
女性	70 歳代	恋愛においては、女らしさ、男らしさに惹かれているところもあると思われ、根底には難しい思いもあると思います。これからの教育において、女らしさ、男らしさを踏まえた上で、協力して何ができるのか（目的に向かって）を考えさせることが重要かと思っています。男女の違いをしっかりと踏まえる教育と、LGBT等多様性の尊重、人権の尊重をする教育が必要と思われ、他国のあり方等、広い視野が持てる教育が必要だと思います。
男性	20 歳代	教育現場は業務が多いため、これ以上負担をかけないでほしい。
男性	30 歳代	昨今、シングルマザー家庭が非常に多く感じます。30、40 代の独身者も多く感じます。結婚や再婚は別として、病気や働けない状況になったとしても公的な支援のみに頼るのではなく、投資トレードのスキルや知識を蓄え、生活に困らない資金を持つ準備は必要と考えます。そのための投資教育の取り組みは有っても良いと思います。
男性	60 歳代	社会が変わる必要がある。社会とは何か。具体的に今を生きる人々の考え方であって、生活観も含めた男女差を考えなくて、能力でその役割が適正に判断され、それが自然に受け入れられる状態ができていく社会が成立しているなら、男女の差がどうだというような議論がなくなっていると思う。ただし、人の考えを変えることには多くの教育や時間を要し、それ程に労力を使っても変わらない現実があります。よって、若い世代、教育の場で継続して伝えていくことがより効果的ではないかと考えます。まずは、教育者側の育成が重要であるが、男女差別がない環境と思えないのが残念。同様に、率先して公務員がそのお手本を見せるべきではないかと思っています。
男性	70 歳代	当方の思うところを以下に記載します。男女共同参画社会を形成していくための根本となる人間社会としての基本構造が、非常に不十分ではと考えています。特に、社会教育・学校教育において、教育関係の上位部署・現場教育・生徒へのいじめ等が社会問題となって久しいが、未だに解決していない様子。それどころか事件となって新聞紙上を賑わしています。男女共同参画社会は、この問題が解決した社会基本構造が前提条件と思っています。形だけの男女共同参画とならないよう前提条件を整備した上で、人間として生きるべき基本理念を構築することが非常に重要と思います。ご苦勞様ですが、国及び地方自治体の担当される方々に期待したいと思います。

広報・啓発について		7 件
女性	20 歳代	仕事や家庭において、男女という分け方ではなく、得意な人が得意な事をやり、それぞれが役割分担をする。それが当たり前で社会に受け入れられ、それをやる事に壁や偏見がないような社会の価値観が変わって欲しいです。ただいきなり制度を変えるだけでなく、私たち自身の無意識下にある男女間の偏見の意識が変わるような呼びかけや学びのきっかけは必要だと思います。
女性	20 歳代	市民限定で、メールでイベント通知を行うなど、地域のイベントについての情報を誰もが得やすいようにする。
女性	50 歳代	ボランティア活動への参加案内情報を積極的に発信してほしい。
女性	50 歳代	刷り込まれた価値観がどうしても、日常の場面で時には暴力となることを自覚できるように、望ましいモデルを繰り返し発信し続けてほしいです。広報やポスターはもちろん、使用封筒やメールなどの際に、常に目に入り、書の街、子はかすがい、サポテンの街…と、皆さんがすぐ口に出せるぐらいの浸透力をお願いしたいです。女性だけでなく、全ての人にとって自分を性別の前に迷わず考え、選択できる街に、わが街がなりますように！

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

女性	60 歳代	娘やお婿さんが赤ちゃんを授かってから、保育園に入れて働いております。娘は1年産休、お婿さんは1か月育休が取れて助かりました。ただ、1歳になり保育園に入ると、途端に感染してしょっちゅう熱を出して休むことになります。祖父母が健康で手伝える環境でないとなかなか大変です。現状、赤ちゃん1人で手がいっぱいです。少子化になるのも無理ないです。1年生になる頃の学童保育も心配です。幸い娘夫婦は協力体制ができているようなので、羨ましいと思っています。良い事例を取り上げて記事にするとか、そういうことが普通になるように宣伝してほしいです。
男性	20 歳代	春日井市において、男女共同参画に関する問題・課題が何かを把握していない。
男性	70 歳代	その時、その時の社会で取り上げられていることのみを前面に出し、過去のアイテムはどうなった？と思える取り組みの繰り返しと感じます。例として古い話ですが、「環境問題」の頃は猫も杓子も「環境」「環境」で他にないのかと思うほど、「環境」と言っていれば「仕事」をしている感じでしたが、次の案件が出れば「環境」の「か」の字も見ない。今、「環境」はどうなった？もう完璧な状態になったんですか？定期的に市民の意識づけが必要ではないですか？やっていると思いますが、市民の意識に残るアピールの継続が必要だと思います。今回の案件は個人個人の意識の問題であり、真面目に取り組むなら50年以上先に作りたい社会ができるくらいの案件と思います。市役所だけでなく、会社等で地道に継続する必要があり、その時限りの流行で終わらないことを期待しています。

これからの社会について		6 件
女性	40 歳代	日本ではそれは出来ない。国も男もそんな事を望んでいない。だから若い女子は結婚もしない。子供も産まない。そんな状況で、「男女がともに参画できるまちづくり」など出来る訳がない。綺麗事すぎる。そんな幻想を抱くより、婚姻なしでも安心して子供を産み、育児ができる環境の確保。子育て中の女性の生活補助金や勤務先での産休確保。男がいなくても子育て自立できる世間の常識改革と法律の整備。それらが進めば女性は安心して産むし、育てられる。結婚→仕事を減らさないといけない可能性あり(男は逆)→妊娠する→産休か退職→妻の負担増→退職組はキャリア停止→再就職してもなかなか難しい。←昔からの無限ループに、若い女子は霹靂としている。地域とかどうでも良いから、根底から考えを変えないと日本は無くなる。男女ともに…などと、ぬるい事言っていて笑える。
女性	50 歳代	女性活躍、男女平等と言いながら、最近の社会では女性の負担が重くなっていく一方のように感じる。女性に対して社会が求めすぎている。社会での責任は重くなる一方で、家事の負担は変わらない。女性が疲弊しない社会を強く求めます。負担を減らすようなサービスやキャリアを中断しても戻りやすい制度を。立ち止まることも許されず全力で走り続けたら倒れてしまいます。個々の望む生き方がどんなものであっても、またそれが変化しても、尊重され、安心して暮らせるゆとりのある社会が理想です。
女性	50 歳代	女性が女性であることを理由に不利益にならない社会を望みます。子どもたちが結婚や子育て(出産)に、デメリットだけを感じなくてよくなる社会を望みます。
女性	60 歳代	人々が思いやりのある行動ができ、助け合いの心が育ち、差別や偏見もなく、誰もが安心して暮らせる春日井市になることを願っています。
男性	40 歳代	女性の%を上げるだけで望む方向に進むと考える。
男性	60 歳代	あくまでも弱い立場の人を優先に考える社会になってほしい。

アンケートについて		6件
女性	10歳代	すでに行っているかは分からないが、男女不平等であると問題視している議題について、当事者でない第三者が結論を出したところで根本的な解決には繋がらないと思われるため、意見出しの段階から当事者に参加してもらえようような動きを取るべき。このアンケートも無作為に対象者を抽出するのは良いが、それぞれの質問に対する定義が不十分であったり、概念的な質問ばかりで答えづらかった（「家庭」の定義や「地域・個人」を一括りにしているところなどが理解しづらい）。
女性	40歳代	男女で分けて考えていることが差別を生んでいる気がします。人として尊重できる世の中になるといいと思います。
女性	70歳代	問5、問6は、現在結婚している人のみの回答でしたが、全員記入した方が良いと思う。問9、問10も現在働いている人のみの回答でしたが、全員記入した方が良い。3つまで○をつけるのは大変。もっと○をつけたいものが多かった。「7 人権の尊重について」で暴力とあったが、暴力というとても大変な場合だと感じる。少し嫌の時はどれになるのか迷う。
男性	60歳代	今回、このような調査が主人宛に届いたことで、本人に全く自覚なく昭和的人間（家事は全て妻の仕事という考え方）であったことに、多少なりとも気づかされたようです。設問を私が読んで、主人（宛名本人）が答えるという形で進めていきましたが、段々と「何か責められている気がする」と言い出しました。いかに自分が何もしていないかということを思い、そのように感じたようです。この調査が届いたことだけでも、我が家にとってとても意義のあることでした。
男性	70歳代	このアンケートの回答方法について一言。回答の方法で、設問に「○はX個」と指示があり、回答者がX個以上選択したい場合は困った。反対に指示が「あてはまるものすべてに○」の場合もあるのに、どうして○に制限があるものと無制限があるのか。
無回答	無回答	こんなものに税金を無駄づかいしないで。

性的少数者について		4件
女性	30歳代	男女平等社会を目指して…。現状として言葉での男女差別はないものの、LGBTQの方は世の中生きにくい社会だと思います。そして、女性の立場が弱く感じます。昔よりは強くなったが、まだまだ45歳以上の方は昔の考えが定着されている方が多いのではないのでしょうか。「男尊女卑」という言葉があるので、これを覆すのはとても難しいと思います。でも、少しずつ女性が立場上「上」になれるような社会を作れば、少しずつ良くなっていくと思います。LGBTQに関して思うのは、どこかで境界線を作らないといけないと思う。いくら住みやすく、良い社会を作ろうと行くと、プール、トイレ、温泉といった施設を利用する際に「男」「女」の2つの選択を作った時に、やはり困惑してしまったり、利用を避けてしまうと思う。ニュースで、嘘をついて温泉を利用していたことが何よりも怖いので、かわいそうではあるんですが、どこかで線引きしないと、そういった犯罪者も増えることが一番怖い。
女性	40歳代	若者世代は男女平等、LGBTQ、宗教等、かなり柔軟だと思います。変わらなければいけないのは制度。認められる点は認めやすい社会に（例えばパートナーetc.）。しかし、LGBTQに当てはまると言えば何でもOKとはできない（例えばトイレ、公衆浴場）。一部の悪用者によって犯罪のリスクもあることを考えると、やはり受け入れが難しい部分もある。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

女性	70 歳代	LGBTQは、そういう人たちにしかわかり合えないことだと思っています。簡単に理解しているとは言い難いですが、決して差別する気はありません。人として同じように尊重しています。接し方を知りませんし、周りにいないのでわかりません。話が聞ける機会があれば、理解を深めるためにも参加したいです。芸能やTVの世界でしか知りません。誰とでも理解が進む社会が望ましいです。
男性	40 歳代	LGBTQについては、正直に言ってわかりません。芸能人のマツコ・デラックスさんやミッツマングローブさんなどは、「放っておいてほしい」「世間の片隅で静かにしたい」という方たちも多いとのことですが、世の中は性的少数者を救う方向へと傾いているように見受けられます。「静かに暮らしたい人」と「権利がほしい人」、LGBTQの方々の中でも意見が違うようなので、慎重な対応が必要だと思いますし、本当に必要なことを見極めることが必要だと考えます。

その他		15 件
女性	30 歳代	時代の変化に乗っかかり過ぎても微妙。多様性が窮屈に感じる。
女性	60 歳代	男女共同参画という言葉そのものに圧を感じます。すべての人が平等に機会を得て、能力を発揮できる社会を目指していくのはわかりますが、行き過ぎて極端に平等を叫ぶと、男女間の溝が深まる危険性もはらんでいると思います。本来、人間としての優しさがあれば、このようなスローガンもいらないのでしょうか、人間としての本質の部分が変わらないと無理なのかもしれません。男女共同参画→女性優遇・男性差別を促進する会と思っている人もおります。すでに溝を生んでおります。先進国のアメリカでは、高学歴の女性ほど主婦回帰という現象が起きているそうです。彼女らは女性本来の生き方である子育て、家事などが女性としての生きる価値だと気づいたそうです。
女性	70 歳代	人の悪口や余分なことは言わない。気づいたことは一人ひとりが身軽に動く。誰に対しても感謝の気持ちを持つ。
男性	10 歳代	共同参画する意欲がないという女性からも、意見を吸い上げる必要がありそう。
男性	20 歳代	頑張ってください。
男性	30 歳代	女性（特に妻）の取り扱い説明書が欲しい。
男性	40 歳代	まずは男女という区別の言葉を使わないようにする。
男性	40 歳代	抽象度の高い話や極論ではなく、個別具体に対して是々非々で当事者が決めれば良い。
男性	40 歳代	近年、自分さえ良ければ何をしても良いという考えの人が増えているように思います。昔は人付き合いが多く、コミュニケーションが盛んに行われていましたが、今はSNS中心の人付き合いが多く、相手の目を見て話す機会が減った結果、人の気持ちを考えるというか感じる事が鈍感な人が多いです。他人の気持ちがわからない人に、男女の参画について問うのはナンセンスだと思います。子どもたちだけではなく、大人も含めた意識改革が必要だと私は思います。問題についてディスカッションするのであれば、制限を設けない方が良いと思います。
男性	40 歳代	「人権の尊重について」での設問。少々キツイ問題が多数でした。男性・女性。互いに出来る事、尊重しあえる間柄。今、そんな関係が崩壊しつつあるのでは？自分・自分を主張し、それを推し進める事で、互いにぶつかりあう事に。（これは、LGBTでも、教育でも社会でも）男女共同参画を、全てが平等ととらえる人が多いのでは？平等とすれば問題ないと勘違いしているのでは？それは違うと思いますが。男性、女性、それぞれの役割、意味、それを放棄して、「中立・LGBT」へなる方もいます。なんでもアリの世の中（なんでも承認）へ誘導するは、やっぱり古い人間？なかなか受け入れる事は、難しいかも？です。

III. 調査結果／9 市の男女共同参画の取り組みについて

男性	40 歳代	「男女がともに参画できるまちづくり」の「参画」と「まちづくり」とは具体的には どういうことを指しているのかわからない。
男性	70 歳代	家庭内においても、それぞれ家族の人権を尊重し、思想、信条、宗教上の自由、選挙 の秘密の保持等に留意し、監視、強要、DV、ストーカー等の行為をしないように願 いしたいです。
男性	70 歳代	憲法における基本的人権は、すべての国民に保障されるべき権利です。また、すべ ての国民は個人として尊重され、生命、自由、幸福追求に対する権利は最大に尊重され るべきです。
男性	70 歳代	難しいです。
無回答	無回答	男性 50%、女性 50%の平等な比率で物事を決めたり、役職を平等に扱うのではなく、 男性・女性平等に能力や知識等ある者が物事を決めたり、役職に就いた結果の比率が 男性 70%、女性 30%であっても問題ないと思う。要するに、様々なことを決めたり するのに、男女間の差別や区別がなければよいのであって、結果、男性と女性の比率 が必ず 50%・50%になる必要はないと思う。比率（結果の）が大切ではないと思う。

## 2 中学生・高校生調査結果

### 1 回答者のことについて

問1 あなたの性別は？（自分がそうだと思う性でお答えください）

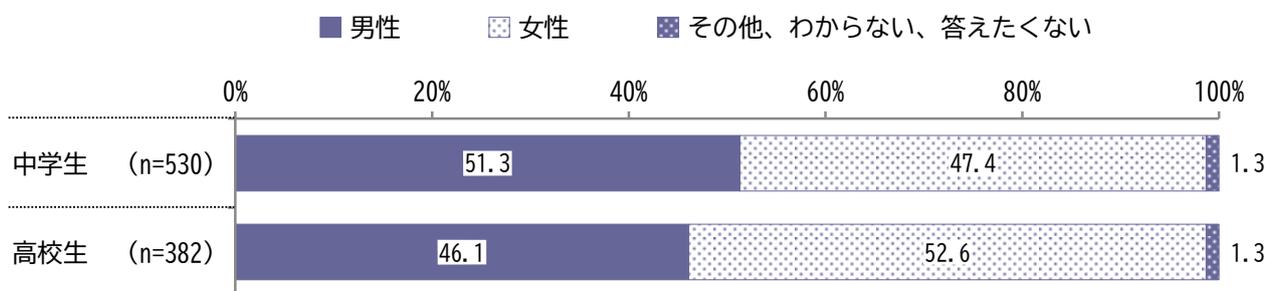
#### 中学生 全体

- 中学生では、「男性」が51.3%、「女性」が47.4%、「その他、わからない、答えたくない」が1.3%となっています。

#### 高校生 全体

- 高校生では、「男性」が46.1%、「女性」が52.6%、「その他、わからない、答えたくない」が1.3%となっています。

図表 2-1 性別



## 2 男女平等について

問2 あなたは、現在、生活の中で男女は平等になっていると思いますか。  
 (①～③についてそれぞれ○を1つ)

### 中学生 全体

- ▶ 『①家庭生活』と『②学校生活』では、「平等になっている」が最も高く、『①家庭生活』では約7割を占めています。
- ▶ 『②学校生活』では、“男性優遇※1”が3.3%、“女性優遇※2”が23.0%と、“女性優遇”が19.7ポイント高くなっています。
- ▶ 『③社会全体』では、“男性優遇”と“女性優遇”がほぼ同率となっています。

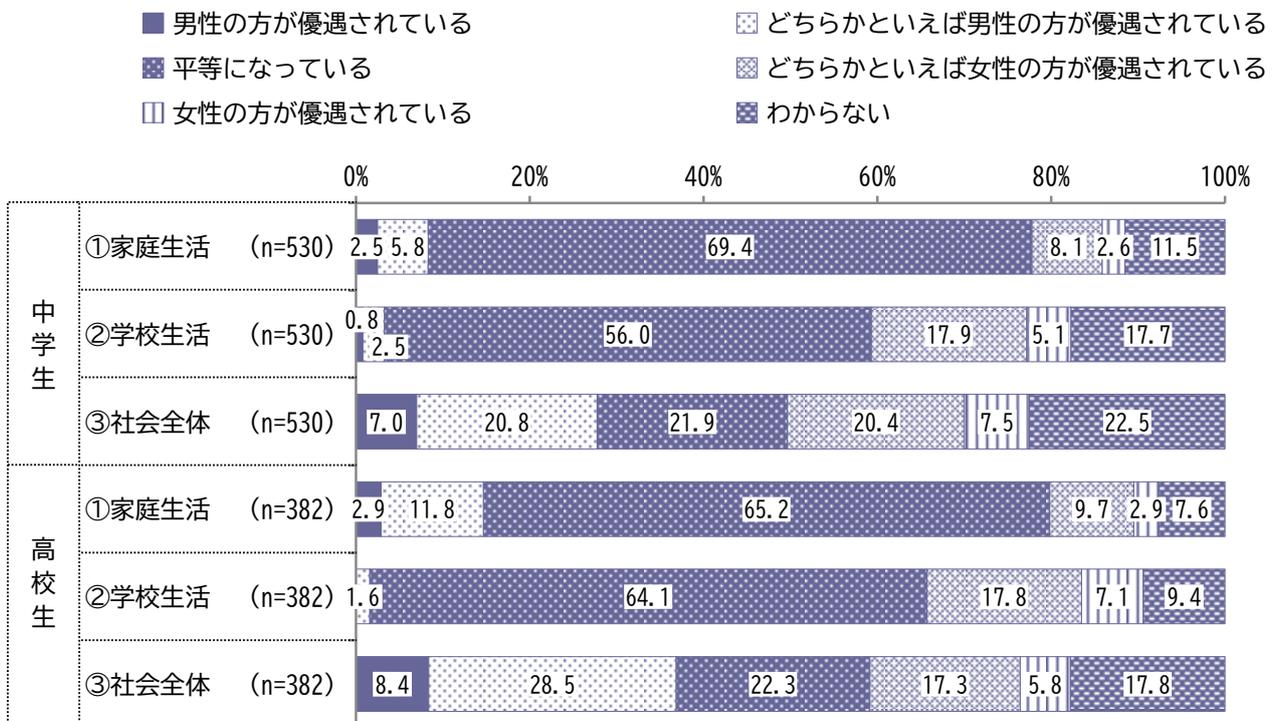
### 高校生 全体

- ▶ 『①家庭生活』と『②学校生活』では、「平等になっている」が最も高く、いずれも6割台半ばを占めています。
- ▶ 『②学校生活』では、“男性優遇”が1.6%、“女性優遇”が24.9%と、“女性優遇”が23.3ポイント高くなっています。
- ▶ 『③社会全体』では、“男性優遇”が36.9%、“女性優遇”が23.1%と、“男性優遇”が13.8ポイント高くなっています。

※1 男性優遇：「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」

※2 女性優遇：「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

図表 2-2 分野別の男女平等



### III. 調査結果 / 2 男女平等について

#### ① 家庭生活

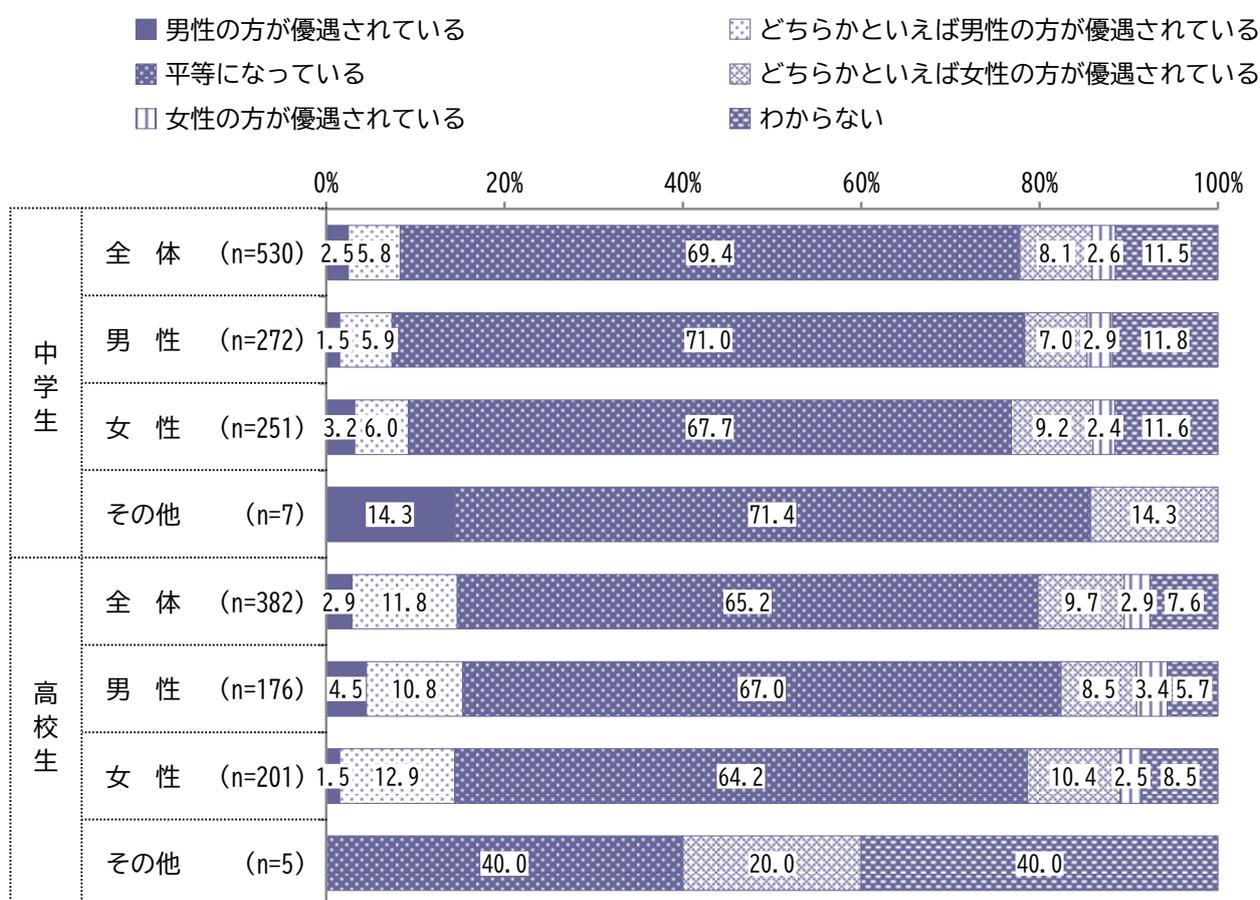
##### 中学生 全体 / 性別

- ▶ 「平等になっている」が69.4%で最も高く、次いで「わからない」が11.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が8.1%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

##### 高校生 全体 / 性別

- ▶ 「平等になっている」が65.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が11.8%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.7%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-3 ①家庭生活（性別）



② 学校生活

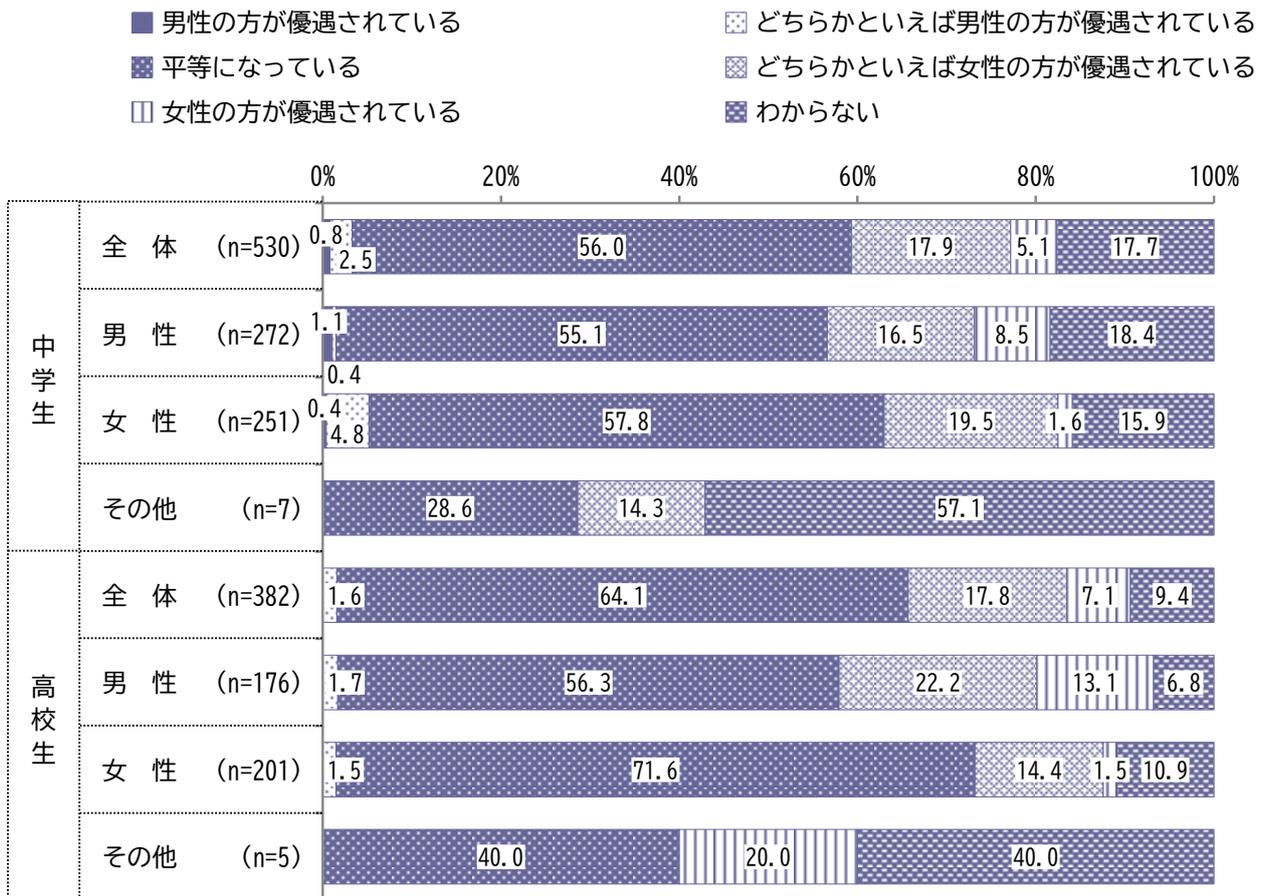
中学生 全体 / 性別

- ▶ 「平等になっている」が 56.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が 17.9%、「わからない」が 17.7%となっています。
- ▶ 性別では、男性は“男性優遇”が 1.5%、“女性優遇”が 25.0%、女性は“男性優遇”が 5.2%、“女性優遇”が 21.1%と、男女ともに“女性優遇”が上回っています。

高校生 全体 / 性別

- ▶ 「平等になっている」が 64.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が 17.8%、「わからない」が 9.4%となっています。
- ▶ 性別では、女性で「平等になっている」(71.6%)が男性より 15.3 ポイント高くなっています。
- ▶ 男性は“男性優遇”が 1.7%、“女性優遇”が 35.3%、女性は“男性優遇”が 1.5%、“女性優遇”が 15.9%と、男女ともに“女性優遇”が上回っているものの、“女性優遇”は男性が女性より 19.4 ポイント高くなっています。

図表 2-4 ② 学校生活（性別）



③ 社会全体

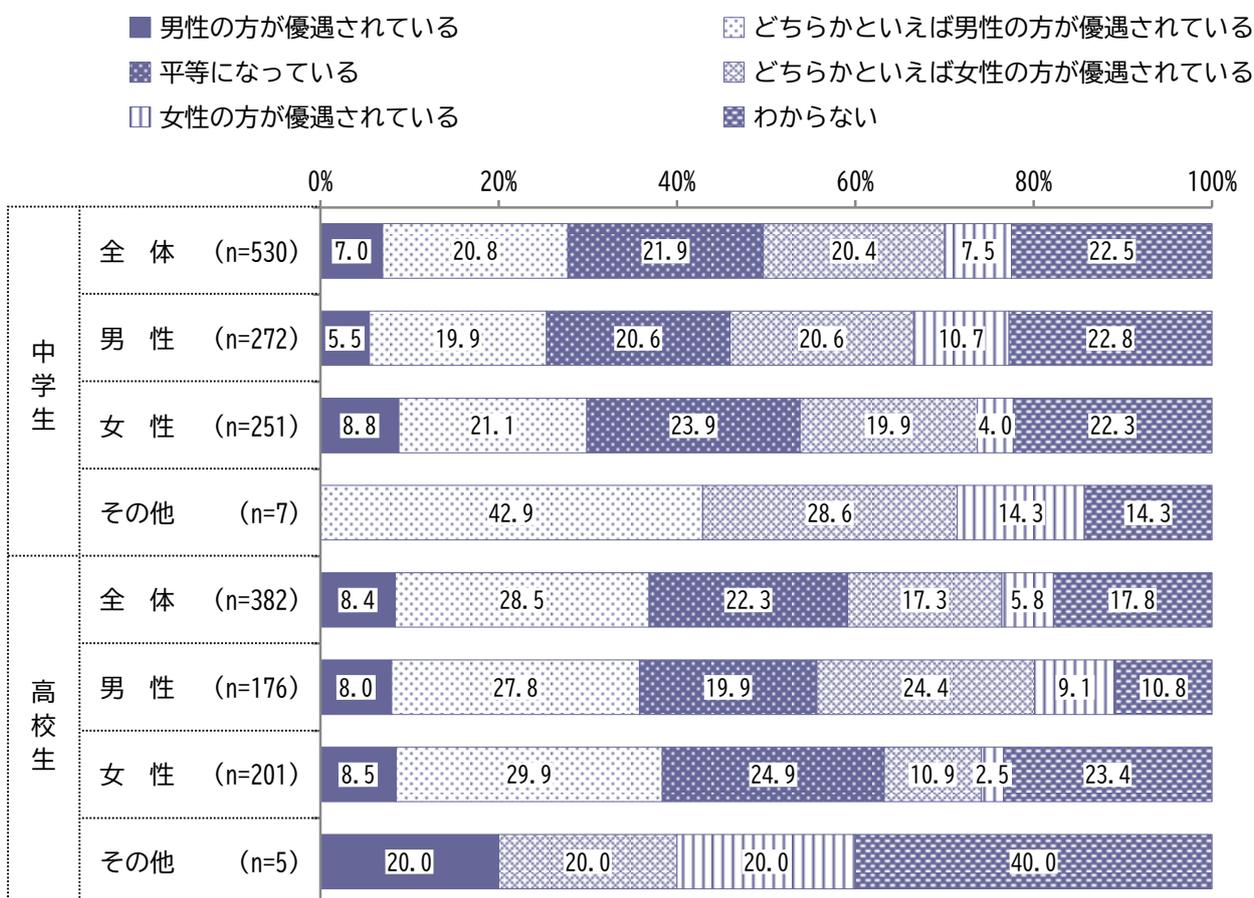
中学生 全体／性別

- ▶ 「わからない」が 22.5%で最も高く、次いで「平等になっている」が 21.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 20.8%となっています。
- ▶ 性別では、男性は“男性優遇”が25.4%、“女性優遇”が31.3%、女性は“男性優遇”が29.9%、“女性優遇”が23.9%と、男性は“女性優遇”、女性は“男性優遇”が上回っています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 28.5%で最も高く、次いで「平等になっている」が 22.3%、「わからない」が 17.8%となっています。
- ▶ 性別では、男性は“男性優遇”が 35.8%、“女性優遇”が 33.5%、女性は“男性優遇”が 38.4%、“女性優遇”が 13.4%と、男女ともに“男性優遇”が上回っているものの、“女性優遇”は男性が女性より 20.1 ポイント高くなっています。

図表 2-5 ③ 社会全体（性別）



### 3 日常生活について

問3 あなたは今までに、「女だから〇〇しなさい」「男だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇は1つ)

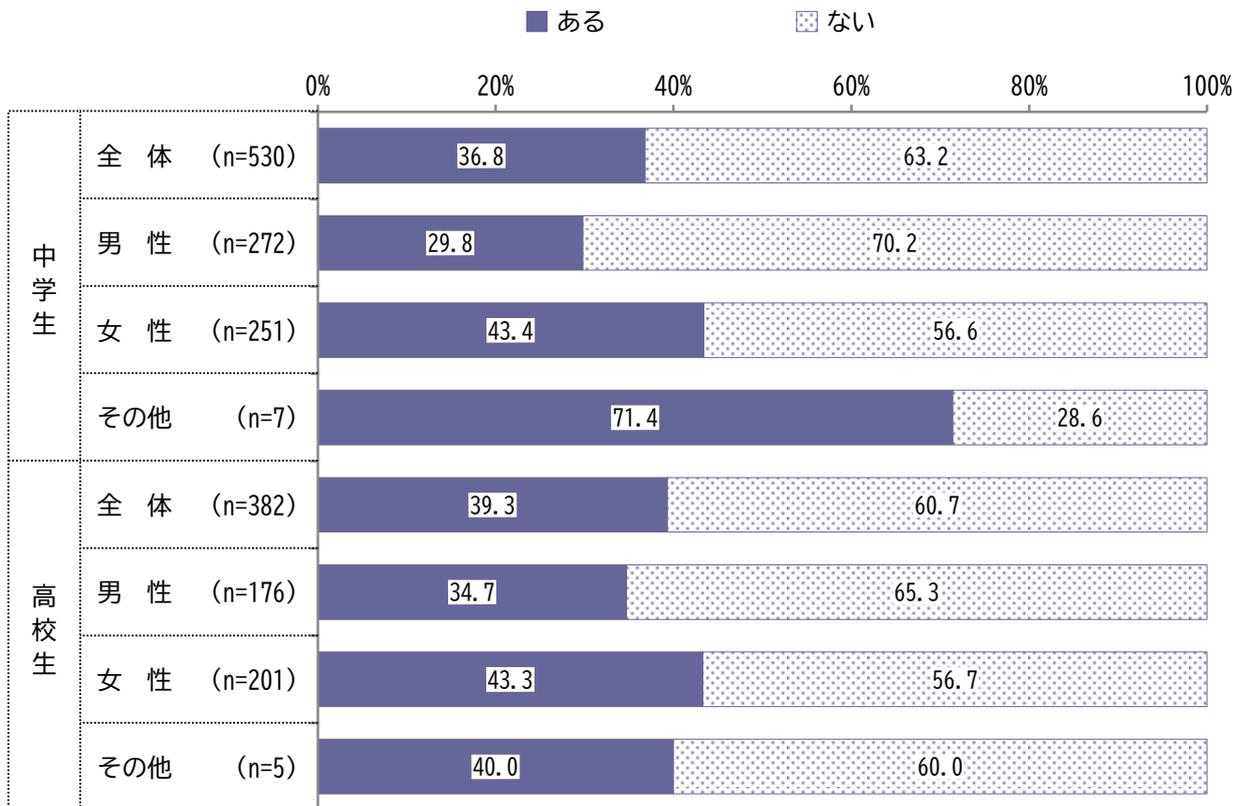
#### 中学生 全体/性別

- ▶ 「ない」が63.2%、「ある」が36.8%となっています。
- ▶ 性別では、女性で「ある」(43.4%)が男性より13.6ポイント高くなっています。

#### 高校生 全体/性別

- ▶ 「ない」が60.7%、「ある」が39.3%となっています。
- ▶ 性別では、女性で「ある」(43.3%)が男性より8.6ポイント高くなっています。

図表 2-6 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験 (性別)

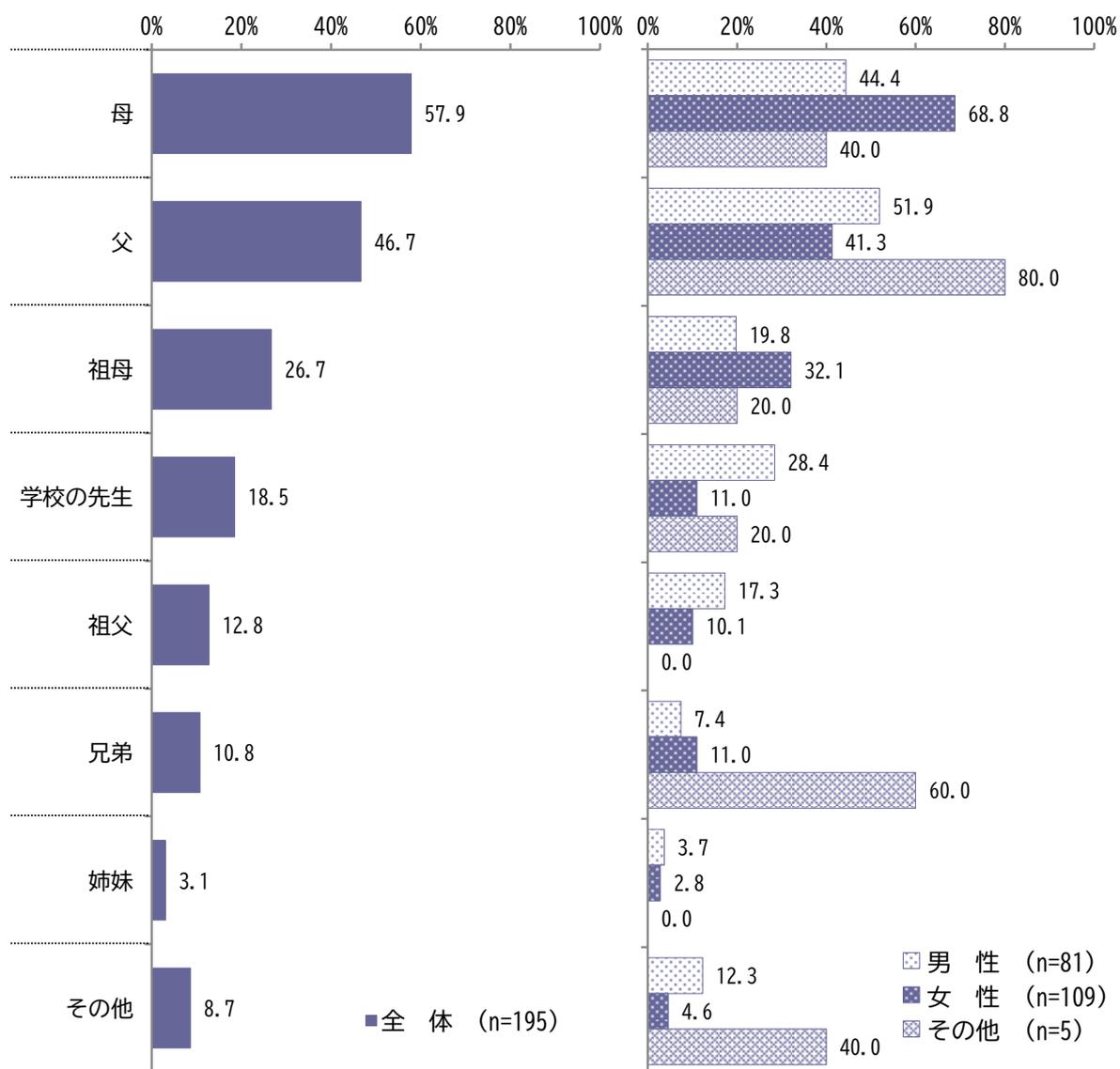


問3-1 それは誰に言われましたか。(あてはまるものすべてに○)  
 〈問3で「1」と回答した方〉

中学生 全体／性別

- 「母」が57.9%で最も高く、次いで「父」が46.7%、「祖母」が26.7%となっています。
- 性別では、男性は「父」(51.9%)が最も高く、次いで「母」(44.4%)、「学校の先生」(28.4%)となっており、女性は「母」(68.8%)が最も高く、次いで「父」(41.3%)、「祖母」(32.1%)となっています。
- 「母」では、女性が男性より24.4ポイント高くなっています。

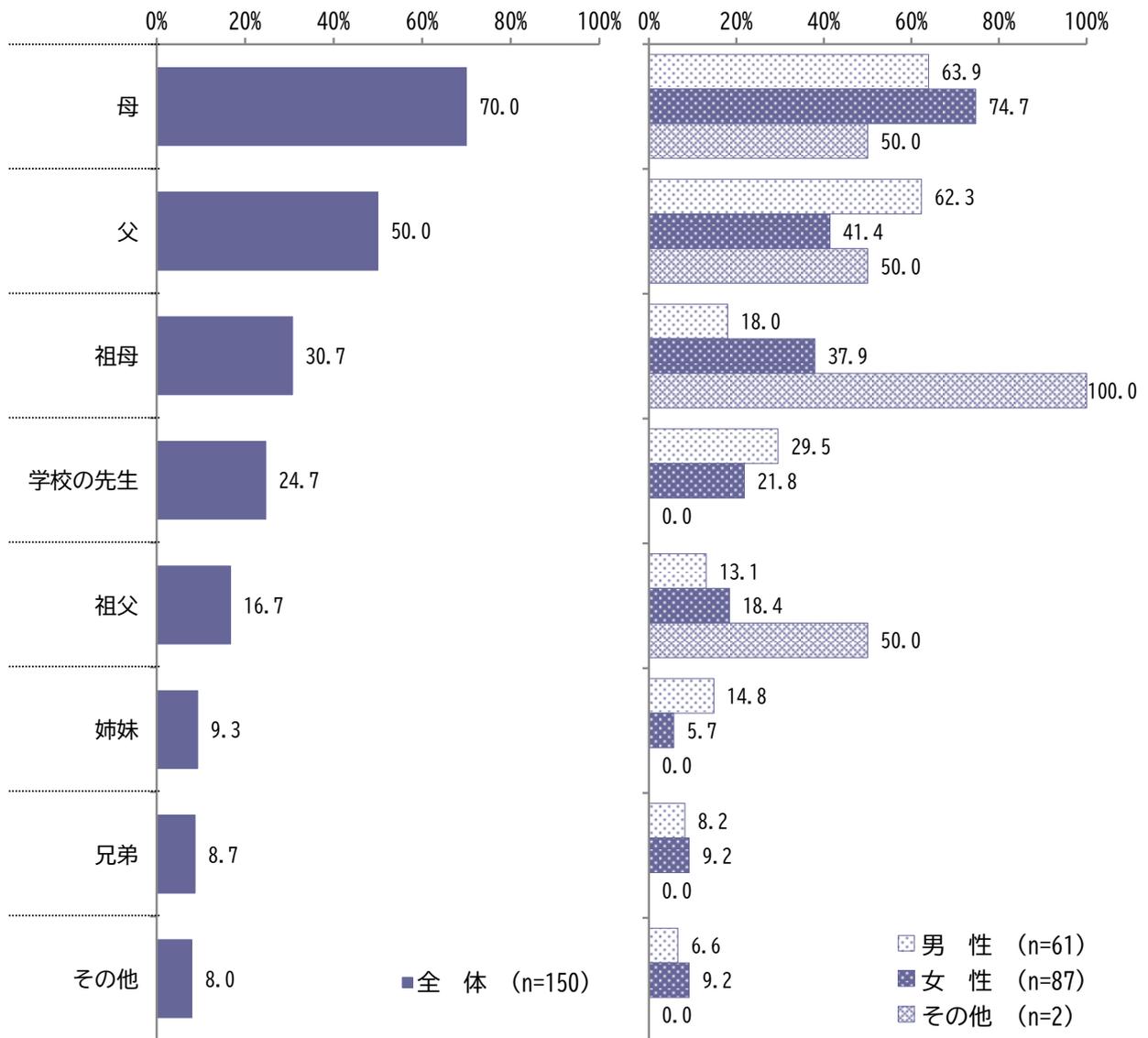
図表 2-7 性別に基づく役割や思い込みを決めつけた相手 中学生（性別）



高校生 全体 / 性別

- ▶ 「母」が70.0%で最も高く、次いで「父」が50.0%、「祖母」が30.7%となっています。
- ▶ 性別では、男性は「母」(63.9%)が最も高く、次いで「父」(62.3%)、「学校の先生」(29.5%)となっており、女性は「母」(74.7%)が最も高く、次いで「父」(41.4%)、「祖母」(37.9%)となっています。
- ▶ 「父」では、男性が女性より20.9ポイント高くなっている一方、「祖母」では、女性が男性より19.9ポイント高くなっています。

図表 2-8 性別に基づく役割や思い込みを決めつけた相手 高校生 (性別)

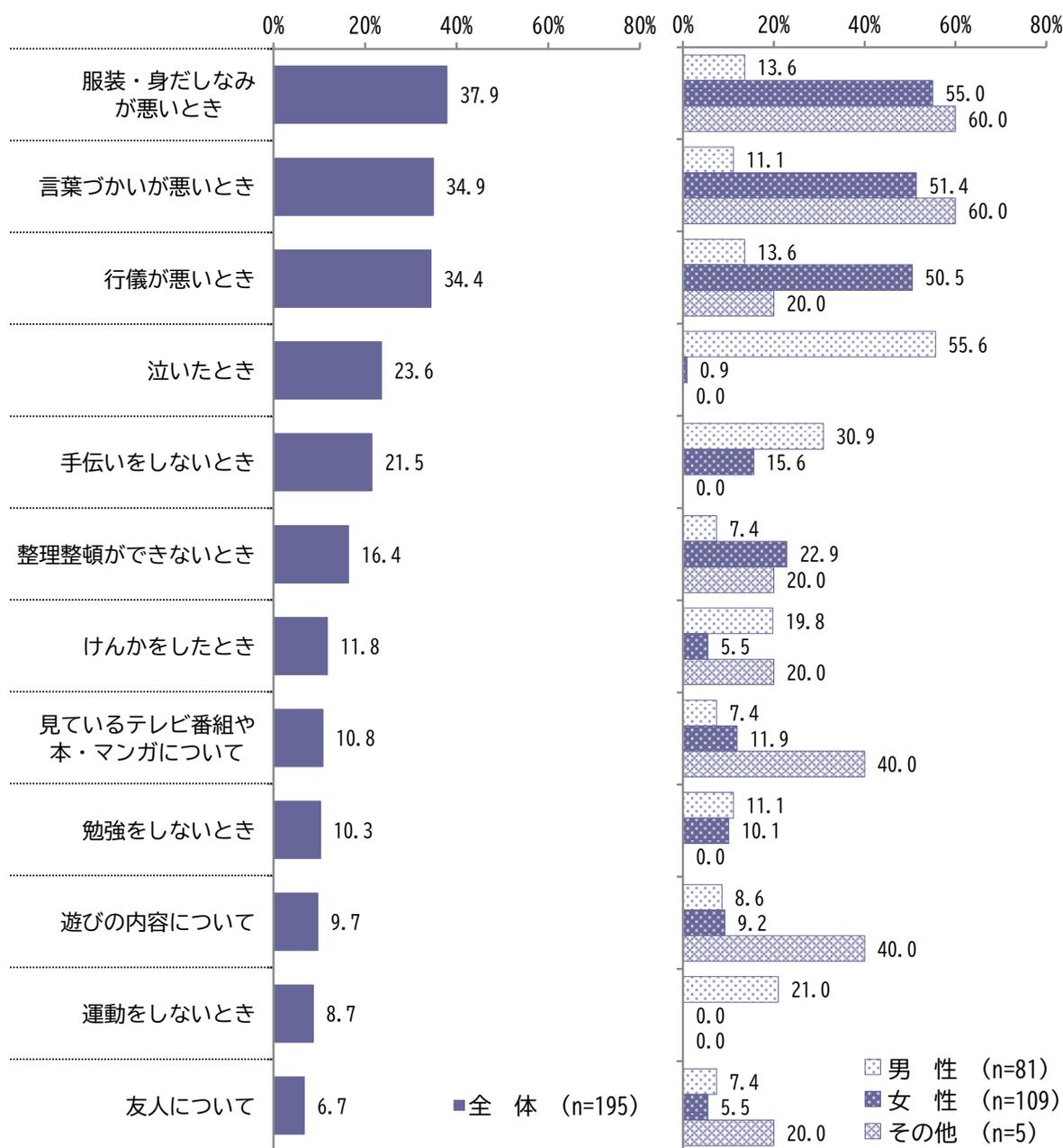


問3-2 それはどんなことで言われましたか。(あてはまるものすべてに○)  
 〈問3で「1」と回答した方〉

中学生 全体/性別

- 「服装・身だしなみが悪いとき」が 37.9%で最も高く、次いで「言葉づかいが悪いとき」が 34.9%、「行儀が悪いとき」が 34.4%となっています。
- 性別では、男性は「泣いたとき」(55.6%)が最も高く、次いで「手伝いをしないとき」(30.9%)、「運動をしないとき」(21.0%)となっており、女性は「服装・身だしなみが悪いとき」(55.0%)が最も高く、次いで「言葉づかいが悪いとき」(51.4%)、「行儀が悪いとき」(50.5%)となっています。
- 「泣いたとき」では、男性が女性より54.7ポイントと大幅に高くなっている一方、「服装・身だしなみが悪いとき」、「言葉づかいが悪いとき」、「行儀が悪いとき」では、女性が男性より 40 ポイント前後と大幅に高くなっています。

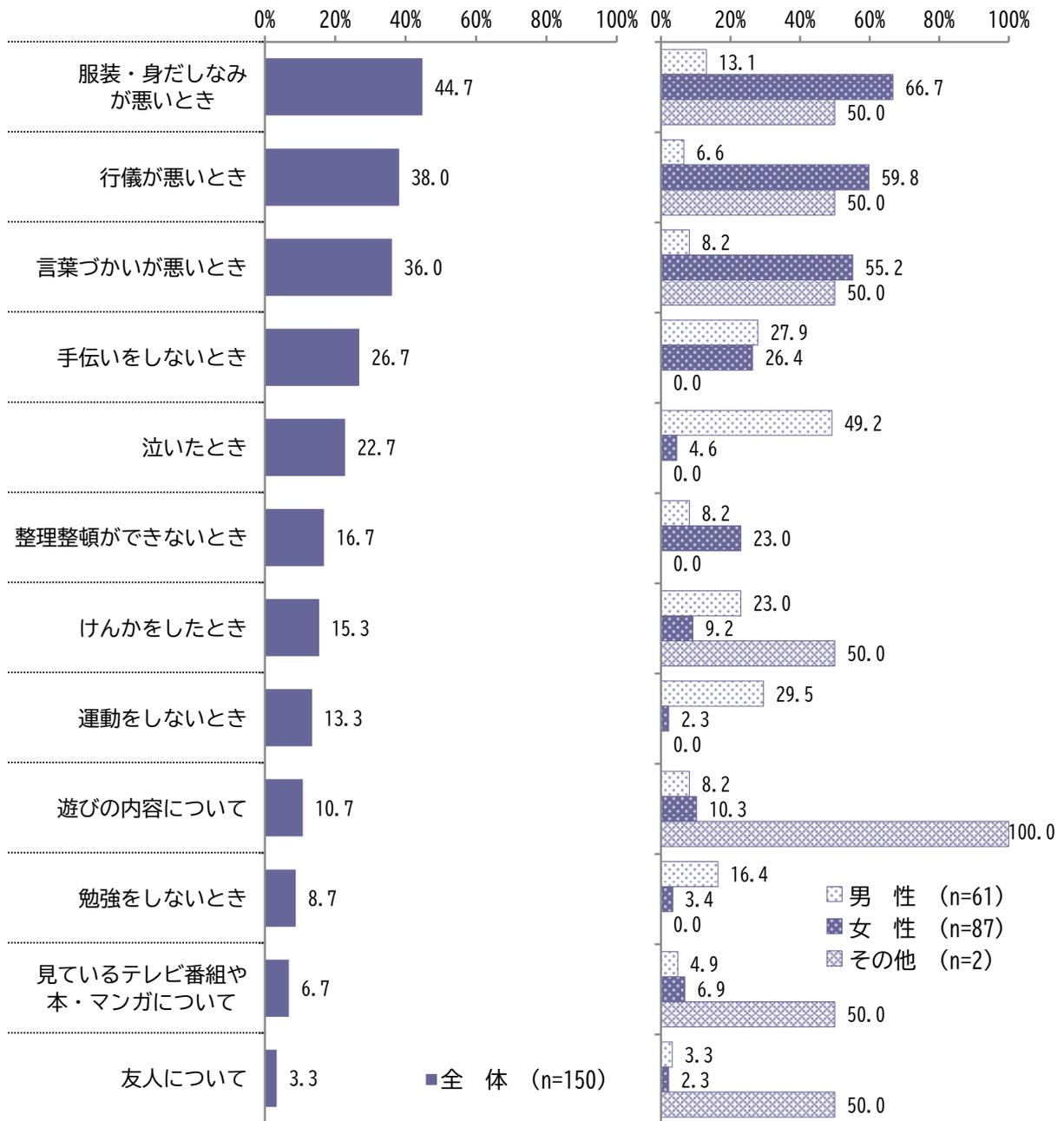
図表 2-9 性別に基づく役割や思い込みの内容 中学生 (性別)



高校生 全体 / 性別

- ▶ 「服装・身だしなみが悪いとき」が 44.7%で最も高く、次いで「行儀が悪いとき」が 38.0%、「言葉づかいが悪いとき」が 36.0%となっています。
- ▶ 性別では、男性は「泣いたとき」(49.2%)が最も高く、次いで「運動をしないとき」(29.5%)、「手伝いをしないとき」(27.9%)となっており、女性は「服装・身だしなみが悪いとき」(66.7%)が最も高く、次いで「行儀が悪いとき」(59.8%)、「言葉づかいが悪いとき」(55.2%)となっています。
- ▶ 「泣いたとき」では、男性が女性より 44.6 ポイントと大幅に高くなっている一方、「服装・身だしなみが悪いとき」、「行儀が悪いとき」、「言葉づかいが悪いとき」では、女性が男性より 50 ポイント前後と大幅に高くなっています。

図表 2-10 性別に基づく役割や思い込みの内容 高校生 (性別)



問4 あなたは、次のようなお手伝いをしていますか。  
 (①～⑤についてそれぞれ○を1つ)

**中学生 全体**

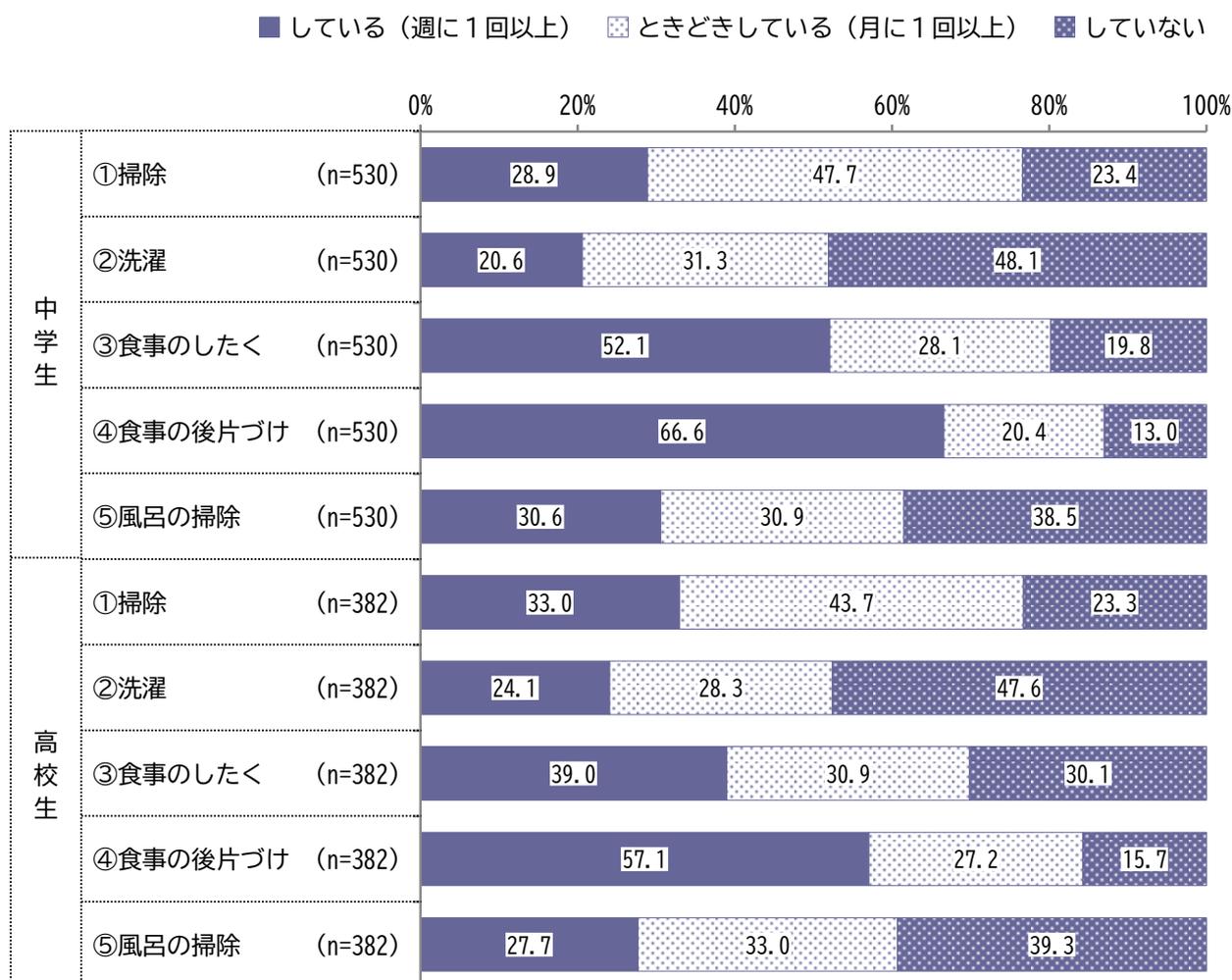
- 『③食事のしたく』と『④食事の後片づけ』では、「している(週に1回以上)」が最も高く、“お手伝いをしている層※1”はともに8割を超えています。
- 『①掃除』では、「ときどきしている(月に1回以上)」(47.7%)が最も高くなっています。
- 『②洗濯』と『⑤風呂の掃除』では、「していない」(4割前後)が最も高くなっています。

**高校生 全体**

- 『③食事のしたく』と『④食事の後片づけ』では、「している(週に1回以上)」が最も高く、『④食事の後片づけ』で“お手伝いをしている”層は8割を超えています。
- 『①掃除』では、「ときどきしている(月に1回以上)」(43.7%)が最も高くなっています。
- 『②洗濯』と『⑤風呂の掃除』では、「していない」(4割前後)が最も高くなっています。

※1 お手伝いをしている：「している(週に1回以上)」+「ときどきしている(月に1回以上)」

図表 2-11 お手伝いの状況



① 掃除

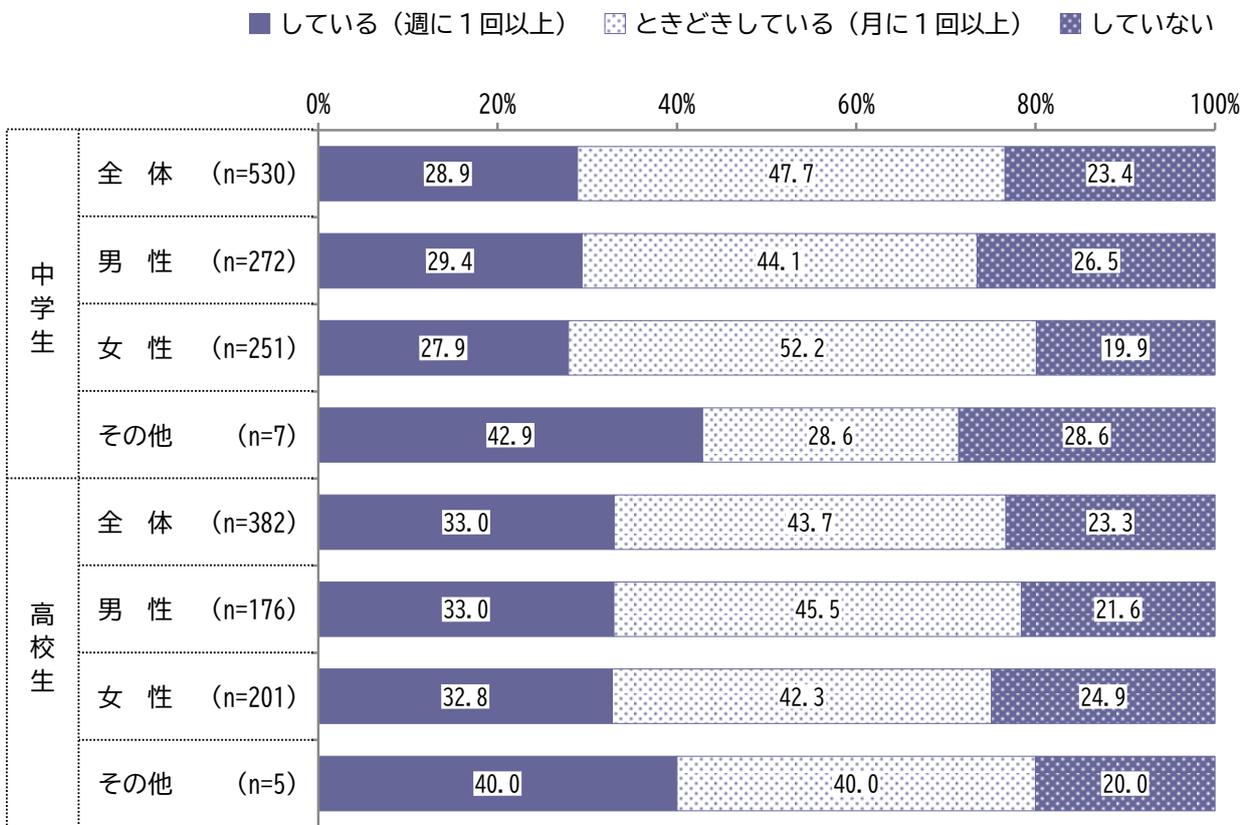
中学生 全体/性別

- ▶ 「ときどきしている(月に1回以上)」が47.7%で最も高く、次いで「している(週に1回以上)」が28.9%、「していない」が23.4%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、“お手伝いをしている”層(80.1%)が男性より6.6ポイント高くなっています。

高校生 全体/性別

- ▶ 「ときどきしている(月に1回以上)」が43.7%で最も高く、次いで「している(週に1回以上)」が33.0%、「していない」が23.3%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-12 ① 掃除 (性別)



III. 調査結果／3 日常生活について

② 洗濯

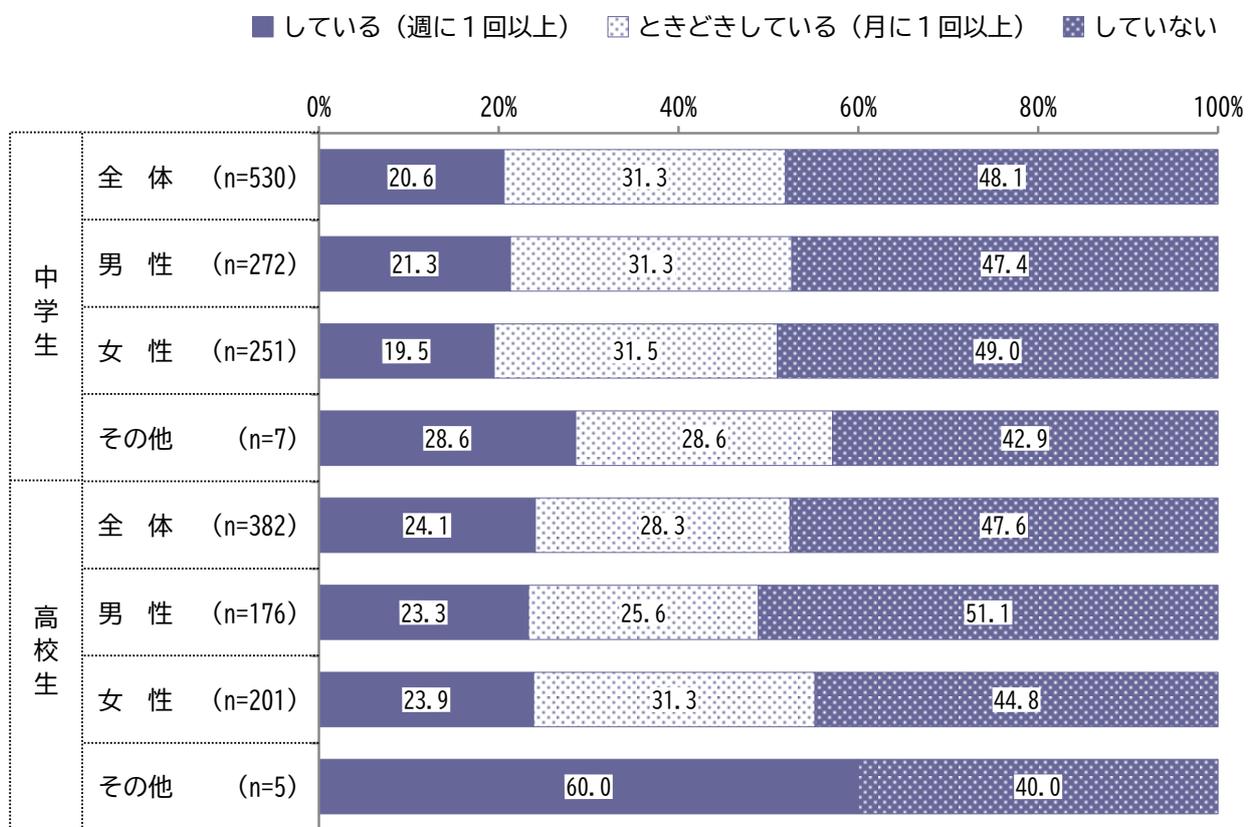
中学生 全体／性別

- ▶ 「していない」が48.1%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が31.3%、「している(週に1回以上)」が20.6%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生 全体／性別

- ▶ 「していない」が47.6%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が28.3%、「している(週に1回以上)」が24.1%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、“お手伝いをしている”層(55.2%)が男性より6.3ポイント高くなっています。

図表 2-13 ② 洗濯（性別）



③ 食事のしたく

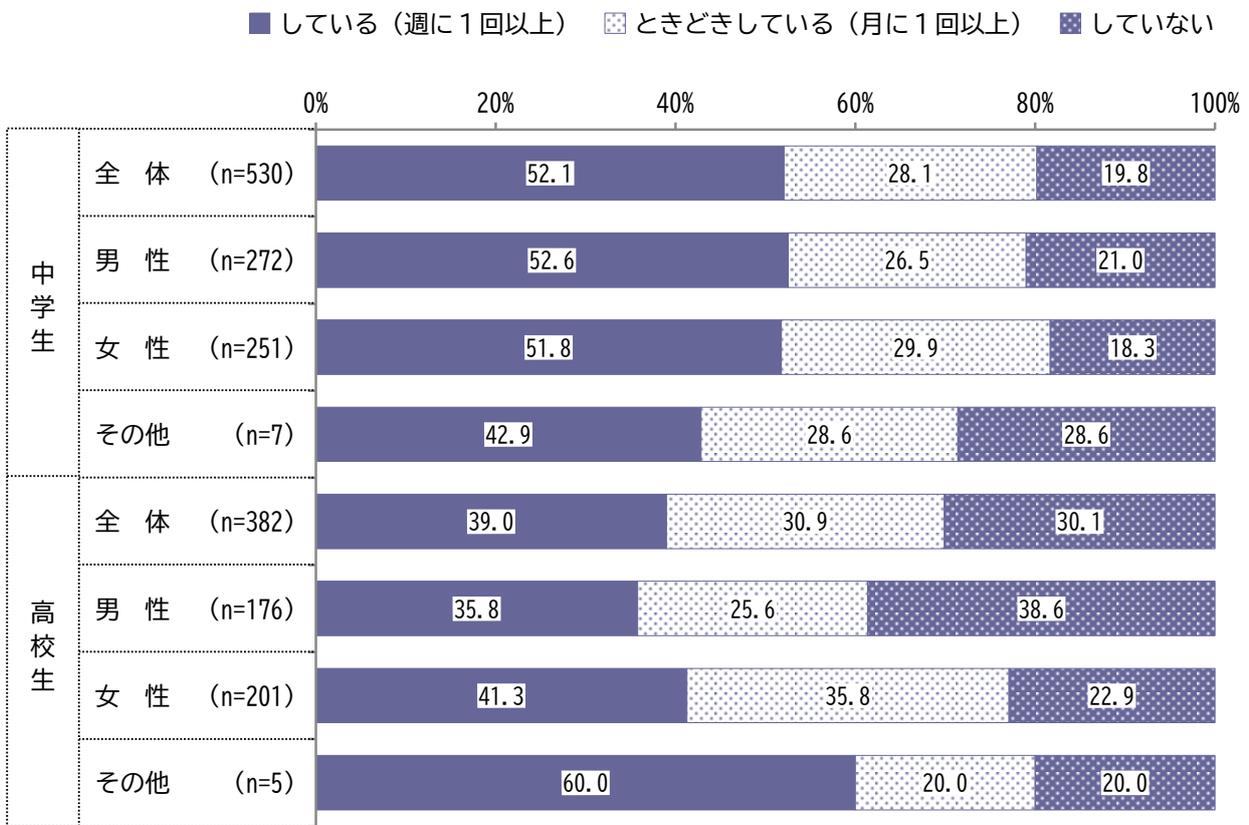
中学生 全体/性別

- ▶ 「している(週に1回以上)」が 52.1%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が 28.1%、「していない」が 19.8%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生 全体/性別

- ▶ 「している(週に1回以上)」が 39.0%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が 30.9%、「していない」が 30.1%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、“お手伝いをしている”層(77.1%)が男性より 15.7 ポイント高くなっています。

図表 2-14 ③ 食事のしたく (性別)



④ 食事の後片づけ

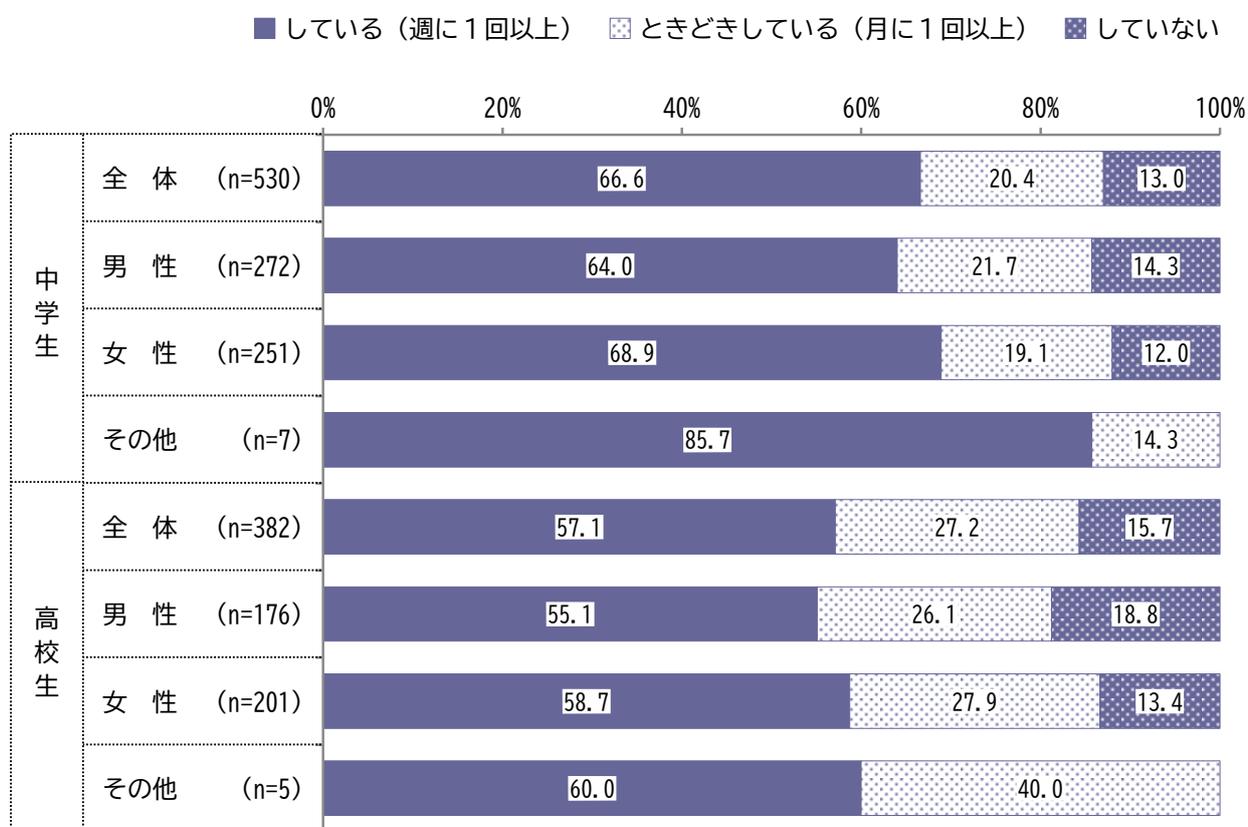
中学生 全体／性別

- ▶ 「している(週に1回以上)」が66.6%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が20.4%、「していない」が13.0%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生 全体／性別

- ▶ 「している(週に1回以上)」が57.1%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が27.2%、「していない」が15.7%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、“お手伝いをしている”層(86.6%)が男性より5.4ポイント高くなっています。

図表 2-15 ④食事の後片付け（性別）



⑤ 風呂の掃除

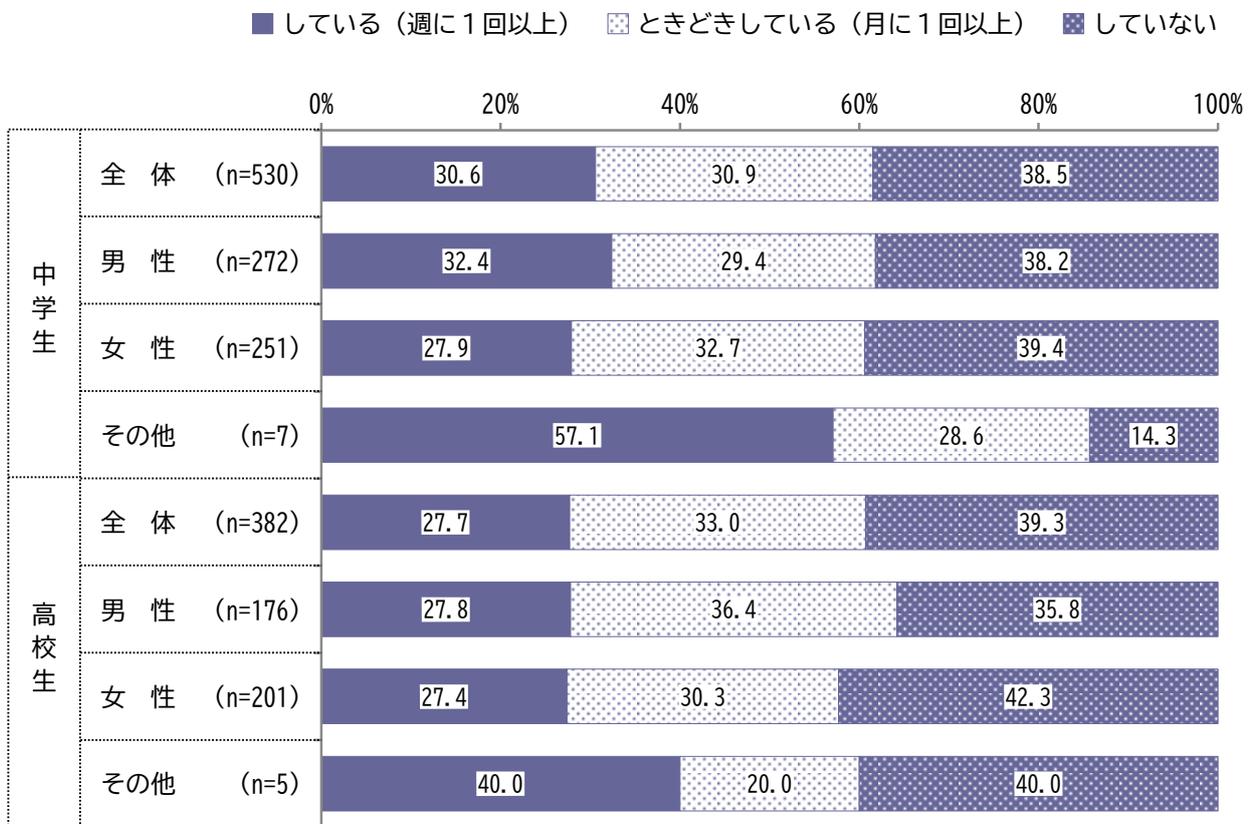
中学生 全体/性別

- ▶ 「していない」が38.5%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が30.9%、「している(週に1回以上)」が30.6%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生 全体/性別

- ▶ 「していない」が39.3%で最も高く、次いで「ときどきしている(月に1回以上)」が33.0%、「している(週に1回以上)」が27.7%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、“お手伝いをしている”層(64.2%)が女性より6.5ポイント高くなっています。

図表 2-16 ⑤ 風呂の掃除 (性別)



問5 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。  
 (①～③についてそれぞれ○を1つ)

**中学生 全体**

- 『①学校の係の中で女子向き・男子向きの係がある』では、“否定的<sup>※1</sup>”な層が67.5%となっています。
- 『②授業の中で女子が得意・男子が得意な科目がある』では、“肯定的<sup>※2</sup>”な層が53.4%、『③社会には女性または男性に向いている職業がある』では、“肯定的”な層が81.4%を占めています。

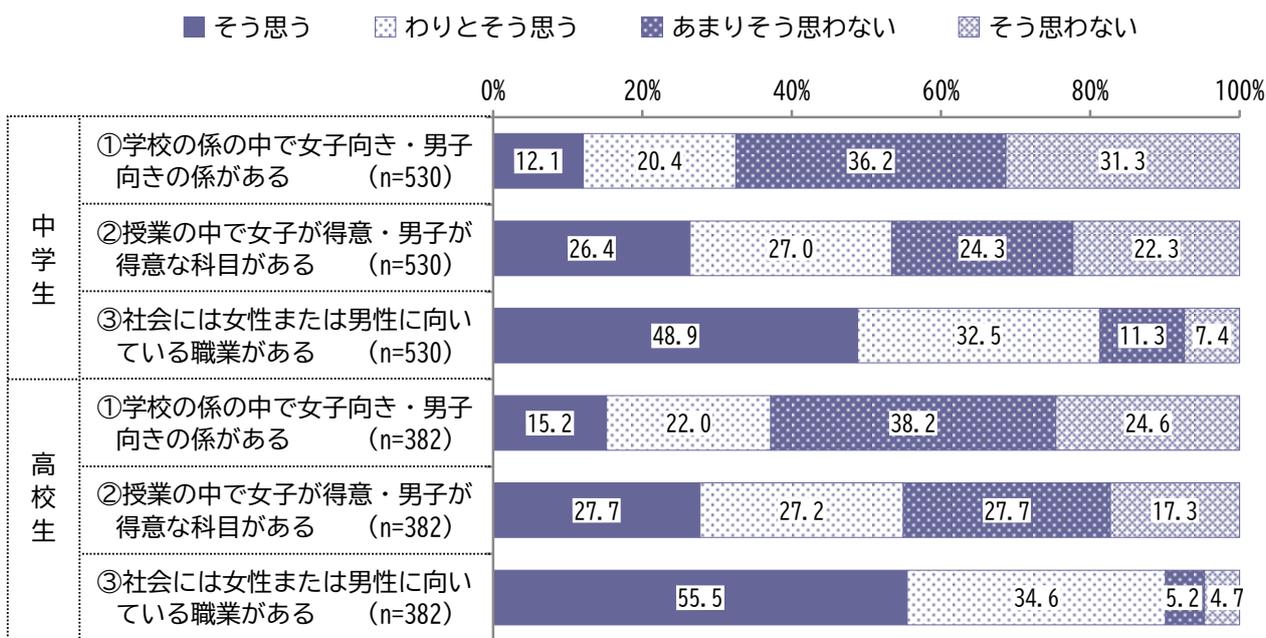
**高校生 全体**

- 『①学校の係の中で女子向き・男子向きの係がある』では、“否定的”な層が62.8%となっています。
- 『②授業の中で女子が得意・男子が得意な科目がある』では、“肯定的”な層が54.9%、『③社会には女性または男性に向いている職業がある』では、“肯定的”な層が90.1%を占めています。

※1 否定的：「そう思わない」+「あまりそう思わない」

※2 肯定的：「そう思う」+「わりとそう思う」

図表 2-17 性別に対するアンコンシャス・バイアスについて



① 学校の係の中で女子向き・男子向きの係がある

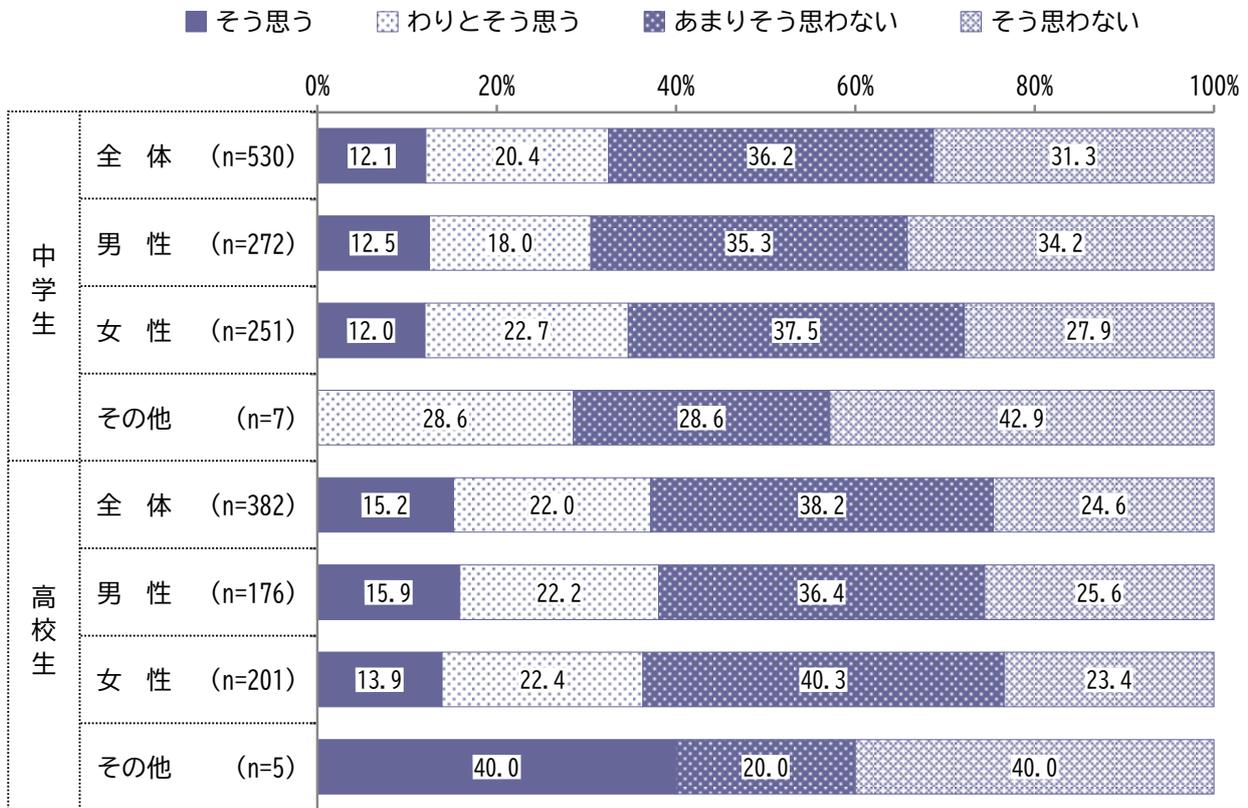
中学生 全体/性別

- ▶ 「あまりそう思わない」が 36.2%で最も高く、次いで「そう思わない」が 31.3%、「わりとそう思う」が 20.4%となっており、“否定的”な層は 67.5%、“肯定的”な層は 32.5%と、“否定的”な層が 35.0 ポイント高くなっています。
- ▶ 性別では、男性で「そう思わない」(34.2%)が、女性より 6.3 ポイント高くなっています。

高校生 全体/性別

- ▶ 「あまりそう思わない」が 38.2%で最も高く、次いで「そう思わない」が 24.6%、「わりとそう思う」が 22.0%となっており、“否定的”な層は 62.8%、“肯定的”な層は 37.2%と、“否定的”な層が 25.6 ポイント高くなっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-18 ① 学校の係の中で女子向き・男子向きの係がある（性別）



② 授業の中で女子が得意・男子が得意な科目がある

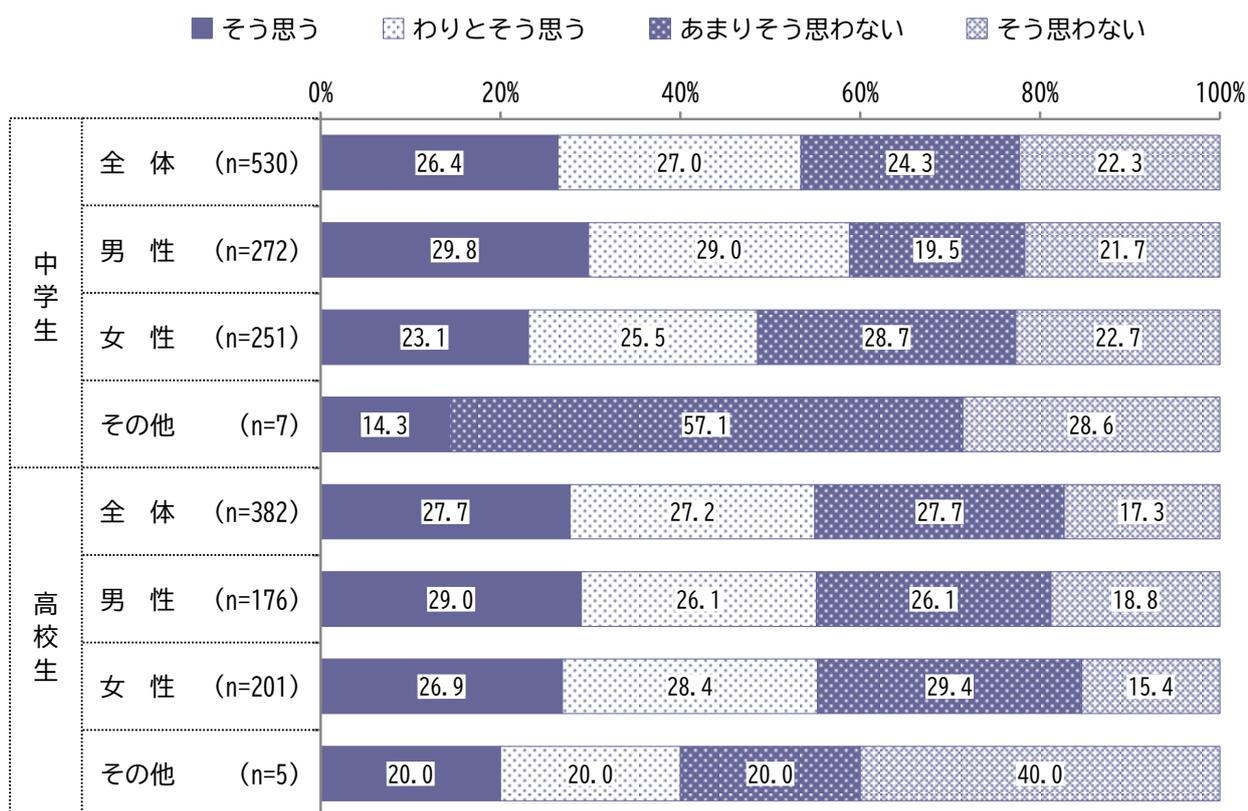
中学生 全体 / 性別

- ▶ 「わりとそう思う」が27.0%で最も高く、次いで「そう思う」が26.4%、「あまりそう思わない」が24.3%となっており、“肯定的”な層は53.4%、“否定的”な層は46.6%と、“肯定的”な層が6.8ポイント高くなっています。
- ▶ 性別では、男性は“肯定的”な層が58.8%、“否定的”な層が41.2%と、“肯定的”な層が17.6ポイント高くなっている一方、女性は“肯定的”な層が48.6%、“否定的”な層が51.4%と、“否定的”な層が2.8ポイント高くなっており、男性は“肯定的”な層、女性は“否定的”な層が上回っています。

高校生 全体 / 性別

- ▶ 「そう思う」と「あまりそう思わない」がともに27.7%で最も高く、次いで「わりとそう思う」が27.2%となっており、“肯定的”な層は54.9%、“否定的”な層は45.0%と、“肯定的”な層が9.9ポイント高くなっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-19 ② 授業の中で女子が得意・男子が得意な科目がある（性別）



③ 社会には女性または男性に向いている職業がある

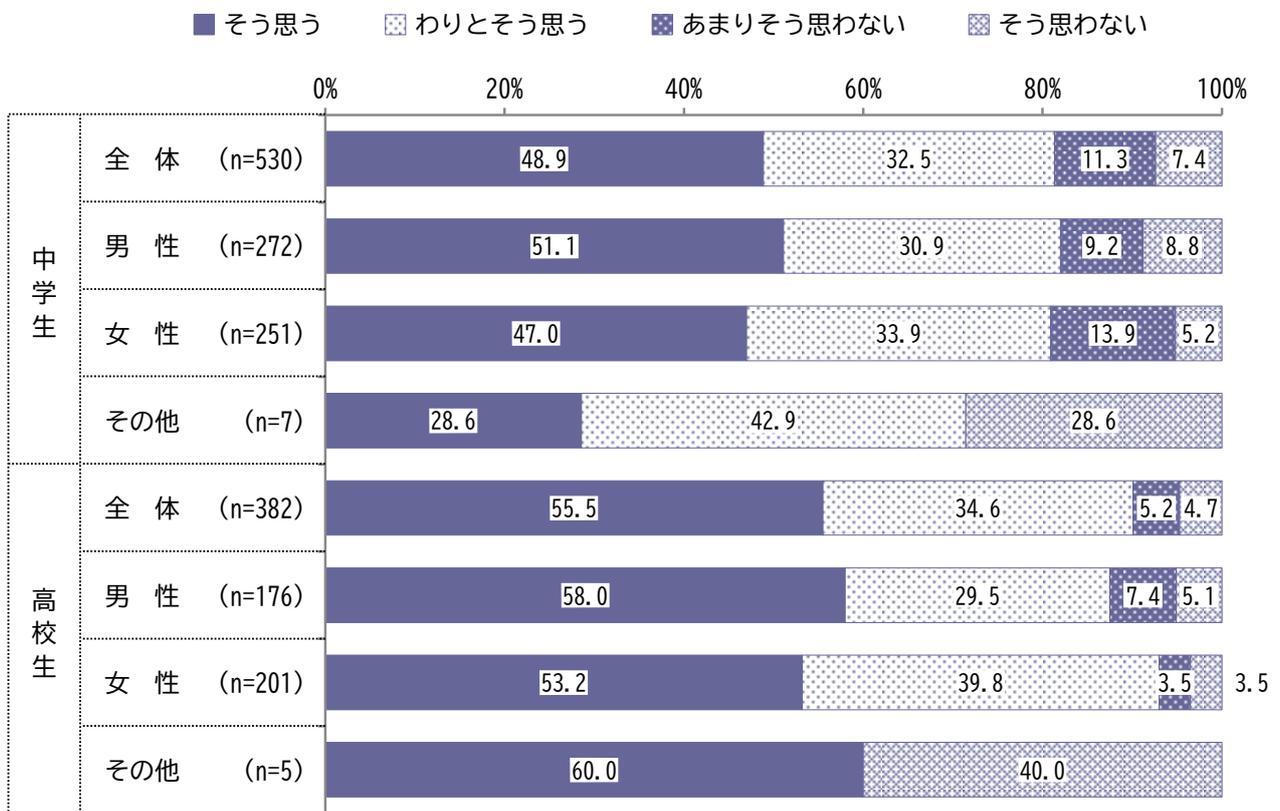
中学生 全体/性別

- ▶ 「そう思う」が48.9%で最も高く、次いで「わりとそう思う」が32.5%、「あまりそう思わない」が11.3%となっており、“肯定的”な層は81.4%、“否定的”な層は18.7%と、“肯定的”な層が62.7ポイントと大幅に高くなっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生 全体/性別

- ▶ 「そう思う」が55.5%で最も高く、次いで「わりとそう思う」が34.6%、「あまりそう思わない」が5.2%となっており、“肯定的”な層は90.1%、“否定的”な層は9.9%と、“肯定的”な層が80.2ポイントと大幅に高くなっています。
- ▶ 性別では、女性で、「わりとそう思う」(39.8%)が男性より10.3ポイント高くなっています。

図表 2-20 ③ 社会には女性または男性に向いている職業がある（性別）



## 4 教育について

問6 あなたは、どこまで進学したいですか。(〇は1つ)

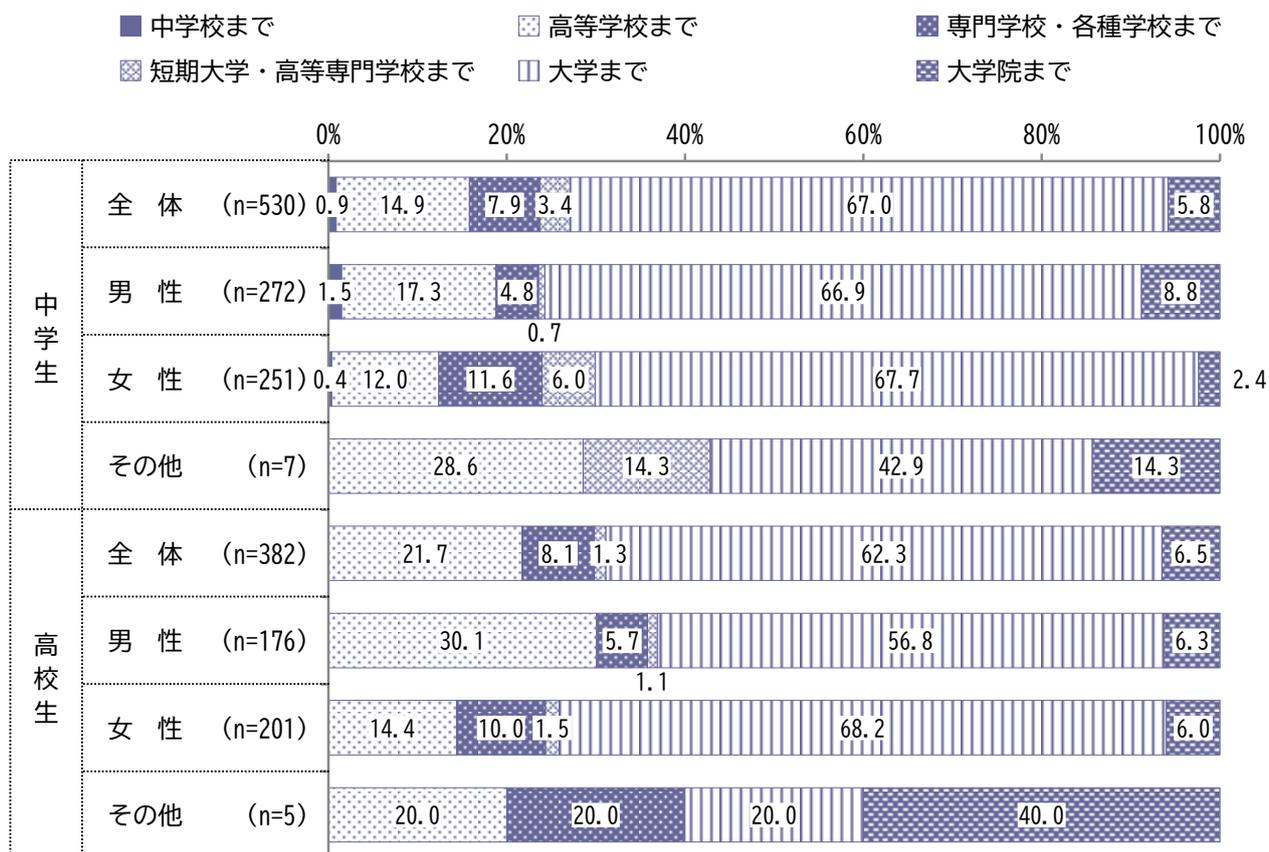
### 中学生 全体/性別

- ▶ 「大学まで」が 67.0%で最も高く、次いで「高等学校まで」が 14.9%、「専門学校・各種学校まで」が 7.9%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「専門学校・各種学校まで」(11.6%)が男性より 6.8 ポイント高くなっています。

### 高校生 全体/性別

- ▶ 「大学まで」が 62.3%で最も高く、次いで「高等学校まで」が 21.7%、「専門学校・各種学校まで」が 8.1%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、「高等学校まで」(30.1%)が女性より 15.7 ポイント高くなっている一方、女性では、「大学まで」(68.2%)が男性より 11.4 ポイント高くなっています。

図表 2-21 希望する進学先（性別）



## 5 将来の生活について

問7 将来結婚した場合、あなたの理想の生活は次のどれですか。(〇は1つ)

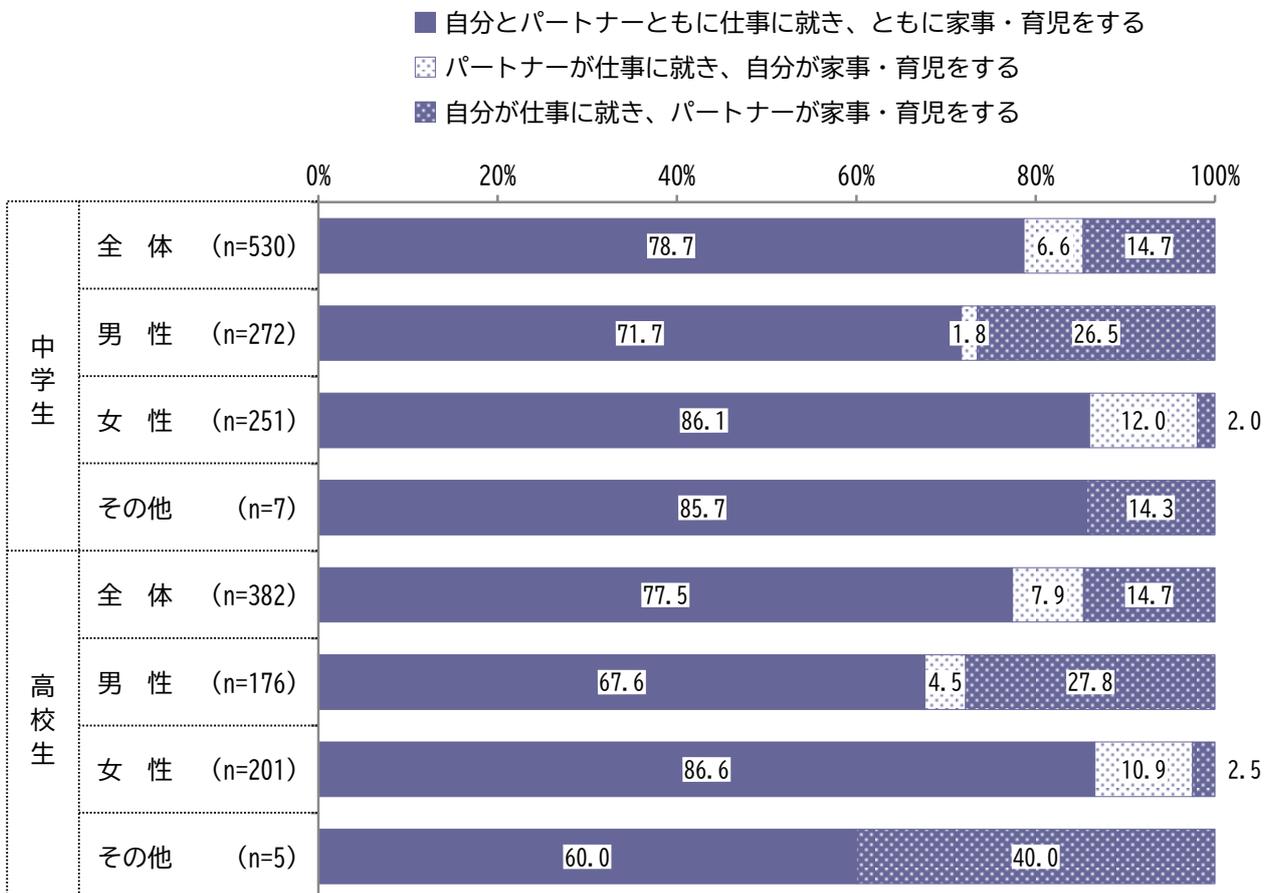
### 中学生 全体/性別

- ▶ 「自分とパートナーともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が78.7%で最も高く、次いで「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」が14.7%、「パートナーが仕事に就き、自分が家事・育児をする」が6.6%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」(26.5%)が女性より24.5ポイント高くなっている一方、女性では、「自分とパートナーともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」(86.1%)が男性より14.4ポイント高くなっています。

### 高校生 全体/性別

- ▶ 「自分とパートナーともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」が77.5%で最も高く、次いで「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」が14.7%、「パートナーが仕事に就き、自分が家事・育児をする」が7.9%となっています。
- ▶ 性別では、男性で「自分が仕事に就き、パートナーが家事・育児をする」(27.8%)が女性より25.3ポイント高くなっている一方、女性では「自分とパートナーともに仕事に就き、ともに家事・育児をする」(86.6%)が男性より19.0ポイント高くなっています。

図表 2-22 結婚後の理想の生活について（性別）



問8 あなたは、将来の暮らしの中での「仕事」、「家庭」、「地域・個人（付き合い、学習・趣味など）」の生活で何を優先したいですか。（○は1つ）

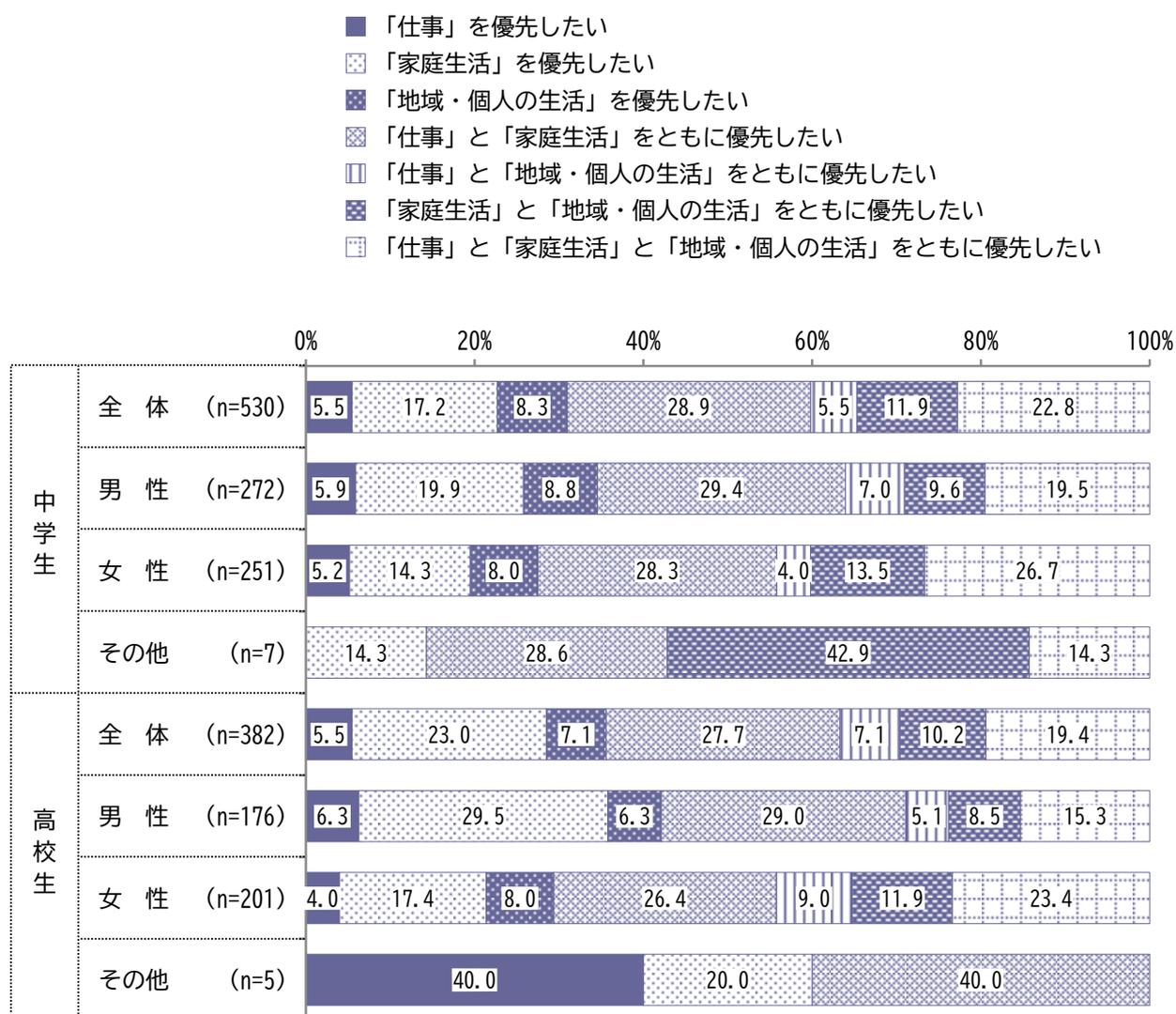
### 中学生 全体／性別

- 「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 28.9%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が 22.8%、「『家庭生活』を優先したい」が 17.2%となっています。
- 性別では、女性で「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(26.7%)が男性より 7.2 ポイント高くなっています。

### 高校生 全体／性別

- 「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 27.7%で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先したい」が 23.0%、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が 19.4%となっています。
- 性別では、男性で「『家庭生活』を優先したい」(29.5%)が女性より 12.1 ポイント高くなっています。

図表 2-23 ワーク・ライフ・バランスの優先度について（性別）



問9 あなたは、将来、仕事においてリーダーや管理職（部長・課長など）になりたいと思いますか。（○は1つ）

**中学生 全体／性別**

- 「できればなりたくない」が 35.5%で最も高く、次いで「できればなりたい」が 33.0%、「なりたい」が 14.3%となっており、“希望しない※1”層は 48.7%、“希望する※2”層は 47.3%で、“希望しない”層がわずかに上回っています。
- 性別では、男性は「できればなりたい」(40.1%)、女性は「できればなりたくない」(45.0%)が最も高く、男性は“希望する”層(56.6%)、女性は“希望しない”層(59.3%)がそれぞれ過半数となっています。

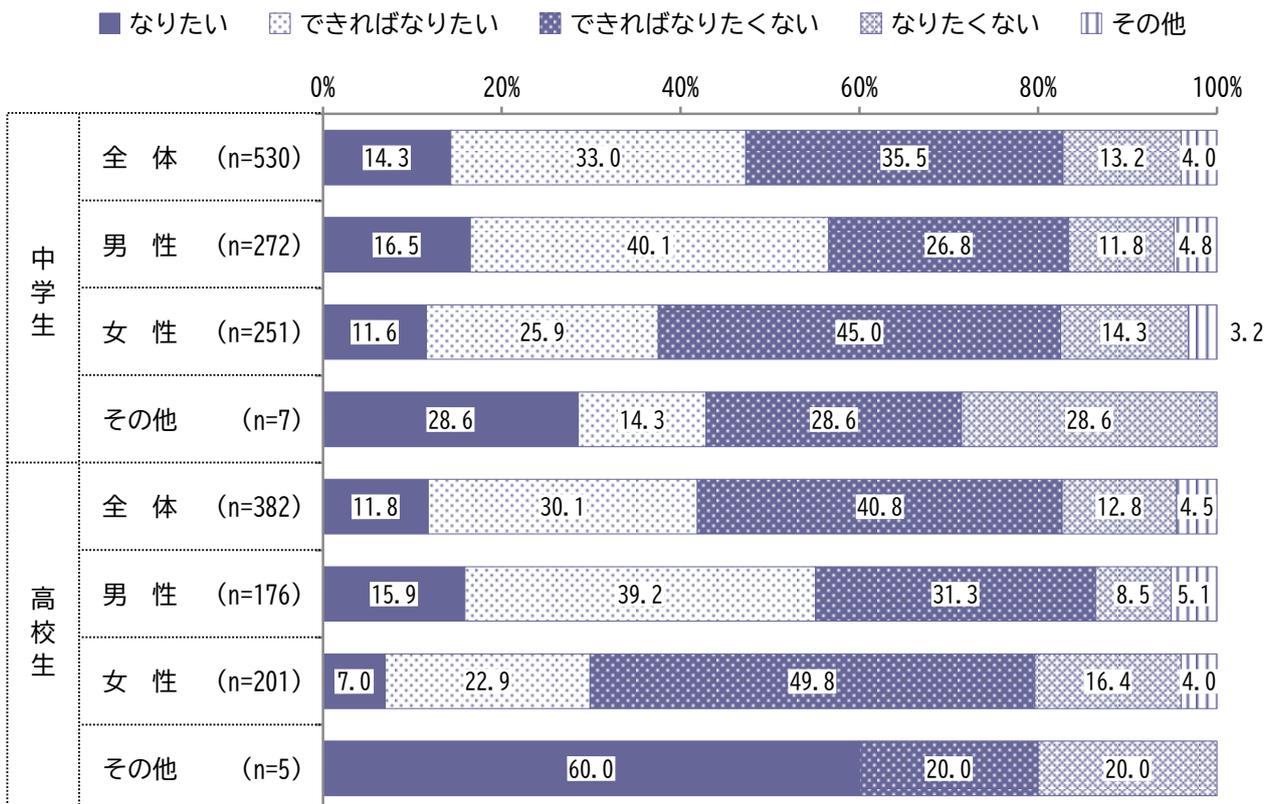
**高校生 全体／性別**

- 「できればなりたくない」が 40.8%で最も高く、次いで「できればなりたい」が 30.1%、「なりたくない」が 12.8%となっています。
- 性別では、男性は「できればなりたい」(39.2%)、女性は「できればなりたくない」(49.8%)が最も高く、男性は“希望する”層(55.1%)、女性は“希望しない”層(66.2%)がそれぞれ過半数となっています。

※1 希望しない：「なりたくない」+「できればなりたくない」

※2 希望する：「なりたい」+「できればなりたい」

図表 2-24 将来のリーダー・管理職志向（性別）

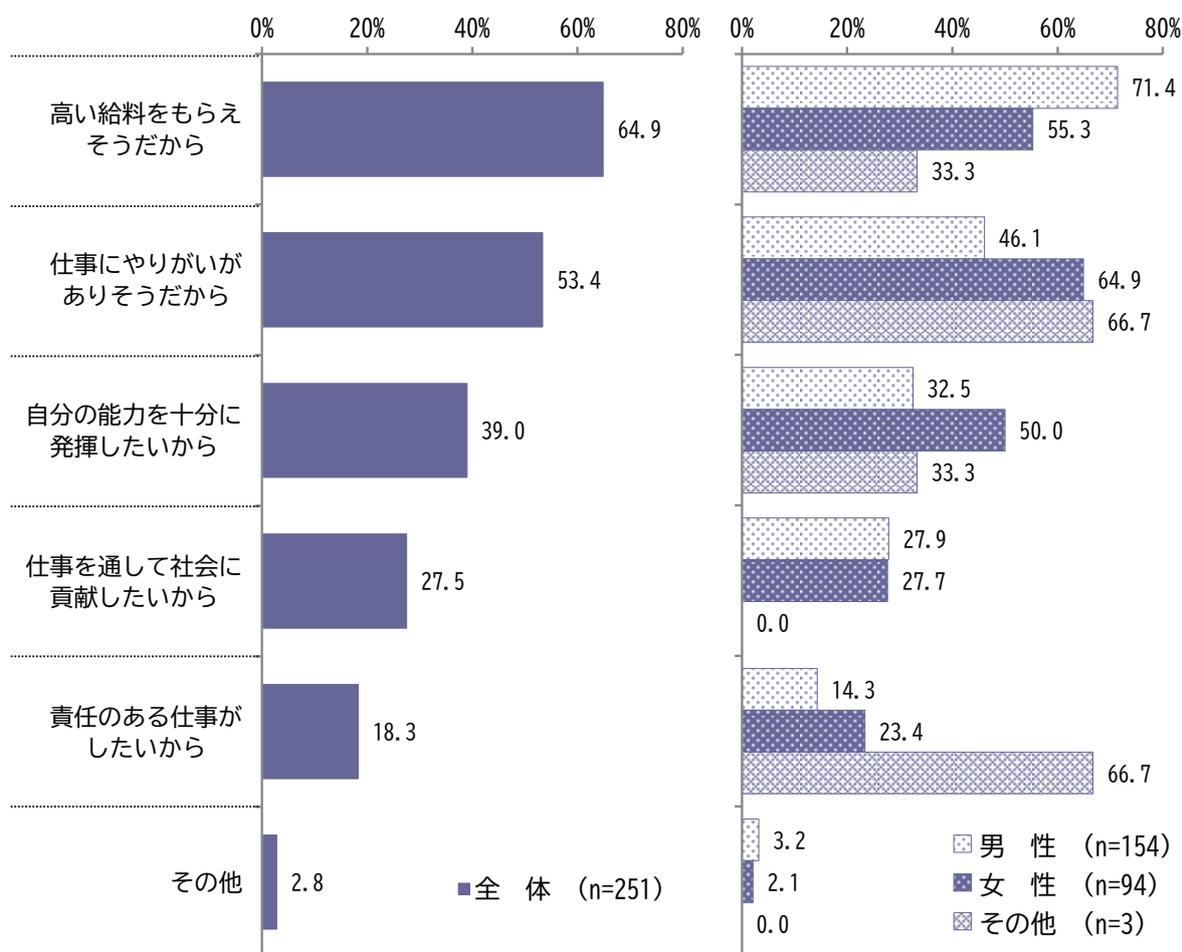


問9-1 リーダーや管理職になりたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)  
 〈問9で「1」または「2」と回答した方〉

中学生 全体/性別

- 「高い給料をもらえそうだから」が 64.9%で最も高く、次いで「仕事にやりがいがありそうだから」が 53.4%、「自分の能力を十分に発揮したいから」が 39.0%となっています。
- 性別では、男性は「高い給料をもらえそうだから」(71.4%)が最も高く、次いで「仕事にやりがいがありそうだから」(46.1%)、「自分の能力を十分に発揮したいから」(32.5%)となっており、女性は「仕事にやりがいがありそうだから」(64.9%)が最も高く、次いで「高い給料をもらえそうだから」(55.3%)、「自分の能力を十分に発揮したいから」(50.0%)となっています。
- 「仕事にやりがいがありそうだから」と「自分の能力を十分に発揮したいから」では、女性が男性より約 18 ポイント高くなっている一方、「高い給料をもらえそうだから」では、男性が女性より 16.1 ポイント高くなっています。

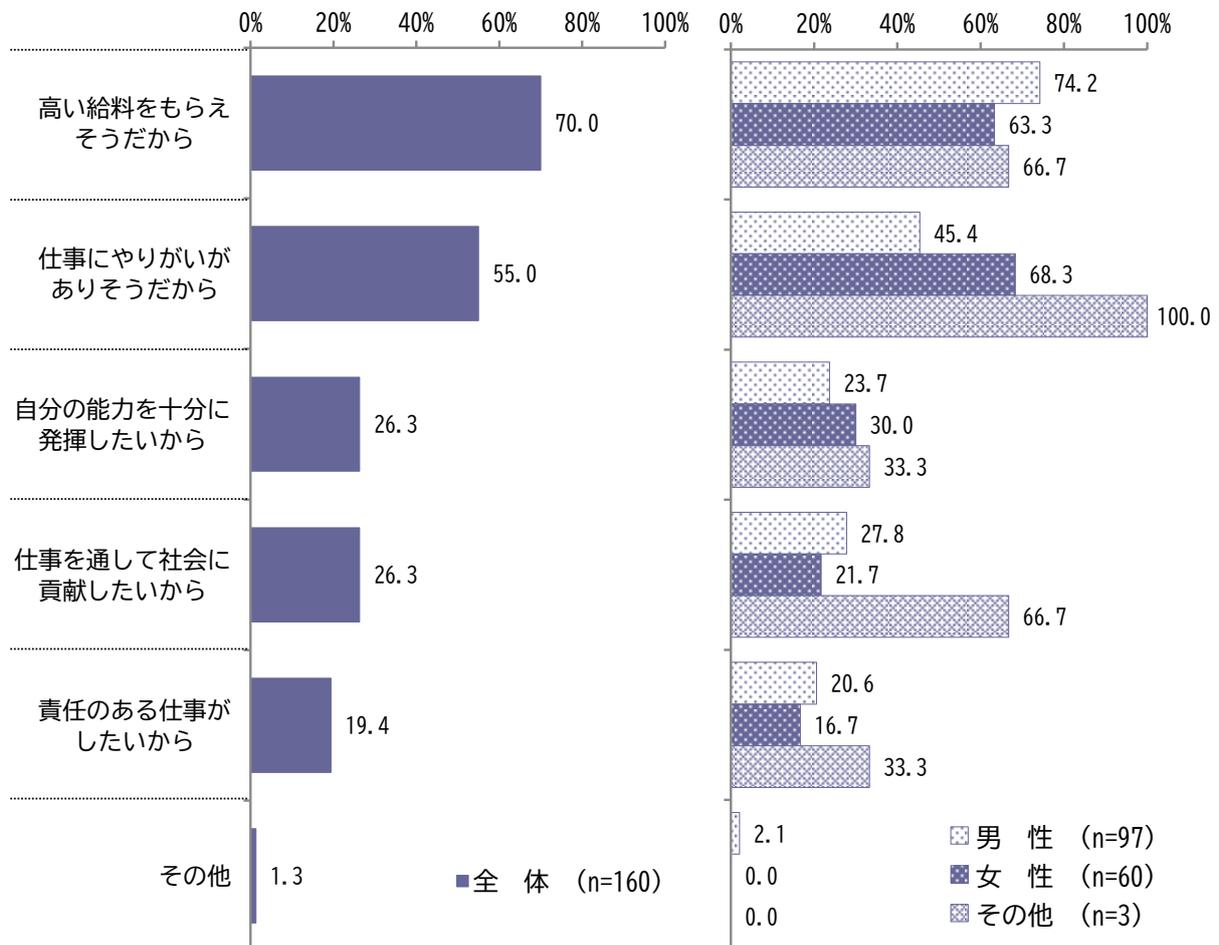
図表 2-25 リーダー・管理職になりたい理由 中学生 (性別)



高校生 全体 / 性別

- ▶ 「高い給料をもらえそうだから」が 70.0%で最も高く、次いで「仕事にやりがいがありそうだから」が 55.0%、「自分の能力を十分に発揮したいから」と「仕事を通して社会に貢献したいから」がともに 26.3%となっています。
- ▶ 性別では、男性は「高い給料をもらえそうだから」(74.2%)が最も高く、次いで「仕事にやりがいがありそうだから」(45.4%)、「仕事を通して社会に貢献したいから」(27.8%)となっており、女性は「仕事にやりがいがありそうだから」(68.3%)が最も高く、次いで「高い給料をもらえそうだから」(63.3%)、「自分の能力を十分に発揮したいから」(30.0%)となっています。
- ▶ 「仕事にやりがいがありそうだから」では、女性が男性より22.9ポイント高くなっています。

図表 2-26 リーダー・管理職になりたい理由 高校生（性別）

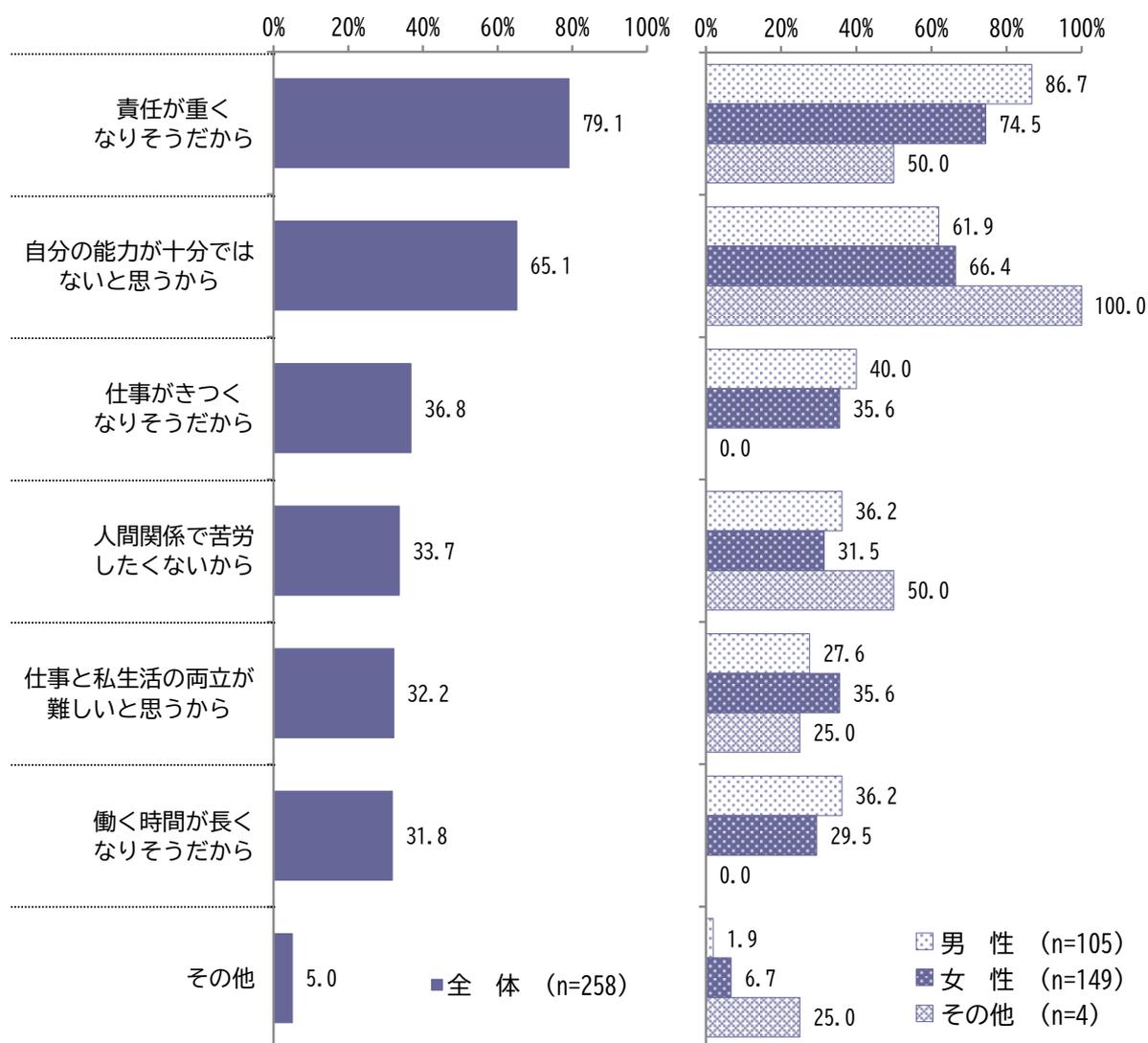


問9-2 リーダーや管理職になりたくない理由は何ですか。  
 (あてはまるものすべてに○) <問9で「3」または「4」と回答した方>

中学生 全体/性別

- 「責任が重くなりそうだから」が 79.1%で最も高く、次いで「自分の能力が十分ではないと思うから」が 65.1%、「仕事がきつくなりそうだから」が 36.8%となっています。
- 性別では、男性は「責任が重くなりそうだから」(86.7%)が最も高く、次いで「自分の能力が十分ではないと思うから」(61.9%)、「仕事がきつくなりそうだから」(40.0%)となっており、女性は「責任が重くなりそうだから」(74.5%)が最も高く、次いで「自分の能力が十分ではないと思うから」(66.4%)、「仕事がきつくなりそうだから」、「仕事と私生活の両立が難しいと思うから」(ともに 35.6%)となっています。
- 「責任が重くなりそうだから」では、男性が女性より12.2ポイント高くなっています。

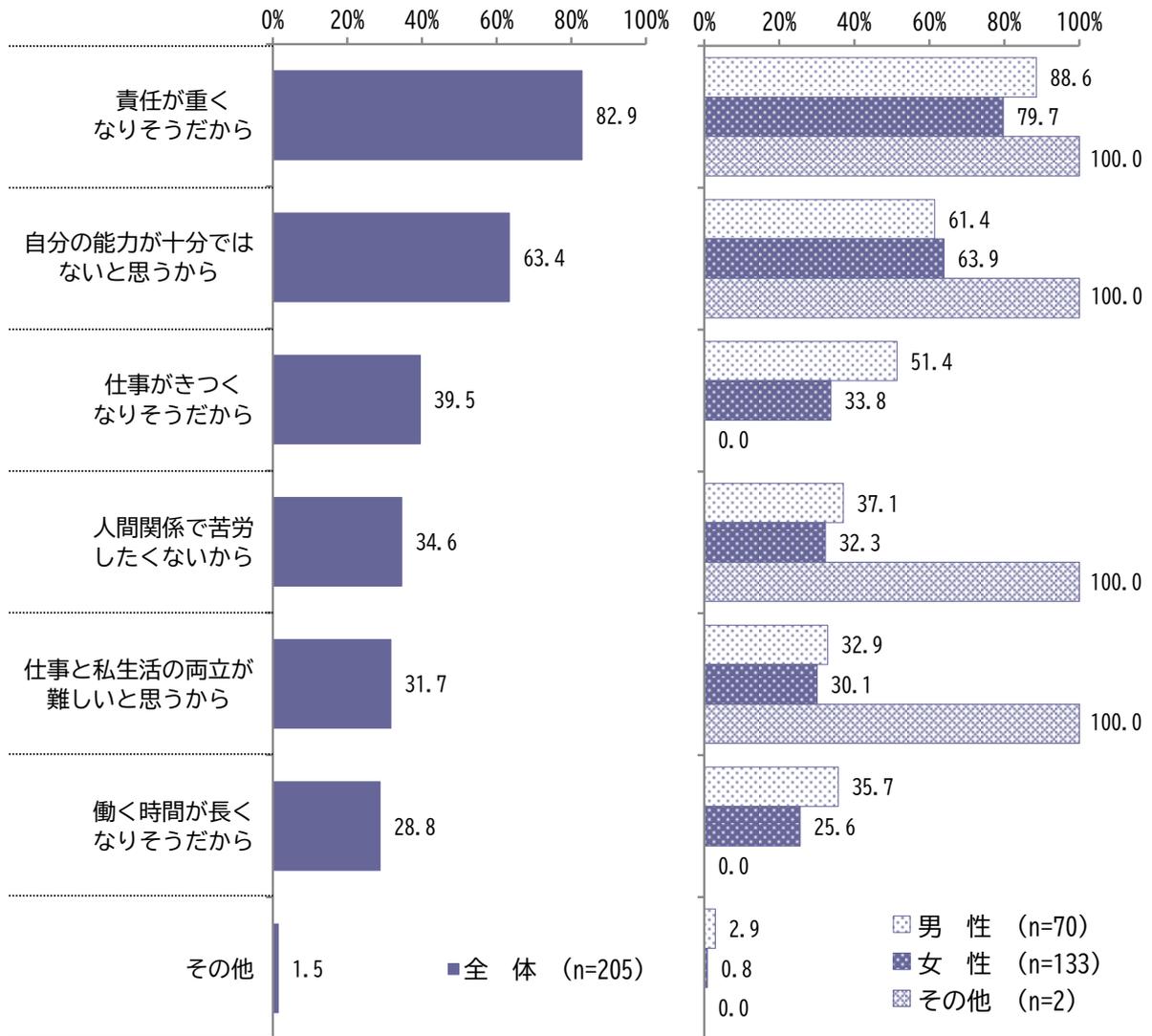
図表 2-27 リーダー・管理職になりたくない理由 中学生 (性別)



高校生 全体 / 性別

- ▶ 「責任が重くなりそうだから」が 82.9%で最も高く、次いで「自分の能力が十分ではないと思うから」が 63.4%、「仕事がつくなりそうだから」が 39.5%となっています。
- ▶ 性別では、男女ともに「責任が重くなりそうだから」(男性 88.6%、女性 79.7%)が最も高く、次いで「自分の能力が十分ではないと思うから」(男性 61.4%、女性 63.9%)、「仕事がつくなりそうだから」(男性 51.4%、女性 33.8%)となっています。
- ▶ 「仕事がつくなりそうだから」では、男性が女性より 17.6 ポイント高くなっています。

図表 2-28 リーダー・管理職になりたくない理由 高校生 (性別)



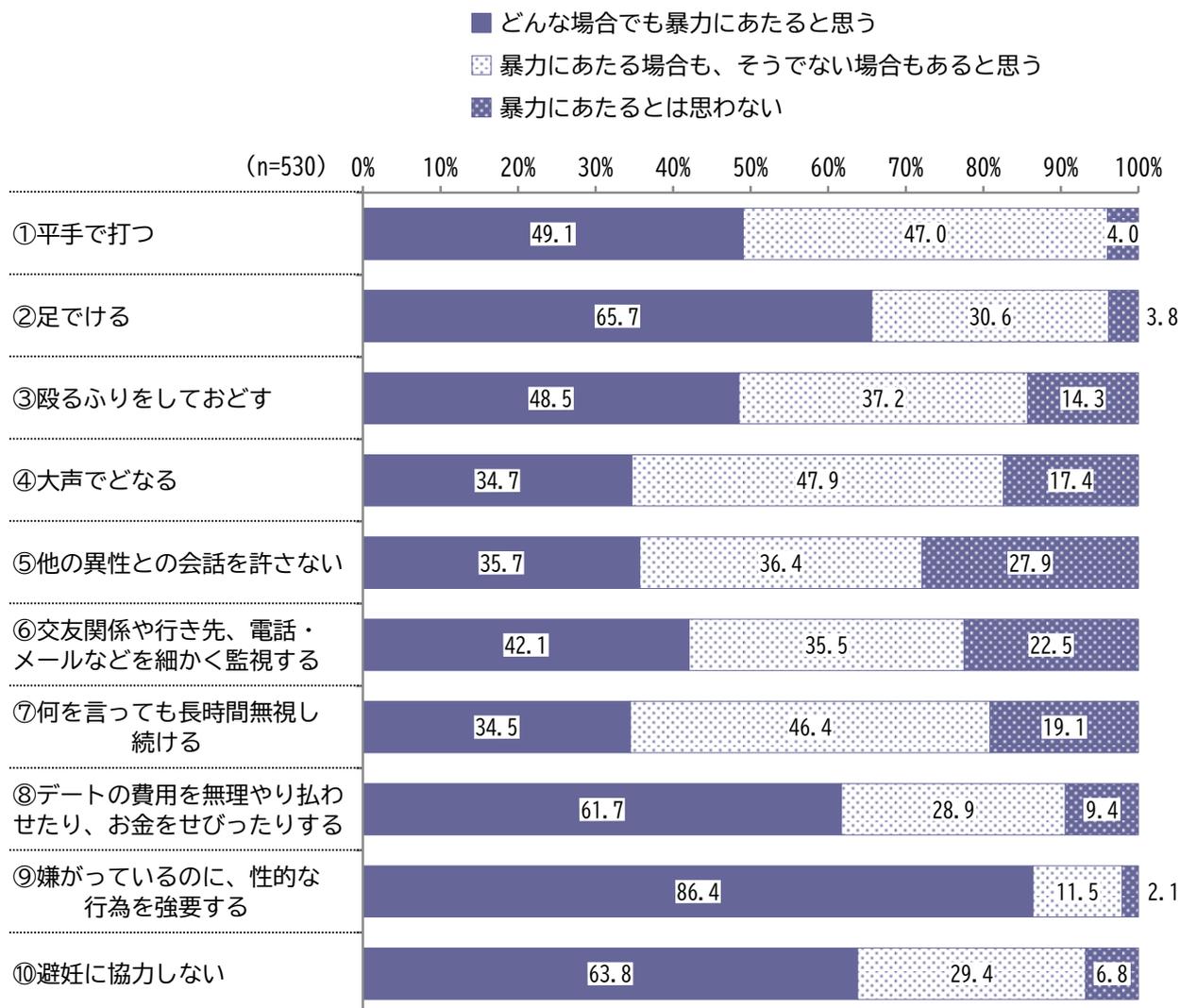
## 6 男女の人権について

問 10 あなたは、交際相手との間で、次のような行為があったとき、それを暴力だと思えますか。(①～⑩についてそれぞれ○を1つ)

### 中学生 全体

- ▶ 『②足でける』、『⑧デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびったりする』、『⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する』、『⑩避妊に協力しない』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割を超えており、『⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する』では9割近くを占めています。
- ▶ 『⑤他の異性との会話を許さない』では、「暴力にあたるとは思わない」が3割弱となっており、10項目の中で最も高くなっています。
- ▶ 『①平手で打つ』、『④大声でどなる』、『⑦何を言っても長時間無視し続ける』では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が4割台半ばとなっています。

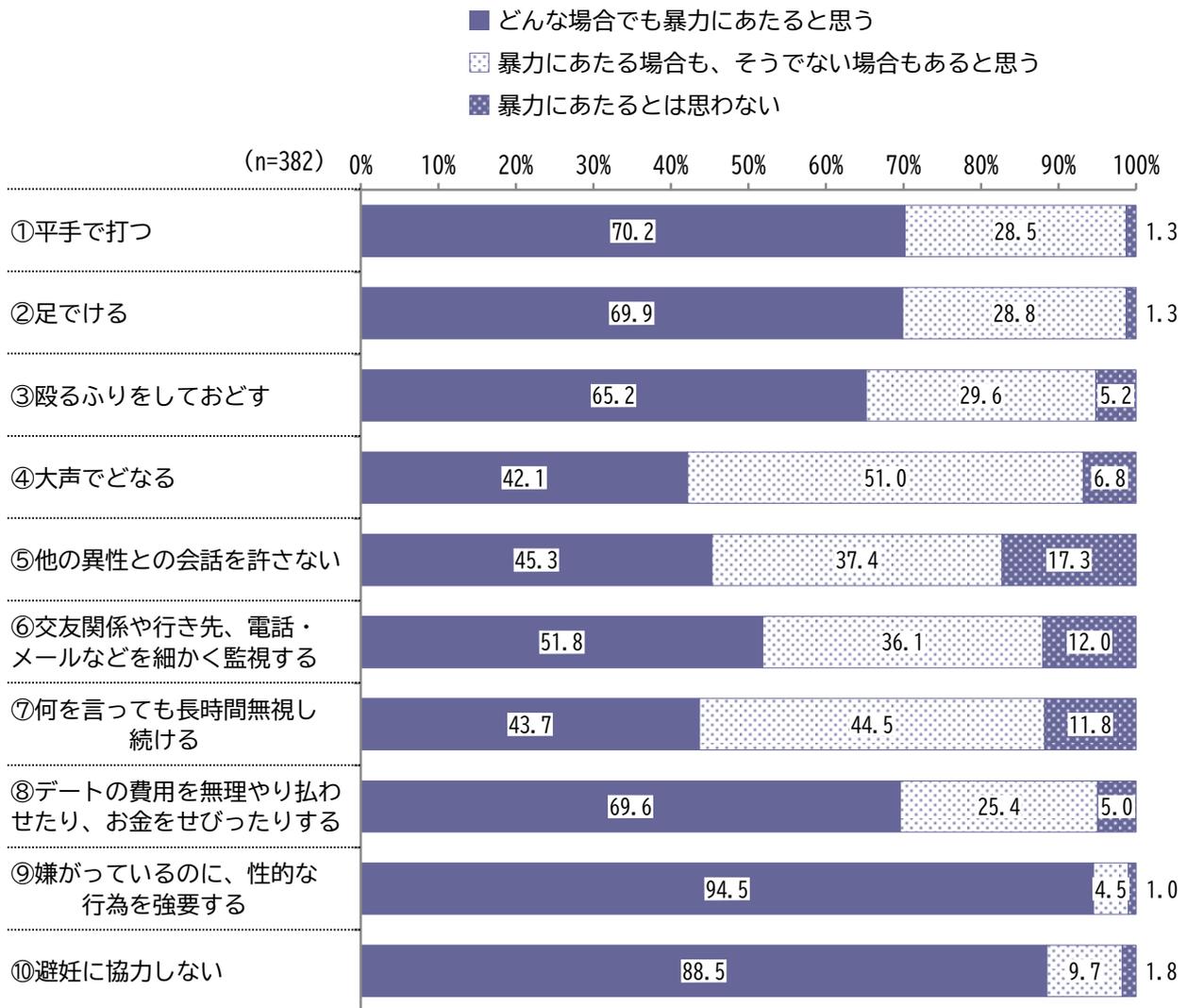
図表 2-29 暴力行為の認識 中学生



高校生 全体

- ▶ 『①平手で打つ』、『②足でける』、『③殴るふりをしておどす』、『⑧デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびったりする』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割前後となっています。
- ▶ 『⑨嫌がっているのに、性的な行為を強要する』、『⑩避妊に協力しない』では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割前後を占めています。
- ▶ 『⑤他の異性との会話を許さない』では、「暴力にあたるとは思わない」が2割弱となっており、10項目の中で最も高くなっています。
- ▶ 『④大声でどなる』、『⑦何を言っても長時間無視し続ける』では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が5割前後となっています。

図表 2-30 暴力行為の認識 高校生



① 平手で打つ

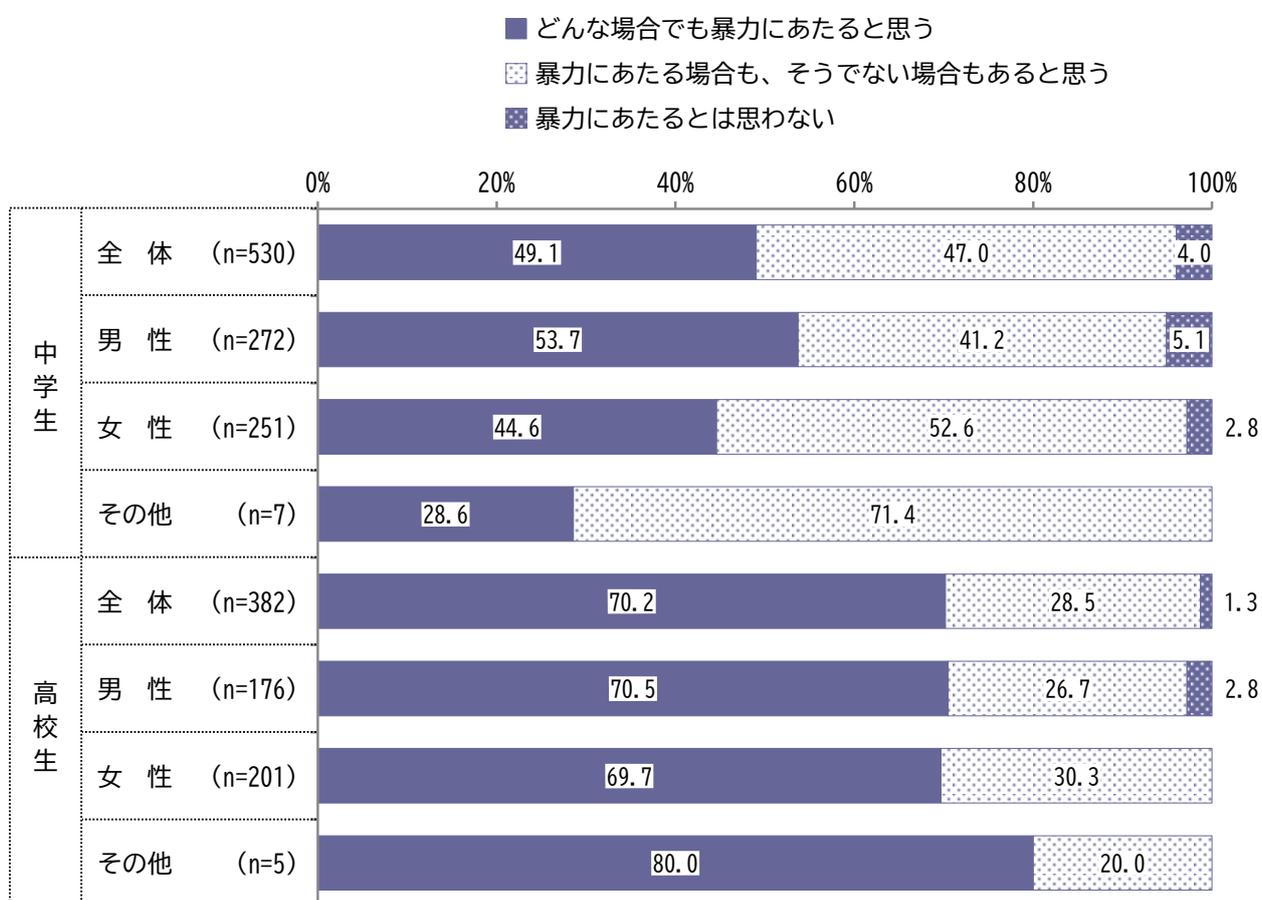
中学生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 49.1%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が47.0%、「暴力にあたるとは思わない」が4.0%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(53.7%)が女性より9.1ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 70.2%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が28.5%、「暴力にあたるとは思わない」が1.3%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-31 ① 平手で打つ（性別）



② 足でける

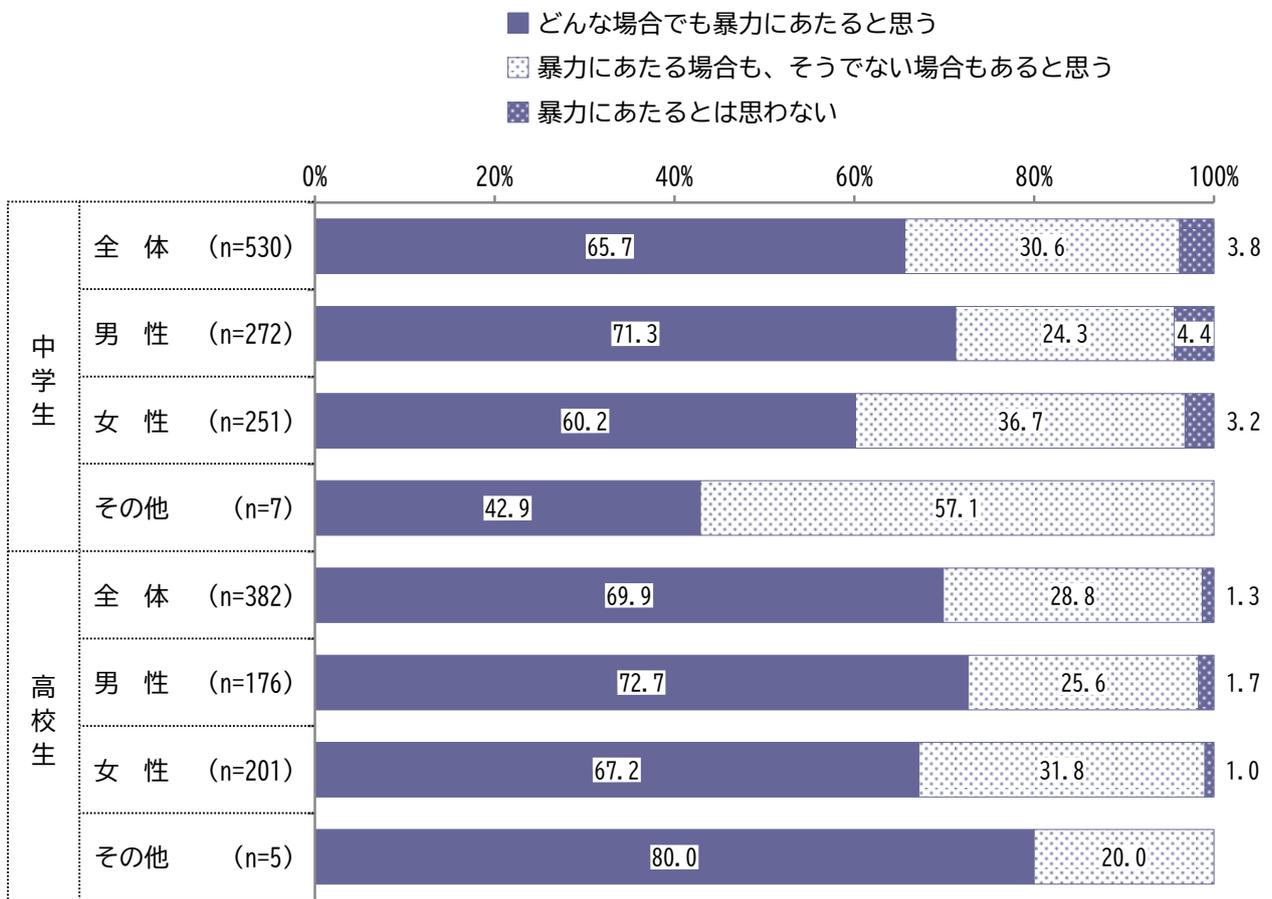
中学生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 65.7%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 30.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 3.8%となっています。
- ▶ 性別では、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、男性で 71.3%と、女性より 11.1 ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 69.9%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 28.8%、「暴力にあたるとは思わない」が 1.3%となっています。
- ▶ 性別では、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、男性で 72.7%と、女性より 5.5 ポイント高くなっています。

図表 2-32 ② 足でける（性別）



③ 殴るふりをしておどす

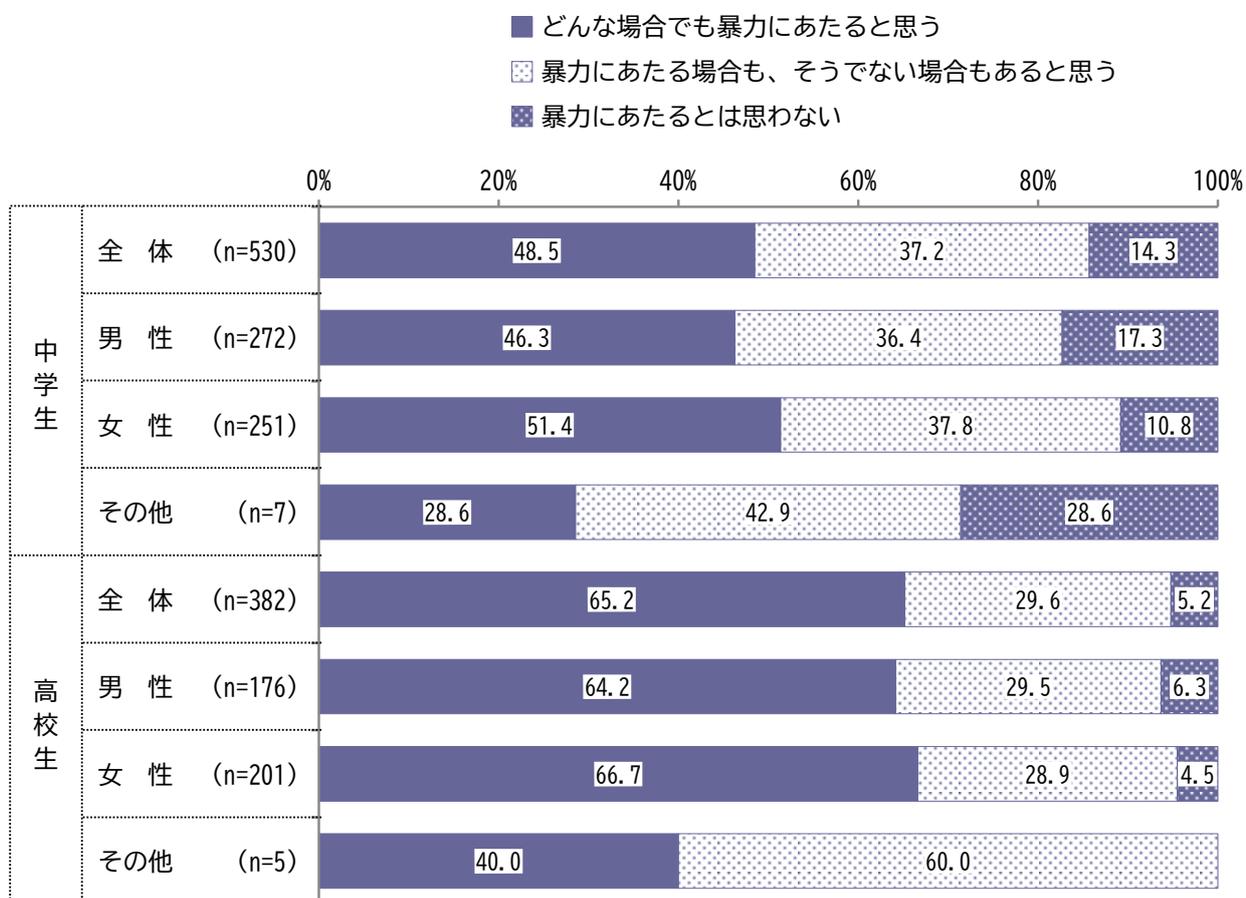
中学生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 48.5%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 37.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 14.3%となっています。
- ▶ 性別では、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高く、女性で 51.4%と、男性より5.1ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 65.2%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 29.6%、「暴力にあたるとは思わない」が 5.2%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-33 ③ 殴るふりをしておどす（性別）



④ 大声でどなる

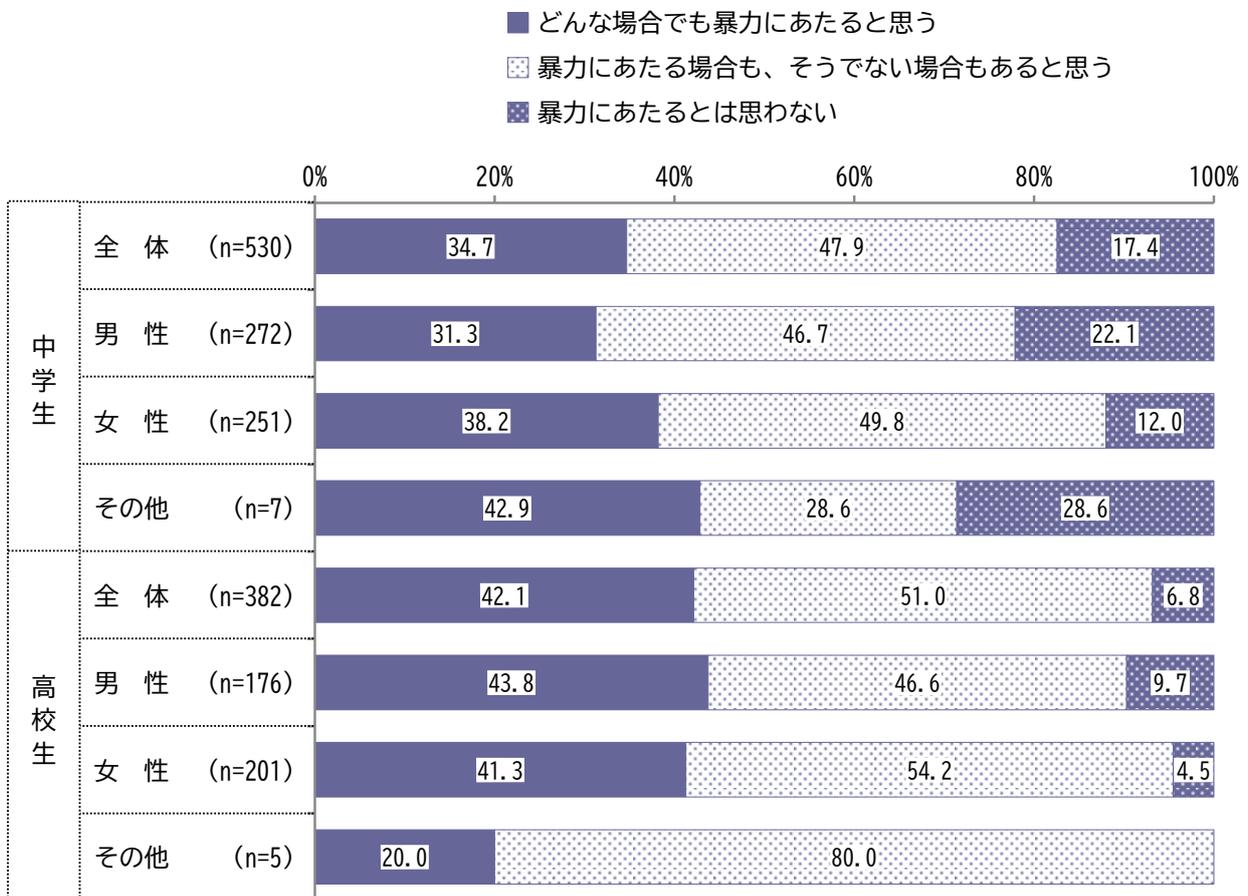
中学生 全体／性別

- ▶ 「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 47.9%で最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 34.7%、「暴力にあたるとは思わない」が 17.4%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、「暴力にあたるとは思わない」(22.1%)が女性より 10.1 ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 51.0%で最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 42.1%、「暴力にあたるとは思わない」が 6.8%となっています。
- ▶ 性別では、男女ともに「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が最も高く、女性で 54.2%と、男性より7.6ポイント高くなっています。

図表 2-34 ④ 大声でどなる（性別）



⑤ 他の異性との会話を許さない

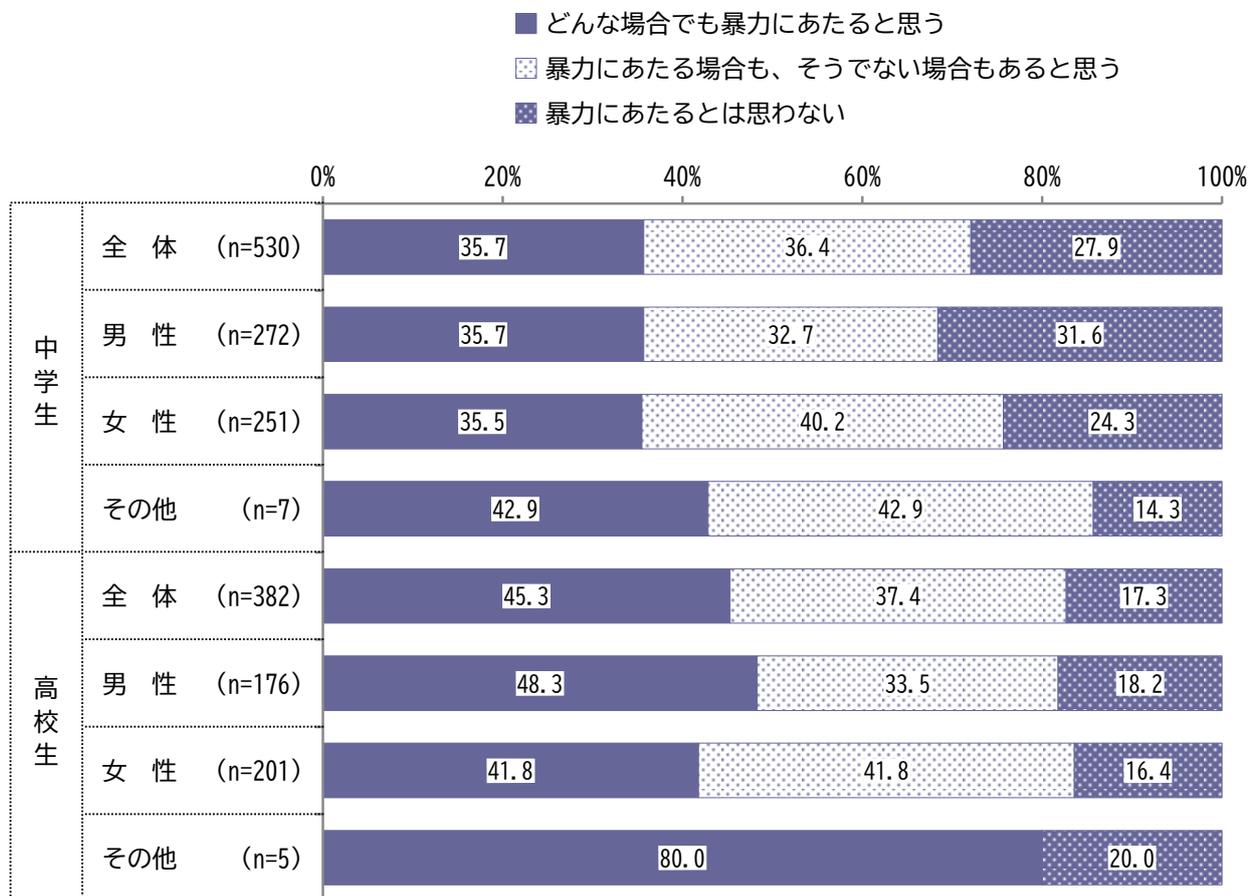
中学生 全体／性別

- ▶ 「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 36.4%で最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 35.7%、「暴力にあたるとは思わない」が 27.9%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、「暴力にあたるとは思わない」(31.6%)が女性より 7.3 ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 45.3%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 37.4%、「暴力にあたるとは思わない」が 17.3%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(41.8%)が男性より 8.3 ポイント高くなっています。

図表 2-35 ⑤ 他の異性との会話を許さない（性別）



⑥ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

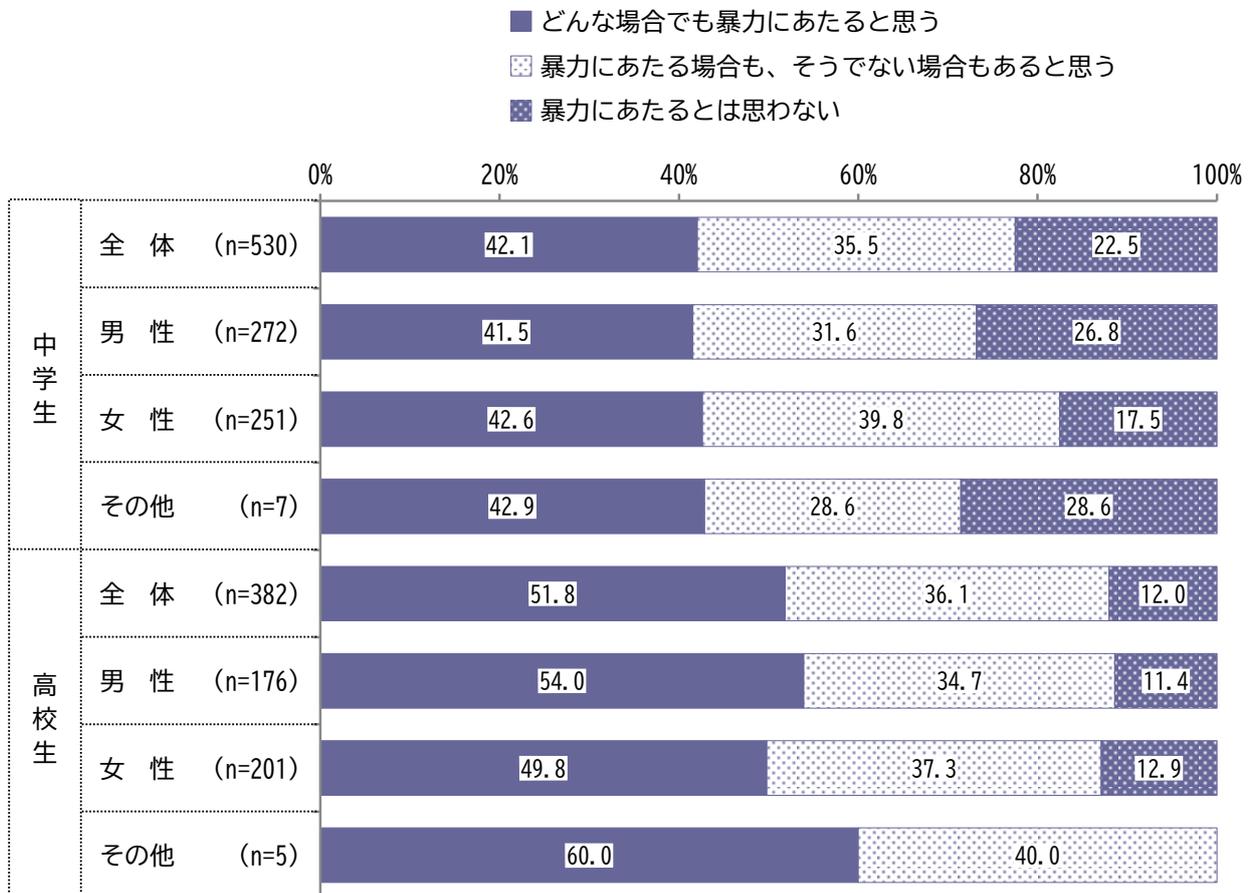
中学生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 42.1%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 35.5%、「暴力にあたるとは思わない」が 22.5%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(39.8%)が男性より 8.2 ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 51.8%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 36.1%、「暴力にあたるとは思わない」が 12.0%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-36 ⑥ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する（性別）



⑦ 何を言っても長時間無視し続ける

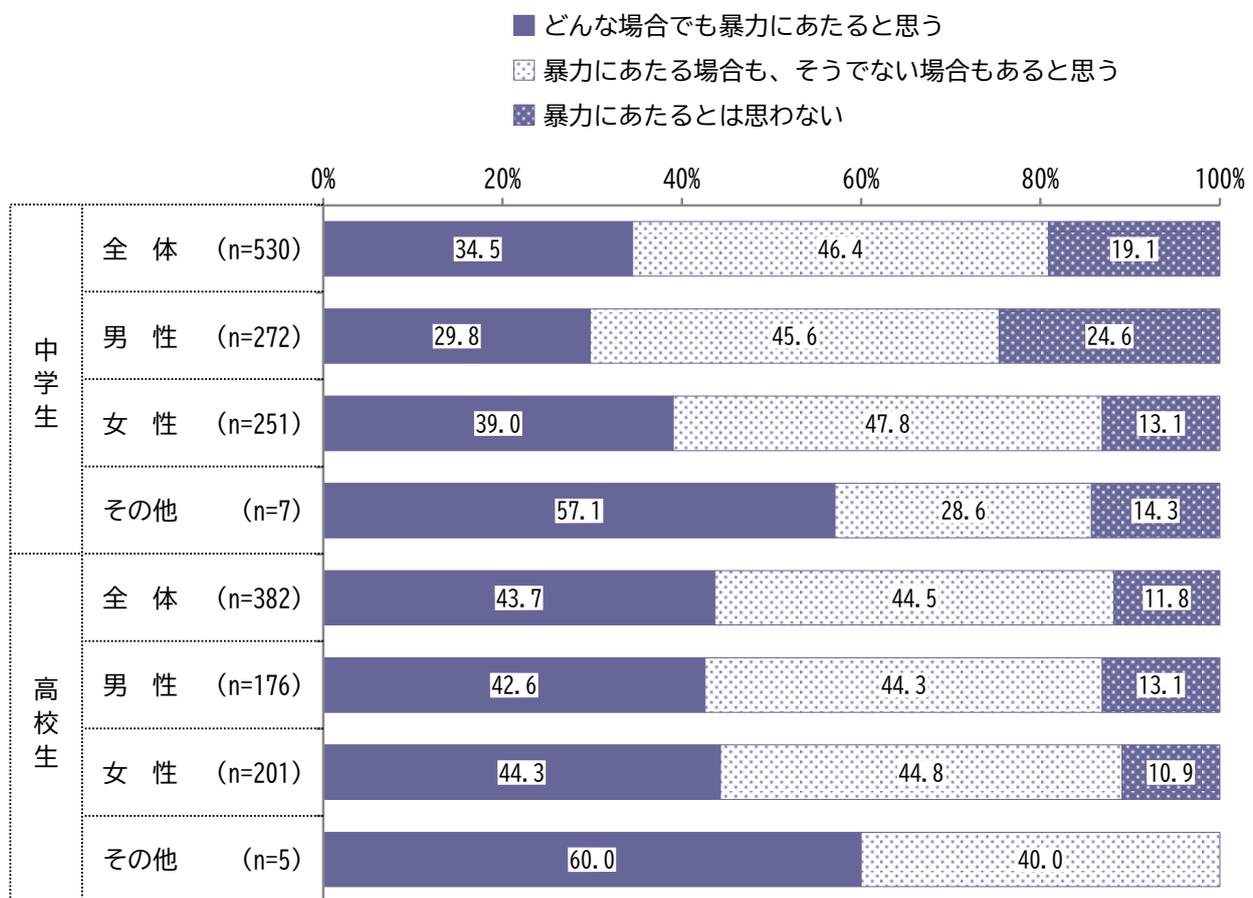
中学生 全体／性別

- ▶ 「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 46.4%で最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 34.5%、「暴力にあたるとは思わない」が 19.1%となっています。
- ▶ 性別では、男性で、「暴力にあたるとは思わない」(24.6%)が女性より 11.5 ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 44.5%で最も高く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 43.7%、「暴力にあたるとは思わない」が 11.8%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-37 ⑦ 何を言っても長時間無視し続ける（性別）



⑧ デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびったりする

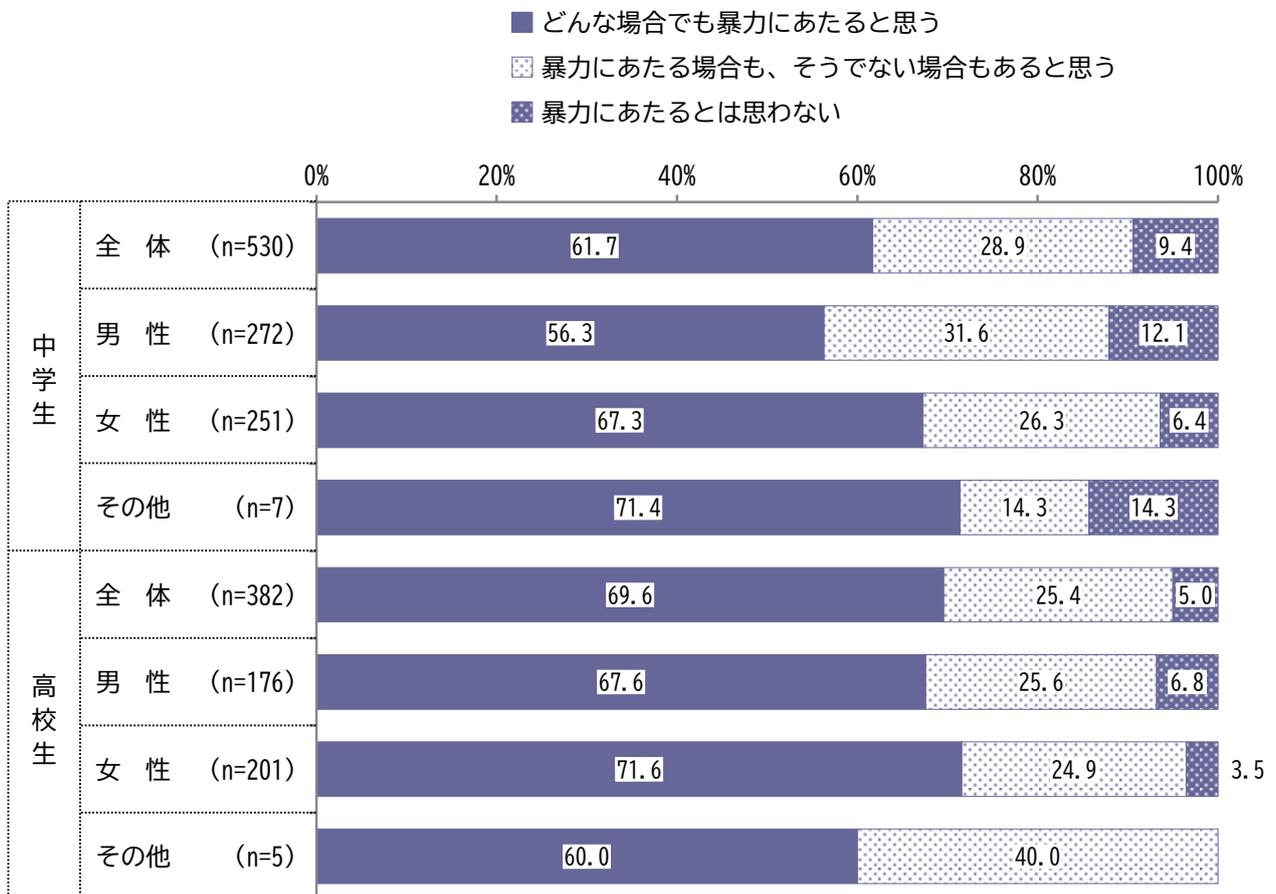
中学生 全体 / 性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 61.7%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 28.9%、「暴力にあたるとは思わない」が 9.4%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(67.3%)が男性より 11.0 ポイント高くなっています。

高校生 全体 / 性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 69.6%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 25.4%、「暴力にあたるとは思わない」が 5.0%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-38 ⑧ デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびったりする (性別)



⑨ 嫌がっているのに、性的な行為を強要する

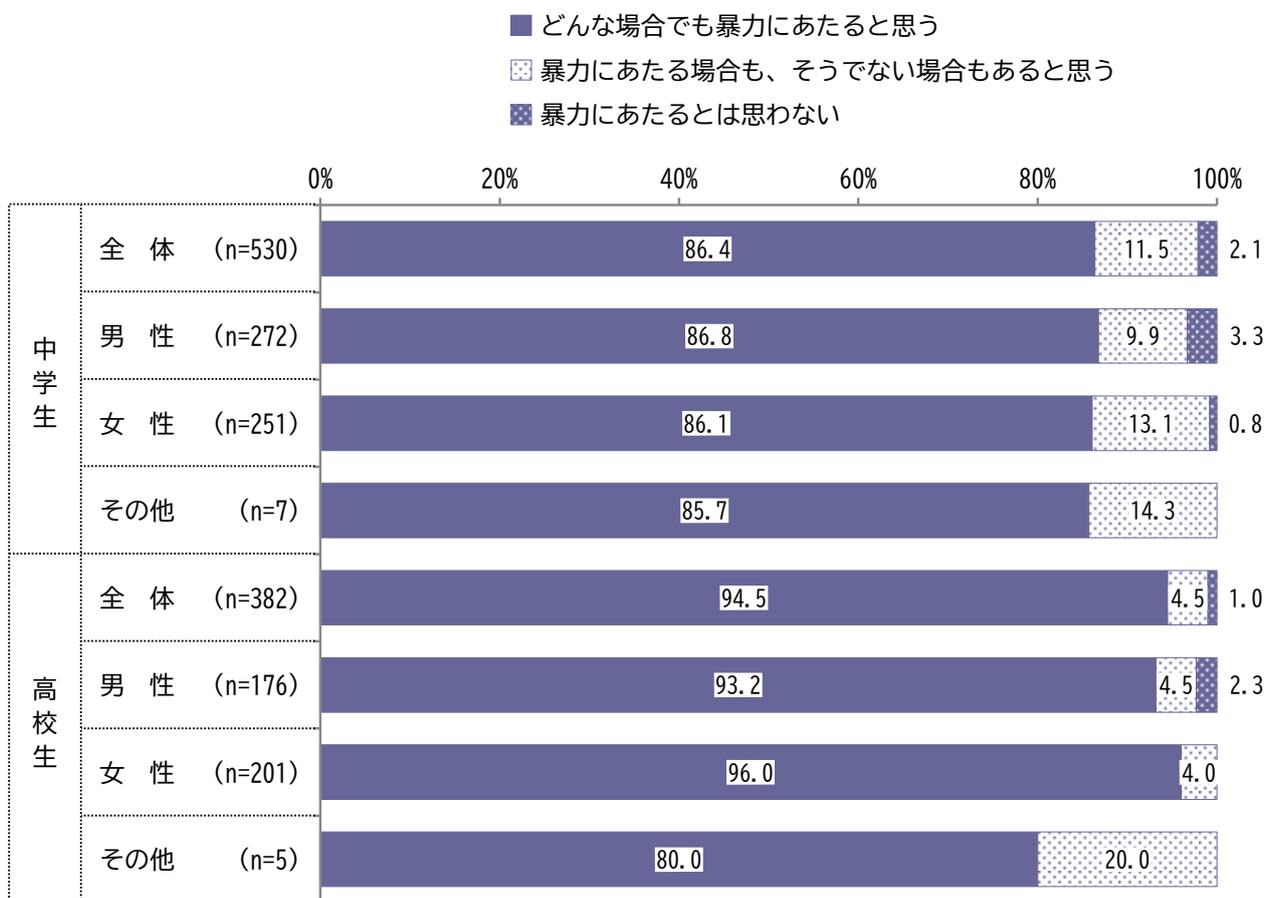
中学生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 86.4%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 11.5%、「暴力にあたるとは思わない」が 2.1%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 94.5%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 4.5%、「暴力にあたるとは思わない」が 1.0%となっています。
- ▶ 性別では、特に大きな差はみられません。

図表 2-39 ⑨ 嫌がっているのに、性的な行為を強要する（性別）



⑩ 避妊に協力しない

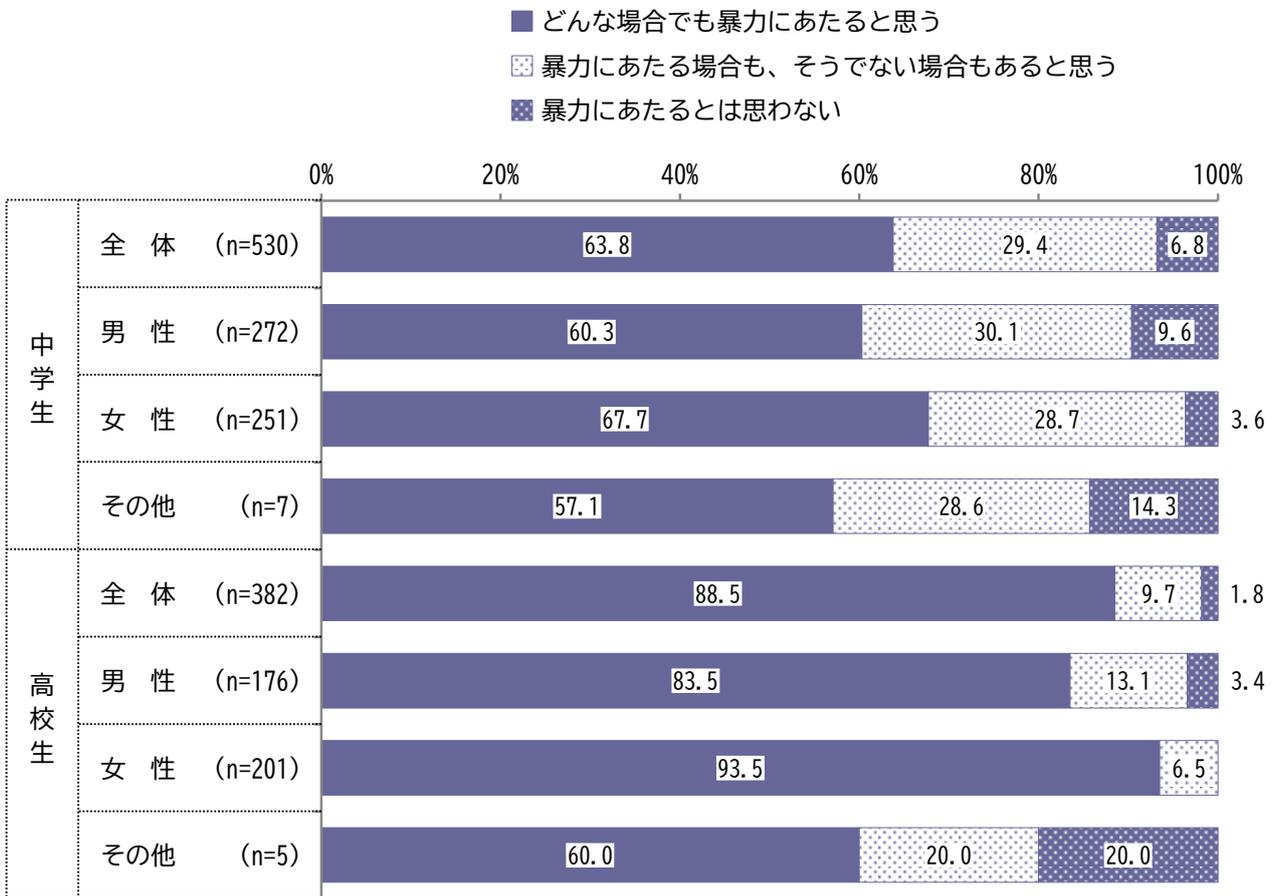
中学生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 63.8%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 29.4%、「暴力にあたるとは思わない」が 6.8%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(67.7%)が男性より 7.4 ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「どんな場合でも暴力にあたると思う」が 88.5%で最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が 9.7%、「暴力にあたるとは思わない」が 1.8%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(93.5%)が男性より 10.0 ポイント高くなっています。

図表 2-40 ⑩ 避妊に協力しない（性別）

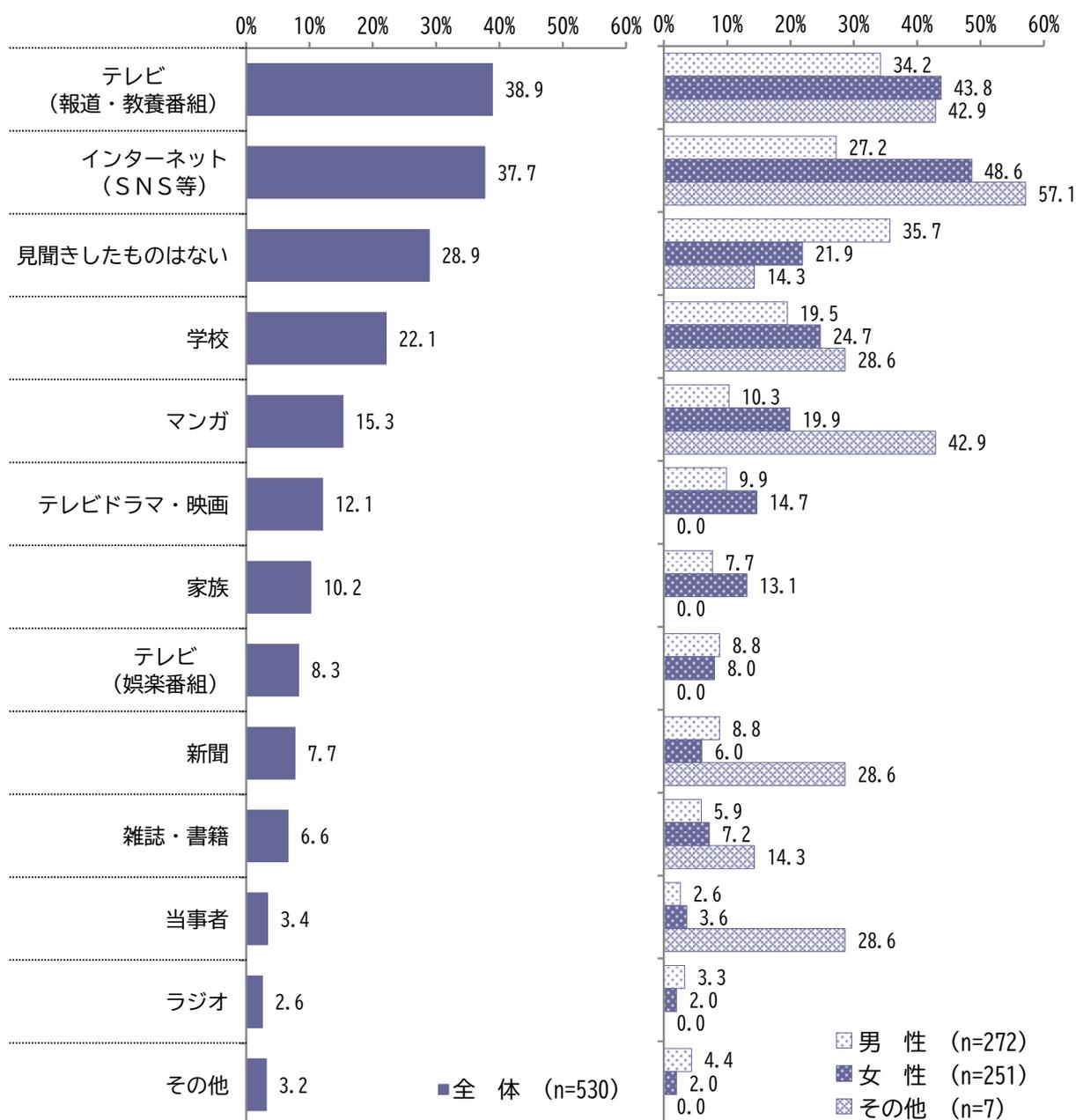


問 11 あなたが最近、性的少数者（LGBTQ）に関して情報を見聞きしたのはどこですか。（あてはまるものすべてに○）

中学生 全体／性別

- ▶ 「テレビ(報道・教養番組)」が 38.9%で最も高く、次いで「インターネット(SNS等)」が 37.7%、「見聞きしたものはなし」が 28.9%となっています。
- ▶ 性別では、男性は「見聞きしたものはなし」(35.7%)が最も高く、次いで「テレビ(報道・教養番組)」(34.2%)、「インターネット(SNS等)」(27.2%)となっており、女性は「インターネット(SNS等)」(48.6%)が最も高く、次いで「テレビ(報道・教養番組)」(43.8%)、「学校」(24.7%)となっています。
- ▶ 「インターネット(SNS等)」では、女性が男性より 21.4 ポイント高くなっている一方、「見聞きしたものはなし」では、男性が女性より 13.8 ポイント高くなっています。

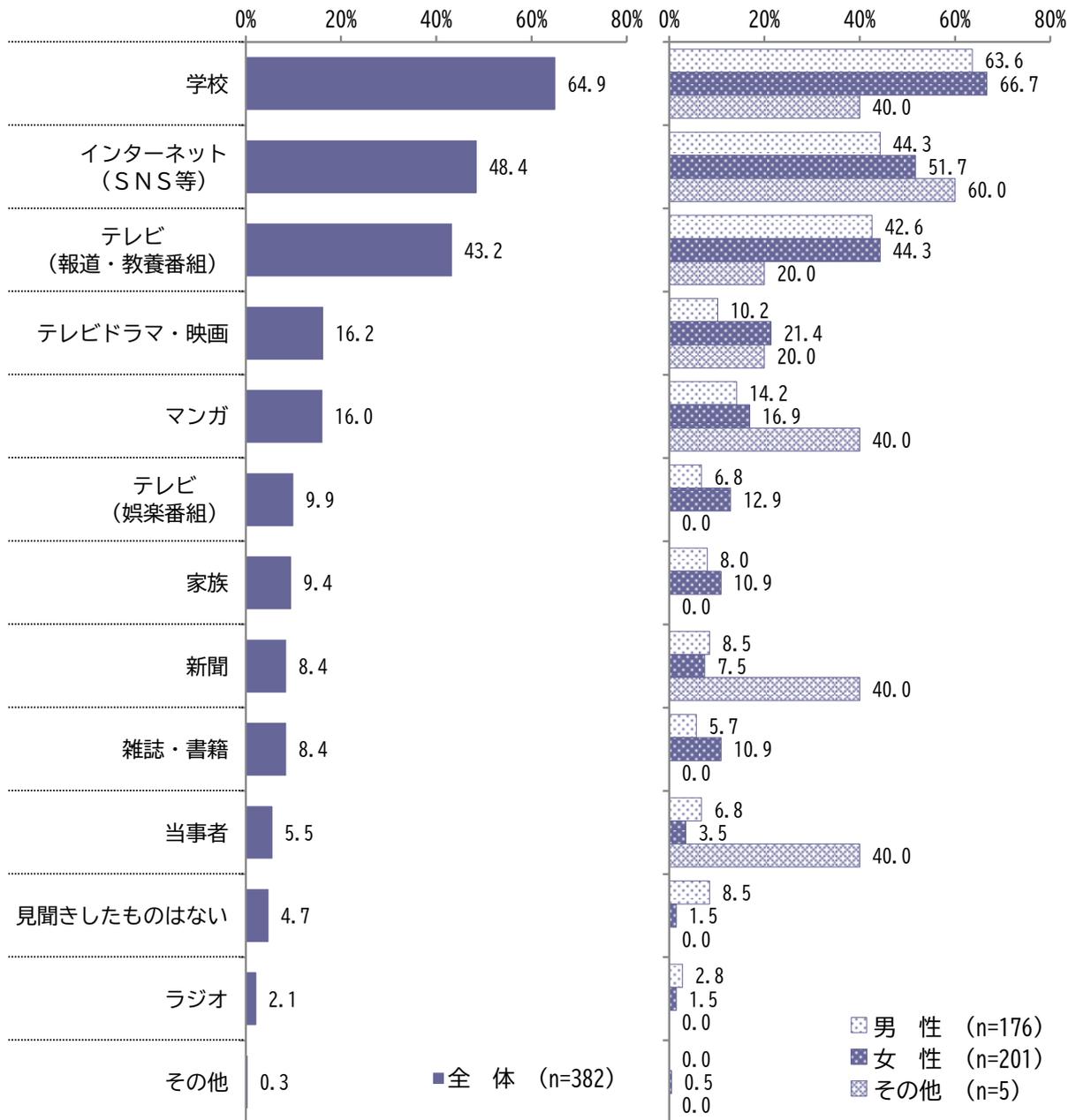
図表 2-41 性的少数者（LGBTQ）に関する情報源 中学生（性別）



高校生 全体 / 性別

- ▶ 「学校」が 64.9%で最も高く、次いで「インターネット(SNS等)」が 48.4%、「テレビ(報道・教養番組)」が 43.2%となっています。
- ▶ 性別では、男性は「学校」(63.6%)が最も高く、次いで「インターネット(SNS等)」(44.3%)、「テレビ(報道・教養番組)」(42.6%)となっており、女性は「学校」(66.7%)が最も高く、次いで「インターネット(SNS等)」(51.7%)、「テレビ(報道・教養番組)」(44.3%)となっています。
- ▶ 「テレビドラマ・映画」では、女性が男性より 11.2 ポイント高くなっています。

図表 2-42 性的少数者 (LGBTQ) に関する情報源 高校生 (性別)



問 12 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（LGBTQ）であることを打ち明けられたらどう思いますか。（〇は1つ）

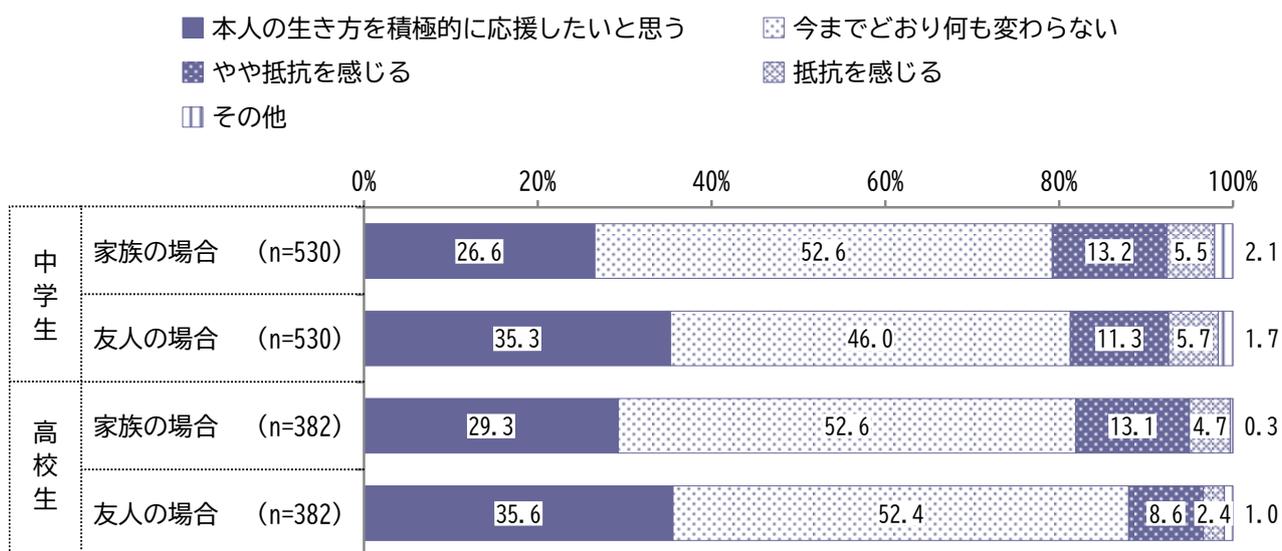
### 中学生 全体

- 『家族の場合』、『友人の場合』ともに、「今までどおり何も変わらない」が5割前後で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が3割前後となっています。
- 「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」は、『友人の場合』が『家族の場合』より 8.7 ポイント高くなっています。

### 高校生 全体

- 『家族の場合』、『友人の場合』ともに、「今までどおり何も変わらない」が5割強で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が3割前後となっています。
- 「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」は、『友人の場合』が『家族の場合』より 6.3 ポイント高くなっています。

図表 2-43 身近な人からカミングアウトされた際の気持ち



家族の場合

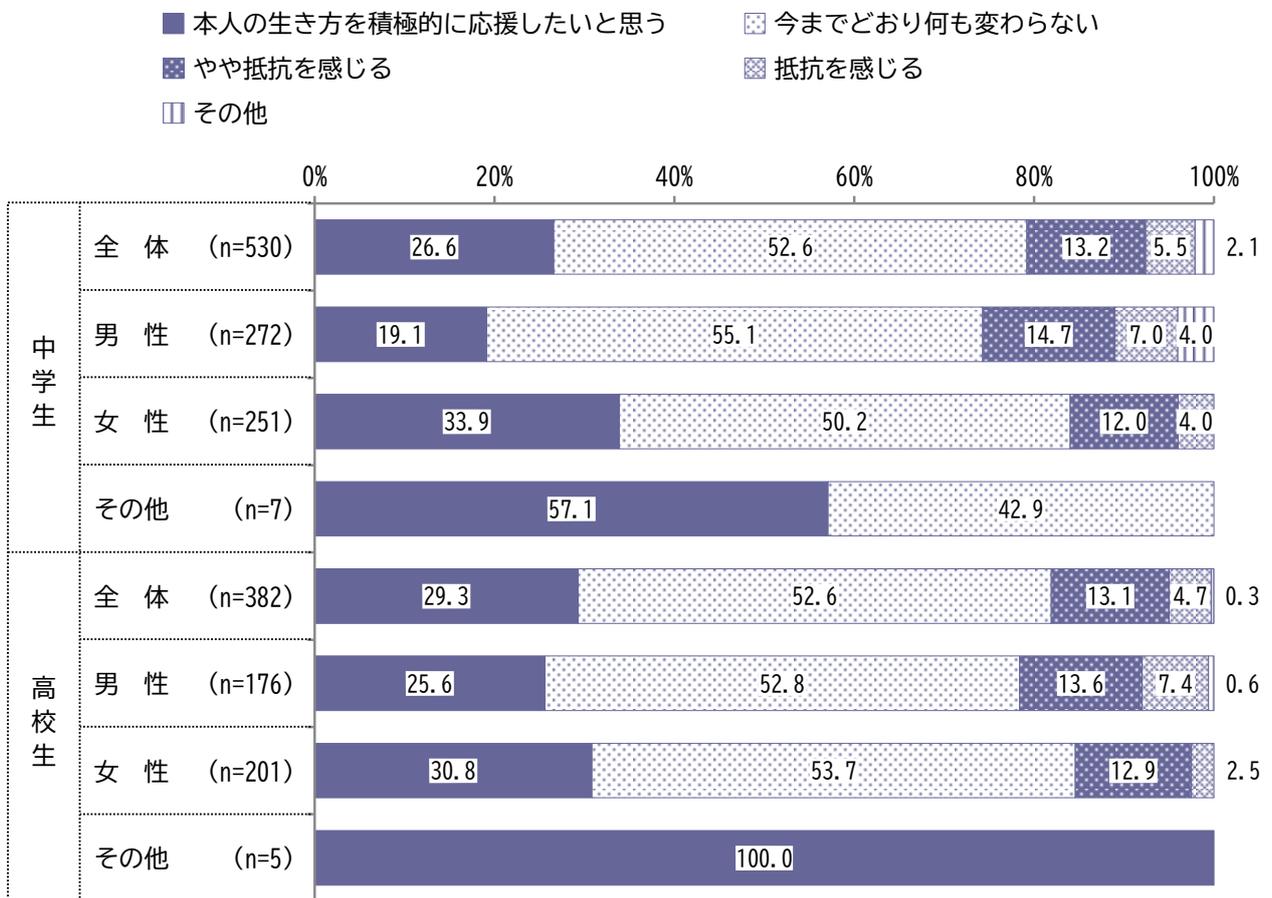
中学生 全体／性別

- ▶ 「今までどおり何も変わらない」が 52.6%で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が 26.6%、「やや抵抗を感じる」が 13.2%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」(33.9%)が男性より 14.8 ポイント高くなっています。

高校生 全体／性別

- ▶ 「今までどおり何も変わらない」が 52.6%で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が 29.3%、「やや抵抗を感じる」が 13.1%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」(30.8%)が男性より 5.2 ポイント高くなっています。

図表 2-44 家族の場合（性別）



友人の場合

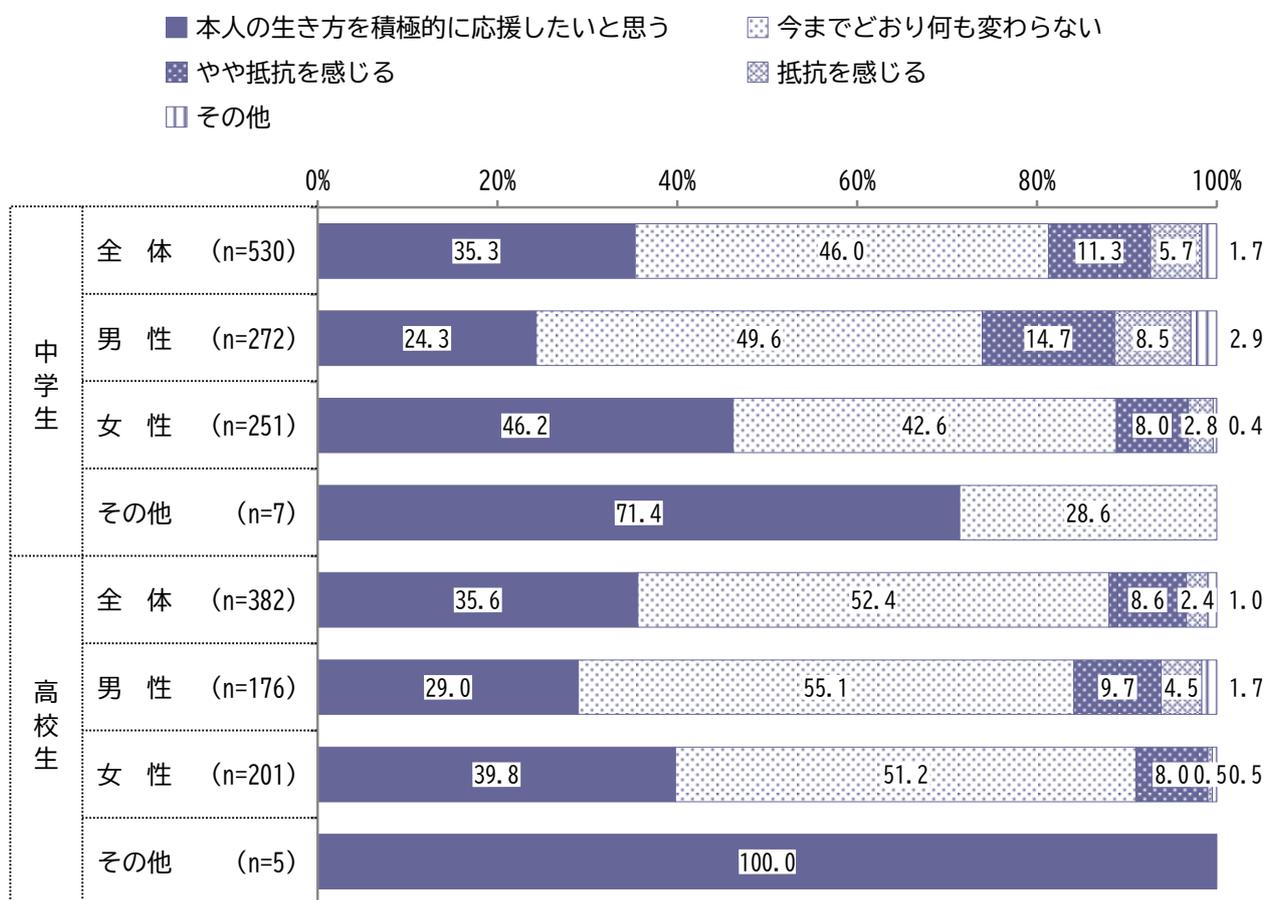
中学生 全体 / 性別

- ▶ 「今までどおり何も変わらない」が 46.0%で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が 35.3%、「やや抵抗を感じる」が 11.3%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」(46.2%)が男性より 21.9 ポイント高くなっています。

高校生 全体 / 性別

- ▶ 「今までどおり何も変わらない」が 52.4%で最も高く、次いで「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」が 35.6%、「やや抵抗を感じる」が 8.6%となっています。
- ▶ 性別では、女性で、「本人の生き方を積極的に応援したいと思う」(39.8%)が男性より 10.2 ポイント高くなっています。

図表 2-45 友人の場合 (性別)



問 13 男女共同参画に関連して、あなたの身近なこと、将来のことなど自由に書いてください。

## 中学生

意識・心がけについて		44 件
女性	男女平等であるべきだと思います。	
女性	男女ともに平等であるべきだと思います。	
女性	男女平等の世界にしていくことが大切だと思う。	
女性	男女平等にする。	
女性	何でも平等にする。	
女性	男女ともに差別のない生活、行動をしていきたいと思いました。	
女性	お互いを認め合いたいと思います。	
女性	性別の差別は身の回りにあまりないので、無意識に差別しないよう、気を付けて生活したい。	
女性	男女の格差をなくしたい。	
女性	将来は、結婚した相手と同じような立場にいたい（平等）。	
女性	私は自分がやりたい仕事を自由にできたり、女性も自由に生きられる社会が素晴らしいと思う。	
女性	みんなが個性を發揮できるのは良いことだと思うし、なってほしいと思う。	
女性	将来は、誰にでも平等に笑顔で接することのできるカッコいい人になりたいです。	
女性	人に頼られながらも、頼り合い助け合える人になりたい。この人になら任せられる。そう思われていることにチャレンジしたい。信用されて、なんでも話せる存在になりたい。	
女性	今は男尊女卑と言われていることが目立っているが、行き過ぎた男尊女卑改革の先にある女尊男卑には気をつけたいと思う。	
女性	あまり良くはわかりませんが、人それぞれで、その人らしくあれたいと思う。	
女性	私は、今世界がどうなっているかわからないですけど、女性が働きやすくなったり、性的少数者が生きやすくなるのは、とてもいいことだと思います。	
女性	日本の生活習慣や常識を見直し、誰もが生きやすい日本になるといいなと思う。このようなアンケートでいろんな人の、または世界の人の意見を聞けたらいいなと思う。	
女性	男女共同参画という意味がまいちわからないのではっきりとは言えませんが、男女平等については日本は遅れ気味だと思うので、自分だけでも意識して生活していけたらなと思います。	
女性	誰が何であろうと、何かを変える必要はないと思う。（接し方とか相手の見方とか…）	
女性	自分らしく生きていけばいいと思う。	
女性	みんな行きたいように行きたい。	
女性	いろいろと気をつけたいと思います。	
女性	頑張る。	
男性	男女の差別がないような仕事、社会にできるように、社会の風を変える必要があると考えています。今のままでは、必ず、差が生まれるということがあります。なので、社会全体を変えていくことが大切だと思います。	
男性	お互いの意見を尊重し、自己中心的な行動をしないようにしたい。	
男性	男女共同参画は大事だと思う。	
男性	男女共同参画のことは、今以上に進めるべきだと思う。	

III. 調査結果／6 男女の人権について

男性	男女共同参画というものがどのようなことなのかあまりよくわからなかったですが、平等になるなら良いと思います。
男性	どんなことでも平等は大事だと思う。
男性	男女どちらも平等に接したい。
男性	男女平等になることはいいことだと思う。
男性	平等な社会がやっぱりいいと思う。
男性	平等な世界を作りたい。
男性	差別、暴力絶対に駄目！
男性	他人のことを敬ったり、平等にすればもっとより良いと思う。
男性	男女ともに人種差別をしてほしくない。
男性	女だからとか、男だからとかは一切必要ないと思う。やっぱり、自分がやりたいことをやり、人生を後悔したくない。
男性	身近で男女で違うことがあったりすることはしょうがないと思うけど、男女で差別をしてしまうことがあったから、そのへんは社会全体で変えていかなければ行けないと思った。
男性	世の中には色んな人がいる中で、差別などをつけずに、明るく応援などの相手が嫌な気持ちにならないように応援する必要があると感じた。
男性	自分は普通の生活をしていきたいと思う。なるべく人を疑わずに、変なことをしていたら疑ったり、仕事も手伝いも空いていたらするみたいな感じ。
男性	異性については特に気にしないと思う。
男性	頑張る。
その他	相手にあったことを積極的に応援はしたいが、自分の精神（思い）も積極的に取り組みたい。

将来の夢について		36件
女性	将来的には人に役立つ仕事をしたいので、勉強やきちんとした高校などに入れるように頑張りたいと思います。	
女性	将来は国際に関係するような仕事に就きたいと思います。たくさんの人に関わって仕事をしたいと思います。	
女性	高校、大学の時に海外留学をしたいと思っている。将来は、できれば海外で働きたいと思っている。	
女性	将来は医療関係の仕事に就き、この社会を支えていきたいと思っています。	
女性	私は体育教師になりたいです！	
女性	将来は保育士になりたい。	
女性	将来は美容師になりたい。	
女性	私はLGBTQにすごく関心があり調べていたりするので、将来にも活かしていけたらいいなと思います。	
女性	働きたい。	
女性	たくさん働く。	
女性	自分でお金を稼げるようになりたい。	
女性	お金持ちになりたい。子どもの好きなことをやらせてあげたい。多くの試合で良い成績を残す。	
女性	将来結婚。	
女性	家事や育児、仕事など。	

女性	異性と付き合う。
女性	将来は自由に過ごして楽に生きたい。
女性	将来の夢は決まっています。
男性	幅広い人間関係を築けるようなおとなになりたい。
男性	科学者になったら、薬を作ってみんなを健康にしたい。
男性	僕は、将来は司書か会社員になりたいです。
男性	将来は野球選手になりたいです。
男性	将来はパン屋になりたい。
男性	本職は足場で、アルバイトは塗装屋、内装解体や、解体屋で働きたいと思います。働いて家に帰ってきたら家事、育児をしっかりとする。
男性	身近：今いる友だちと、変わらない学校生活が続けられるようにしていきたい。 将来：夢（イラストレーター）をずっと追いかけて、でも周りにも気を使ってその夢を叶えたい。
男性	将来、できるだけ早く職につきたい。
男性	サッカー選手になりたい。
男性	仕事に就きたい。
男性	プレゼン発表など。
男性	お金持ちになって困っている人をたすけ、親孝行をしたい。
男性	将来、仕事を転職して、高い給料を貰って大金持ちになりたい。
男性	お金持ちになって頑張る。
男性	東京のタワマンに住んで、億万長者になる。
男性	金を稼いでソフトテニスをやる。
男性	おかねもちになりたい。
男性	結婚したい。
男性	何も気にせず、まったり将来を生きたい。

希望について		33 件
女性	男女平等になるといいと思う。	
女性	男女平等が当たり前になってほしいです。	
女性	平等にしたい。	
女性	将来、男女平等な世界になってほしい。	
女性	男女の格差がなくなれば良いと思う。	
女性	男女ともに好きなことをできるといいと思う。	
女性	楽しく生きていきたいです。	
女性	静かに暮らす。	
女性	たくさんの方が人権を尊重される将来。結婚しても、女性が仕事を続けられる未来。女性のお医者さんが増える将来。	
女性	仕事や学校で声の大きい人達の意見だけでなく、声の小さい人の意見にも耳を傾けて受け入れてほしいと思います。	
女性	自分は将来、男性も女性も明るく過ごせればいいと思う。平和に暮らしたい。	
女性	男女関係なく、自分が好きなことを好きと言える将来になればいいと思う。	

III. 調査結果／6 男女の人権について

女性	今はまだ男女平等ではないと思うので、将来、今よりも男女平等が進んでいるといいなと思う。
女性	自分が将来フツの会社員になったとしたら、その時には男女平等で仕事や生活ができるようになっていたらいいと思う。
女性	みんな自由に楽しく過ごしたい。
男性	全員が全員を尊重できるような社会にしてほしい。
男性	将来は、男女平等に接することができるような世界になってほしいです。
男性	将来、男女平等に生活する。
男性	男女平等になればいいと思う。
男性	平等になったら嬉しい。
男性	男女平等になっていくといい。
男性	将来の職場や世間では男女共同参画が広まって、どんな性別でもすごしやすいようになればいいなと思いました。
男性	まだ、男尊女卑というのは少しだけ残っていると思うから、自分がおとなになる頃は男女共同参画が達成されていてほしい。
男性	将来が安定すればいいと思います。
男性	男だから…女だから…という垣根はなくなってほしい。だからといって、それをしないことを強要はしたくない。
男性	男女関係なく運動できる社会。
男性	幸せに暮らしたい。
男性	幸せだったらいい。
男性	みんな自由に楽しく暮らせればいい。
男性	平和がいい。
男性	好きに生きたい（法律上で）。
男性	マンガもっと見たい。
その他	正直、人には言えないけれど、自分の性別がずっとわからない。女らしくしなさいと言われるのも嫌だし、男みたいだねって言われるのも不快。女だとか男だとかただの箱でしかないんだから、誰にも生き方を強要されない、気を使われない世の中になってほしい。

学校・進学について		16 件
女性	学級委員が女子と男子で1人ずつじゃなくても、男子と男子とか女子と女子でも良いと思う。	
女性	女子だから男子だから関係ないと自分ではわかっているけど、いざってときに男子と授業でグループになったりすると、距離を感じてしまう。	
女性	プールが一緒なのが本当に嫌だ。場合に応じてほしい。	
女性	高校に進学します。	
女性	SNSの記事で、女子は理系に進む人が少ないという記事を見ました。自分自身、理系に進みたいと思っていますが、やはり男女は別というイメージがついているからこそ将来の選択に不安があります。また、仕事を優先すると、家庭が疎かになったり（逆もしかりですが）するので、両立は現実的に難しいと思います。	
男性	学校などでの男女の畠をなくしてほしい。男女平等で、差別やいじめなどがなくなってほしい。	
男性	差別をなくして、助け合ったり協力し合う。学校生活でもハブらずに、全員でコミュニケーションを行う。	

男性	男女共同参画は身近にないが、野外学習や修学旅行などの体験学習ではあったりする。
男性	学校のグループワークとかで男子と女子で分かれて作業するのではなく、一緒に作業する事。
男性	そこまで学校では差別はないと思う。
男性	性別では判断せず、能力・技能だけでなく、その人の特徴を踏まえてもっと多くの人が様々な大学に進められるようになればいいなと思いました。
男性	今から勉強したらまだ高校まで間に合うと思うから、学生は勉強が大事。将来のために勉強して、仕事や家族を大事にする。
男性	将来は高校と大学を合格して、素敵な生活を遅れるようにしたい。
男性	自分の行きたい高校に行って、楽しく過ごしたい。先輩と楽しくやれてるから、このままの生活がいい。
男性	バスケを頑張ります。
その他	高校まで行きたいけど、頭が悪いからいけないような気がする。

性的少数者について		13 件
女性	私は、基本的に他者が体の性と心の性が違ったりすることや、同性愛者の人などのことはいい意識を持っているため、身の回りにそのような人ができた場合は無理に気を使わずに、その人の生きやすい環境づくりに協力したいと思う。	
女性	生まれつき自分の性別は戸籍上の性別と違うと感じることもあれば、途中から違うと感じることもある。きっと昔は、いわゆるトランスジェンダーについて厳しかったり、差別が酷かったりしたと思う。だが、最近は女性／男性ホルモンの摂取で、見た目では中々判断できなくなるほどトランスジェンダーにとっては（多分）嬉しい施術があるため、将来的にもっとそのような施術が気軽に受けられるようになってほしいなと思った。	
女性	性的少数者がいたとしても差別されないように、女の子なんだからこれ、男の子なんだからこれ、という決まりをなくしたジェンダー平等な将来にしたいなと思います。	
女性	将来は、女性や男性関係無しに就ける仕事などを増やしていけるなら増やしたいし、私は全然LGBTQは気にならないし、周りの人がLGBTQでも全然応援したいと思います。	
女性	性的少数者でも、本人の生き方を積極的に応援したいと思った。	
女性	もし、身近にLGBTQの人がいたとしても、引いたりせず今まで通り接していきたいなと思った。	
女性	私の周りにはまだそのような人たちはいないが、もしあれば全面的に応援したいと思っている。	
女性	将来、男女ともに色々な人に会うと思うし、打ち明けられることもあるだろうけれど、今まで通り変わらず過ごそうと思っている。	
女性	将来的に、LGBTQの人が差別や優遇されない社会になるといいなと思う。みんなが誰か一人がとか、毎回同じ人がカマンしなければならないという社会じゃなくなってほしいなと思う。	
女性	LGBTQの知り合いがいました。その人はお母さんに打ち明けるのができないと言っていました。LGBTQが社会の当たり前となって、LGBTQの人がもっと生きやすい社会になったら良いなと感じます。	
男性	体は男性だけど心は女性、こういうことが身近におこったとき、優しく接していければと思った。	
男性	性的少数者のことを知りたいです。	

### III. 調査結果／6 男女の人権について

男性	実際に同性で付き合い合っている人が身内にもいたので、あまり気にはしないし、そもそも個人は個人として尊重されるべきなので、その個人を勝手な先入観で「男子だから」「女子だから」のような枠に勝手に当てはめるのは良くないし、そういう人たちのことを「ゲイ」とか「レズビアン」だとかそういうのに略称して、とりあえず終わらせるのは良くないなど自分は思います。「同性愛者」とかなら全然響きとしてもいいなどは思いますが、いつか普通にその人たちが「恋人」と言われるときが来たほうがいいと思います。
----	--

就労について		9 件
女性	私は将来、男女関係なく、張り切って仕事をしたいです。仕事内容によっては、男女によって得意・不得意な仕事もあるかと思っています。それでも一生懸命働きたいです。	
女性	女性しかできない仕事があったら共同でやっても良いと思う。	
女性	男女差別がない仕事につきたい。	
女性	人のためになる仕事につきたい。	
男性	男だけがこの仕事、女だけがこの仕事ということをなくしたい。	
男性	将来、仕事についた時、仕事は実力・適性にあわせて振り分けられるべきだと思うし、それで男女で適性に差が出るなら、適正に合わせて仕事を振られるべきだと思う。	
男性	将来仕事に関しても、男性向き女性向きのものが少なくなって、より人々が暮らしやすい社会をめざしてほしいです。	
男性	得意不得意はあるだろうけど、なるべく男女共通で身近に働いていきたい。	
男性	身近では、友達関係などで結構じゃれ合っている子も多いし、将来のことなども特には心配していない。しかし、将来のことなどを考えてみると、セクハラやパワハラなどがある職場もあると思うので、そこは慎重に注意していこうと思う。	

固定概念について		8 件
女性	男子も女子も平等で、高い地位の人が男性ばかりのイメージが今はあるので、男性も女性も関係なくやりたいことができ、高い地位の女性の方も増えて、男性だからとか、女性だからという言葉が聞こえなくなってほしいと思います。	
女性	昔よりは少なくなったと思うけど、まだ女性だから男性だからという概念が世間に残っている気がする。	
女性	男だから、女だからという固定概念にとらわれずに、自分の意思を否定されない、ありのままの自分で生きられる、そんな世の中になってほしいな、自分の性別にかかわらず好きな自分であることができたらいいなって思っています。	
女性	私も「女の子なんだからおしとやかに生きなさい」という親からの言葉に「なぜ女の子だからっておしとやかにしていないといけないの」と思ったり、服を選ぶときもスカートを買わされかけたりしたことがあり、それに抵抗すると、「あなたは男の子になりたいの」と怒られたことがあり、とてももやもやした気持ちになったりすることもあるので「女の子だから」「男の子だから」とか関係なく、性別にとらわれず、自分自身の気持ちを大事にすることが大事だと思う。	
女性	男女でそれぞれ色とかのイメージがあって、その色とかを身につけているだけで男女を分ける人がいる。髪型は人の印象を左右するものだけど、それで性別が決まるわけじゃないから言わないでほしい。○さん、○君と男女で呼び方を変えているのはおかしいと思う。私自身、何度も男子と言われて、なんだかんだ傷ついたことがある。性別はそこまで重要じゃないから区別しないでほしい。	

女性	不平等がないようにしたい。男子だからこう、女子だからこうというのをなくしたい。
男性	女子は運動できないとか、男子は仕事、女子は家事っていう性別によって勝手に決められてしまうようなことを減らしていきたい。将来、自分がそういう性別によって仕事とかが決められないように自分の意見をはっきり言うことを心がけたい。
男性	政治とか女性がやってもいいと思う。

性差について		6件
女性	どれだけ男女で平等に扱おうとしても、それぞれで身体的な違いがあることはどうしてもないため、個人の能力や意見を尊重しながら、時と場合によって柔軟に考えることが大切。	
女性	最低限、男女の区別はあってもいいと思う。けど、その区別で差別になってしまう場合は、良くないと思う。	
女性	男女の差別はなくさないといけないけど、男女の区別はするべきだと思いました。お互いに足りないところを補えるような関係になればいいなと思います。	
女性	体の違いなどがあるから、完全に男女平等になる社会は不可能だと思う。	
男性	身体的な男女としての区別は、必要なものであると思う。そのため、未来になっても、根本的な解決には向かわないと思う。	
男性	どうしても男女で得意なことや不得意なことがあるからそこは仕方ないけど、それ以外では平等にするべき。	

家庭について		3件
男性	母が家の仕事の8割くらいをやっているため、お手伝いとかを増やす。	
男性	家族は、父が洗濯やったり、母が料理をしたりして、家事を分担する。	
男性	自分の家族は、父母ともに仕事をしていて、洗濯は父、料理は母がしている。	

行政について		2件
女性	少しでも不平等を感じたり、生きづらいと思う人がいるなら、今取り組んでいることを変えていったほうが良いと思う。	
男性	LGBTQ法案反対。もう少し内容を改善してください。政治家の方はもう少し仕事をしてください。	

その他		14件
女性	完璧に男女平等にするのは難しいと思う。	
女性	男女平等にとはいうものの、それがすごく難しいと感じる。	
女性	男女共同参画社会を目指せば、人口が増えたりして少子高齢化問題がだんだんとなくなるかもしれない。	
女性	身近なことも、将来のことも、あまり変わらないと思う。	
女性	男女共同参画がよくわからない。	

III. 調査結果／6 男女の人権について

女性	男女共同参画とは何なのか、具体的なところがわからない。
男性	最近、男女の何かしらの割合を均一化する事が進んでいるので、わざわざ面倒な部分も同じ割合にしたらめんどくさそう。
男性	男性と女性を差別しているとか言っているけど、正直に言えば、どこからどこまでが男性と女性かなんてわからないし、そうやって、差別だーって言うのは、余計に、差別してるんじゃないかな、と思います。
男性	女性のほうが優先されている気がする。
男性	社会は理不尽なことが多いと思う。
男性	男女ともに平等に接することは、シモネタなどを言う人もいるからそれを抑えたりしないと大変なことになりそう。
男性	このままでいいと思う。
男性	社会って変わってる。
男性	テレビを見ること。

## 高校生

意識・心がけについて		19 件
女性	一人一人が他人の意見を尊重しあえる将来を目指していきたい。	
女性	昔より、男女の平等化が実現してきていることはよいと思う。	
女性	男性であっても女性であっても、自分が心から満足・納得できる生き方のできる社会になってほしいし、そのために自分も周りのひとと皆で協力していきたい。	
女性	現在、男女平等やジェンダーだと言われているけど、実際本当に平等にはなっていないし、偏見は今でもあるため、もし自分の近くに悩んでいる人がいたら少しでも力になっていきたいと思った。	
女性	医師として、男女差なく接することのできるようになりたい。変に女性だからという言葉を使って、協調することは避けたい。	
男性	男女平等ではなく、尊重するといいと思う。	
男性	男女で差別がなくなるような平等である社会を目指したい。	
男性	将来、少しでも男女平等が実現できているといいなと思った。また、自分自身、男女平等に物事を見られる人間になりたい。	
男性	男女や性的少数者関係なしで、平等に接するようにしたいです。	
男性	平等にしようとしてどちらかを持ち上げると、客観的に見て優遇にみられることが多い気がする。平等であるのは機会であって、結果を平等にはいけないと思う。なので、今後どんな結果が自分の身に起きてても、それに納得できるような生き方をしたい。	
男性	性別が分からないや、男子だから、女子だからと言う差を無くしたい。	
男性	性別に関係なく、あらゆる物事に取り組んでいきたいと思う。	
男性	差別は良くない。	
男性	将来、男女の関係が多くなってくると思うので協力し合う。	
男性	何か大きな変化があっても、友人や家族との関わり方は変えないようにする。	
男性	頑張って生きます。	
男性	将来は子育てにも仕事にも手が回るよう、自身で創意工夫をしたいと考えています。	
男性	男女などはただの誤差だと思う。私はただ料理をしたい。	
男性	自分は自分なんで、どうでもいい。	

希望について		11 件
女性	女性と男性の給料を同じにしてほしい。	
女性	自由な国になって。	
女性	みんな平等に暮らせるといいなと思います。	
女性	男女ともに生きやすい社会であってほしい。	
女性	少しずつ実現できてきている男女平等が、さらに推進されていくといいなと思います。	
男性	男女差別と男女区別を同一のものとする世界になってほしくない。	
男性	正直、今の社会は男女平等ではない事が多いが、それは男性が不利な場合も多くあるし、女性が不利な場合も多くある。だから、互いにリスペクトを持つ事が1番大切だと思う。妊娠がどうか生理がどうか女性専用車両を増やすべきだとか、一部の自分達中心な女性が1人でも男性にリスペクトを持てるようになってほしい。男性も同様に。	
男性	男女が平等に社会に参加できる未来になってほしい。	

### III. 調査結果／6 男女の人権について

男性	世界が平等になってほしい。
男性	過激派による、配慮に欠けた無差別な行動はやめてほしい。
男性	不自由のない暮らしをしたい。

性差について		10 件
女性	男女のどちらかだけが優遇される世の中は、批判されるのもわかる。でも、電車などの女性専用車両が男女差別だと言われているのは、差別ではなく、あくまでも痴漢などの被害を減らすためのものだとして認識しているから、あまり納得できない。みんなが納得して平等にできるところはしていけばいいと思う。	
女性	男の人の方が力は強いし、今までの歴史などから、完全に平等になるということは難しいのではないかと思う。	
女性	平等の在り方は難しいと思った。差別と区別の定義が大切。	
女性	男女で向いていることもあると思うから、仕事とかで男女平等ではないというのではなくて、それぞれに合ったことを認め合って支え合って、みんなで生きていけたらいいと思う。価値観の違いはあって当たり前だから、そこで男女平等を出す必要もないと思う。	
女性	それぞれ得意なこと、不得意なことがあるのは当然だから、別に全て平等に、同じにする必要はないと思う。差別してはいけないけど区別はいいと思う。トイレなど分けるのは区別だけど、差別じゃないのかなと思う。	
女性	男と女は違うから平等を掲げる必要はあるけれども、やり過ぎすぎてしまったら逆に女性が生きにくく、女性ならではの可愛らしさがなくなりそうだと感じた。	
男性	男子と女子の能力が等しいと言うことはどうしてもできないため、社会において女性なら女性の長所を活かし、男性なら男子の長所を活かして、男女全員でより良い社会を目指して行けたらいいなと考えている。	
男性	大事なことだけど、性別によって特性がある。	
男性	男女が同じになることは力の差などがあるので、難しい問題だと思った。	
男性	アナウンサーなどの声が重要な仕事の時は、女性の高い声の方が聞き取りやすく、力仕事などは、男性の方が向いていると思うので、男女が生まれるのは仕方ないと思う。	

固定概念について		5 件
女性	男性だから・女性だからあんな態度なんだ、そういう性格なんだ、という考えが無くなればいいと思う。	
女性	世界的に見ると、やはり男性の方が地位が高いという認識が強いです。	
女性	私は家事ができません。女の子なのに汚いと、男子のようだとよく言われます。おそらくそれは、家庭でやはり女の人が家事をしていることが多いからでしょう。ですが、私は現状、男女差別が起こっているとは思いません。たしかに今の状況を見ればそうですが、男女平等を積極的に取り入れ始めたのは最近。徐々に平等になればそれでいいと思います。未来の子供達が平等でいられるように、今の自分の行動に気をつけていきたいです。	
男性	地域や国が男女に関する政策や法を作る以前に、自分たちが日常生活で「男らしく」などといったジェンダー的発言をできるだけ避け、新しく生まれてくる子供たちがそういった固定概念が最初からない状態にするべきだと思います。	
男性	性別の差別は、なくなりつつあるが、アメリカの黒人差別と同じように根本の意識を変えるのには時間がかかると感じた。	

性的少数者について		4件
女性	私は差別されていることはあまり感じない。みんな違ってみんないいから、LGBTの人たちのことも応援したい。みな平等な社会になってほしい。	
女性	ホームステイをしていただいた時に、友達がホストの子はレズビアンだと言われて、本当にLGBTQの人もいるんだなって思った。まだ日本には少ないかもしれないけど、そういう人たちへの偏見や差別をまずは自分の中でなくしていきたいなと感じた。	
女性	友達の友達がパイ・セクシャルと聞いて驚いた。	
男性	まだ、同性愛については抵抗を感じています。	

行政について		3件
女性	男女平等のために！と言って、今までの男尊女卑的な意識を変えようとする考え方や、政策が進められてきていますが、逆に女尊男卑になっている部分もある気がしました。	
女性	正直、男女の差別等はなくなるとは思えないです。逆に差別しませんがアピールして気を使いすぎると、それはそれでよくないのではと思います。でも、度が過ぎていなければ、そのような取り組みはとて素晴らしいと思います。	
その他	同性婚を認めてほしい。	

学校・進学について		2件
女性	自分の家族の中では男女差はあまりないとは思って入るが、ともだちの中には女だからと大学に進むという選択肢すら頭にない子もいる。	
男性	京大の女子枠消せ！今のご時世、女尊男卑などという言葉を生み出すような行為をする京大にも責任があります。ですが、京大は高い偏差値を誇る大学です。そんな京大に僕は道を踏み外してほしくない。だから京大の女子枠を消せ！	

就労について		2件
女性	仕事も子育ても両方したいが、両立できなさそうで不安。	
男性	ある程度仕事は選ぶけど、基本的にはどんな仕事でも良いと思っている。	

その他		10件
女性	時代に配慮しすぎて、今まで引き継がれてきたようなものまで変えたりする事は、もはや配慮じゃないと思う。	
女性	想像ができないので、どうなるんだろうと感じる。	
女性	自分が考えていることが分からなくて難しい。	
女性	友達も自分も、自分の性についてあまり関心がない。	
女性	なぜこのようなこと匿名アンケートにしてまで聞くのかわからない。	
男性	どこでも差別が起こってしまうこと。	
男性	男性専用車両ないんですか…？	

### III. 調査結果／6 男女の人権について

男性	女性って、働きに出たら婚活して出産ってできるのかな。今って、20代後半～30歳くらいが平均出産年齢だし。どうなんですか。
男性	気合い。
男性	好きです。